

ちば

令和4年度

第64回

県政に関する世論調査

報告書

令和5年5月

千葉県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識、県政に対してどのような関心や期待などを持っているかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

令和4年度は年2回実施することとし、今回は2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の3,000名を対象に、11月から12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的な内容としては、「食育」、「消費生活」、「県民の治安に対する意識と警察に求めること」、「心肺蘇生法等」、「障害者施策」、「テレワークで働く環境」、「県立美術館」、「多文化共生社会の推進」の8項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や各事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にご協力いただきました県民の皆さまをはじめ、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和5年5月

千葉県総合企画部長 富沢 昇

(5) 「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきこと ---	82
6 テレワークで働く環境について-----	86
(1) テレワークで希望する働き方 -----	86
(1-1) テレワークで働きたい場所 -----	88
(2) テレワークで働く場合の課題-----	91
7 県立美術館について-----	95
(1) 県立美術館の利用経験 -----	95
(1-1) この1年間の来館回数 -----	97
(1-2) 来館した目的 -----	99
(1-3) 利用満足度 -----	102
(1-4) 満足していない理由 -----	104
(2) これからの県立美術館に期待すること -----	107
8 多文化共生社会の推進について-----	111
(1) 「多文化共生」の認知状況 -----	111
(2) 外国人住民と接する機会 -----	113
(3) 外国人住民が増えていることについての考え -----	116
(4) お互いの理解を深めるためにしてみたいこと -----	119
(5) お互いの理解を深めるために外国人住民に期待すること -----	122
(6) 地域社会の一員として共に暮らしていくために取り組むべきこと ---	125
9 自由回答-----	129
(付) 調査票および単純集計結果 -----	135

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

県政の主要課題

- ①食育について
- ②消費生活について
- ③県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
- ④心肺蘇生法等について
- ⑤障害者施策について
- ⑥テレワークで働く環境について
- ⑦県立美術館について
- ⑧多文化共生社会の推進について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)
- (6) 調査時期 令和4年11月15日～令和4年12月9日

4. 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,597件
有効回収数 (C)	1,595件
うちネット回収数	413件
無効回収数	2件
うちネット回収数	1件
回収率 (B/A)	53.23%
有効回収率 (C/A)	53.17%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の個人

標本数：3,000人

地点数：市部 194地点

郡部 6地点

計 200地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

[層化]

1. 県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該当市郡名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2. 各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

(注) ここでいう市とは、
令和4年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



[標本数の配分]

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和4年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

1. 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
 を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市部	郡部	計
①千葉地域	1,071,623	0	1,071,623
	600	0	600
	40	0	40
②葛南地域	1,435,249	0	1,435,249
	795	0	795
	53	0	53
③東葛飾地域	1,300,761	0	1,300,761
	720	0	720
	48	0	48
④印旛地域	581,585	35,790	617,375
	330	15	345
	22	1	23
⑤香取地域	64,461	29,346	93,807
	30	15	45
	2	1	3
⑥海匝地域	137,114	0	137,114
	75	0	75
	5	0	5
⑦山武地域	135,948	39,714	175,662
	75	15	90
	5	1	6
⑧長生地域	76,869	51,185	128,054
	45	30	75
	3	2	5
⑨夷隅地域	47,265	14,171	61,436
	30	15	45
	2	1	3
⑩安房地域	99,920	6,521	106,441
	60	0	60
	4	0	4
⑪君津地域	278,876	0	278,876
	150	0	150
	10	0	10
計	5,229,671	176,727	5,406,398
	2,910	90	3,000
	194	6	200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和4年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区旭町	15	① 千葉地域	市原市上高根	15
	千葉市中央区葛城3丁目	15		市原市月出	15
	千葉市中央区神明町	15		市原市北国分寺台5丁目	15
	千葉市中央区中央3丁目	15		市原市ちはら台西1丁目	15
	千葉市中央区登戸1丁目	15		市川市市川3丁目	15
	千葉市中央区弁天4丁目	15		市川市平田2丁目	15
	千葉市中央区都町2丁目	15		市川市八幡2丁目	15
	千葉市中央区祐光3丁目	15		市川市菅野6丁目	15
	千葉市花見川区検見川町3丁目	15		市川市鬼高2丁目	15
	千葉市花見川区さつきが丘2丁目	15		市川市本北方2丁目	15
	千葉市花見川区花園町	15		市川市堀之内1丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷2丁目	15		市川市曾谷3丁目	15
	千葉市稲毛区穴川2丁目	15		市川市田尻5丁目	15
	千葉市稲毛区黒砂台3丁目	15		市川市大野町3丁目	15
	千葉市稲毛区園生町	15		市川市妙典6丁目	15
	千葉市稲毛区長沼町	15		市川市新井3丁目	15
	千葉市若葉区大宮台4丁目	15		市川市福栄4丁目	15
	千葉市若葉区貝塚町	15	市川市塩焼2丁目	15	
	千葉市若葉区桜木北3丁目	15	② 葛南地域	船橋市東船橋1丁目	15
	千葉市若葉区千城台南1丁目	15		船橋市若松2丁目	15
	千葉市若葉区野呂町	15		船橋市本町6丁目	15
	千葉市若葉区若松町	15		船橋市西船1丁目	15
	千葉市緑区誉田町2丁目	15		船橋市古作2丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘7丁目	15		船橋市旭町1丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央1丁目	15		船橋市藤原5丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野南6丁目	15		船橋市丸山3丁目	15
	千葉市美浜区稲毛海岸2丁目	15		船橋市夏見台3丁目	15
	千葉市美浜区高洲2丁目	15		船橋市金杉9丁目	15
	千葉市美浜区幕張西6丁目	15		船橋市三咲6丁目	15
	市原市岩崎1丁目	15		船橋市八木が谷3丁目	15
	市原市平田	15		船橋市前原東5丁目	15
	市原市君塚5丁目	15		船橋市飯山満町2丁目	15
	市原市山田橋1丁目	15		船橋市薬円台4丁目	15
	市原市椎津	15		船橋市三山9丁目	15
市原市青葉台2丁目	15	船橋市高根台4丁目		15	
市原市大坪	15	船橋市新高根1丁目	15		

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
② 葛南地域	船橋市大穴南2丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市宮崎	15
	船橋市大穴北8丁目	15		野田市堤根	15
	船橋市習志野台4丁目	15		野田市光葉町3丁目	15
	船橋市坪井東6丁目	15		野田市木野崎	15
	習志野市津田沼2丁目	15		柏市今谷上町	15
	習志野市鷺沼台2丁目	15		柏市柏3丁目	15
	習志野市泉町2丁目	15		柏市南逆井2丁目	15
	習志野市香澄3丁目	15		柏市新柏2丁目	15
	習志野市実籾本郷	15		柏市豊上町	15
	八千代市吉橋	15		柏市中新宿1丁目	15
	八千代市村上	15		柏市八幡町	15
	八千代市勝田台7丁目	15		柏市布施	15
	八千代市八千代台東1丁目	15		柏市松葉町5丁目	15
	八千代市八千代台西9丁目	15		柏市南増尾7丁目	15
	八千代市ゆりのき台5丁目	15		柏市藤心3丁目	15
	八千代市緑が丘西1丁目	15		柏市大津ヶ丘3丁目	15
	浦安市北栄2丁目	15		柏市手賀の杜5丁目	15
	浦安市堀江5丁目	15		流山市鱈ヶ崎2丁目	15
	浦安市美浜1丁目	15		流山市美原1丁目	15
	浦安市今川1丁目	15		流山市若葉台	15
浦安市明海2丁目	15	流山市向小金3丁目	15		
③ 東葛飾地域	松戸市岩瀬	15	流山市松ヶ丘1丁目	15	
	松戸市北松戸1丁目	15	流山市おおたかの森東4丁目	15	
	松戸市幸田1丁目	15	我孫子市台田3丁目	15	
	松戸市小金原2丁目	15	我孫子市天王台3丁目	15	
	松戸市栄町2丁目	15	我孫子市高野山	15	
	松戸市新松戸6丁目	15	我孫子市日秀	15	
	松戸市常盤平1丁目	15	我孫子市我孫子2丁目	15	
	松戸市中金杉3丁目	15	鎌ヶ谷市東鎌ヶ谷3丁目	15	
	松戸市八ヶ崎2丁目	15	鎌ヶ谷市初富	15	
	松戸市二ツ木	15	鎌ヶ谷市佐津間	15	
	松戸市馬橋	15	④ 印旛地域	成田市土屋	15
	松戸市南花島3丁目	15		成田市中台3丁目	15
	松戸市六高台3丁目	15		成田市公津の杜2丁目	15
	松戸市六実1丁目	15		佐倉市鏑木町	15
	松戸市五香南1丁目	15		佐倉市白銀3丁目	15
	野田市野田	15		佐倉市王子台5丁目	15
野田市清水	15	佐倉市西志津4丁目		15	

第64回県政に関する世論調査（R4年度）

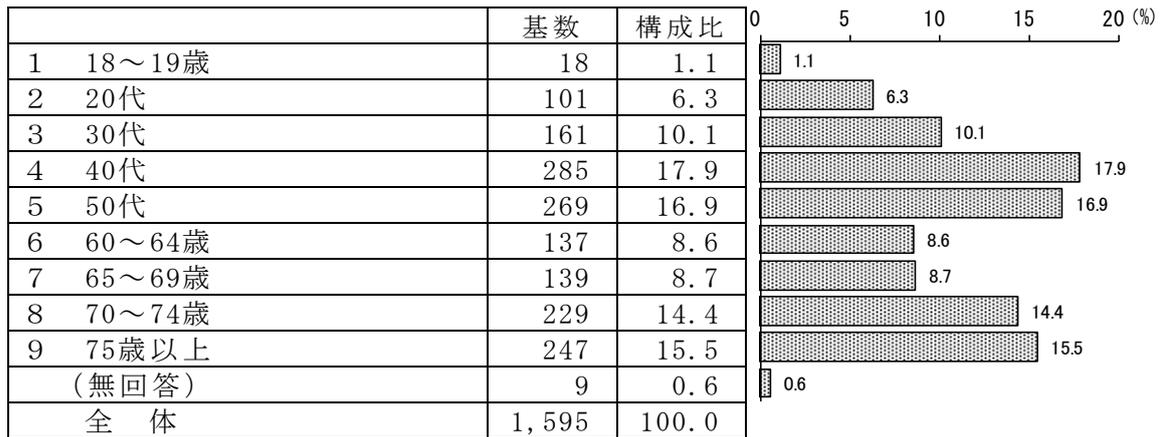
地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市宮ノ台1丁目	15	⑦ 山武地域	山武市麻生新田	15
	佐倉市六崎	15		大網白里市仏島	15
	佐倉市上別所	15		大網白里市みずほ台1丁目	15
	四街道市内黒田	15		山武郡九十九里町不動堂	15
	四街道市和良比	15	⑧ 長生地域	茂原市早野新田	15
	四街道市旭ヶ丘5丁目	15		茂原市緑ヶ丘1丁目	15
	四街道市めいわ4丁目	15		茂原市中の島町	15
	八街市八街に	15		長生郡睦沢町上之郷	15
	八街市泉台2丁目	15	⑨ 夷隅地域	長生郡長柄町皿木	15
	印西市和泉	15		勝浦市松部	15
	印西市西の原3丁目	15		いすみ市大原	15
	印西市若萩2丁目	15	⑩ 安房地域	夷隅郡御宿町六軒町	15
	白井市名内	15		館山市北条	15
	白井市桜台2丁目	15		館山市茂名	15
富里市新橋	15	鴨川市太海		15	
印旛郡酒々井町中央台2丁目	15	⑪ 君津地域	南房総市千倉町北朝夷	15	
⑤ 香取地域	香取市北2丁目		15	木更津市請西2丁目	15
	香取市沢		15	木更津市畑沢3丁目	15
	香取郡多古町南玉造		15	木更津市羽鳥野4丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市植松町		15	木更津市ほたる野3丁目	15
	銚子市春日町		15	君津市八重原	15
	銚子市親田町		15	君津市君津台3丁目	15
	旭市蛇園		15	君津市常代1丁目	15
	匝瑳市蕪里		15	富津市青木4丁目	15
⑦ 地山武	東金市田間2丁目		15	袖ヶ浦市神納2丁目	15
	東金市家徳		15	袖ヶ浦市三箇	15

回答者の属性

1. 性



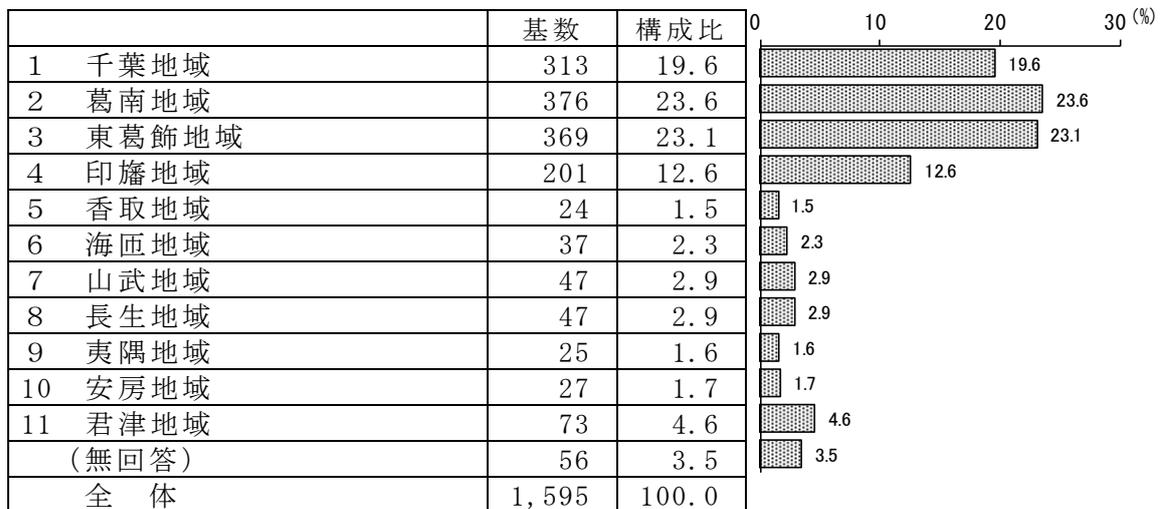
2. 年 代



3. 職 業



4. 地 域



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （1）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （2）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100%として算出した。
- （3）1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （4）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （5）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （6）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （7）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{2(N-1)} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

【地域別】

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
		総数	1,595人	± 2.12	± 2.83	± 3.24
千葉地域	313	± 4.80	± 6.39	± 7.33	± 7.83	± 7.99
葛南地域	376	± 4.38	± 5.83	± 6.68	± 7.14	± 7.29
東葛飾地域	369	± 4.42	± 5.89	± 6.75	± 7.21	± 7.36
印旛地域	201	± 5.98	± 7.98	± 9.14	± 9.77	± 9.97
香取地域	24	± 17.32	± 23.09	± 26.45	± 28.28	± 28.86
海匝地域	37	± 13.95	± 18.60	± 21.31	± 22.78	± 23.25
山武地域	47	± 12.38	± 16.50	± 18.90	± 20.21	± 20.63
長生地域	47	± 12.37	± 16.50	± 18.90	± 20.21	± 20.62
夷隅地域	25	± 16.97	± 22.62	± 25.92	± 27.71	± 28.28
安房地域	27	± 16.33	± 21.77	± 24.94	± 26.66	± 27.21
君津地域	73	± 9.93	± 13.24	± 15.17	± 16.22	± 16.55

【性・年代別】

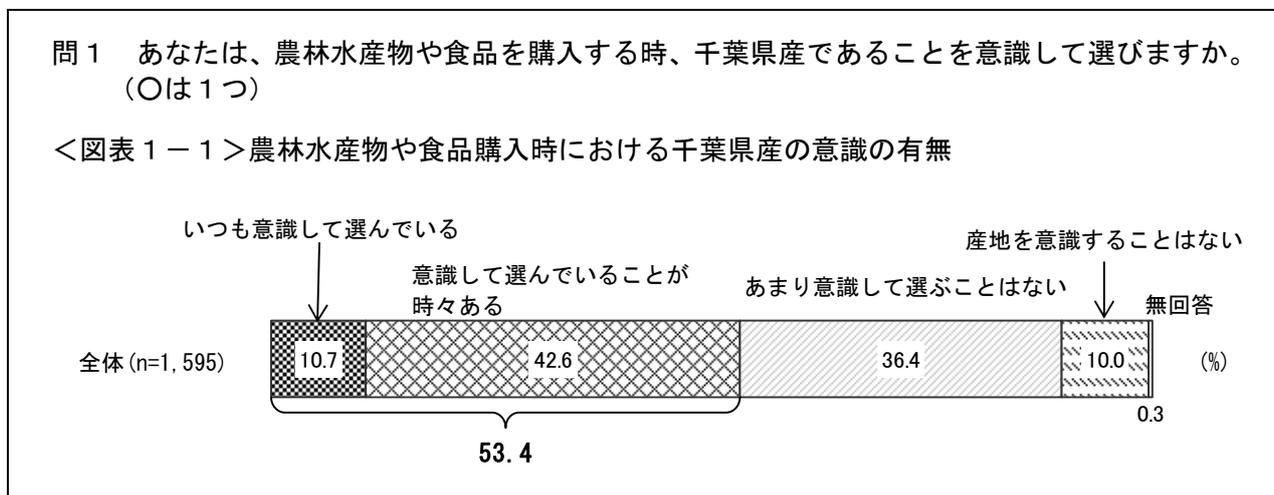
基数（n）	回答比率（P）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数	1,595人	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.47	± 3.54
男性（計）	690	± 3.23	± 4.31	± 4.93	± 5.27	± 5.38
男性18～19歳	10	± 26.83	± 35.77	± 40.98	± 43.81	± 44.72
男性20代	42	± 13.09	± 17.46	± 20.00	± 21.38	± 21.82
男性30代	61	± 10.86	± 14.48	± 16.59	± 17.74	± 18.11
男性40代	110	± 8.09	± 10.79	± 12.36	± 13.21	± 13.48
男性50代	108	± 8.16	± 10.89	± 12.47	± 13.33	± 13.61
男性60～64歳	58	± 11.14	± 14.85	± 17.02	± 18.19	± 18.57
男性65～69歳	67	± 10.36	± 13.82	± 15.83	± 16.93	± 17.27
男性70～74歳	114	± 7.95	± 10.59	± 12.14	± 12.97	± 13.24
男性75歳以上	120	± 7.74	± 10.89	± 11.83	± 13.33	± 12.91
女性（計）	894	± 2.84	± 3.78	± 4.33	± 4.63	± 4.73
女性18～19歳	7	± 32.07	± 42.76	± 48.99	± 52.37	± 53.45
女性20代	58	± 11.14	± 14.85	± 17.02	± 18.19	± 18.57
女性30代	100	± 8.48	± 11.31	± 12.96	± 13.85	± 14.14
女性40代	175	± 6.41	± 10.33	± 11.83	± 12.65	± 12.91
女性50代	161	± 6.69	± 8.91	± 10.21	± 10.92	± 11.14
女性60～64歳	79	± 9.54	± 12.73	± 14.58	± 15.59	± 15.91
女性65～69歳	72	± 10.00	± 13.33	± 15.27	± 16.33	± 16.66
女性70～74歳	115	± 7.91	± 10.55	± 12.08	± 12.92	± 13.18
女性75歳以上	126	± 7.56	± 10.08	± 11.55	± 12.34	± 12.60

調査の結果 調査結果の解説

1 食育について

(1) 農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無

◇『意識して選んでいる（計）』は5割を超える



農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無を聞いたところ、「いつも意識して選んでいる」(10.7%)と「意識して選んでいることが時々ある」(42.6%)を合わせた『意識して選んでいる(計)』(53.4%)は5割を超える。

一方、「あまり意識して選ぶことはない」(36.4%)は3割台半ば、「産地を意識することはない」(10.0%)は1割となっている。(図表1-1)

【地域別】

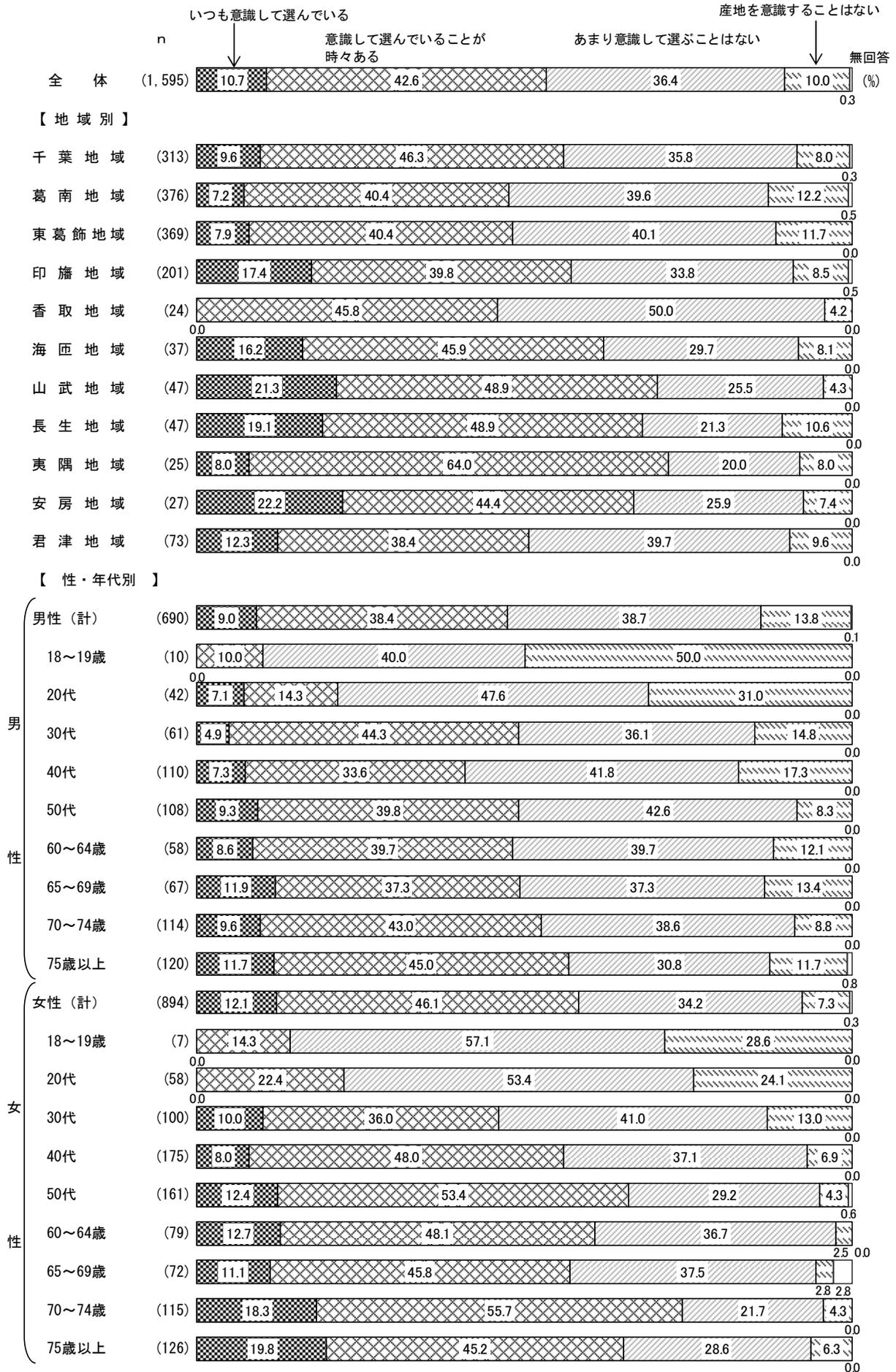
地域別にみると、『意識して選んでいる(計)』は“山武地域”(70.2%)が7割、“長生地域”(68.1%)が約7割で高くなっている。(図表1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意識して選んでいる(計)』は女性の70～74歳(73.9%)が7割台半ば、女性の50代(65.8%)と女性の75歳以上(65.1%)が6割台半ばと高くなっている。

一方、「産地を意識することはない」は男性の20代(31.0%)で3割を超え、女性の20代(24.1%)で2割台半ば、男性の40代(17.3%)で約2割と高くなっている。(図表1-2)

<図表1-2>農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無／地域別、性・年代別



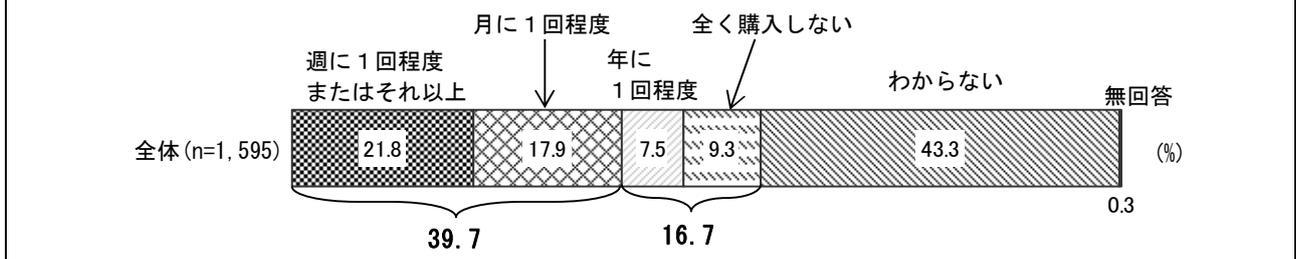
（2）有機農業により生産される農産物の購入頻度

◇『購入している（計）』は約 4 割

問 2 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業※により生産される農産物を購入していますか。（○は 1 つ）

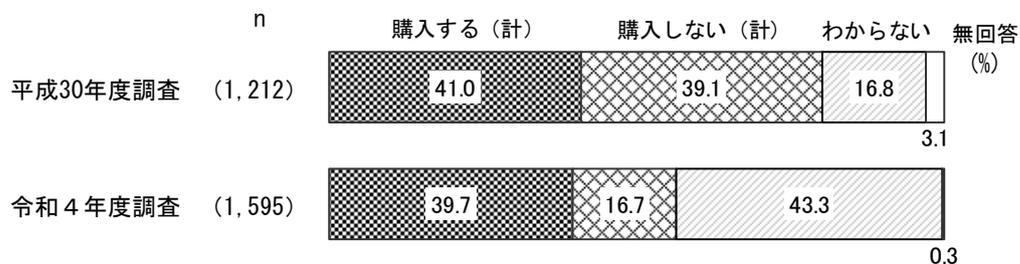
※ 有機農業とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しないこと、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできるだけ低減した生産方法で行われている農業のことです。

＜図表 1－3＞有機農業により生産される農産物の購入頻度



有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に 1 回程度またはそれ以上」（21.8%）と「月に 1 回程度」（17.9%）を合わせた『購入している（計）』（39.7%）は約 4 割となっている。一方、「年に 1 回程度」（7.5%）と「全く購入しない」（9.3%）を合わせた『購入しない（計）』（16.7%）は 1 割台半ばとなっている。（図表 1－3）

〔参考〕平成 30 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



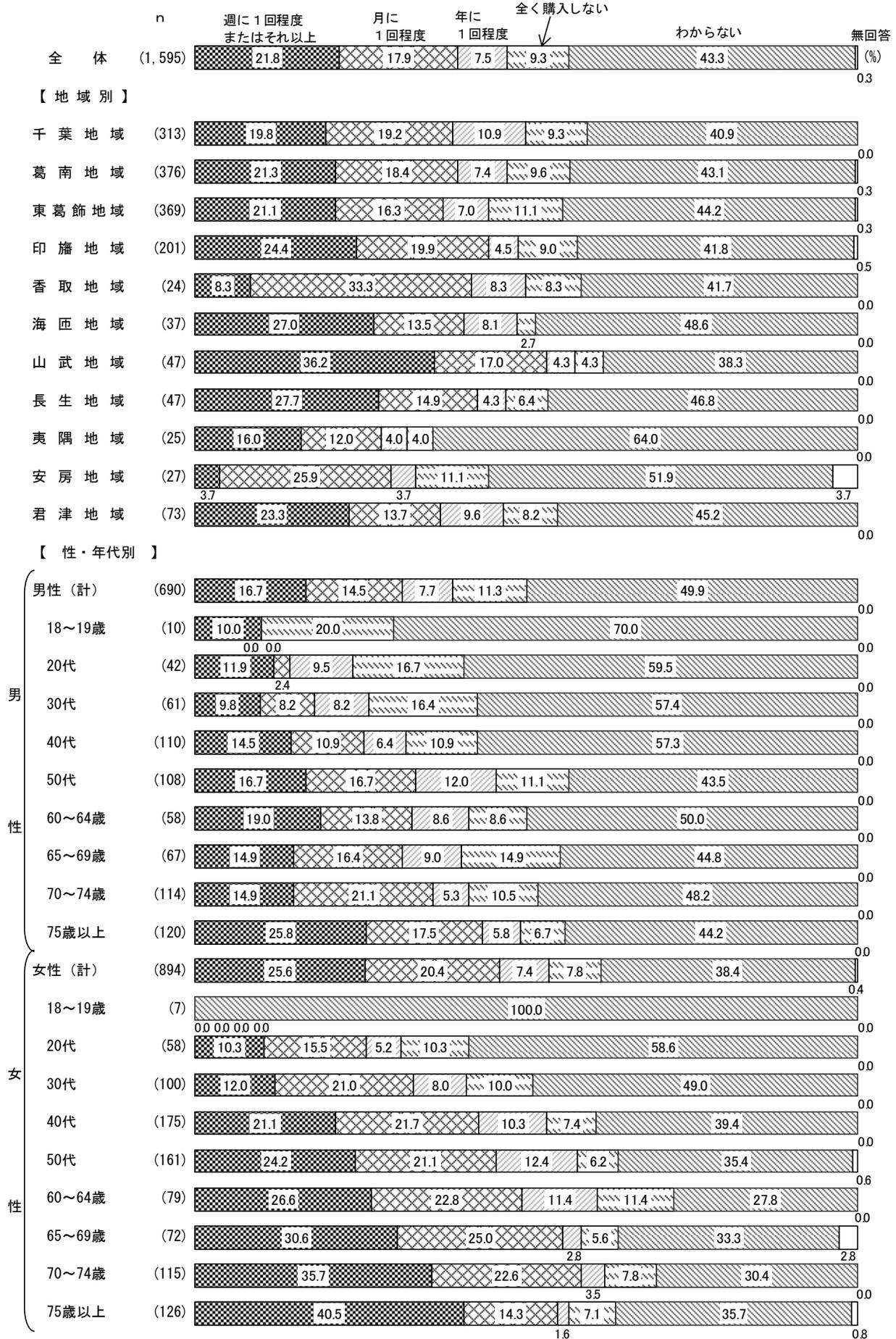
【地域別】

地域別にみると、「週に 1 回程度またはそれ以上」は“山武地域”（36.2%）が 3 割台半ばと高くなっている。（図表 1－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『購入している（計）』は女性の 70～74 歳（58.3%）が約 6 割、女性の 65～69 歳（55.6%）と女性の 75 歳以上（54.8%）が 5 割台半ばで高くなっている。（図表 1－4）

<図表1-4>有機農業により生産される農産物の購入頻度／地域別、性・年代別



（3）食品の安全性に関する基礎的な知識の有無

◇『あると思う（計）』は6割台半ば

問3 あなたは、安全な食生活を送るための、「食品の安全性に関する基礎的な知識※」があると思いますか。（○は1つ）

※ 食品の安全性に関する基礎的な知識とは、消費期限やアレルギー物質などの表示の理解や、食中毒を防ぐ調理方法、健康食品の正しい知識や選び方等です。

＜図表 1－5＞食品の安全性に関する基礎的な知識の有無



食品の安全性に関する基礎的な知識の有無を聞いたところ、「十分にあると思う」（6.6%）と「ある程度あると思う」（57.1%）を合わせた『あると思う（計）』（63.8%）は6割台半ばとなっている。

一方、「あまりないと思う」（31.5%）と「全くないと思う」（4.5%）を合わせた『ないと思う（計）』（36.0%）は3割台半ばとなっている。（図表 1－5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－6）

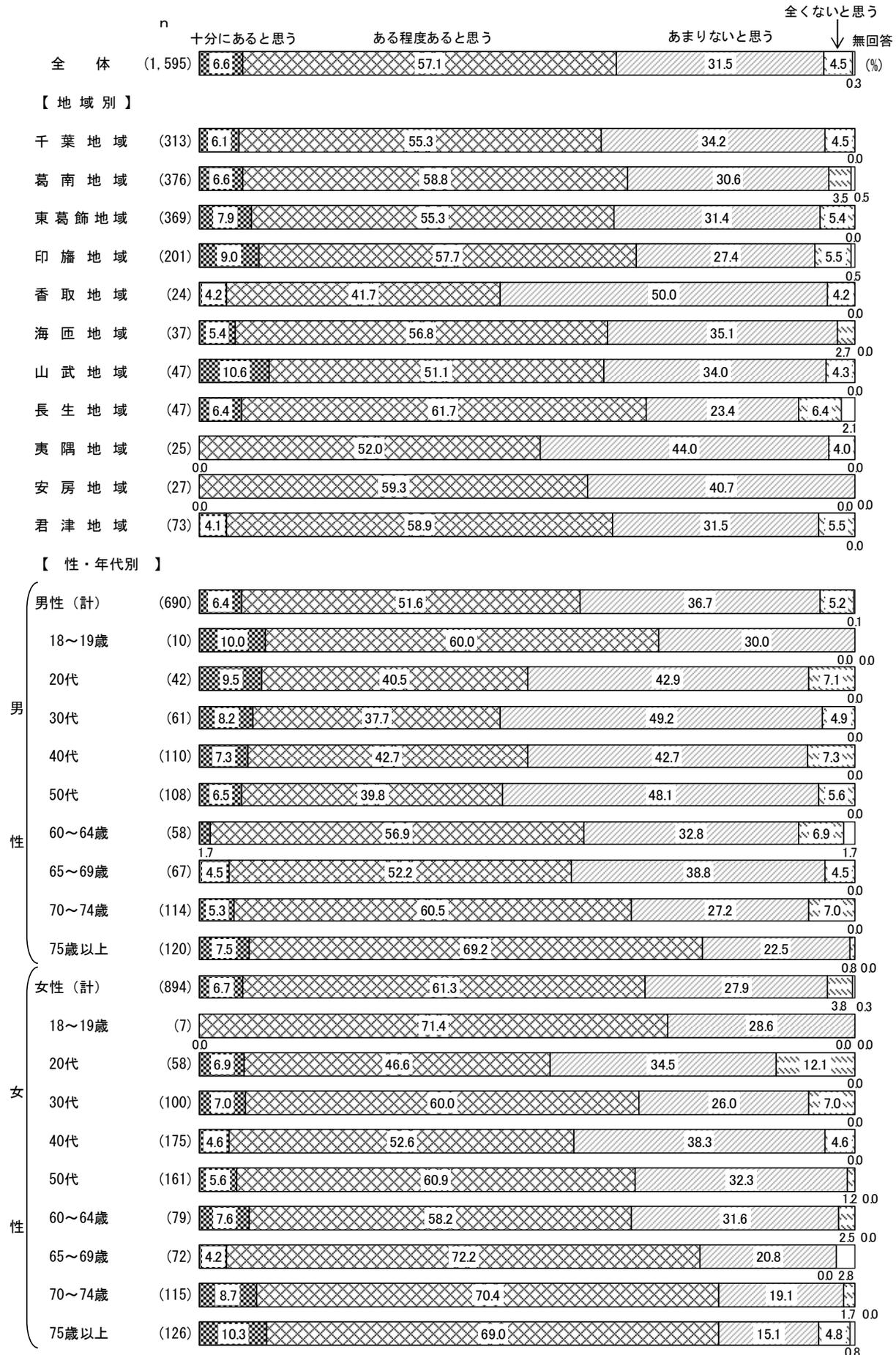
【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の75歳以上（79.4%）と女性の70～74歳（79.1%）が約8割、男性の75歳以上（76.7%）と女性の65～69歳（76.4%）が7割台半ばと高くなっている。

一方、『ないと思う（計）』は男性の30代（54.1%）と男性の50代（53.7%）が5割台半ば、男性の40代（50.0%）が5割、女性の40代（42.9%）が4割を超えて高くなっている。

（図表 1－6）

<図表1-6>食品の安全性に関する基礎的な知識の有無／地域別、性・年代別



このほかにも、「食育について」や問 1～問 3 について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、243人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

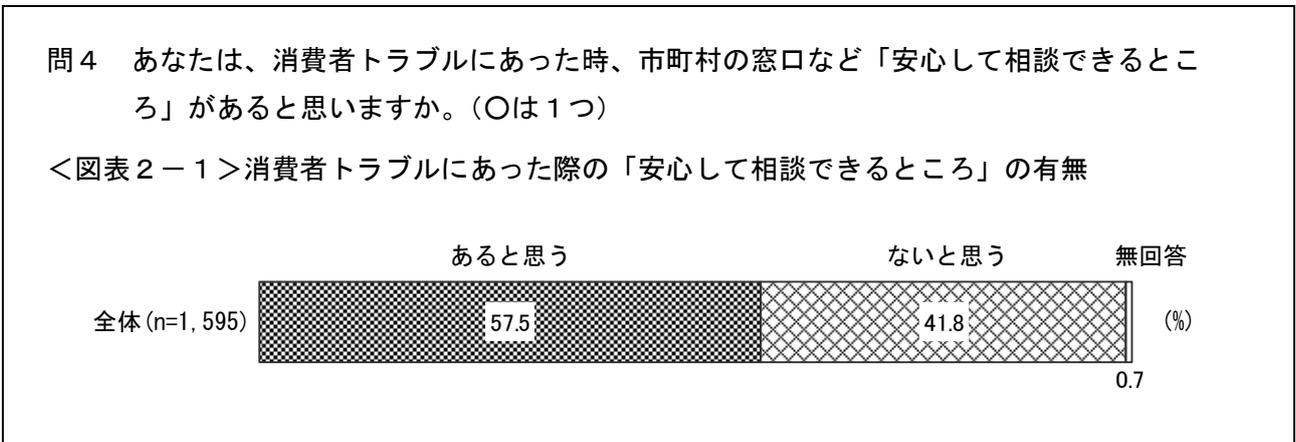
■「食育について」の自由回答（抜粋）

- 千葉県産だと新鮮な事が多いため、野菜などスーパーでみかけると購入している。学校給食にも多くとり入れてほしい。（女性、30代、葛南地域）
- 食物が身体を作っていると思いますので、とても大事なことだと思っています。日本は食料の自給率が低いので心配です。地産地消を大事にすれば生産者にも気持ちが向くと思います。（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 地産地消は県民として大事なことと思います。同じ品物が並んで販売されていれば、当然千葉県産を選ぶ。（男性、75歳以上、印旛地域）
- 鮮度の良い食品は総じて美味しいので、地産地消がもっと進んでほしいと思っています。最近近所のスーパーでも産直コーナーが増えてきています。もっと手軽に鮮度のよいもののお手頃価格で購入できてほしいです。（女性、30代、東葛飾地域）
- 給食で意識して千葉県の農産物を使用しそれを認知させるのはとてもよいと思う。小さいうちから意識させることで大人になってからも地産地消の意識を持ち続けられると思うのでこのまま続けて欲しい。（女性、40代、千葉地域）
- 有機農業による農産物を購入する方が体に良いとは思っていても値段が高かったりするので、なかなか買おうと思えない。食の安全性については、ネットでいろいろ調べる事はできるが、サイトによって言っている事が違ったりして何が正解かがよくわからないことがある。（女性、40代、東葛飾地域）
- 有機農業による農産物であることが一目でわかるように、商品シールの大きさ、統一された目立つ表記などの工夫をして欲しい。（千葉県産農産物も同様）。（男性、65～69歳、印旛地域）
- 食品安全性に関心もてる講習をしてほしいです。私も関心があるので参加したいから。（女性、75歳以上、千葉地域）
- 食品の安全性について十分な知識はないが、生産者や消費期限には注意をしている。（女性、75歳以上、印旛地域）
- 国産や無農薬のものをなるべく選びたいが、価格が高いためなかなか手が届かないことがある。物価の上昇もあり、質より低価格なものを選ぶ機会が増えた。（女性、30代、葛南地域）

2 消費生活について

(1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

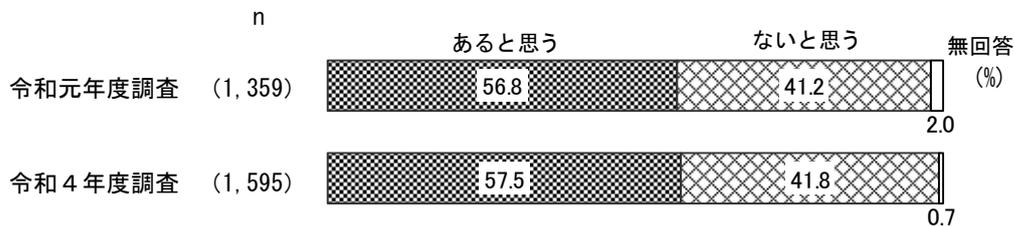
◇「あると思う」が約6割



消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」（57.5%）が約6割となっている。

一方、「ないと思う」（41.8%）は4割を超えている。（図表2-1）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

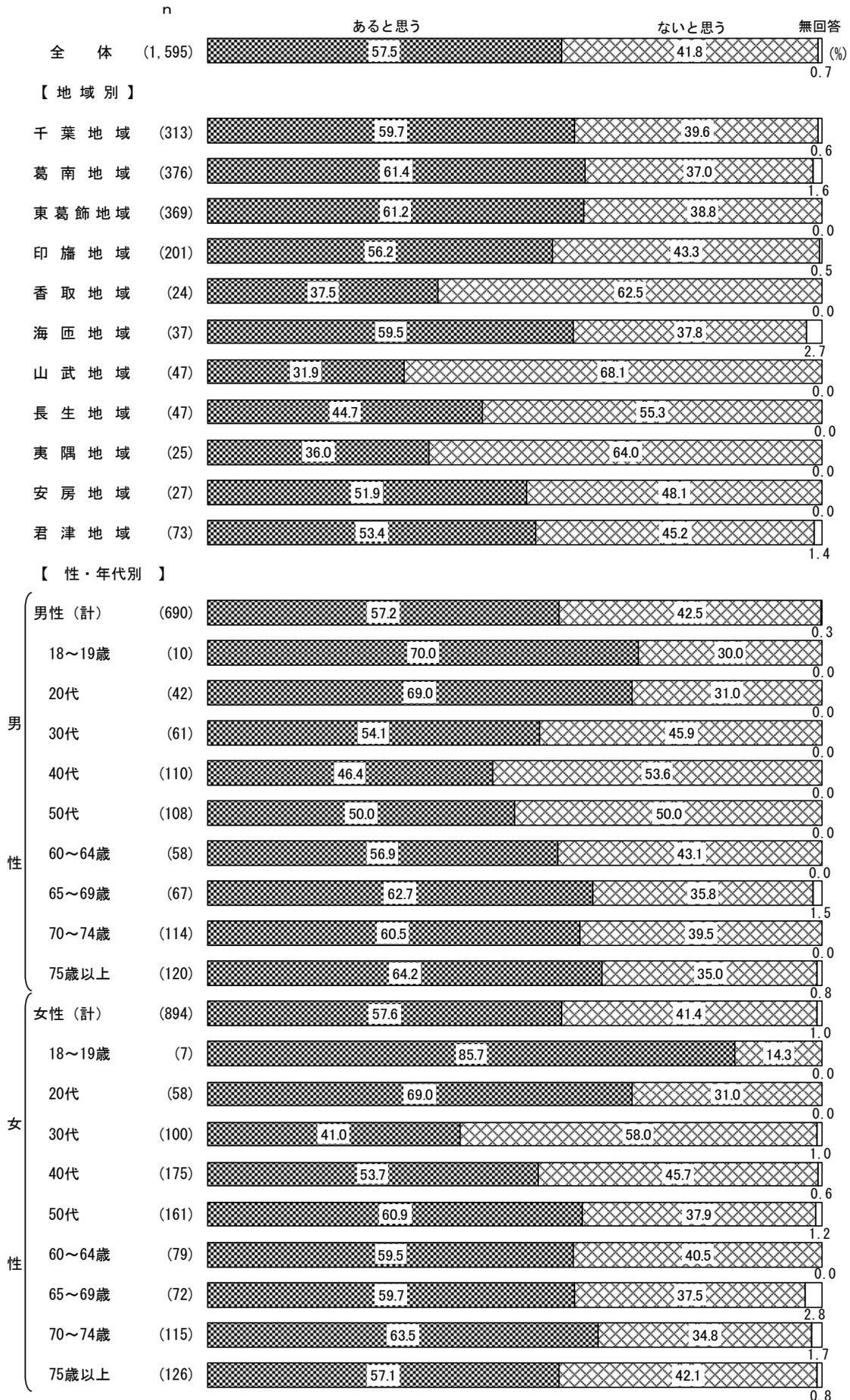
地域別にみると、「ないと思う」は“山武地域”（68.1%）が約7割で高くなっている。

（図表2-2）

【性・年代別】

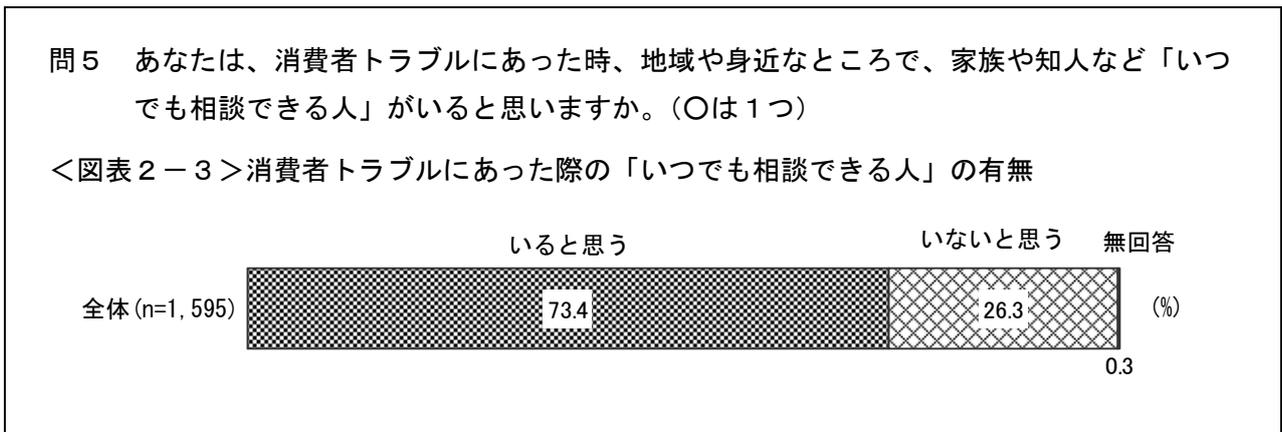
性・年代別にみると、「ないと思う」は女性の30代（58.0%）が約6割、男性の40代（53.6%）が5割台半ばと高くなっている。（図表2-2）

<図表2-2>消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無／地域別、性・年代別



（2）消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

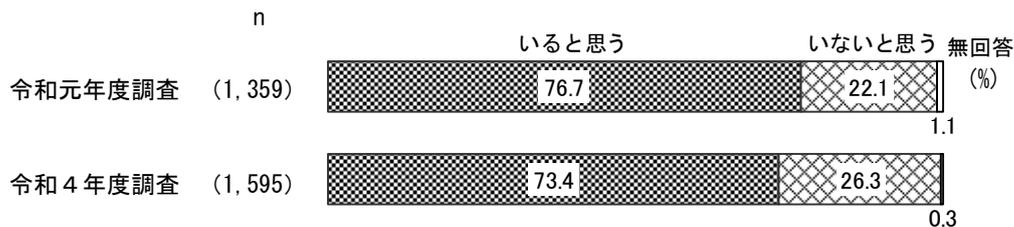
◇「いると思う」が7割を超える



消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思うか聞いたところ、「いると思う」（73.4%）が7割を超えている。

一方、「いないと思う」（26.3%）は2割台半ばとなっている。（図表2-3）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

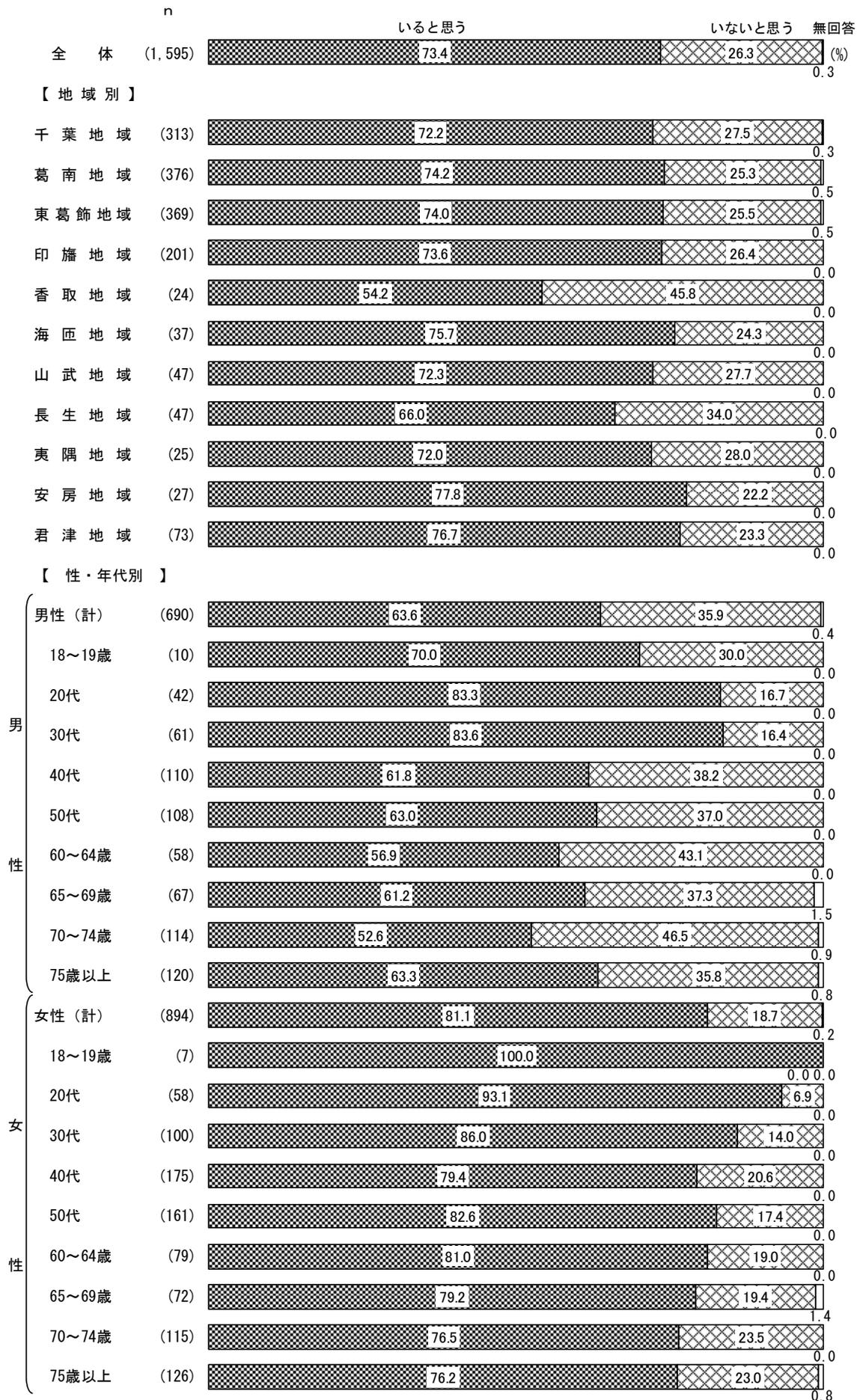
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表2-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いると思う」は女性の20代（93.1%）が9割を超え、女性の30代（86.0%）が8割台半ば、女性の50代（82.6%）が8割を超えて高くなっている。

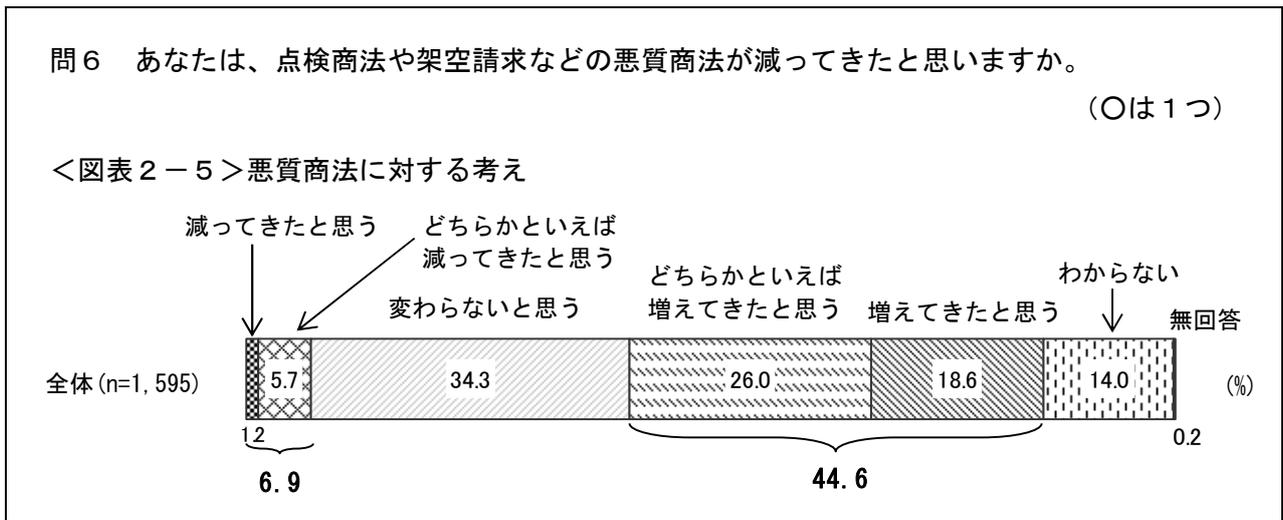
一方、「いないと思う」は男性の70～74歳（46.5%）が4割台半ば、男性の60～64歳（43.1%）が4割を超え、男性の40代（38.2%）と男性の65～69歳（37.3%）と男性の50代（37.0%）が約4割、男性の75歳以上（35.8%）が3割台半ばで高くなっている。（図表2-4）

<図表2-4>消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無／地域別、性・年代別



（3）悪質商法に対する考え

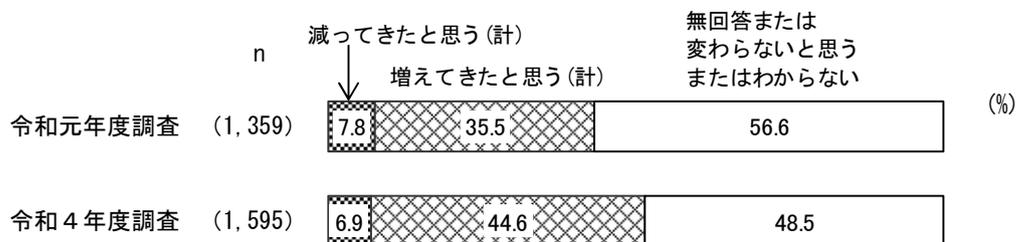
◇『増えてきた（計）』が4割台半ば



点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「どちらかといえば増えてきたと思う」(26.0%)と「増えてきたと思う」(18.6%)を合わせた『増えてきた（計）』(44.6%)が4割台半ばとなっている。

一方、「減ってきたと思う」(1.2%)と「どちらかといえば減ってきたと思う」(5.7%)を合わせた『減ってきた（計）』(6.9%)は1割未満となっている。また、「変わらないと思う」(34.3%)は3割台半ばとなっている。(図表2-5)

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



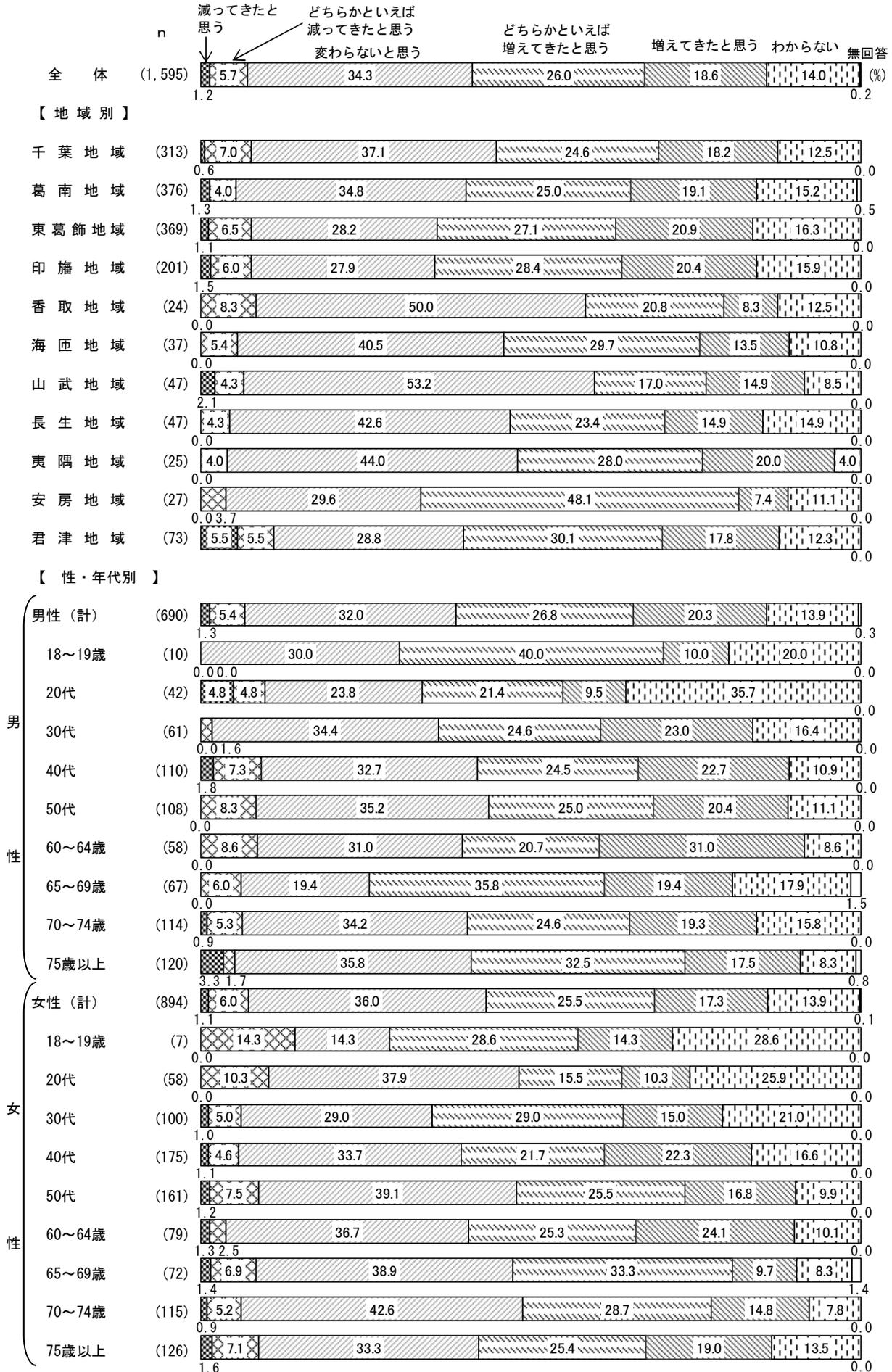
【地域別】

地域別にみると、「変わらないと思う」は“山武地域”(53.2%)が5割を超えて高くなっている。(図表2-6)

【性・年代別】

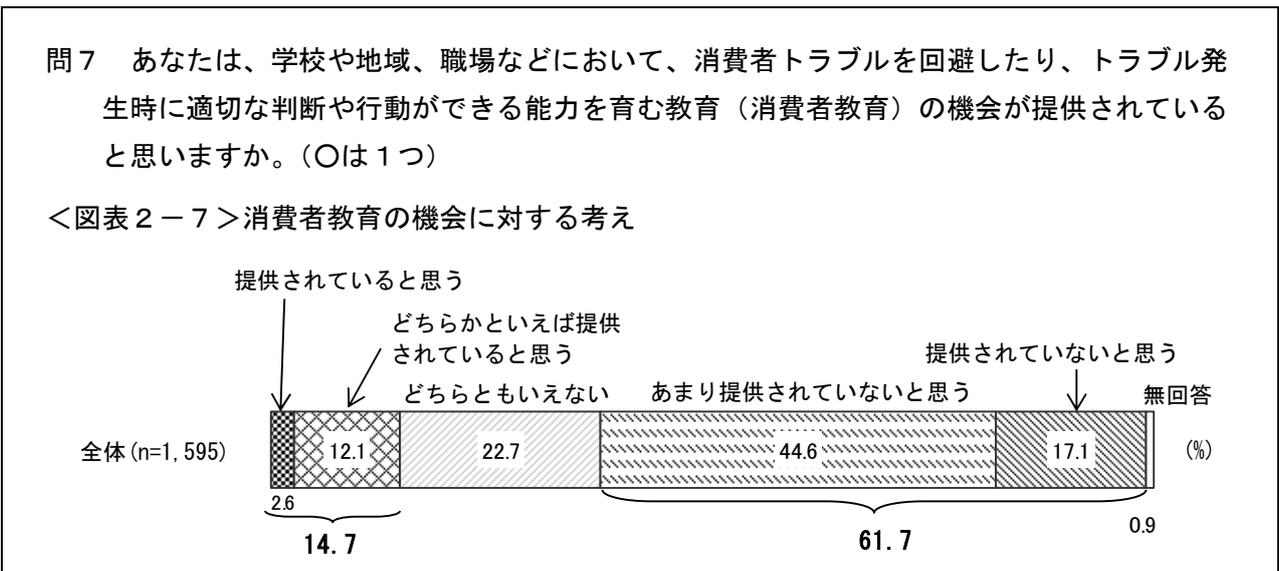
性・年代別にみると、「増えてきたと思う」は男性の60～64歳(31.0%)が3割を超えて高くなっている。(図表2-6)

<図表2-6>悪質商法に対する考え／地域別、性・年代別



（４）消費者教育の機会に対する考え

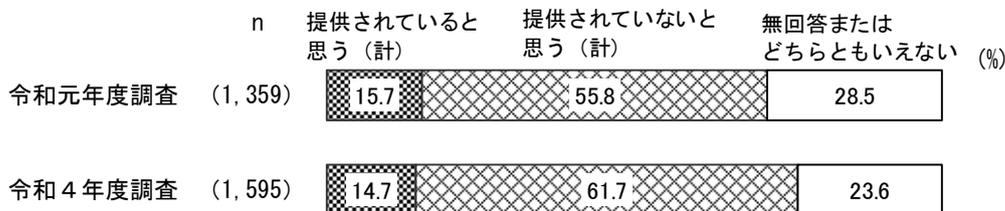
◇『提供されている（計）』が1割台半ば



学校や地域、職場などで消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」（2.6%）と「どちらかといえば提供されていると思う」（12.1%）を合わせた『提供されている（計）』（14.7%）が1割台半ばとなっている。

一方、「あまり提供されていないと思う」（44.6%）と「提供されていないと思う」（17.1%）を合わせた『提供されていない（計）』（61.7%）が6割を超えている。（図表2-7）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

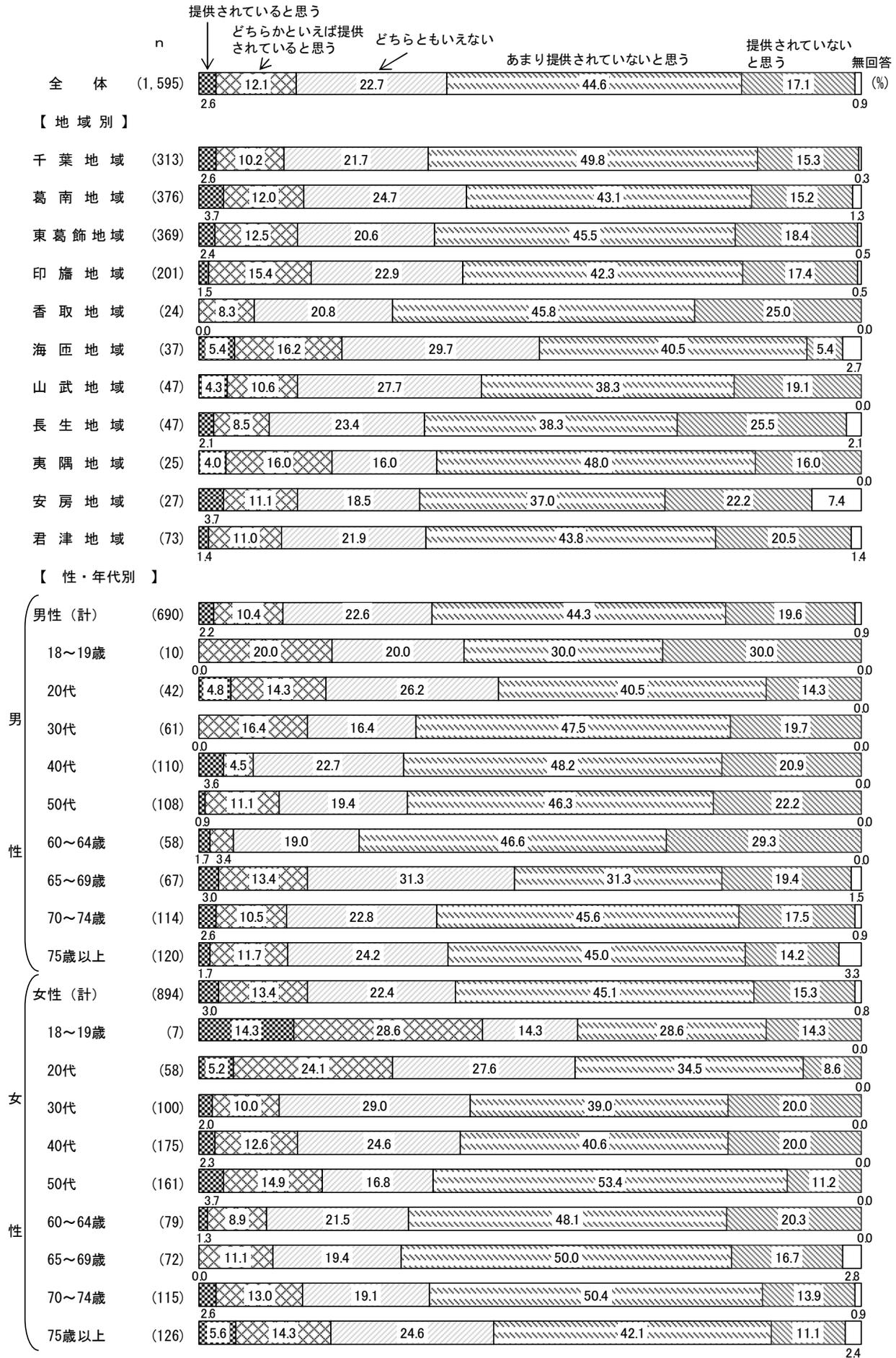
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表2-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『提供されている（計）』は女性の20代（29.3%）が約3割で高くなっている。

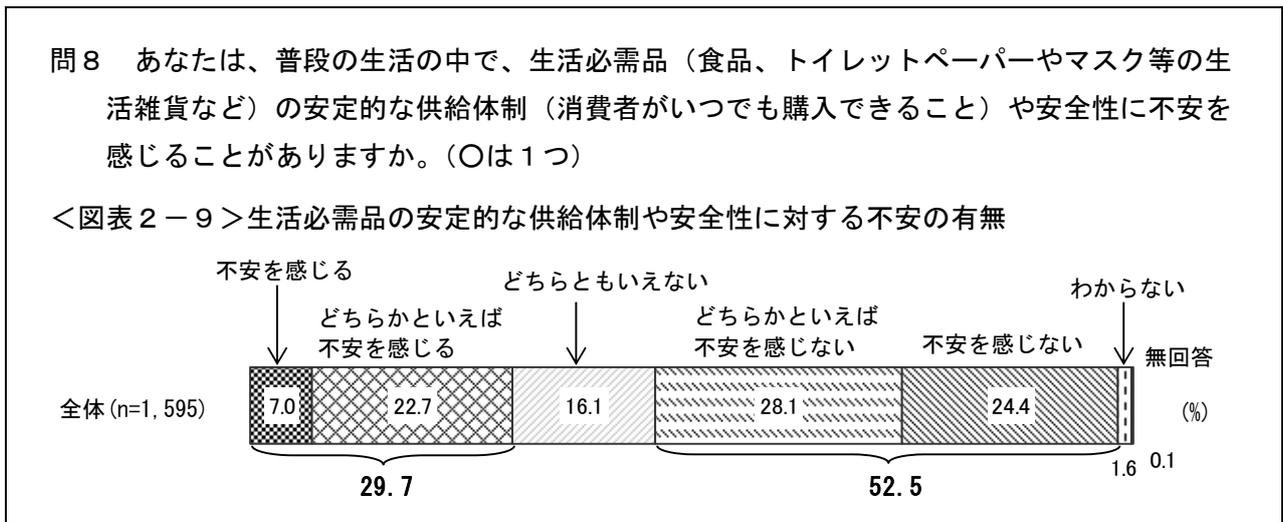
一方、『提供されていない（計）』は男性の60～64歳（75.9%）が7割台半ばで高くなっている。（図表2-8）

＜図表2－8＞消費者教育の機会に対する考え／地域別、性・年代別



（5）生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無

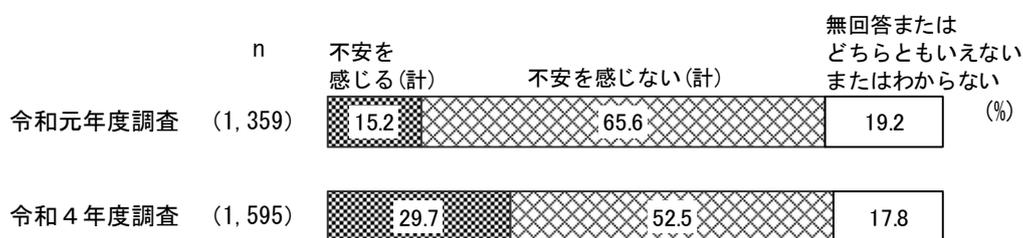
◇『不安を感じる（計）』が約3割



普段の生活の中で、生活必需品の安定的な供給体制や安全性に不安を感じることがあるか聞いたところ、「不安を感じる」（7.0％）と「どちらかといえば不安を感じる」（22.7％）を合わせた『不安を感じる（計）』（29.7％）は約3割となっている。

一方、「どちらかといえば不安を感じない」（28.1％）と「不安を感じない」（24.4％）を合わせた『不安を感じない（計）』（52.5％）が5割を超えている。（図表2-9）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『不安を感じる（計）』は“長生地域”（44.7％）が4割台半ば、“千葉地域”（34.5％）が3割台半ばと高くなっている。

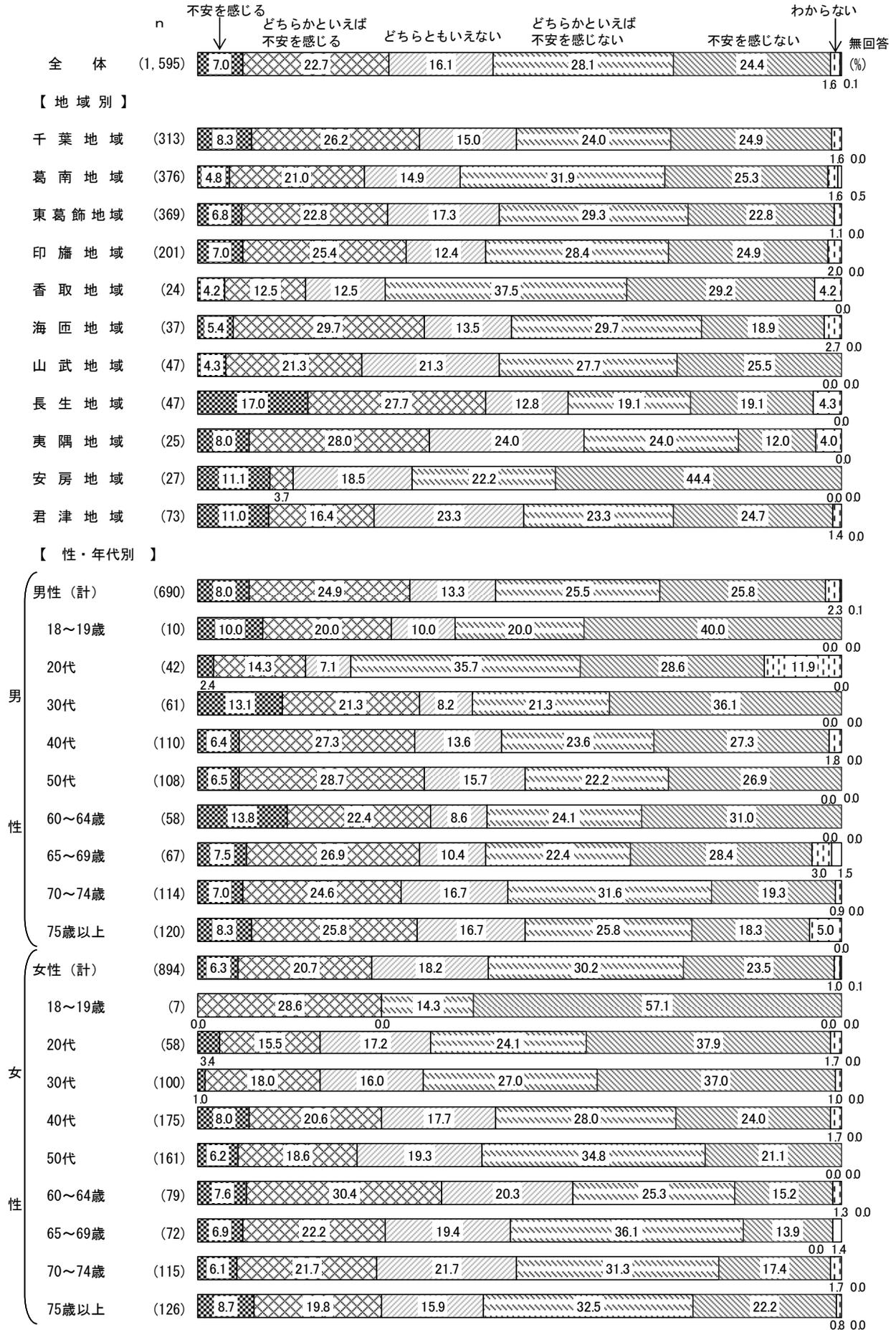
一方、『不安を感じない（計）』は、“葛南地域”（57.2％）が約6割で高くなっている。

（図表2-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『不安を感じない（計）』は女性の30代（64.0％）が6割台半ばと高くなっている。（図表2-10）

<図表2-10>生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無／地域別、性・年代別



（6）買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無

◇『意識している（計）』が4割台半ば

問9 あなたは、買い物をする際に、次の説明にある「エシカル消費」を意識していますか。

（○は1つ）

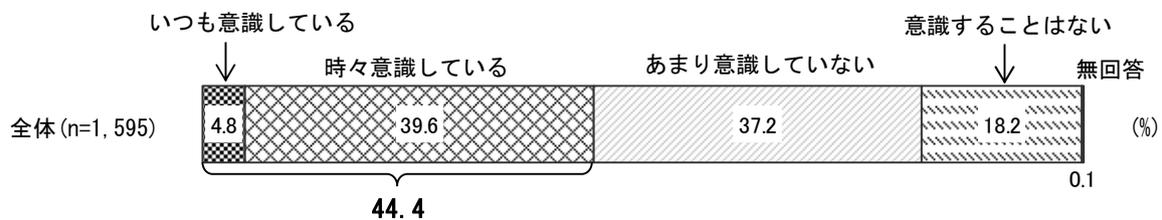
【提示した説明】

人や社会、環境、地域に配慮した商品を選んで消費をすることを「エシカル消費」といいます。

（「エシカル消費」の具体例）

- ・ 障害のある人の支援につながる商品を選んで買い物をする
- ・ フェアトレード商品（開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指し、適正な価格で取引された商品）を選んで買い物をする
- ・ エコ商品（一般的に環境に配慮した商品）を選んで買い物をする
- ・ 被災地産品を選んで買い物をする

＜図表2-11＞買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無



買い物をする際に、「エシカル消費」を意識するかを聞いたところ、「いつも意識している」(4.8%)と「時々意識している」(39.6%)を合わせた『意識している(計)』(44.4%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり意識していない」(37.2%)は約4割、「意識することはない」(18.2%)は約2割となっている。(図表2-11)

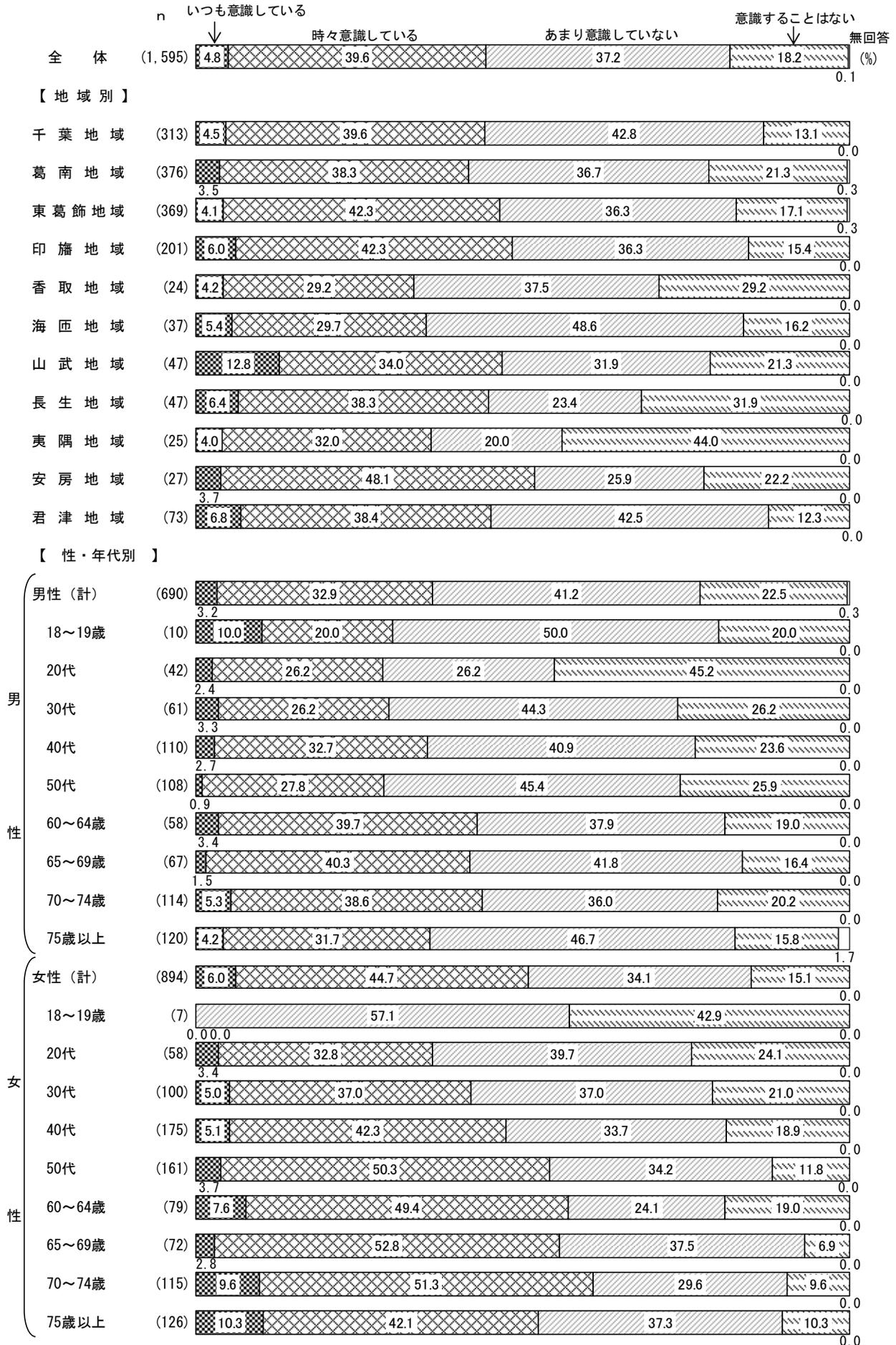
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表2-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意識している(計)』は女性の70～74歳(60.9%)が6割、女性の60～64歳(57.0%)が約6割、女性の50代(54.0%)が5割台半ばと高くなっている。(図表2-12)

<図表2-12> 買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無／地域別、性・年代別



このほかにも、「消費生活について」や問4～問9について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、203人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

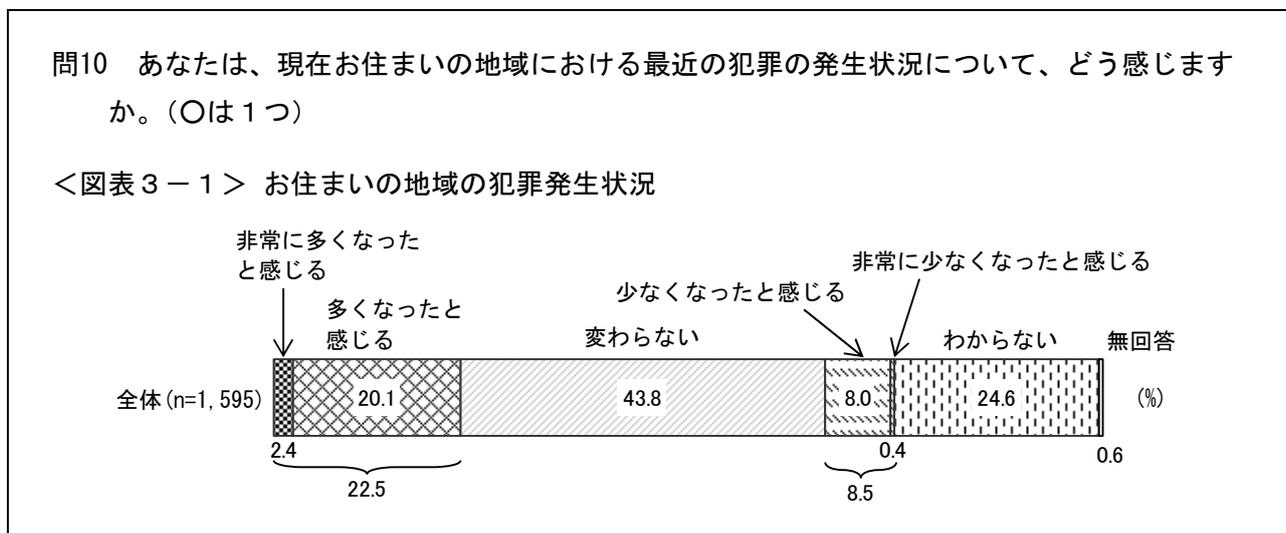
■「消費生活について」の自由回答（抜粋）

- 消費者トラブルの相談窓口が存在していることを知らなかったですし、周りで知っている人はいないと思います。消費者トラブルは年々増加傾向にあると思うのでもっと広告を打ち出すべきだと思います。（男性、20代、葛南地域）
- 私は学校で消費者保護に関する講義を受ける機会があったため、ある程度の知識はあると思いますが、そうでなければ難しかったのではないかと思います。特に点検商法は一人暮らしをはじめたときは非常に多く、社会に出る前、進学などで一人暮らしをする前の基礎知識として学ぶ必要があるのではないかと思います。（女性、40代、葛南地域）
- 屋根が壊れているから直した方がいいと玄関先に屋根工事業者らしき人が来ました。あとで確認したところ、屋根が壊れている気配は全くなく、家族に話をしたところやっとならされたと感じました。言葉巧みに嘘をつかれ近所にもそういった業者がいることを悲しく感じました。（女性、30代、葛南地域）
- 消費者トラブルにあわないための教育充実が大事。トラブルにあった時、どこの誰々直ぐに相談できるのか、したらいいのか常日頃から知っておきたい。（男性、75歳以上、東葛飾地域）
- 親世代を見ていると、詐欺商法だと思うハガキや電話に対してすごく不安を感じやすいと思います。ネットで調べればすぐに分かる事も60代以上の方にはむずかしい事も多いので、だまされないように事例を挙げて広く知られるようにしてほしいと思います。（女性、40代、葛南地域）
- コロナによって世界間の物流に変化があり、マスク不足、燃料不足、物価の高騰などの変化があり、輸入に頼っている品々は安定供給に不安を感じる。（女性、40代、君津地域）
- 生活必需品において海外で生産されている物が輸入先の都合で国内に流通できなくなる危険性を感じることもある。（男性、50代、東葛飾地域）
- エシカル消費が良いことだとは理解しているものの、実践しようとする多くの場合で割高になってしまうため、所得が低い若年層にとっては難しいと感じている。（女性、20代、千葉地域）
- 「エシカル消費」という言葉を私自身初めて知りました。この言葉をもっと多くの人に浸透させるような活動が必要ではないかと思います。また、そういう商品が浸透すれば購入が増えるのではないかと思います。（女性、30代、千葉地域）
- 今までエコ商品には意識していたが、フェアトレード商品とかは知らなかったもので、気にかけたいと思いました。日常の買い物の中で、なかなかエシカル消費を考える事がないので、もっと周知されたいとも思います。（女性、60～64歳、葛南地域）

3 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) お住まいの地域の犯罪発生状況

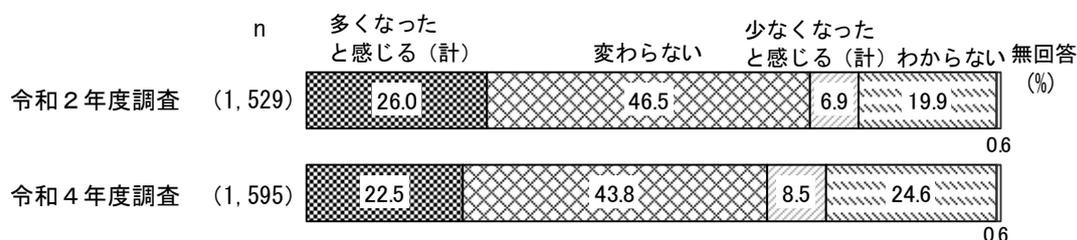
◇『多くなったと感じる（計）』が2割を超える



お住まいの地域の犯罪発生状況について、「非常に多くなったと感じる」(2.4%)と「多くなったと感じる」(20.1%)を合わせた『多くなったと感じる(計)』(22.5%)が2割を超えている。

一方、「少なくなったと感じる」(8.0%)と「非常に少なくなったと感じる」(0.4%)を合わせた『少なくなったと感じる(計)』(8.5%)が1割未満となっている。(図表3-1)

〔参考〕令和2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



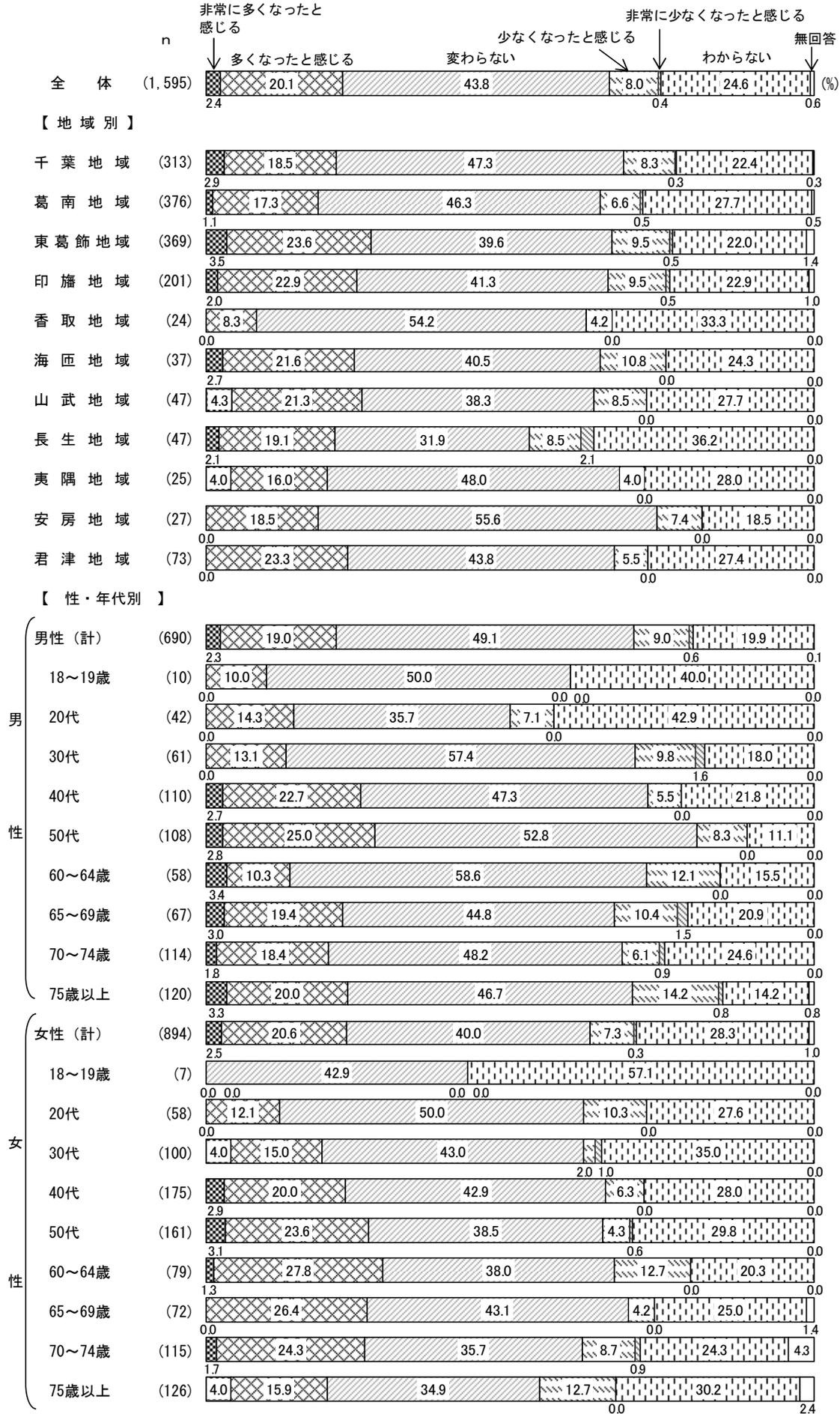
【地域別】

地域別にみると、『多くなったと感じる(計)』は“東葛飾地域”(27.1%)が約3割で高くなっている。(図表3-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『少なくなったと感じる(計)』は男性の75歳以上(15.0%)が1割台半ばと高くなっている。(図表3-2)

＜図表3-2＞お住まいの地域の犯罪発生状況／地域別、性・年代別

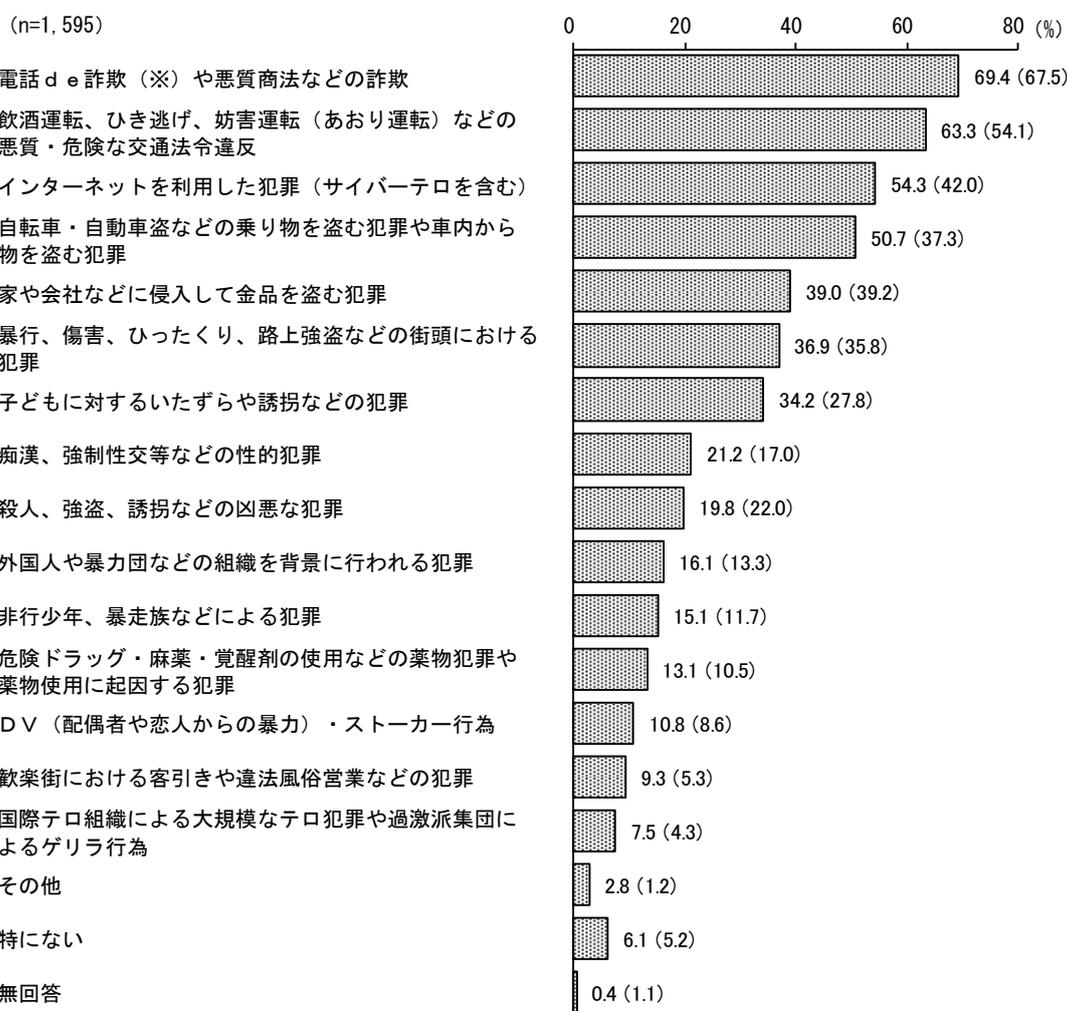


（2）自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪

◇「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」が約7割

問11 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。（○はいくつでも）

＜図表3-3＞自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪（複数回答）



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

(※)「電話de詐欺」とは、還付金詐欺、オレオレ詐欺、架空料金請求詐欺など特殊詐欺を総称した千葉県独自の広報用名称です。

自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」(69.4%)が約7割で最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」(63.3%)、「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」(54.3%)、「自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」(50.7%)が続く。(図表3-3)

【地域別】

地域別にみると、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は“印旛地域”(76.6%)が7割台半ばで高くなっている。(図表3-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「電話d e 詐欺や悪質商法などの詐欺」は女性の60～64歳（79.7%）と女性の50代（78.3%）が約8割で高くなっている。

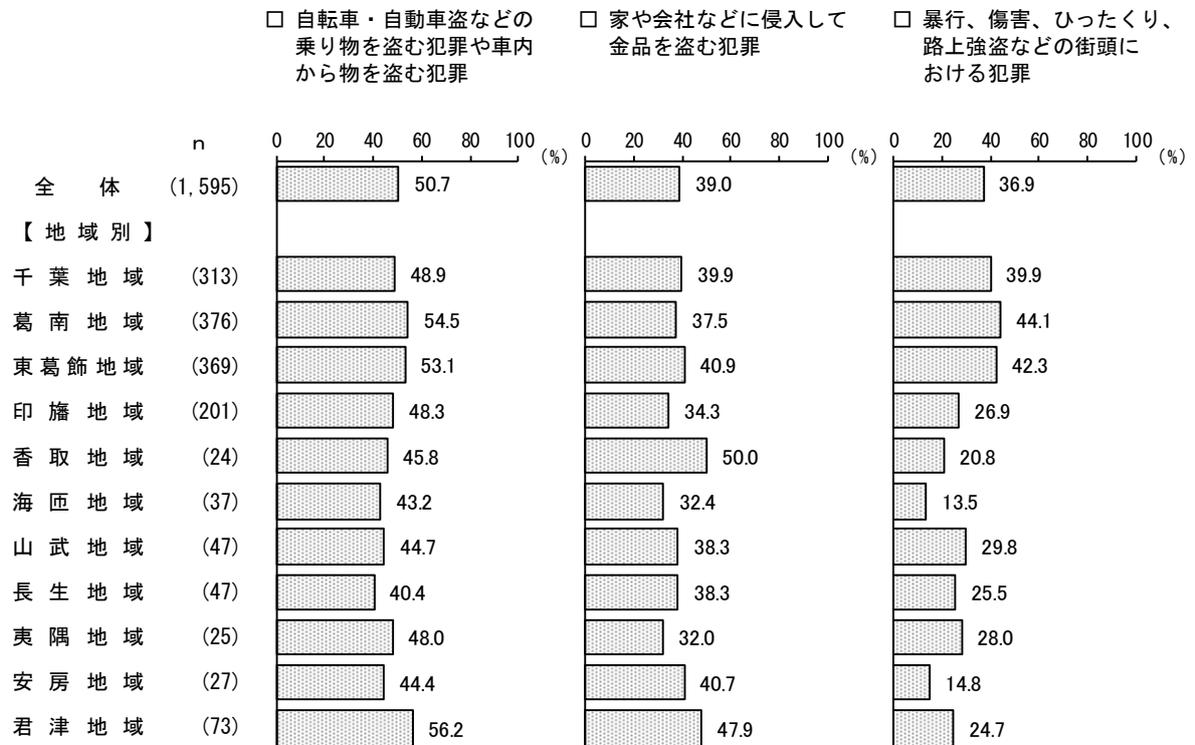
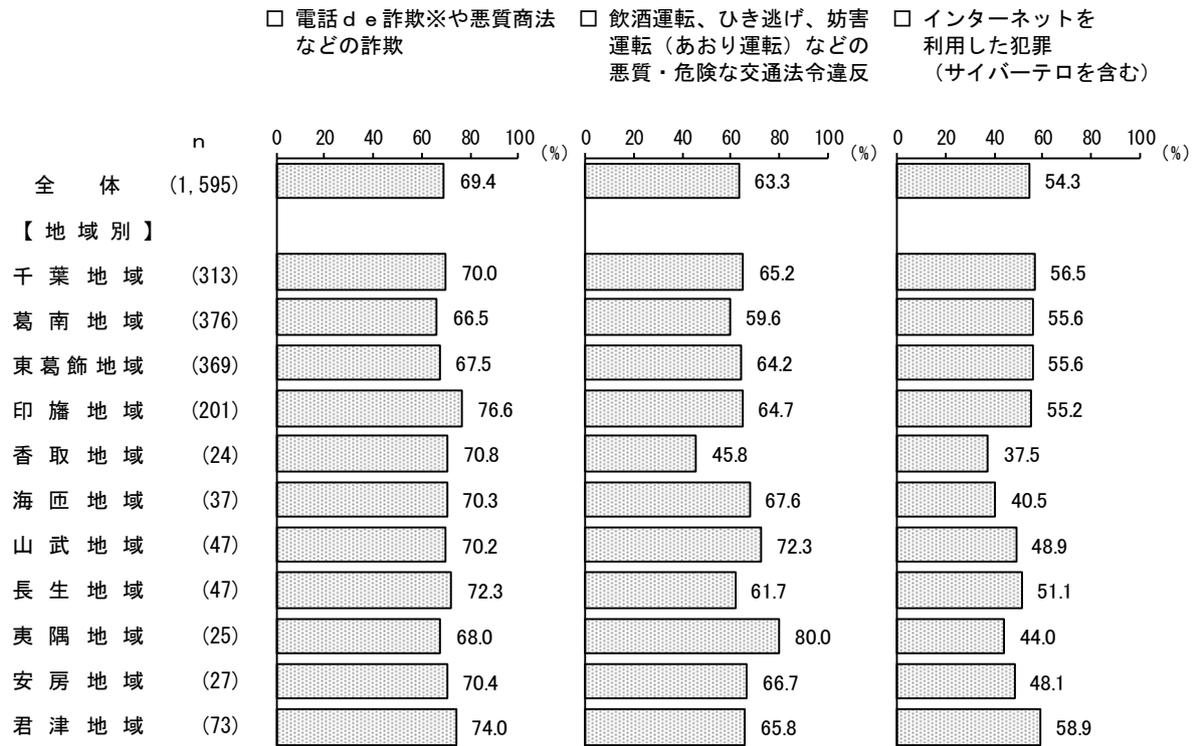
「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は女性の60～64歳（75.9%）と女性の30代（74.0%）が7割台半ば、女性の50代（71.4%）が7割を超えて高くなっている。

「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」は女性の50代（67.7%）が約7割、男性の50代（65.7%）と女性の40代（64.6%）が6割台半ばと高くなっている。

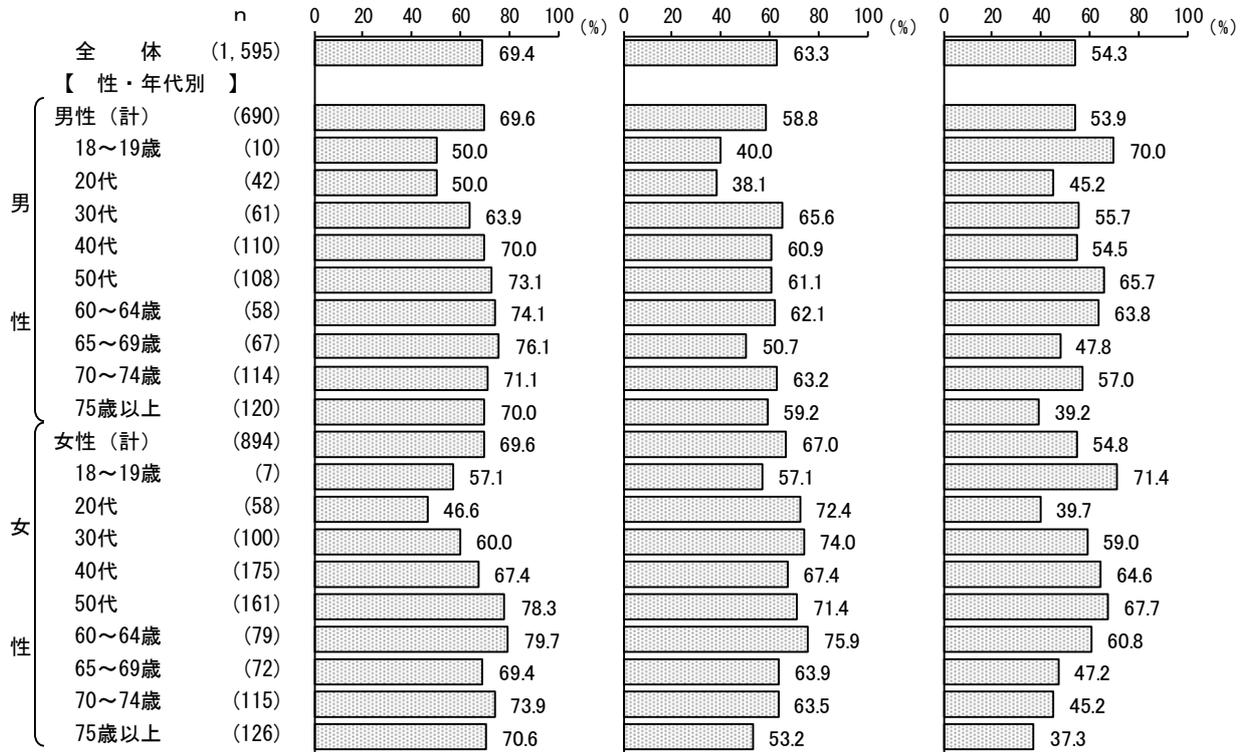
「自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」は女性の60～64歳（67.1%）が約7割、男性の50代（62.0%）が6割を超えて高くなっている。（図表3-4）

<図表3-4> 自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪（複数回答）

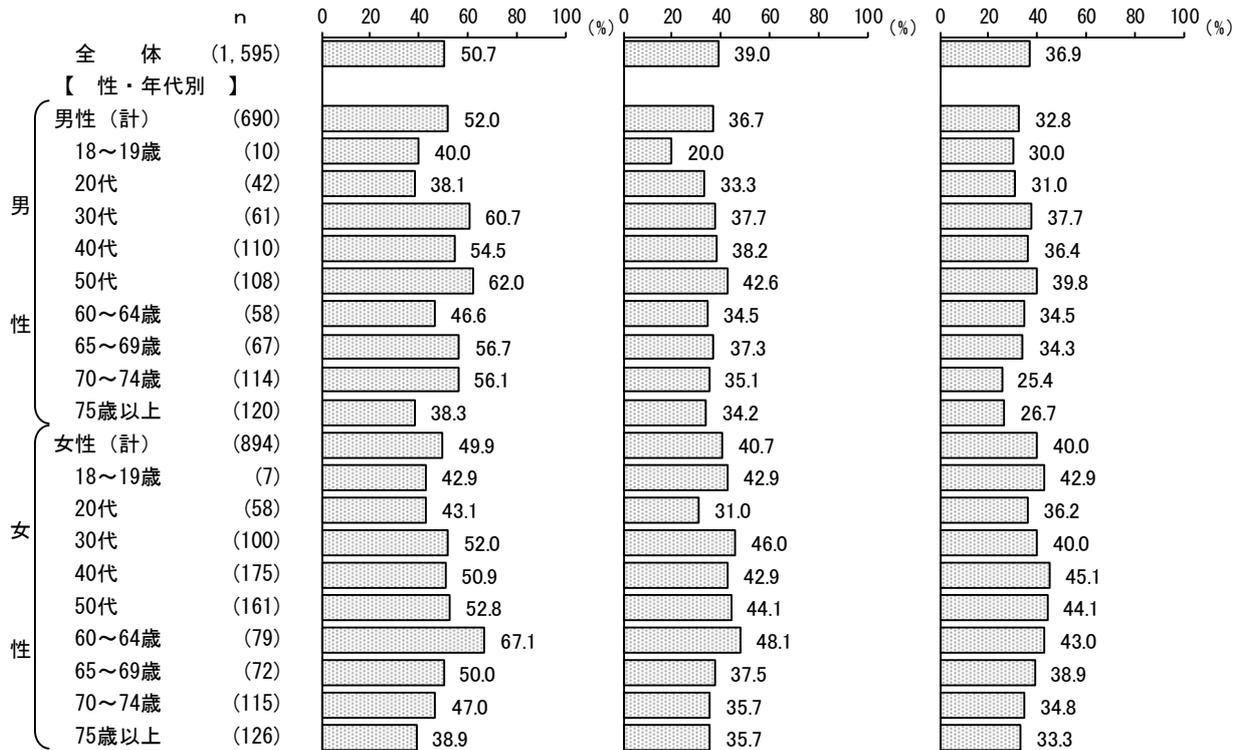
／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 電話d e詐欺※や悪質商法などの詐欺 □ 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反 □ インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）

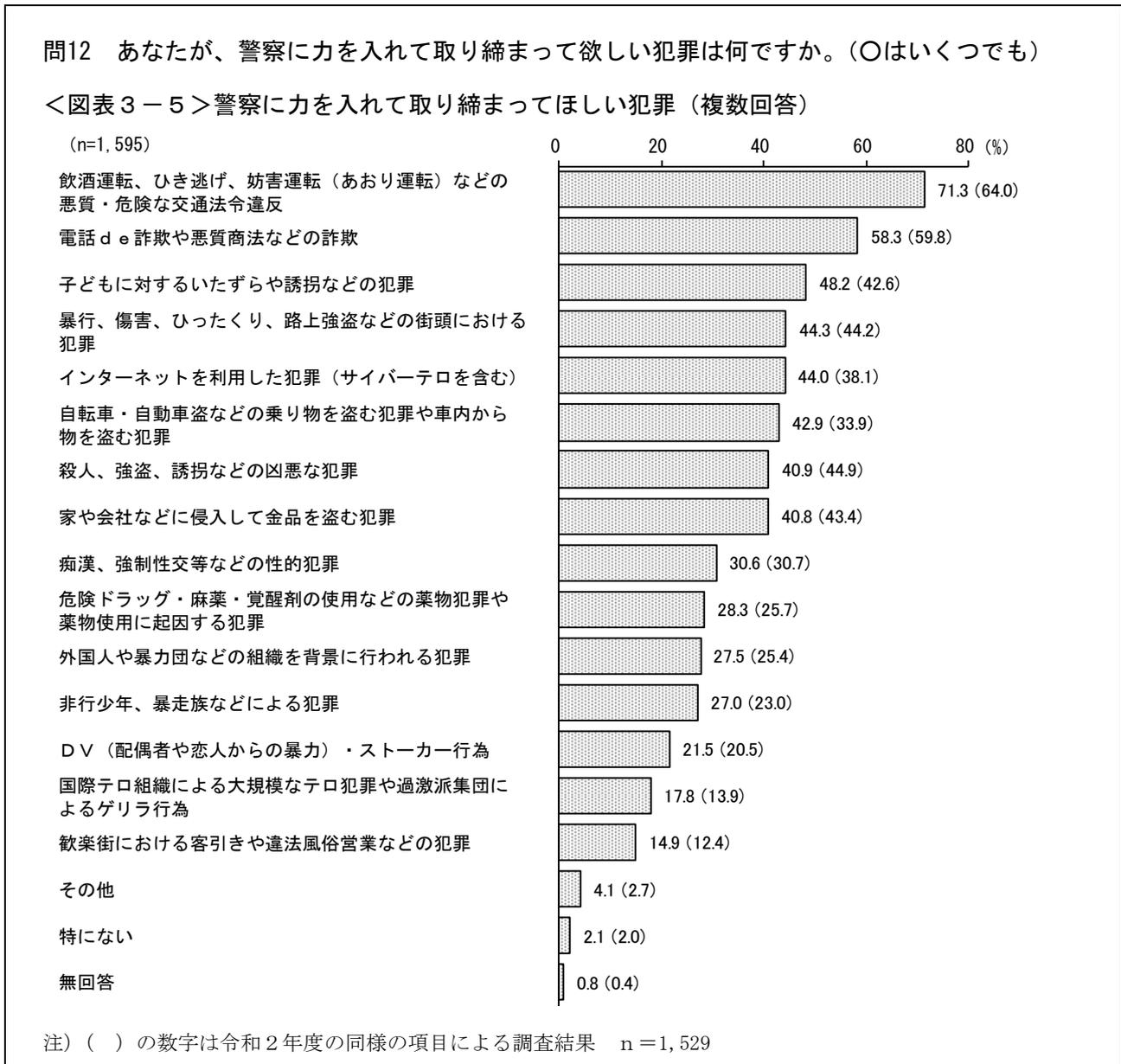


□ 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪 □ 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪 □ 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪



（3）警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

◇「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」が7割を超える



警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪について聞いたところ、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」（71.3%）が7割を超えて最も高く、以下、「電話d e詐欺や悪質商法などの詐欺」（58.3%）、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」（48.2%）、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」（44.3%）が続く。

（図表3-5）

【地域別】

地域別にみると、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は“葛南地域”（52.1%）が5割を超え、“千葉地域”（49.8%）が約5割で高くなっている。（図表3-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は女性の60～64歳（86.1%）が8割台半ばで高くなっている。

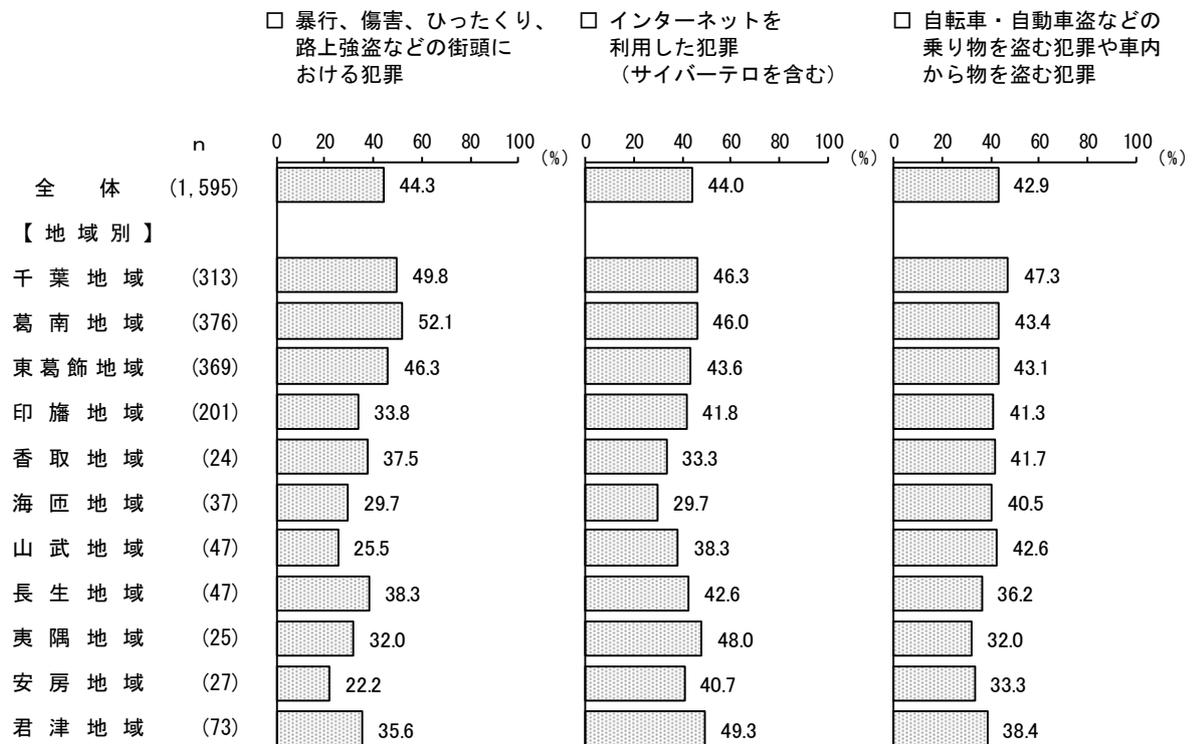
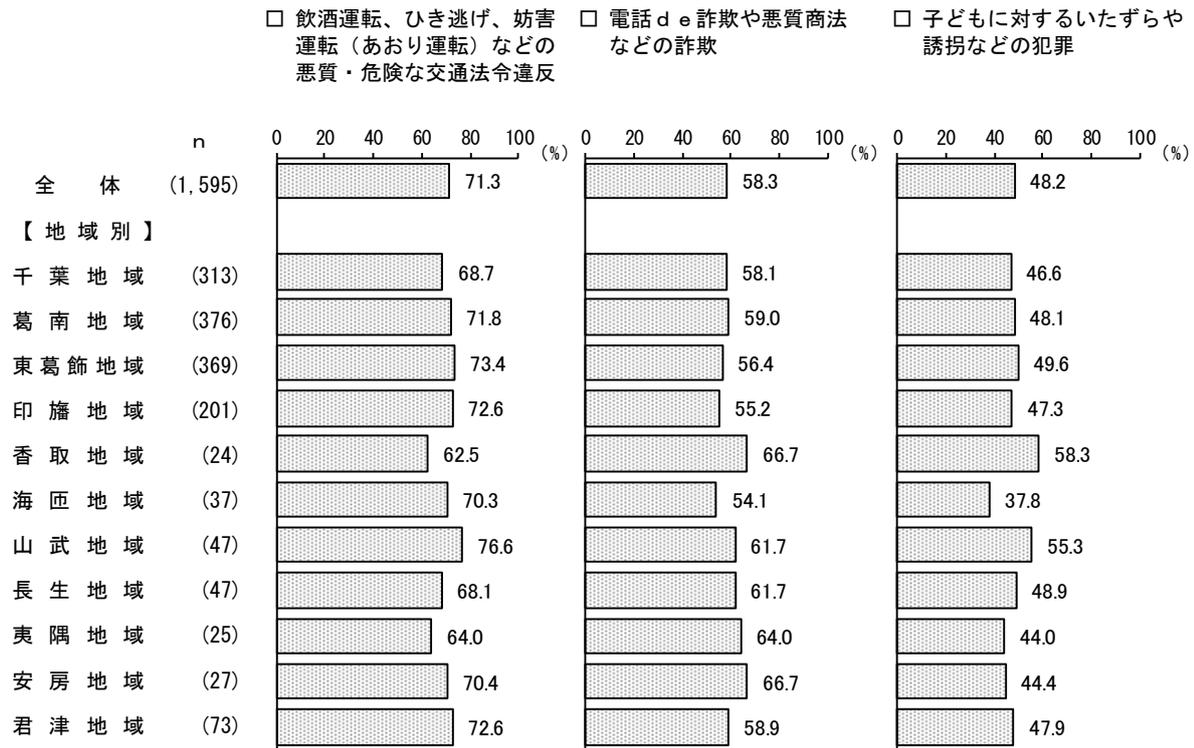
「電話d e 詐欺や悪質商法などの詐欺」は男性の75歳以上（70.0%）が7割で高くなっている。

「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は女性の30代（76.0%）が7割台半ば、女性の40代（61.7%）が6割を超えて高くなっている。

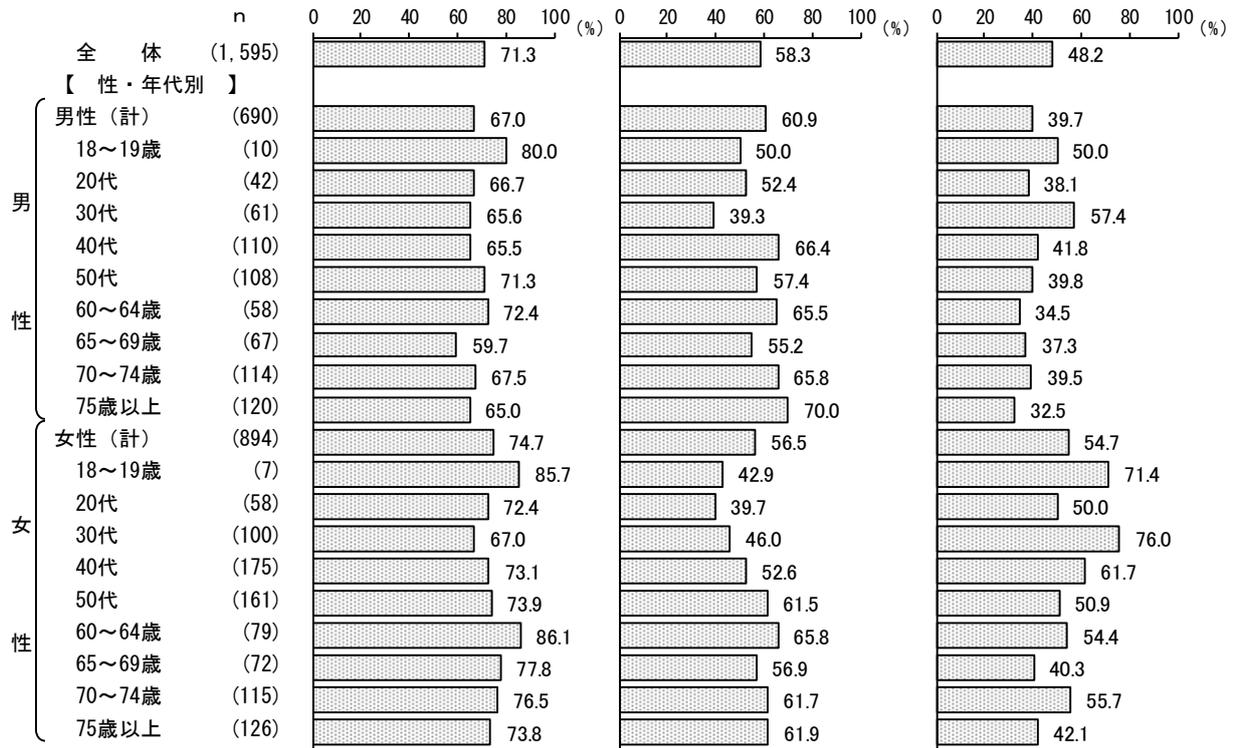
「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は女性の60～64歳（58.2%）が約6割で高くなっている。（図表3－6）

＜図表3－6＞警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪（複数回答）

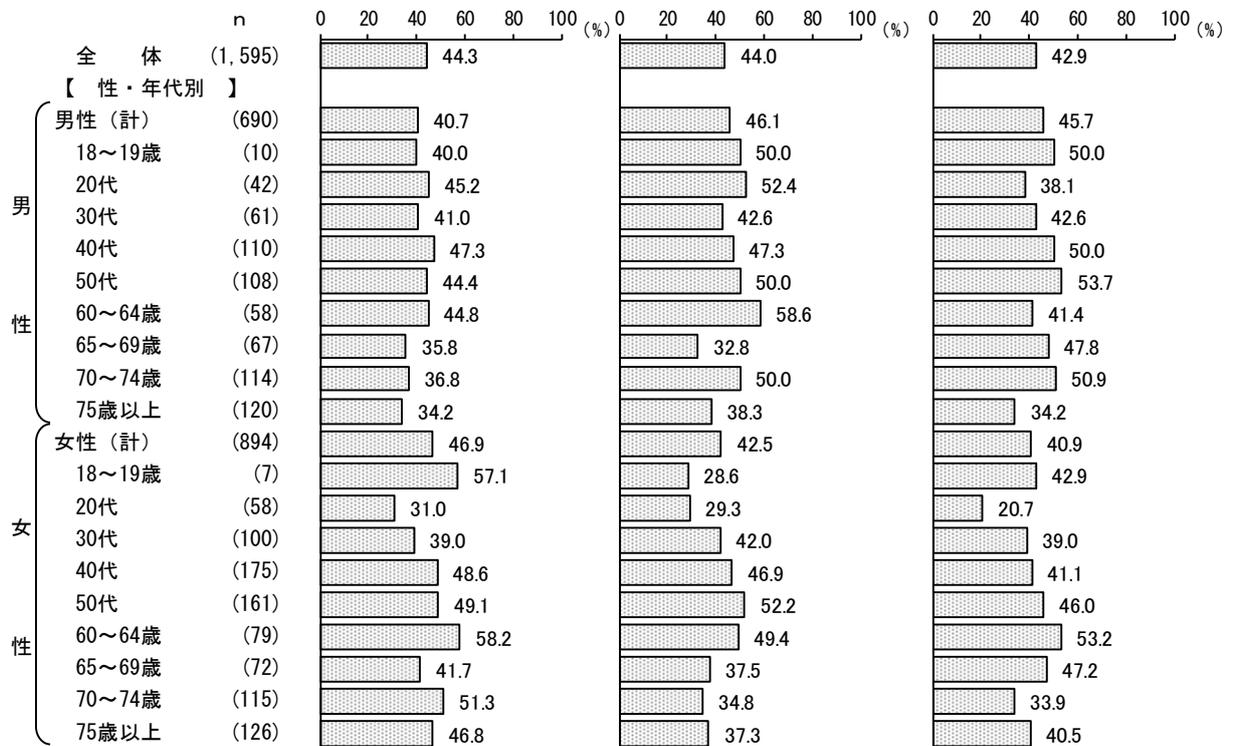
／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
- 電話d e 詐欺や悪質商法などの詐欺
- 子どもに対するいたづらや誘拐などの犯罪



- 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
- インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）
- 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪

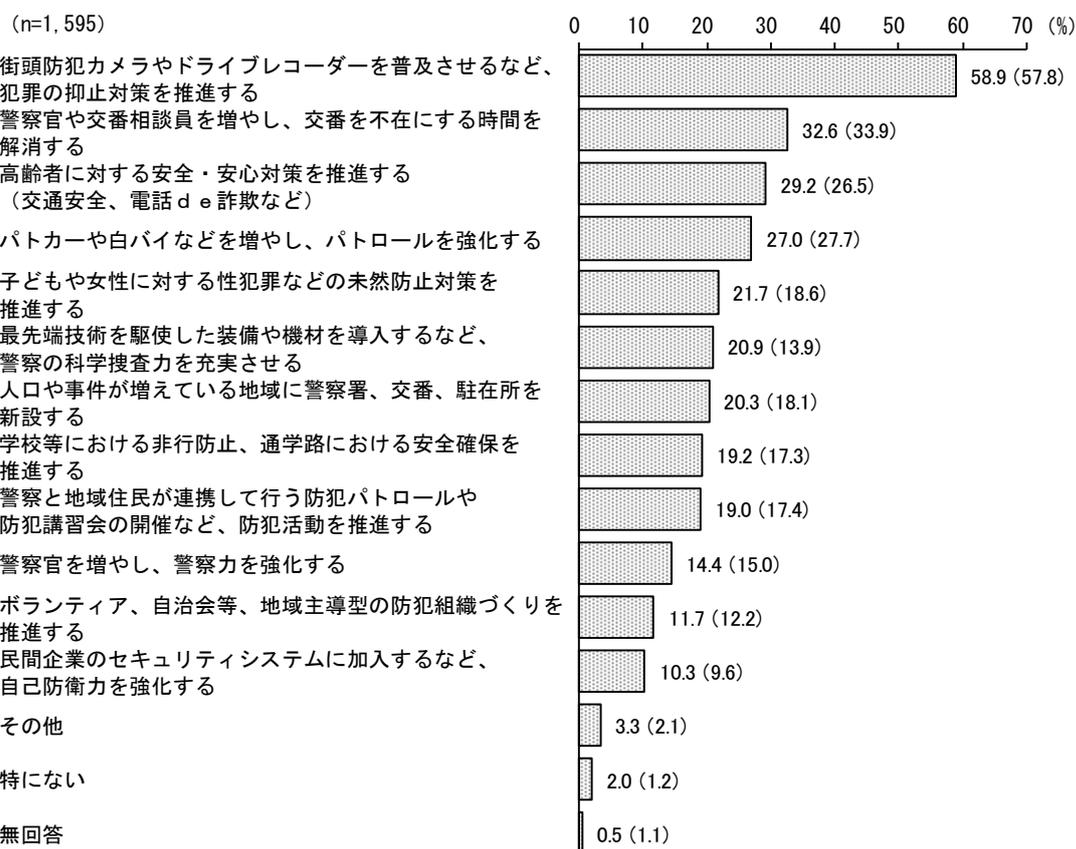


（４）安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

◇「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」が約6割

問13 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

＜図表3-7＞安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと（複数回答）



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n = 1,529

安全で安心できる生活を守っていくために必要なことについて聞いたところ、「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」(58.9%)が約6割で最も高く、以下、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(32.6%)、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話d e詐欺など）」(29.2%)、「パトカーや白バイを増やし、パトロールを強化する」(27.0%)が続く。(図表3-7)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-8)

【性・年代別】

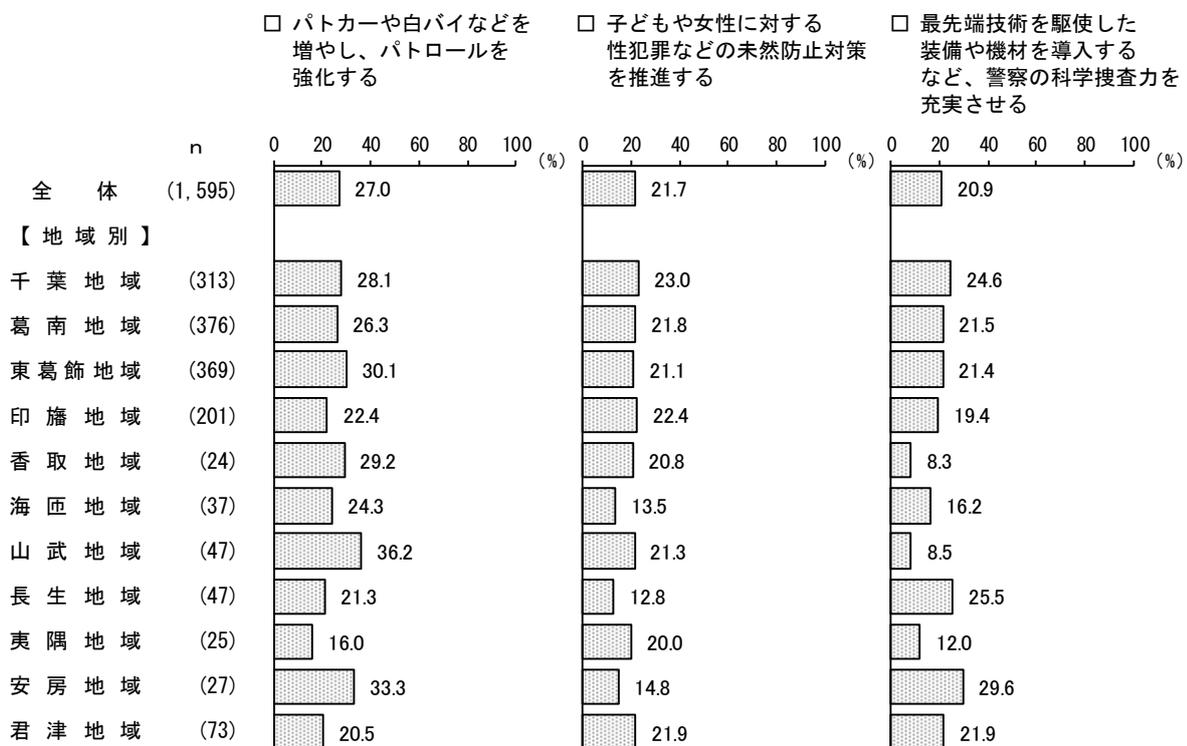
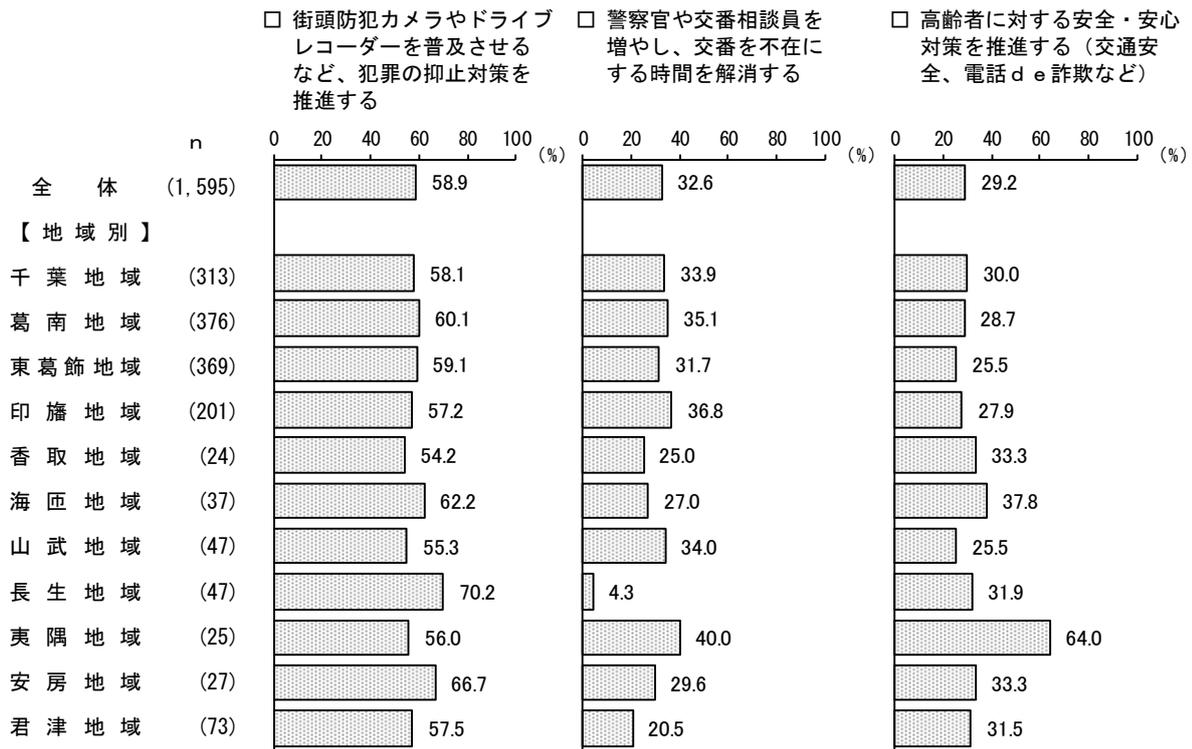
性・年代別にみると、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」は女性の70～74歳（49.6%）と女性の75歳以上（47.6%）が約5割、女性の60～64歳（43.0%）と男性の75歳以上（42.5%）が4割を超えて高くなっている。

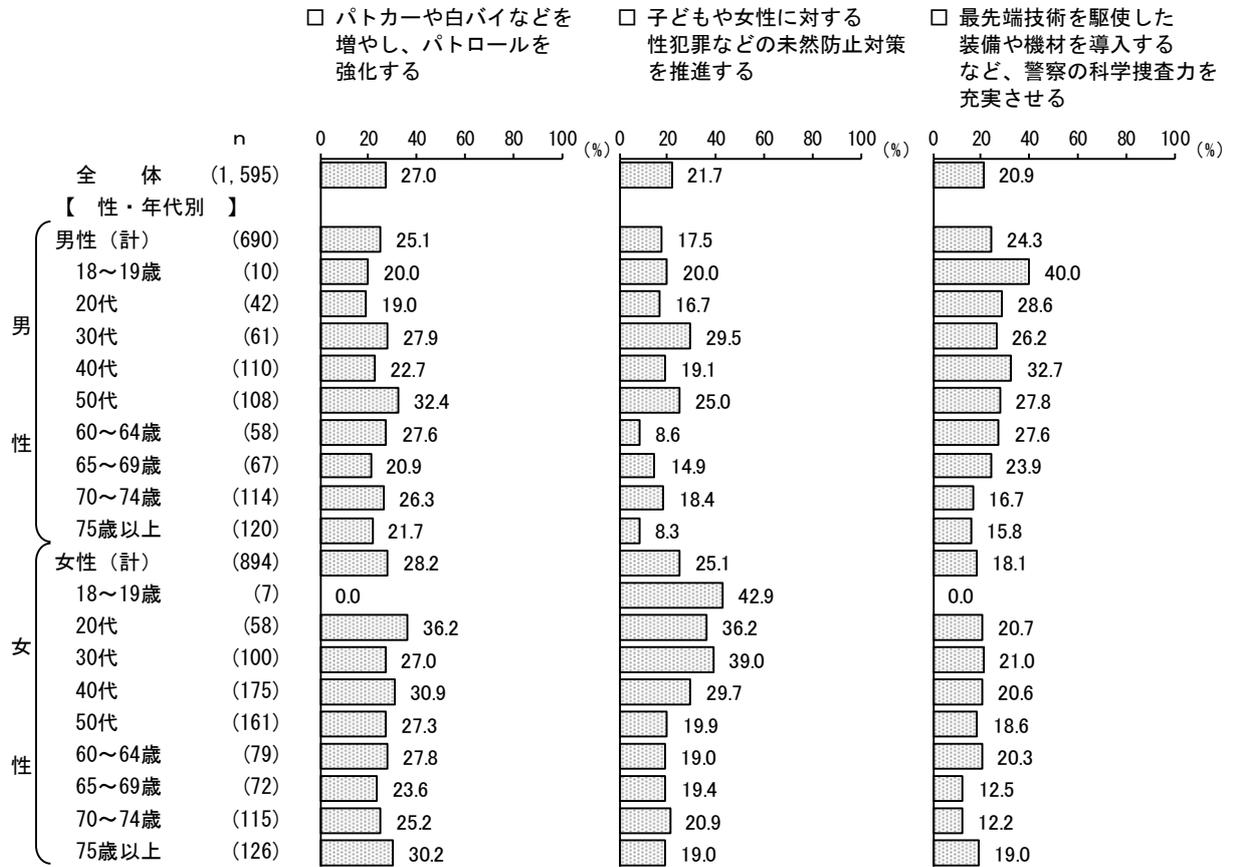
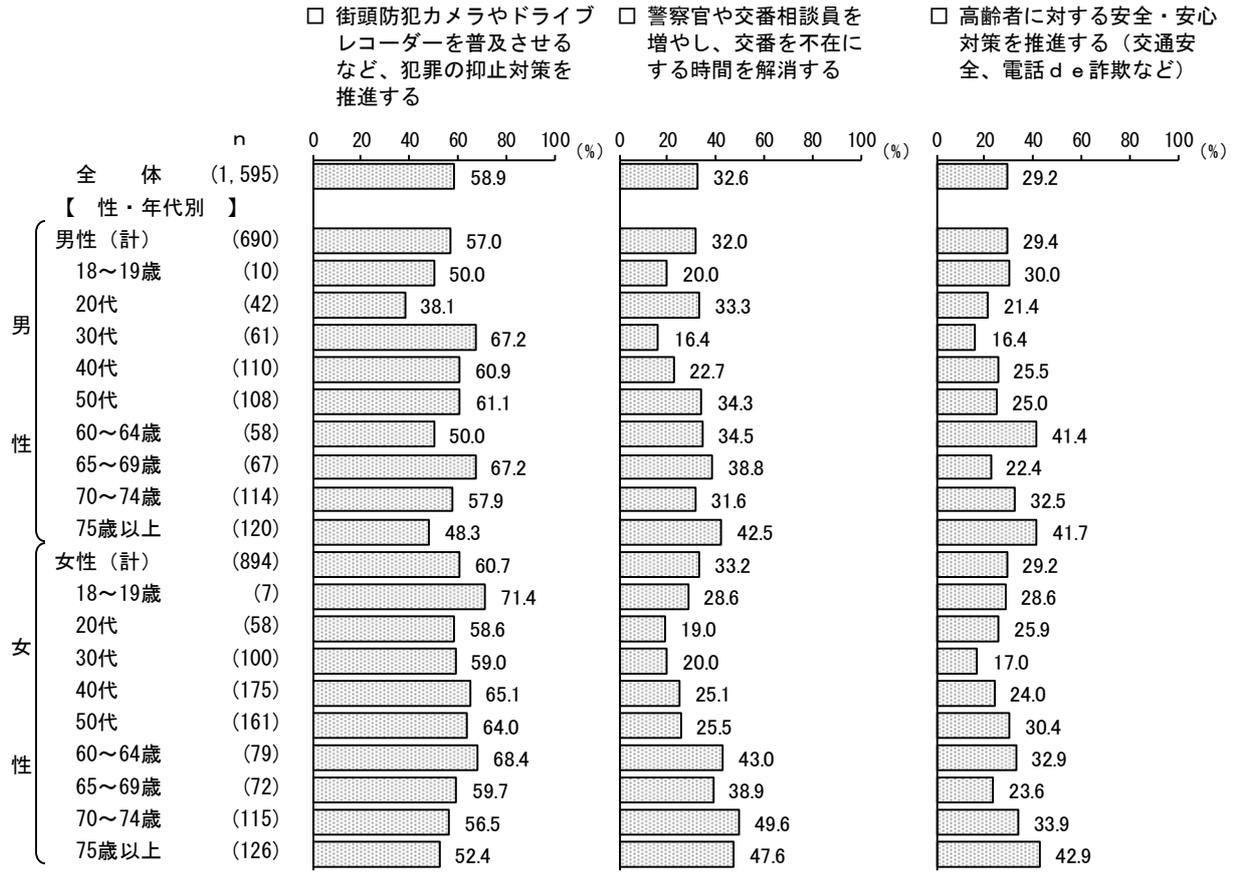
「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話d e詐欺など）」は女性の75歳以上（42.9%）、男性の75歳以上（41.7%）、男性の60～64歳（41.4%）が4割を超えて高くなっている。

（図表3－8）

＜図表3-8＞安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」や問10～問13について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、248人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

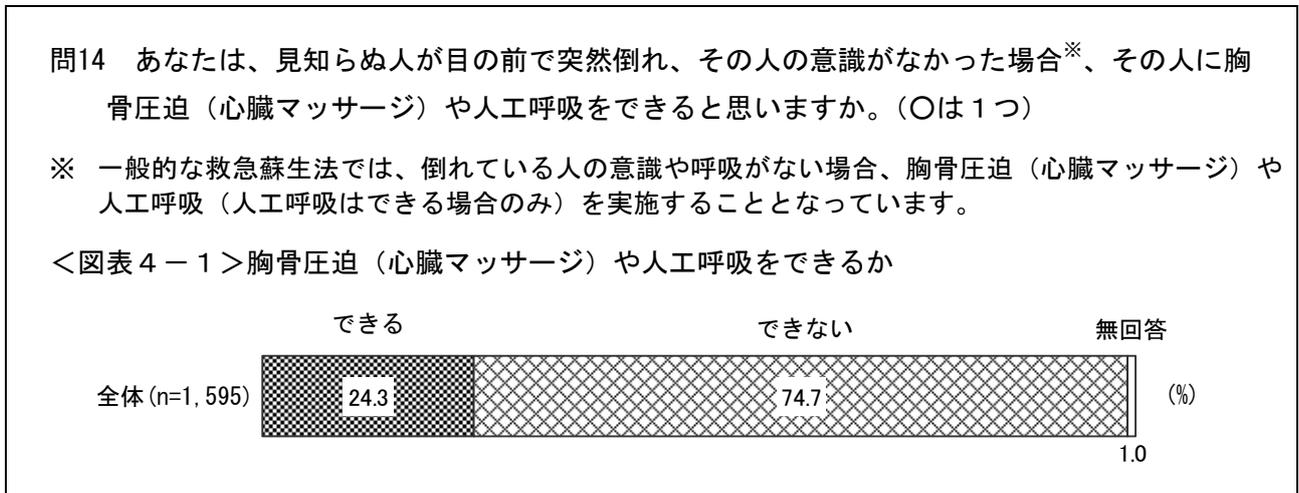
■「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答（抜粋）

- 住んでいる地区は警察署が近くパトロール（パトカー）が頻繁に行われているので、監視の目があり安心して生活できます。パトカーが目につくだけでも充分犯罪防止になると思うので頻繁に行って欲しいです。（女性、50代、千葉地域）
- 犯罪は住宅地や混み合った場所で起こることが多いので、パトカーや白バイ等のパトロールではなく、警察官の足や自転車等を使った細かな路地での巡回パトロールが不可欠と考えますが、現状ではあまりパトロールを見かけません。もっと増やしたらどうでしょうか。（女性、65～69歳、葛南地域）
- 警察は犯罪摘発ではなく、犯罪予防（指導）に力を入れて欲しい。（男性、70～74歳、葛南地域）
- 防犯カメラの設置なども積極的に進めてほしい。（女性、60～64歳、印旛地域）
- 暴走族や「あおり運転」をしている犯罪者をしっかり検挙してほしいと思います。（男性、40代、葛南地域）
- 高齢ドライバーの免許返納率を上げるための対策強化。（女性、40代、千葉地域）
- 他の都道府県や省庁との協力の下、サイバー犯罪や詐欺、悪徳商法などの撲滅へ向けた取り組みの強化を進めて欲しい。（男性、60～64歳、葛南地域）
- 性犯罪、虐待などの主に女性・子どもが被害に遭う事件については、捜査や取り締まりを強化するとともに被害者の心のケアにも力を入れてほしい。（女性、20代、千葉地域）
- 我が家は電話詐欺等を防止するため常時留守番電にしていますが、経費が掛かります。年金生活であり物価もどんどん高騰しています。老後の生活費削減のため、電話詐欺等を防止するための機器を無償提供していただけたらと思います。（男性、75歳以上、東葛飾地域）
- 違法駐車など近くの交番に連絡してもなかなか来てもらえなかった事があったので、他にも対処する問題があると仕方ないとも思いますが、困って連絡しているので早めに来てもらえたらと思います。（女性、60～64歳、葛南地域）
- DVや虐待、いじめ、ストーカーなどは事前に予防できるのではと思っています。相談窓口があることは知っていますが、もっともっと身近で親しみやすい雰囲気づくりは必要だと思います。（女性、30代、東葛飾地域）

4 心肺蘇生法等について

(1) 胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか

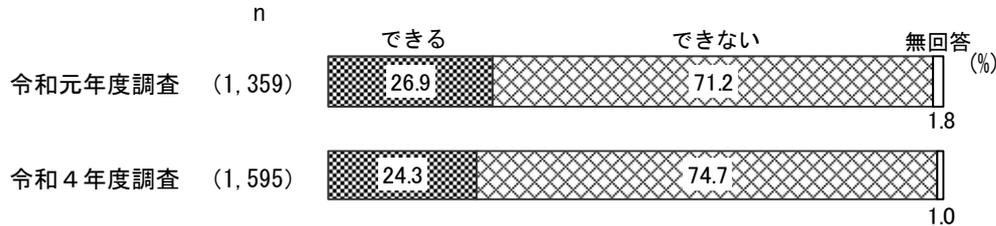
◇「できる」が2割台半ば



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を出来ると思うか」と聞いたところ、「できる」（24.3%）が2割台半ばとなっている。一方、「できない」（74.7%）は7割台半ばとなっている。

（図表4-1）

〔参考〕 令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

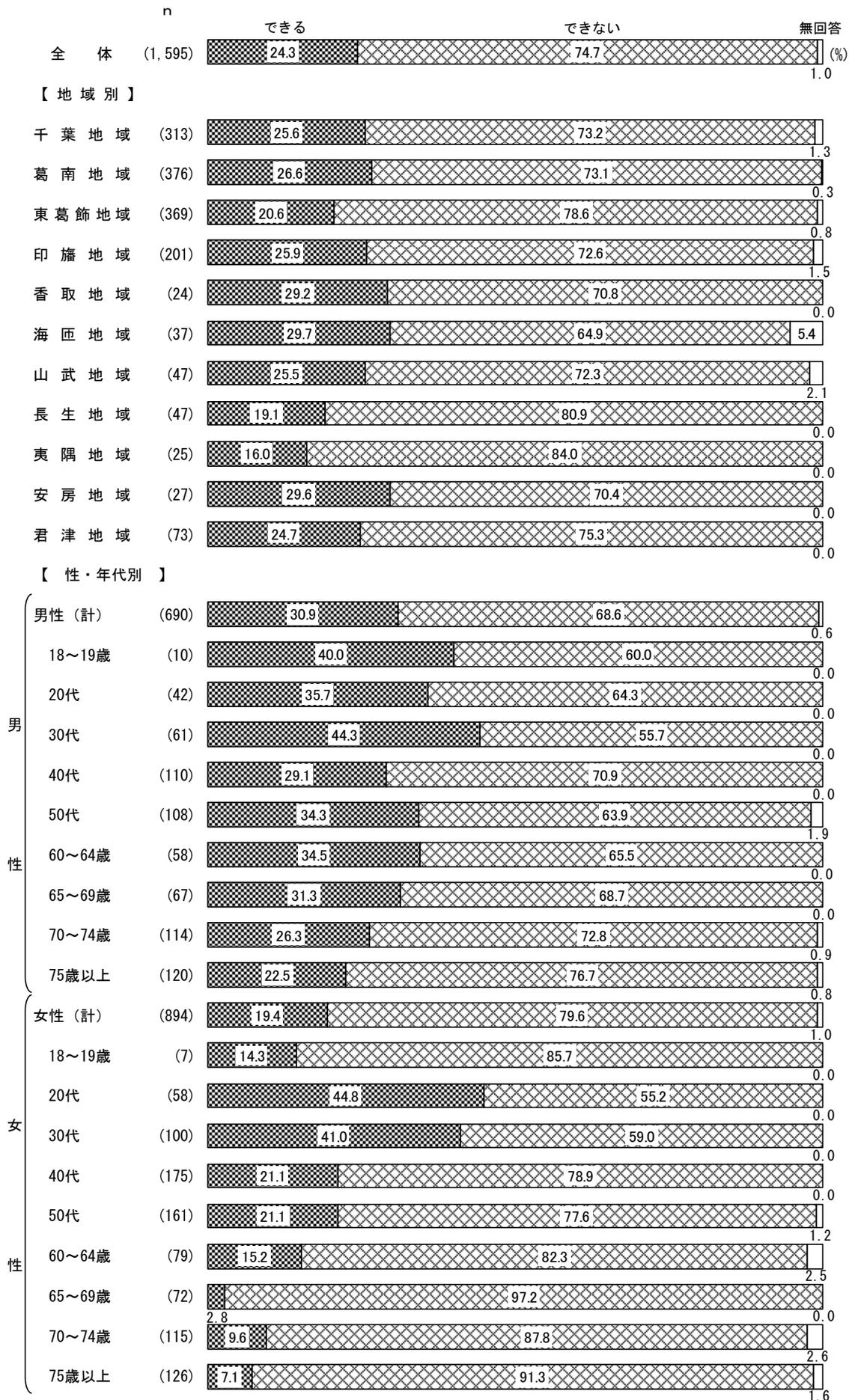
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表4-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の20代（44.8%）と男性の30代（44.3%）が4割台半ば、女性の30代（41.0%）が4割を超え、男性の50代（34.3%）が3割台半ばと高くなっている。

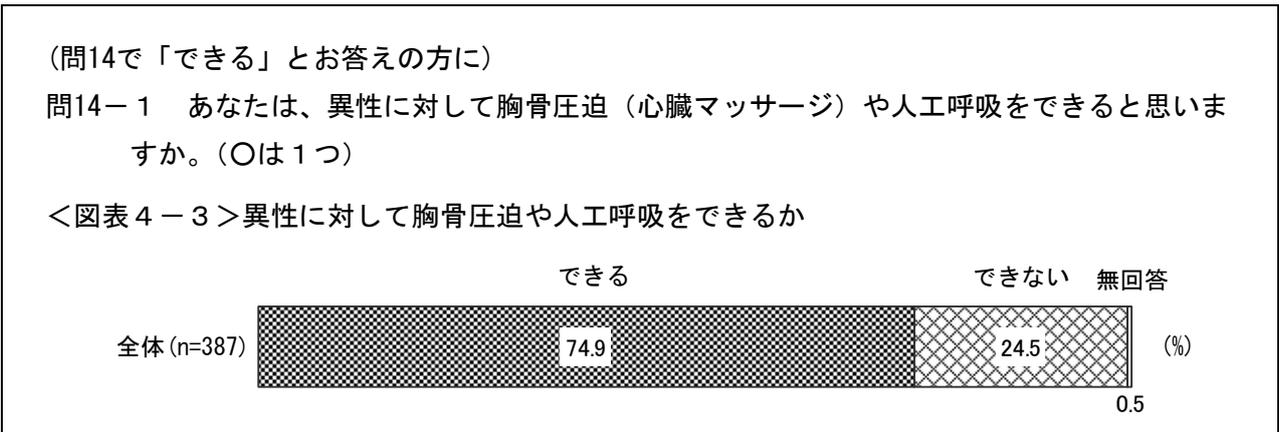
一方、「できない」は女性の65～69歳（97.2%）が約10割、女性の75歳以上（91.3%）が9割を超え、女性の70～74歳（87.8%）が約9割で高くなっている。（図表4-2）

＜図表4-2＞胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



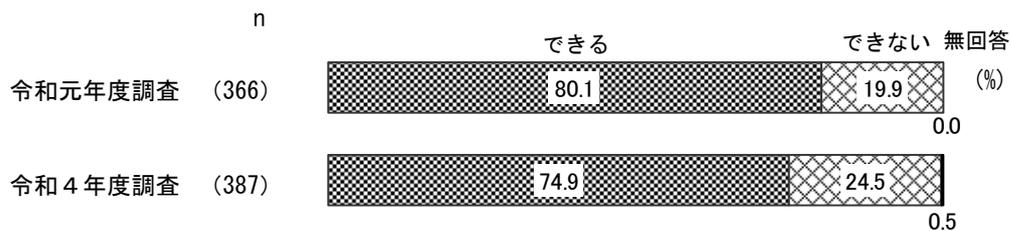
（1－1）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか

◇「できる」が7割台半ば



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできる」と回答した387人に、異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできると思うか聞いたところ、「できる」（74.9%）が7割台半ばとなっている。一方、「できない」（24.5%）は2割台半ばとなっている。（図表4－3）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

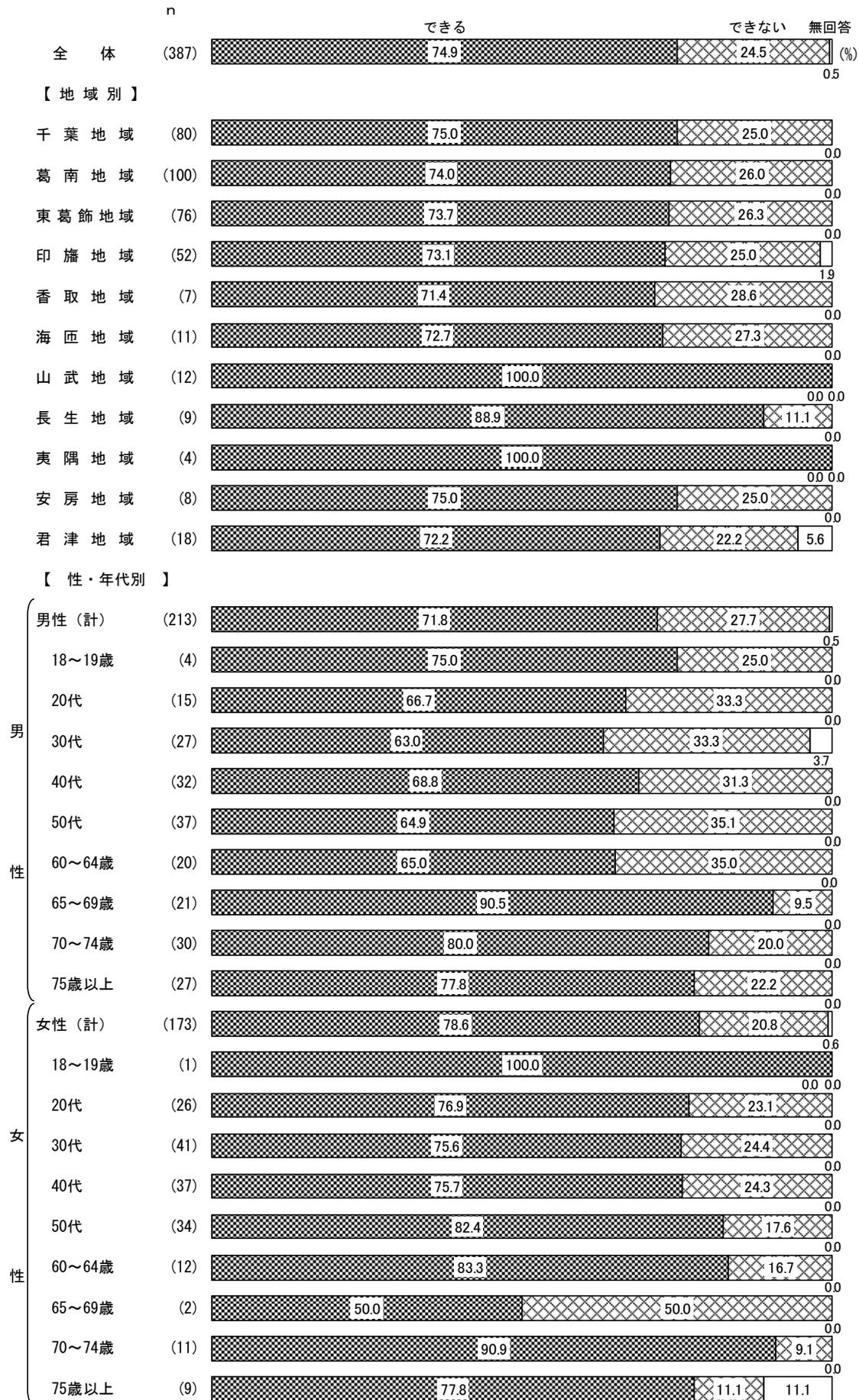


※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8 ページ「報告書の見方（5）」を参照）

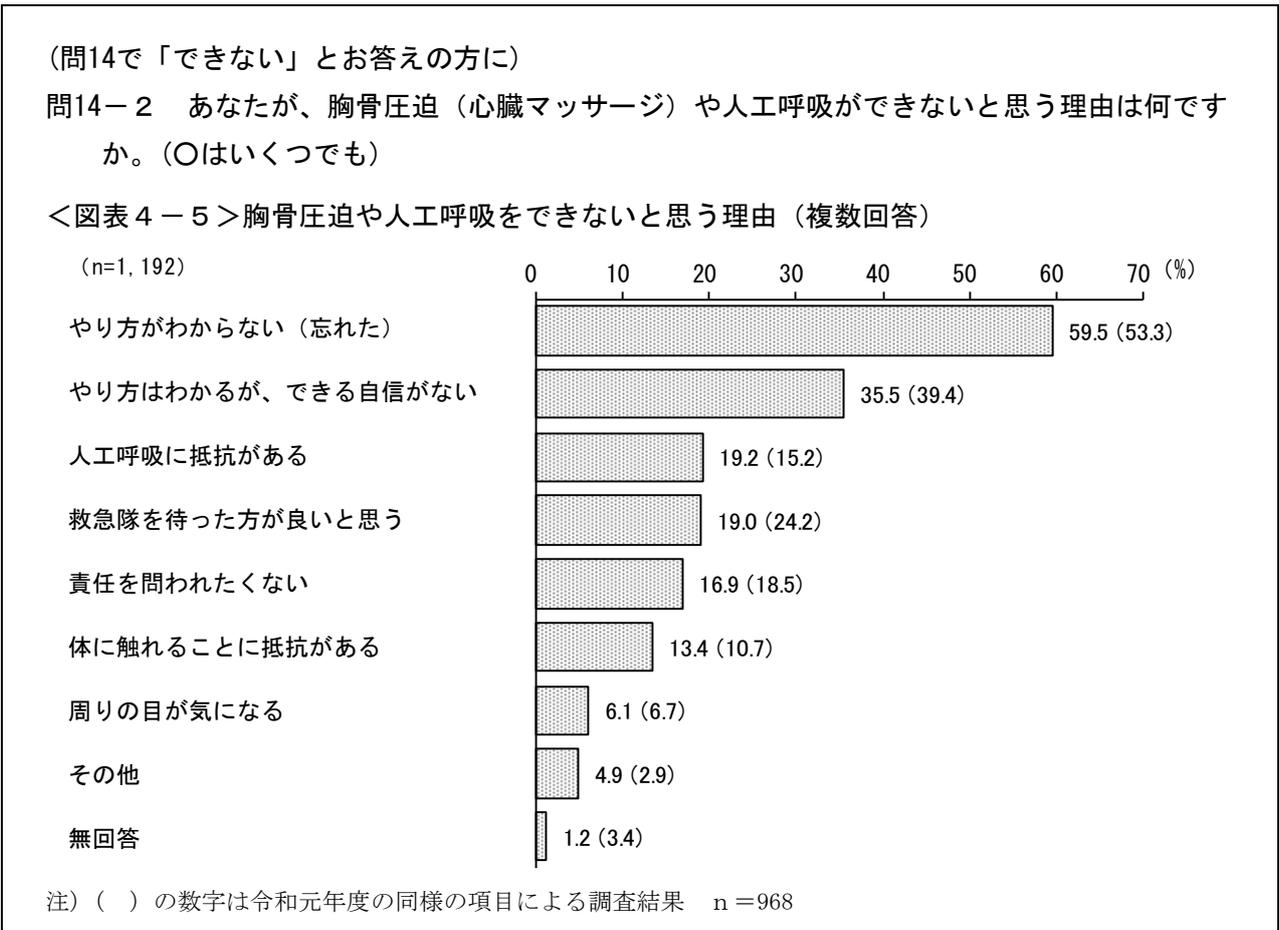
（図表4－4）

[参考] <図表4-4> 異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



（1－2）胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

◇「やり方がわからない（忘れた）」が約6割



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできない」と回答した1,192人に、その理由を聞いたところ、「やり方がわからない（忘れた）」（59.5%）が約6割で最も高く、以下、「やり方はわかるが、できる自信がない」（35.5%）、「人工呼吸に抵抗がある」（19.2%）、「救急隊を待った方が良いと思う」（19.0%）と続く。（図表4－5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表4－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「やり方がわからない（忘れた）」は男性の50代（75.4%）が7割台半ば、女性の70～74歳（69.3%）が約7割で高くなっている。

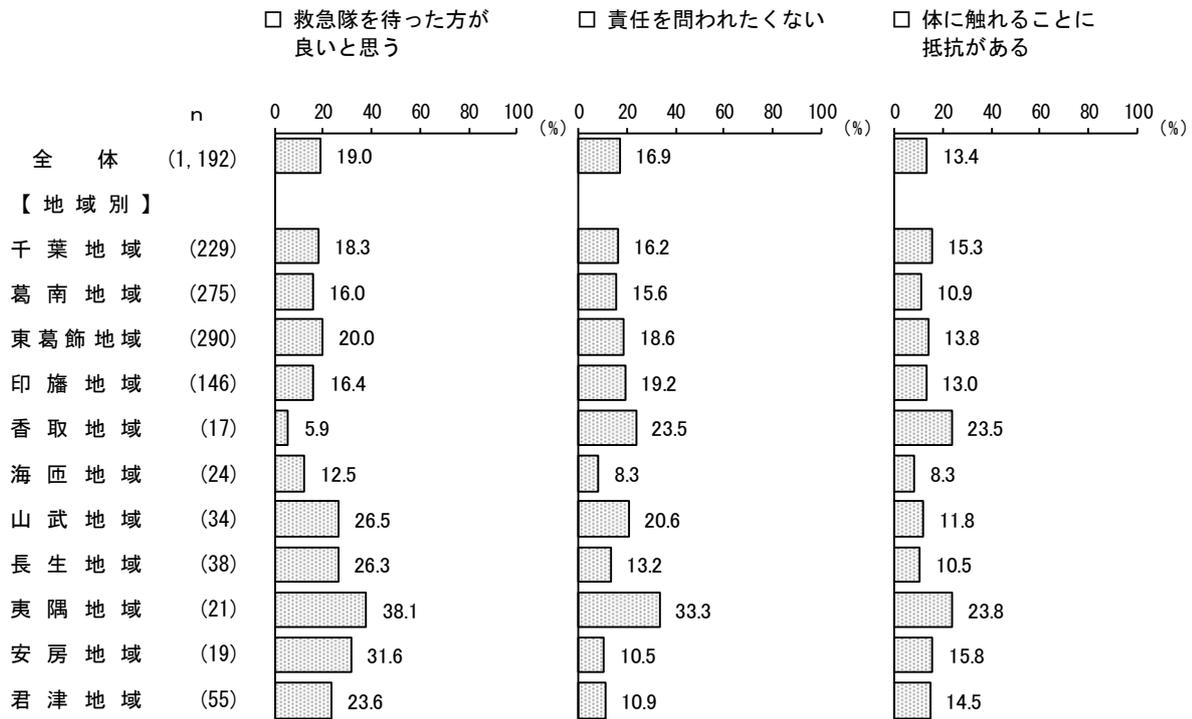
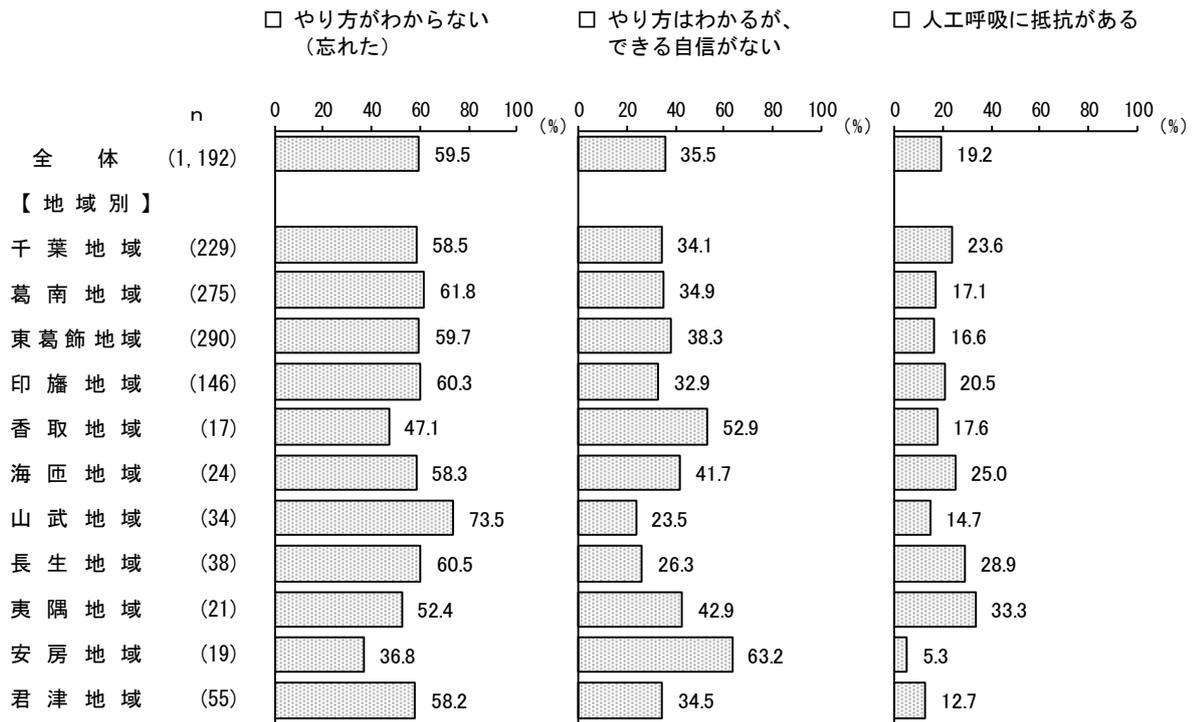
「やり方はわかるが、できる自信がない」は女性の30代（50.8%）が5割で高くなっている。

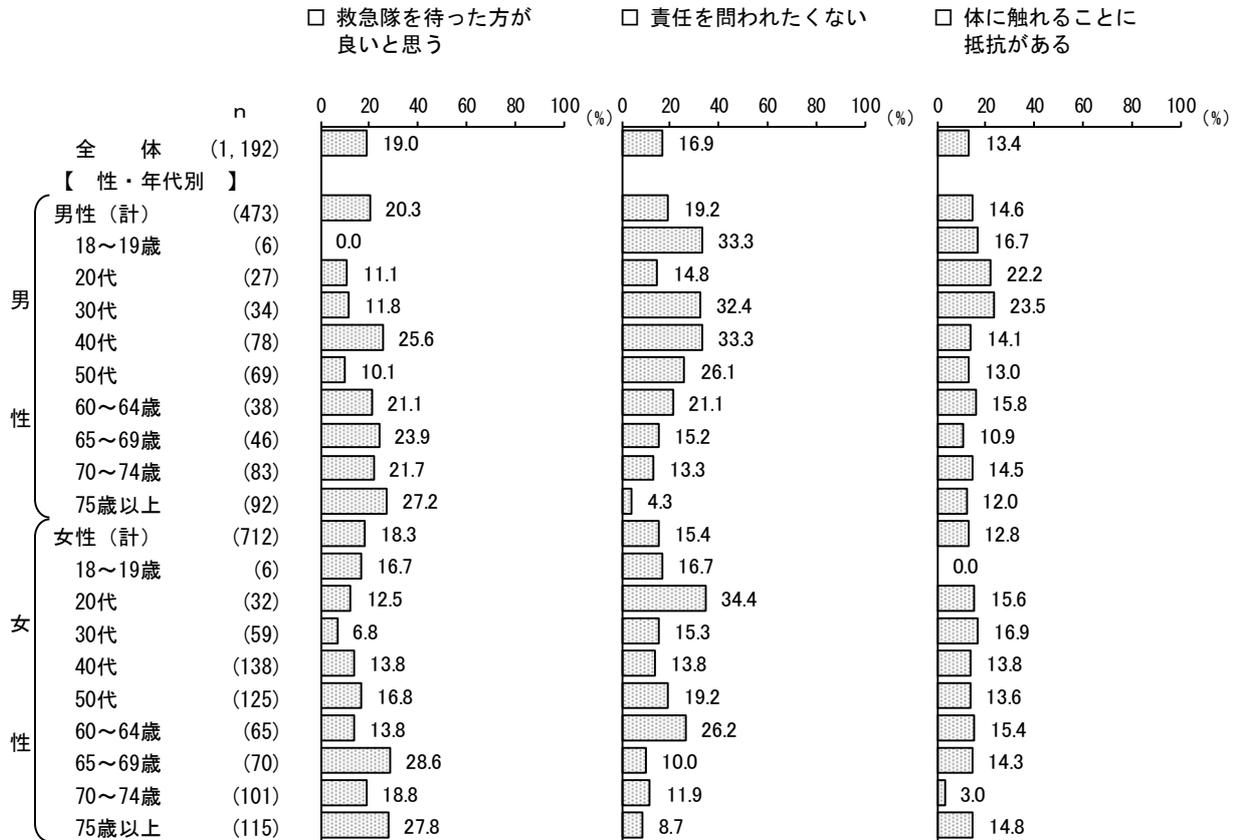
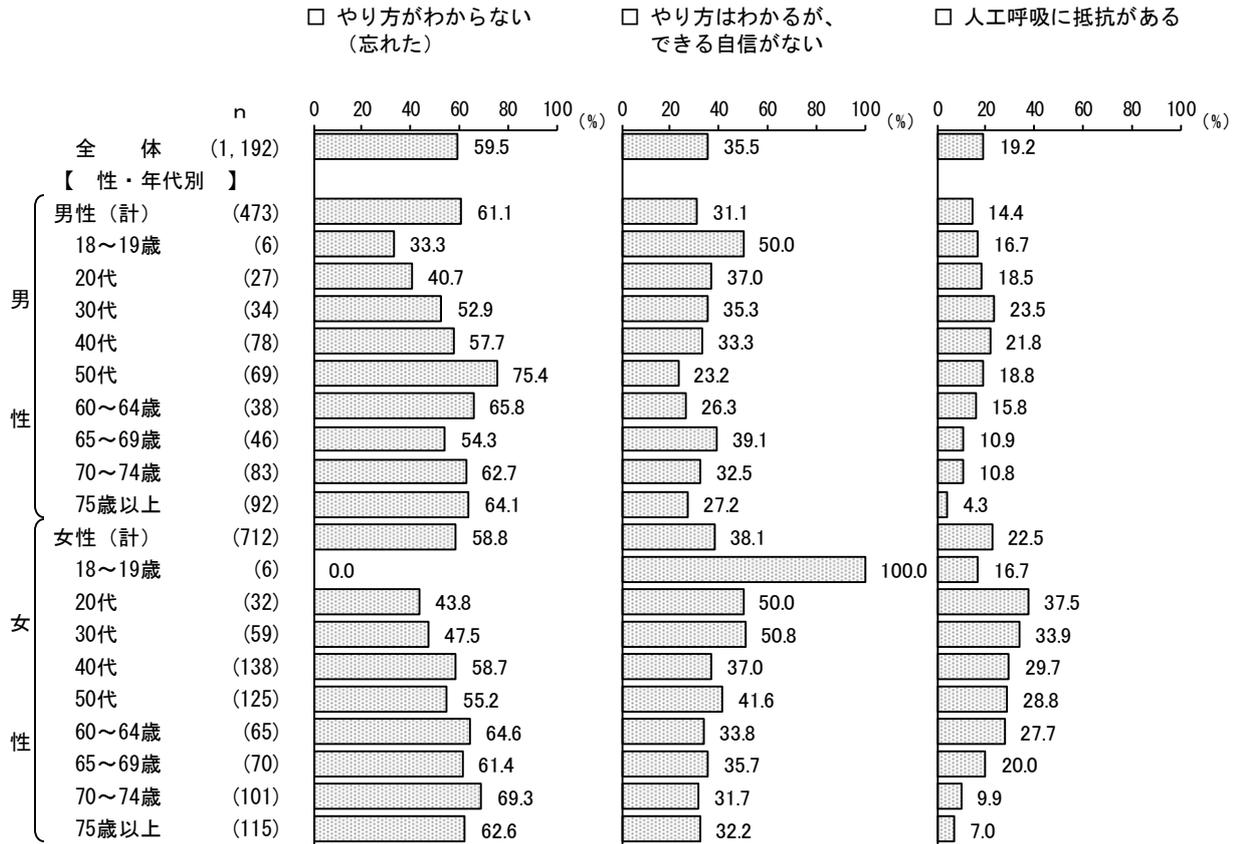
「人工呼吸に抵抗がある」は女性の20代（37.5%）が約4割、女性の30代（33.9%）が3割台半ば、女性の40代（29.7%）と女性の50代（28.8%）が約3割で高くなっている。

「救急隊を待った方が良いと思う」は女性の65～69歳（28.6%）、女性の75歳以上（27.8%）、男性の75歳以上（27.2%）が約3割で高くなっている。（図表4－6）

<図表4-6>胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）





（1－3）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

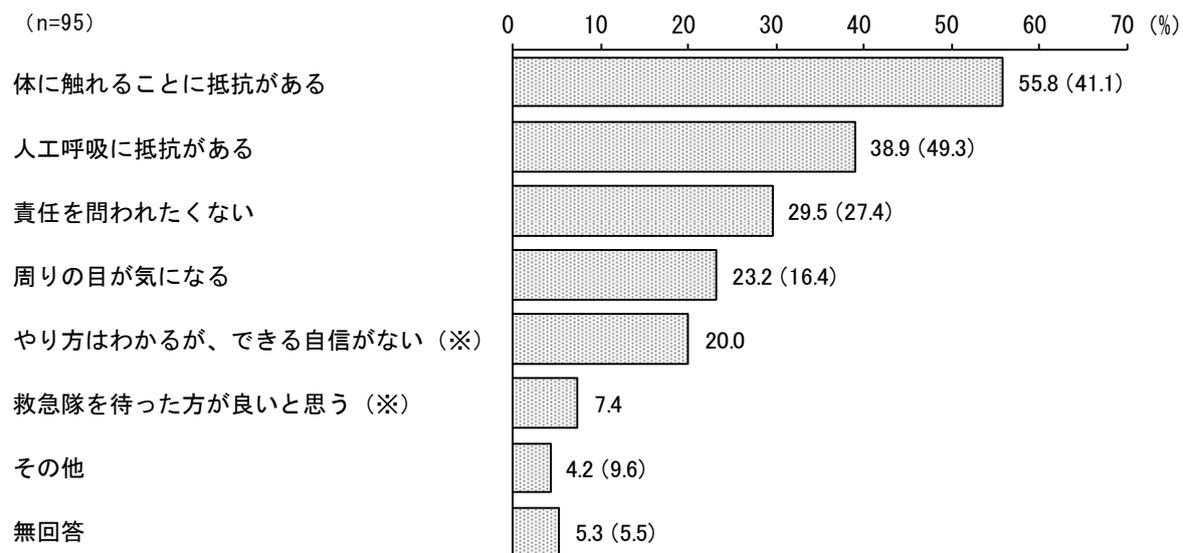
◇「体に触れることに抵抗がある」が5割台半ば

（問14－1で「できない」とお答えの方に）

問14－3 あなたが、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。（〇はいくつでも）

<図表4－7>異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）

（n=95）



注）（ ）の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=73

（※）今回調査からの新規項目

「異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできない」と回答した95人に、その理由を聞いたところ、「体に触れることに抵抗がある」（55.8%）が5割台半ばと最も高く、以下、「人工呼吸に抵抗がある」（38.9%）、「責任を問われたくない」（29.5%）、「周りの目が気になる」（23.2%）と続く。（図表4－7）

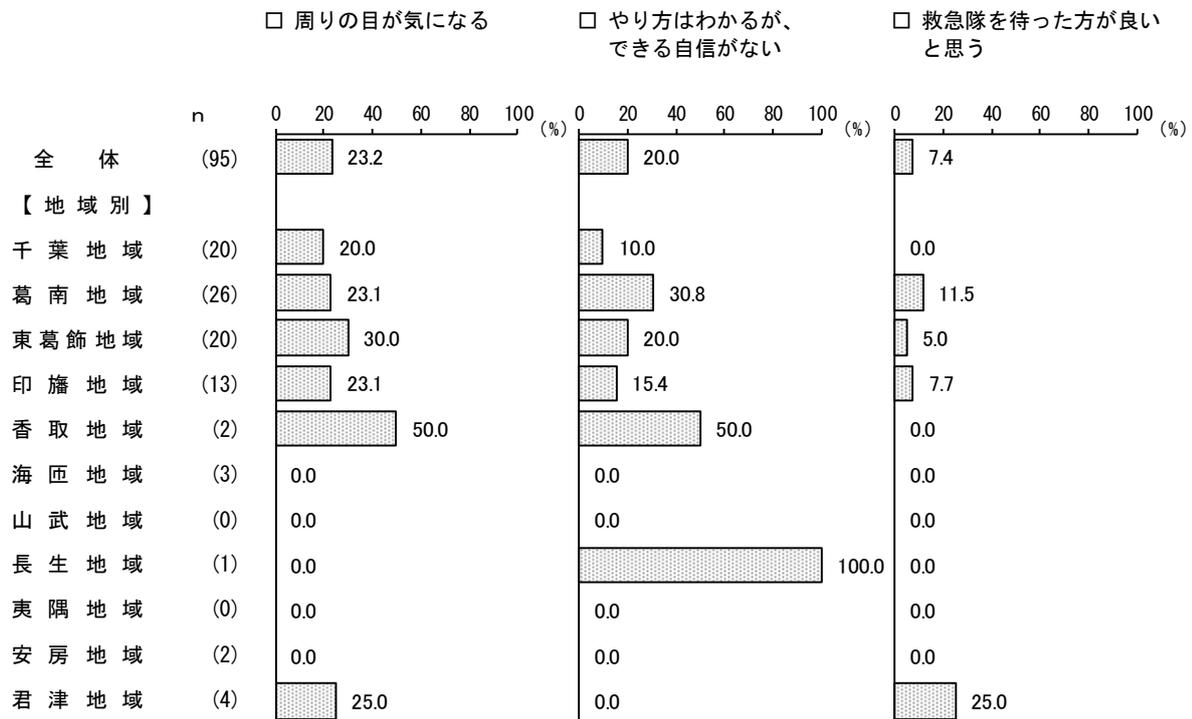
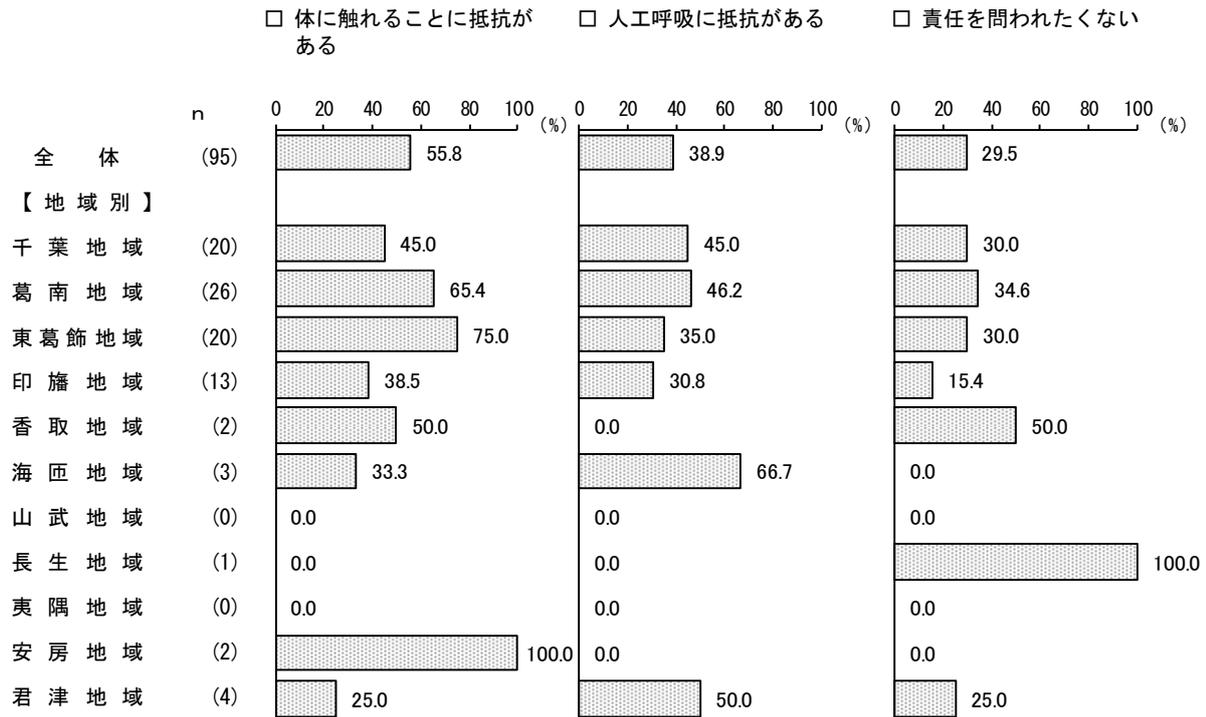
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8 ページ「報告書の見方（5）」を参照）

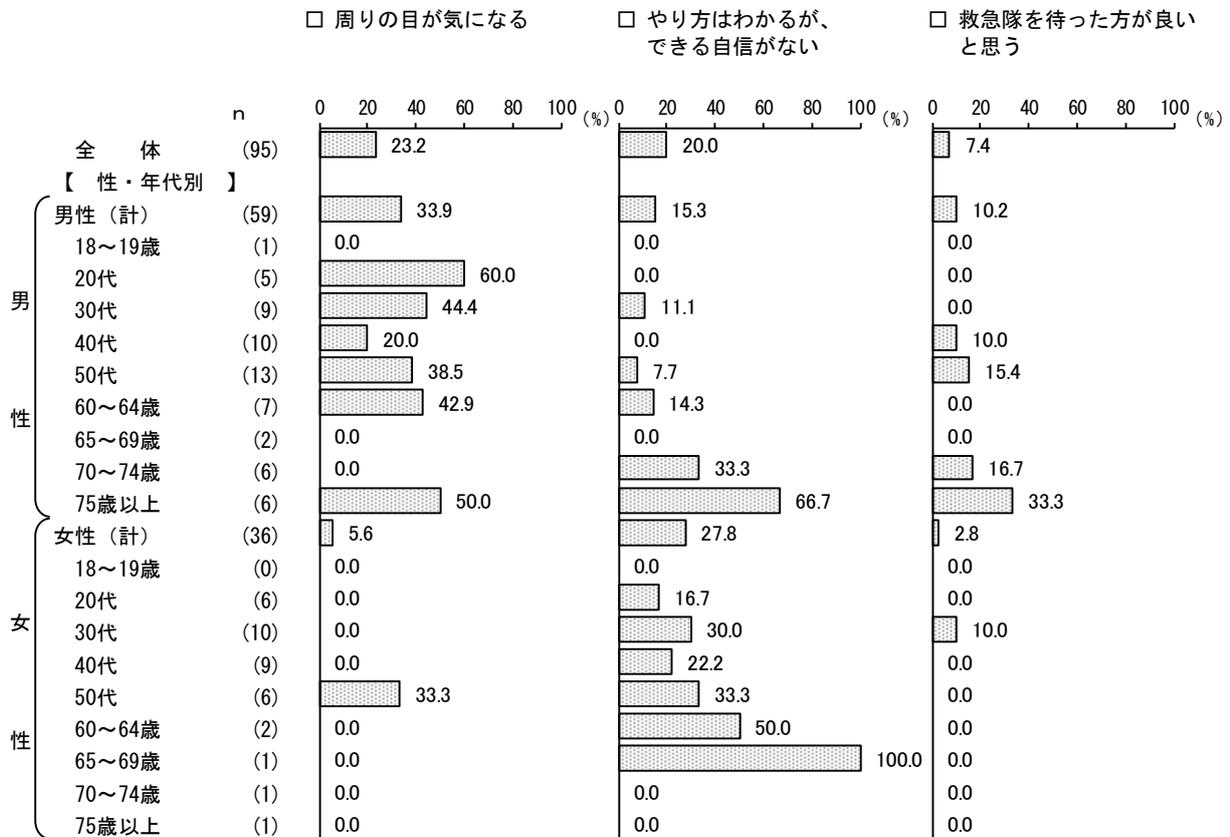
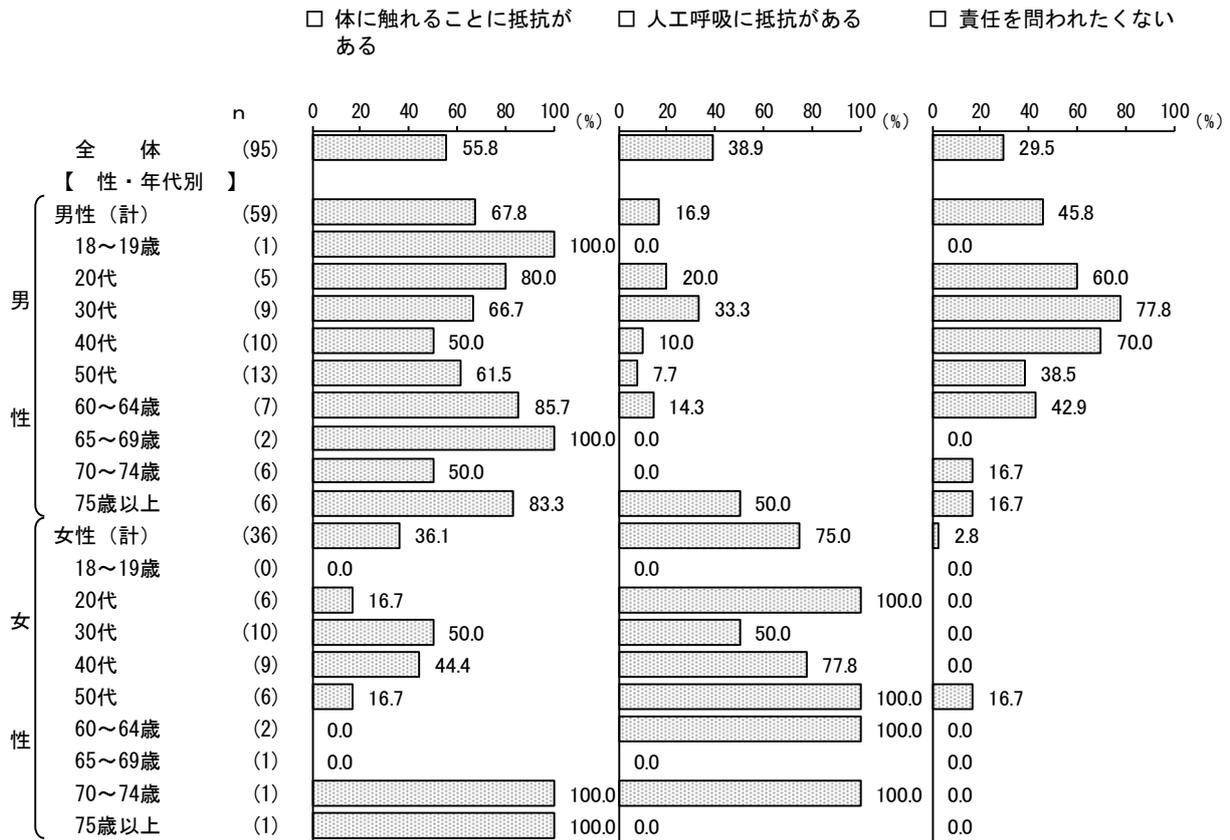
（図表4－8）

[参考] <図表4-8> 異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）

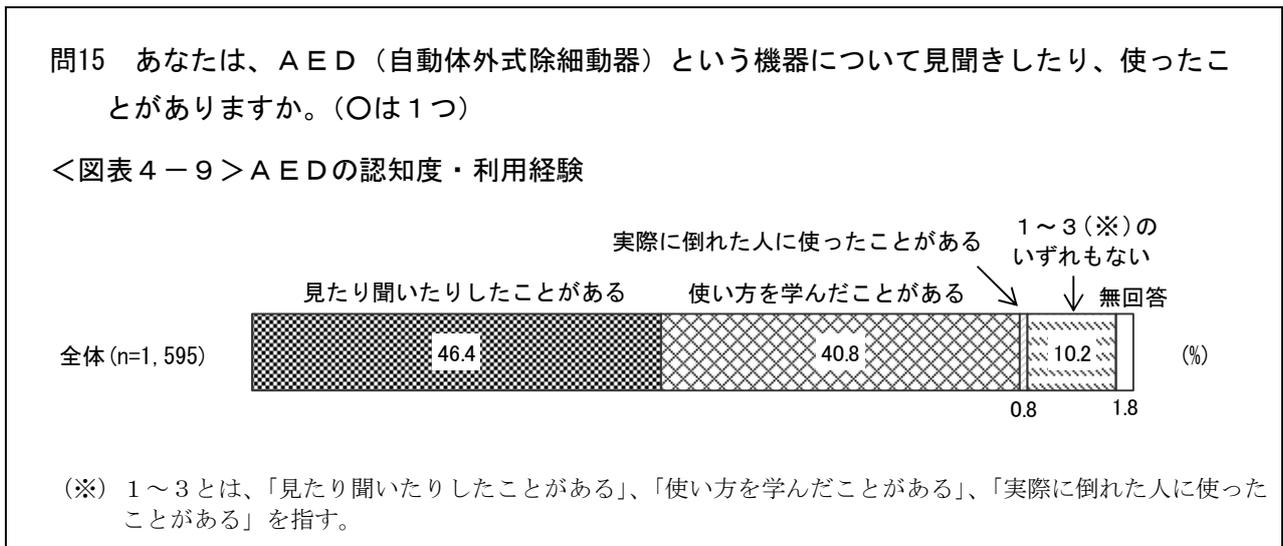


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（2）AEDの認知度・利用経験

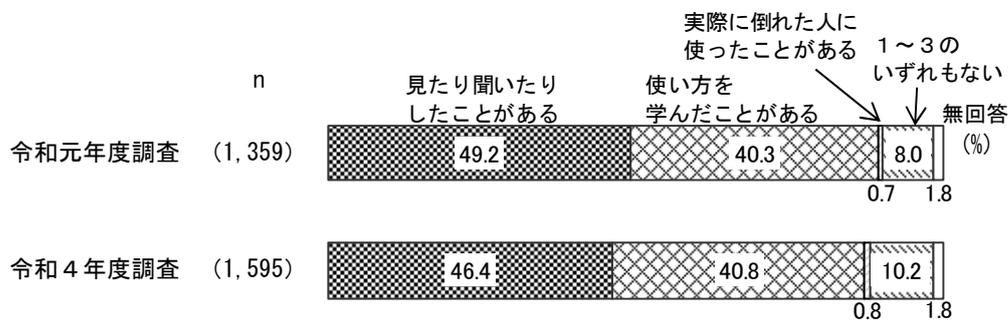
◇「見たり聞いたりしたことがある」が4割台半ば



AED（自動体外式除細動器）について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（46.4%）が4割台半ば、「使い方を学んだことがある」（40.8%）が4割となっている。

一方、「1~3のいずれもない」（10.2%）は1割となっている。（図表4-9）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「使い方を学んだことがある」は“印旛地域”（47.8%）が約5割で高くなっている。（図表4-10）

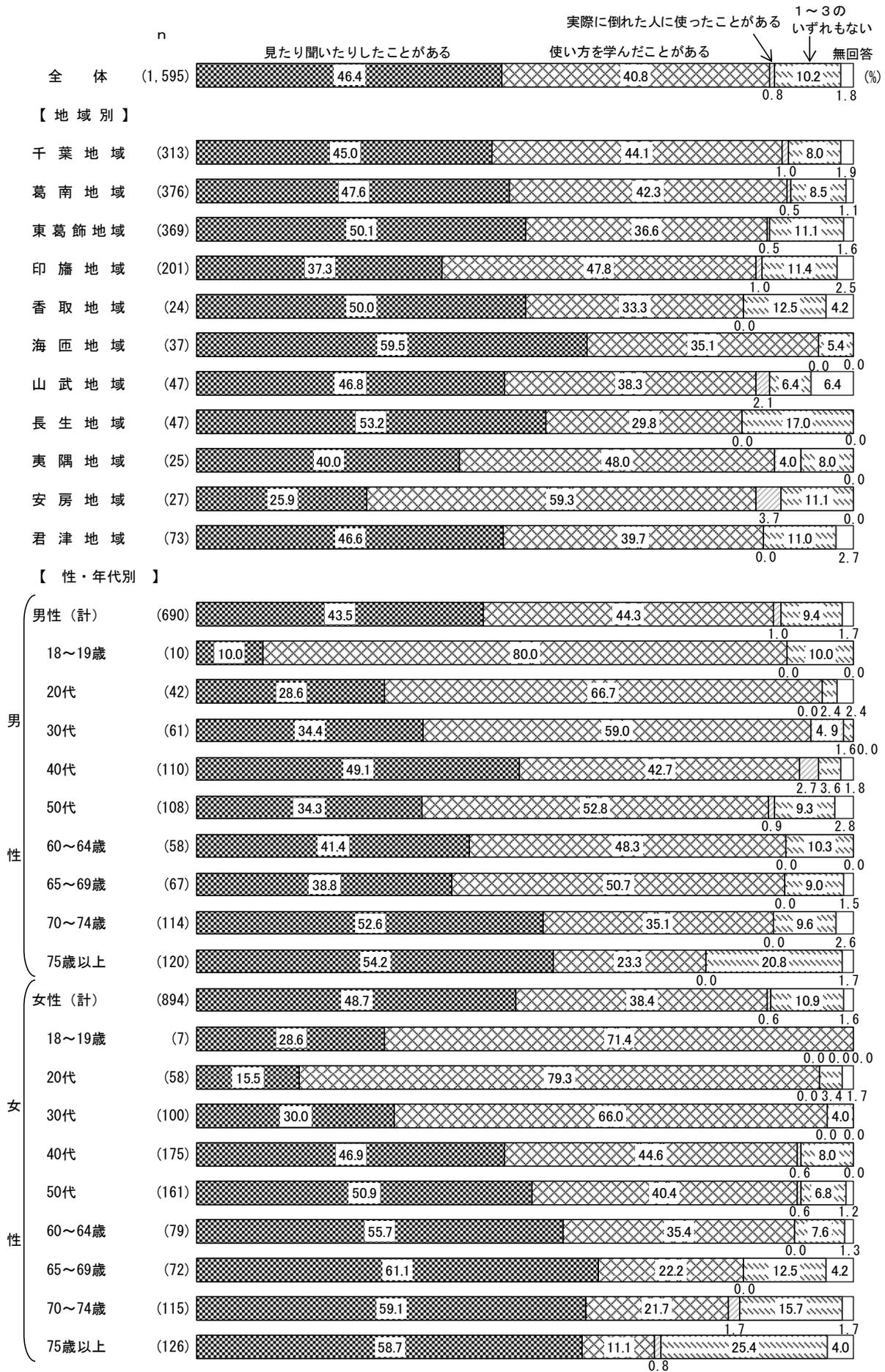
【性・年代別】

性・年代別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は女性の65~69歳（61.1%）が6割を超え、女性の70~74歳（59.1%）と女性の75歳以上（58.7%）が約6割で高くなっている。

「使い方を学んだことがある」は女性の20代（79.3%）が約8割、男性の20代（66.7%）と女性の30代（66.0%）が6割台半ば、男性の30代（59.0%）が約6割、男性の50代（52.8%）が5割を超えて高くなっている。

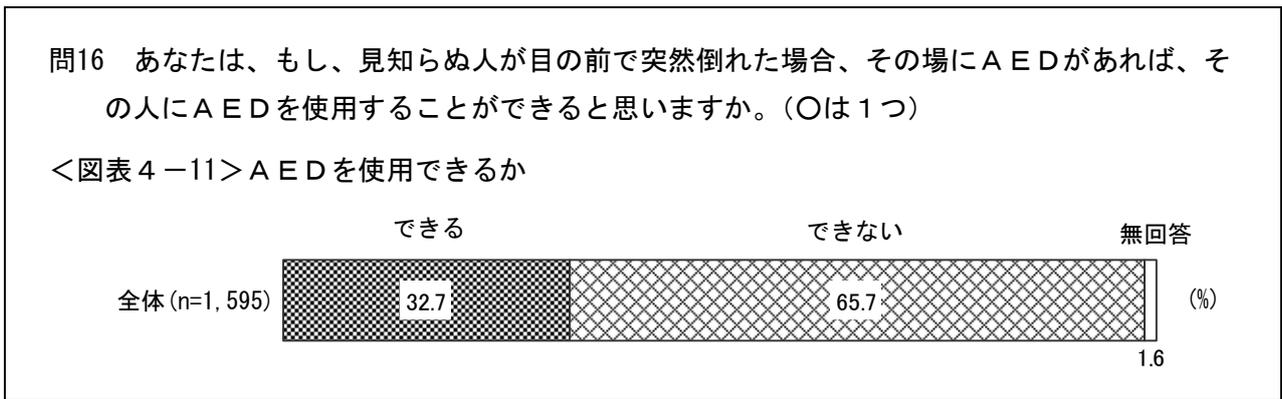
「1~3のいずれもない」は女性の75歳以上（25.4%）が2割台半ば、男性の75歳以上（20.8%）が2割、女性の70~74歳（15.7%）が1割台半ばと高くなっている。（図表4-10）

<図表4-10> AEDの認知度・利用経験／地域別、性・年代別



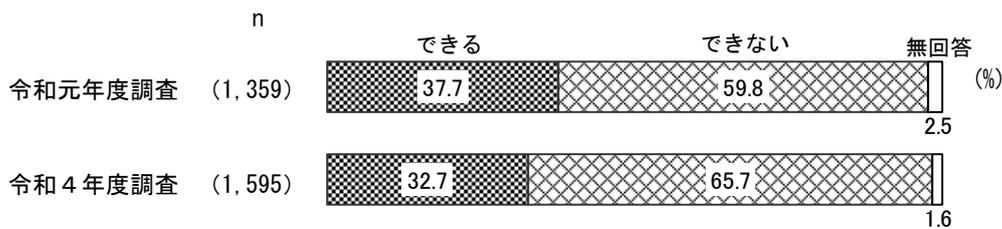
（3）AEDを使用できるか

◇「できる」が3割を超える



AEDを使用できるか聞いたところ、「できる」(32.7%)が3割を超えている。一方、「できない」(65.7%)は6割台半ばとなっている。(図表4-11)

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「できない」は“東葛飾地域”(72.1%)が7割を超えて高くなっている。

(図表4-12)

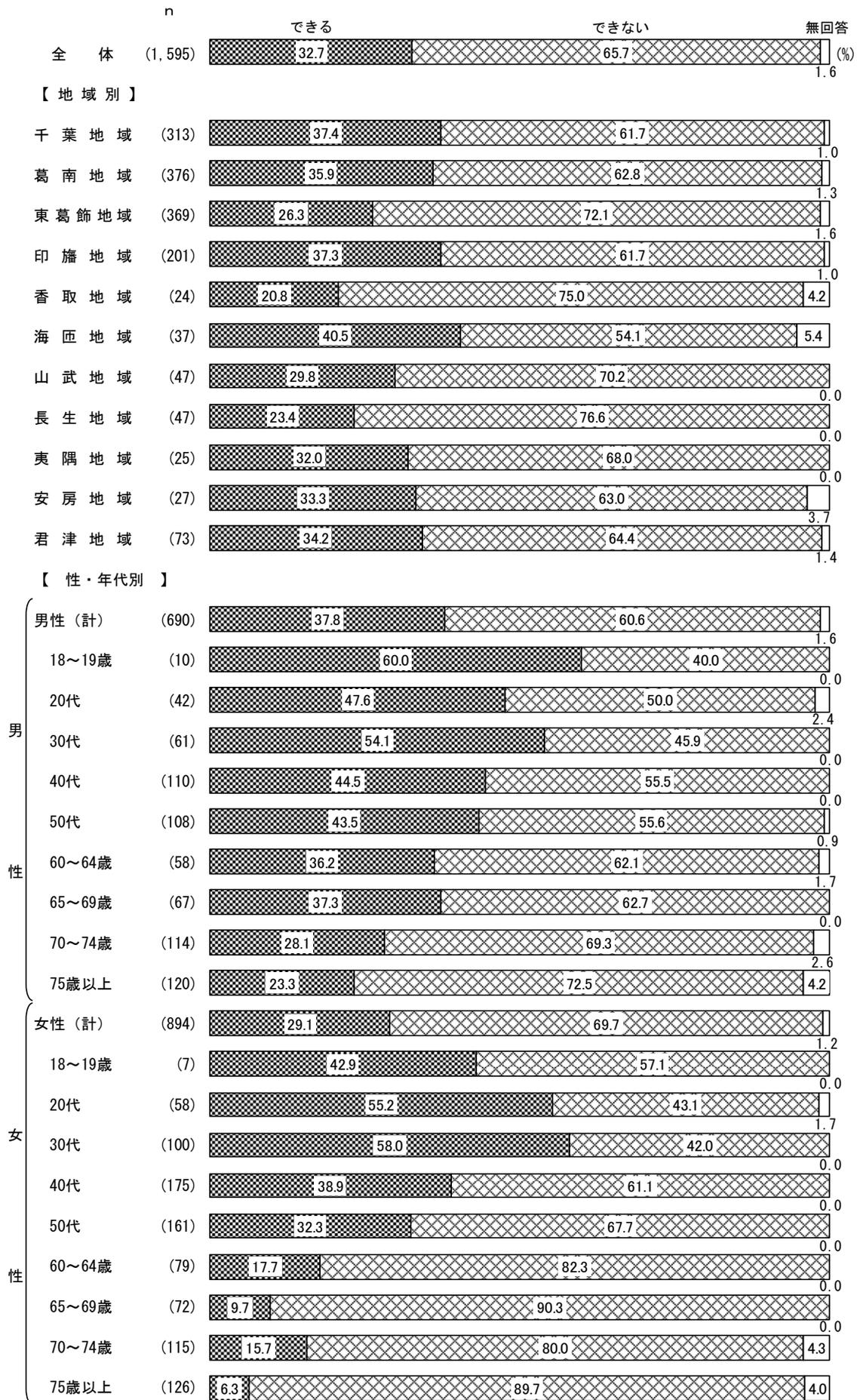
【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の30代(58.0%)が約6割、女性の20代(55.2%)と男性の30代(54.1%)が5割台半ば、男性の20代(47.6%)が約5割、男性の40代(44.5%)と男性の50代(43.5%)が4割台半ばと高くなっている。

一方、「できない」は女性の65～69歳(90.3%)が9割、女性の75歳以上(89.7%)が約9割、女性の60～64歳(82.3%)が8割を超え、女性の70～74歳(80.0%)が8割で高くなっている。

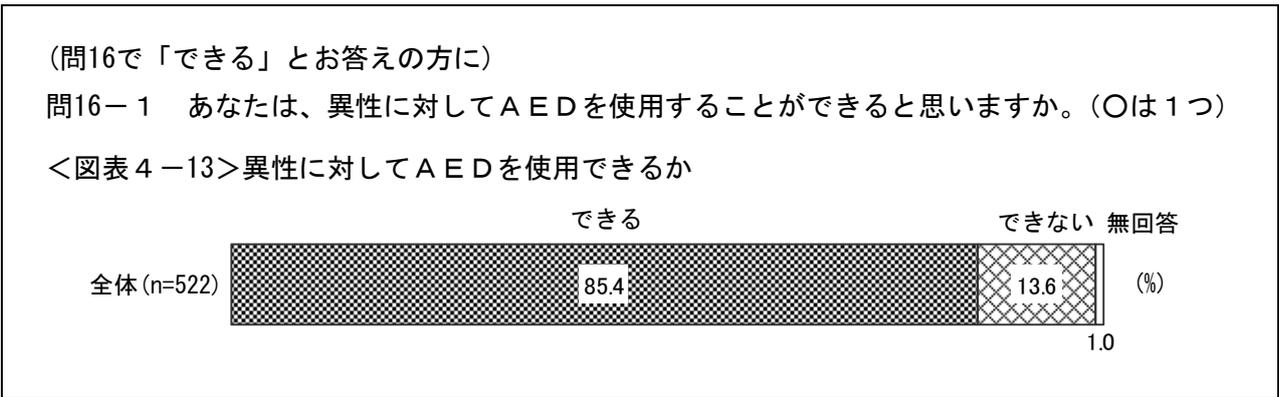
(図表4-12)

<図表4-12> AEDを使用できるか／地域別、性・年代別



（3-1）異性に対してAEDを使用できるか

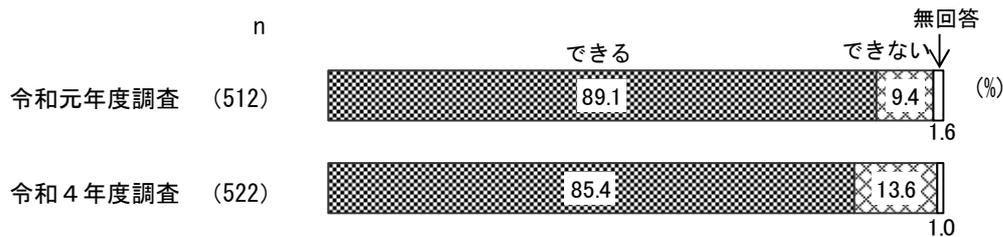
◇「できる」が8割台半ば



「AEDを使用できる」と回答した522人に、異性に対しAEDを使用できるか聞いたところ、「できる」（85.4%）が8割台半ばとなっている。

一方、「できない」（13.6%）は1割台半ばとなっている。（図表4-13）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

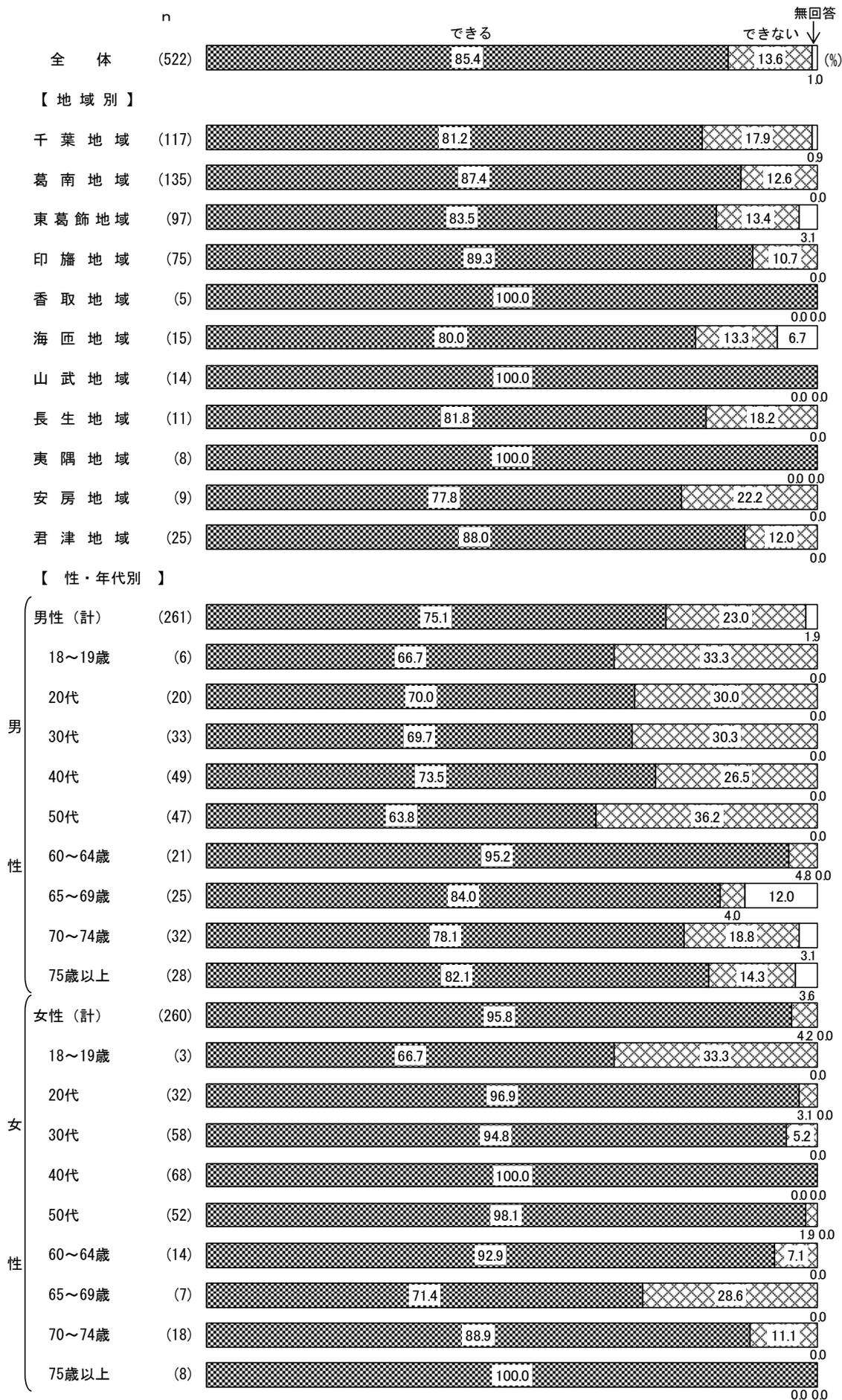
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表4-14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の40代（100.0%）が10割、女性の50代（98.1%）が約10割、女性の30代（94.8%）が9割台半ばと高くなっている。

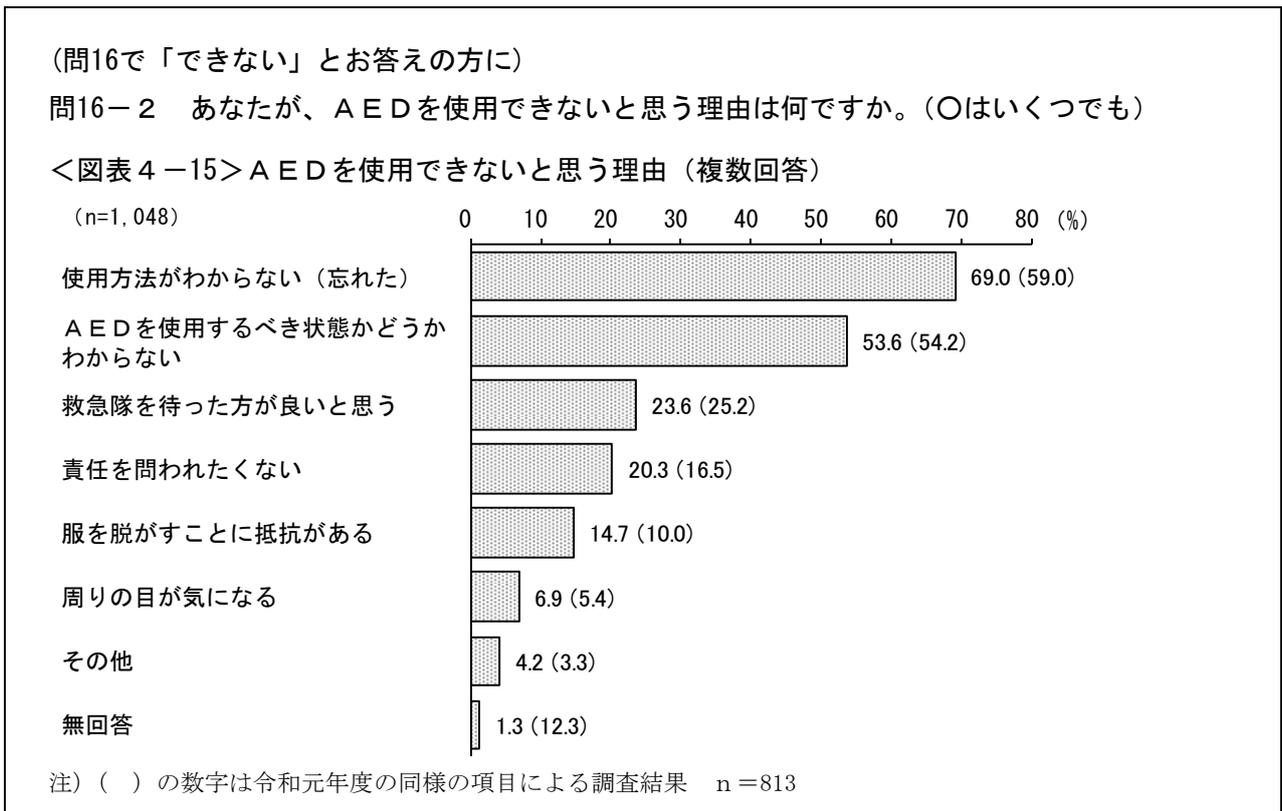
一方、「できない」は男性の50代（36.2%）が3割台半ば、男性の30代（30.3%）と男性の20代（30.0%）が3割、男性の40代（26.5%）が2割台半ばと高くなっている。（図表4-14）

<図表4-14>異性に対してAEDを使用できるか／地域別、性・年代別



（3-2）AEDを使用できないと思う理由

◇「使用方法がわからない（忘れた）」が約7割



「AEDを使用できない」と回答した1,048人に、その理由を聞いたところ、「使用方法がわからない（忘れた）」（69.0%）が約7割で最も高く、以下、「AEDを使用すべき状態かどうかわからない」（53.6%）、「救急隊を待った方が良いと思う」（23.6%）、「責任を問われたくない」（20.3%）と続く。（図表4-15）

【地域別】

地域別にみると、「使用方法がわからない（忘れた）」は“葛南地域”（75.4%）が7割台半ばと高くなっている。（図表4-16）

【性・年代別】

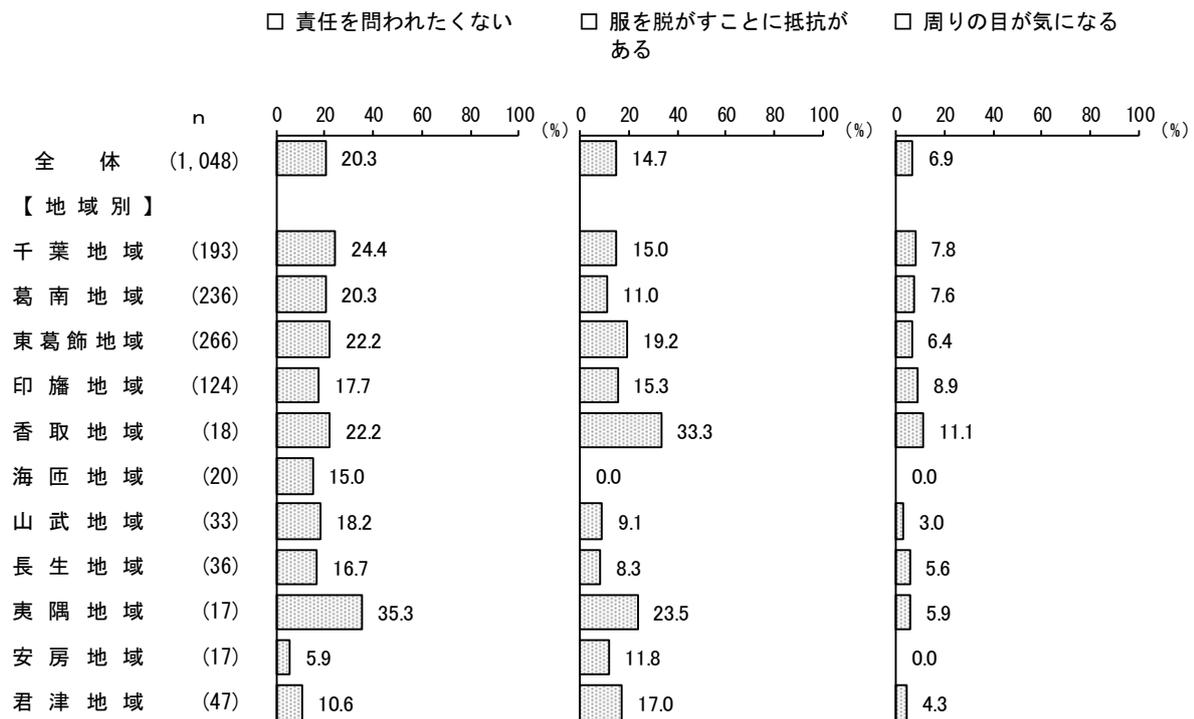
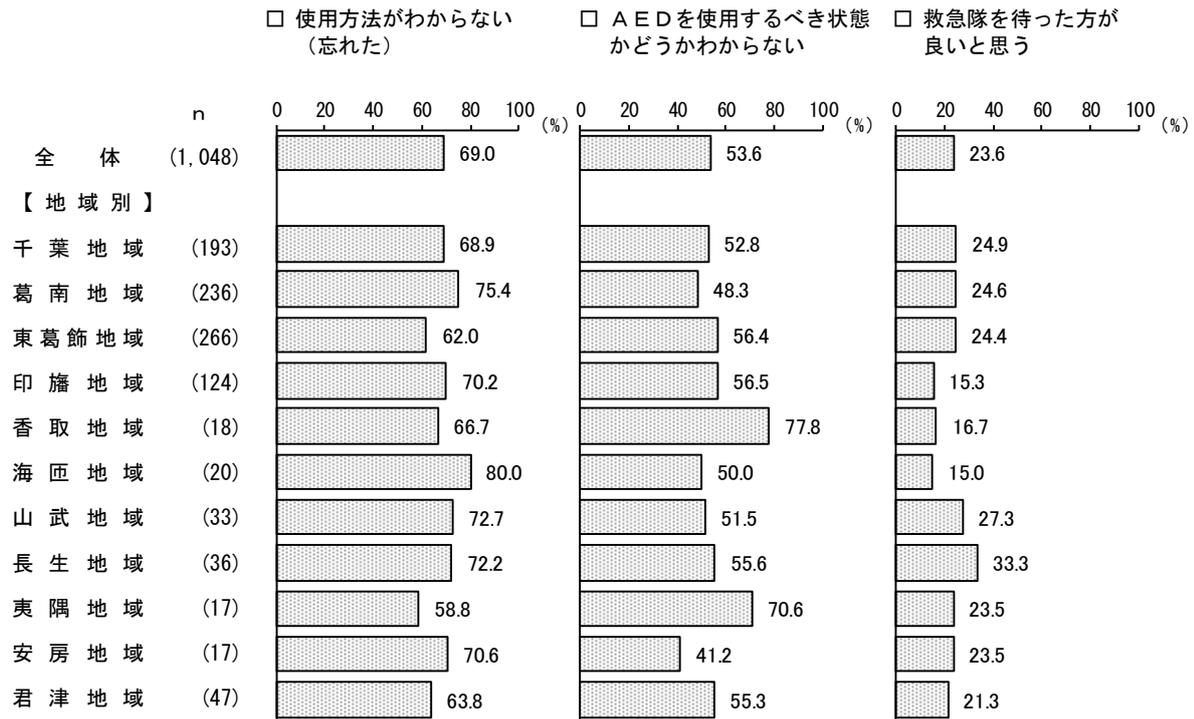
性・年代別にみると、「使用方法がわからない（忘れた）」は女性の70～74歳（78.3%）が約8割で高くなっている。

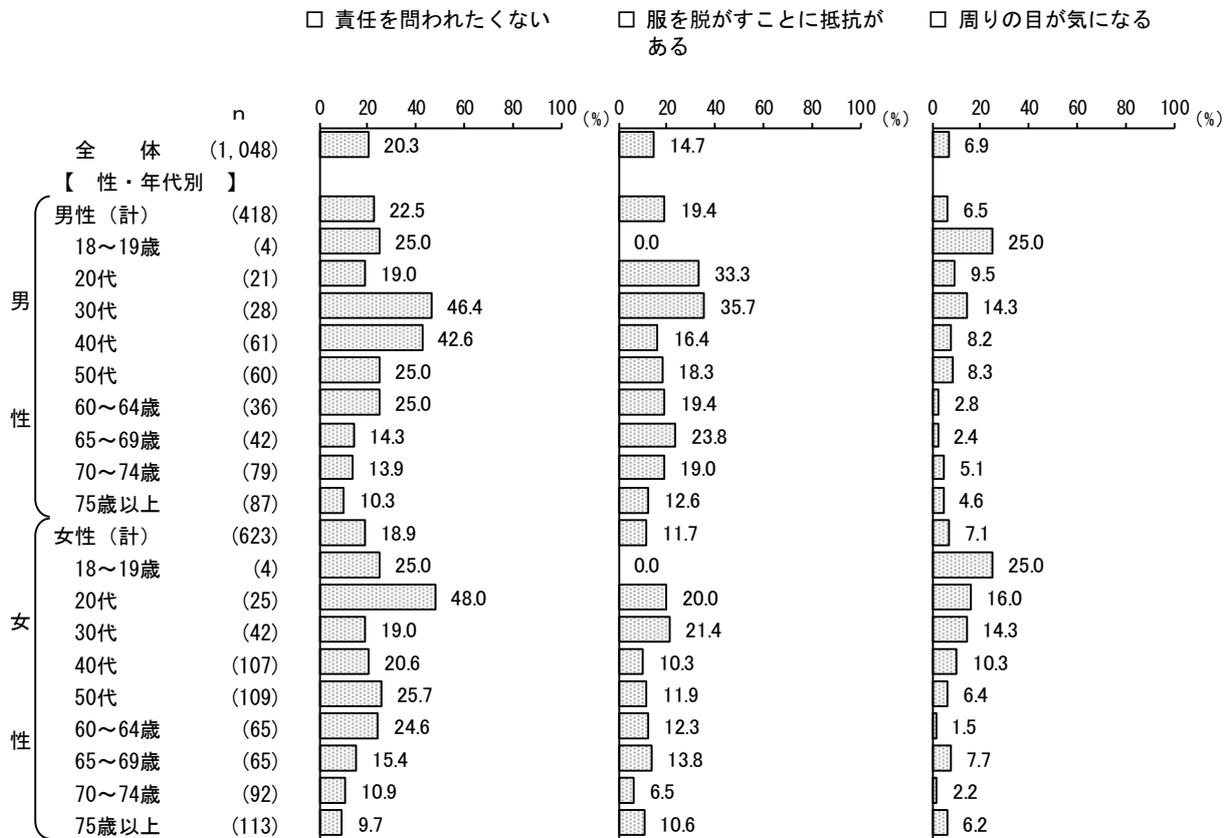
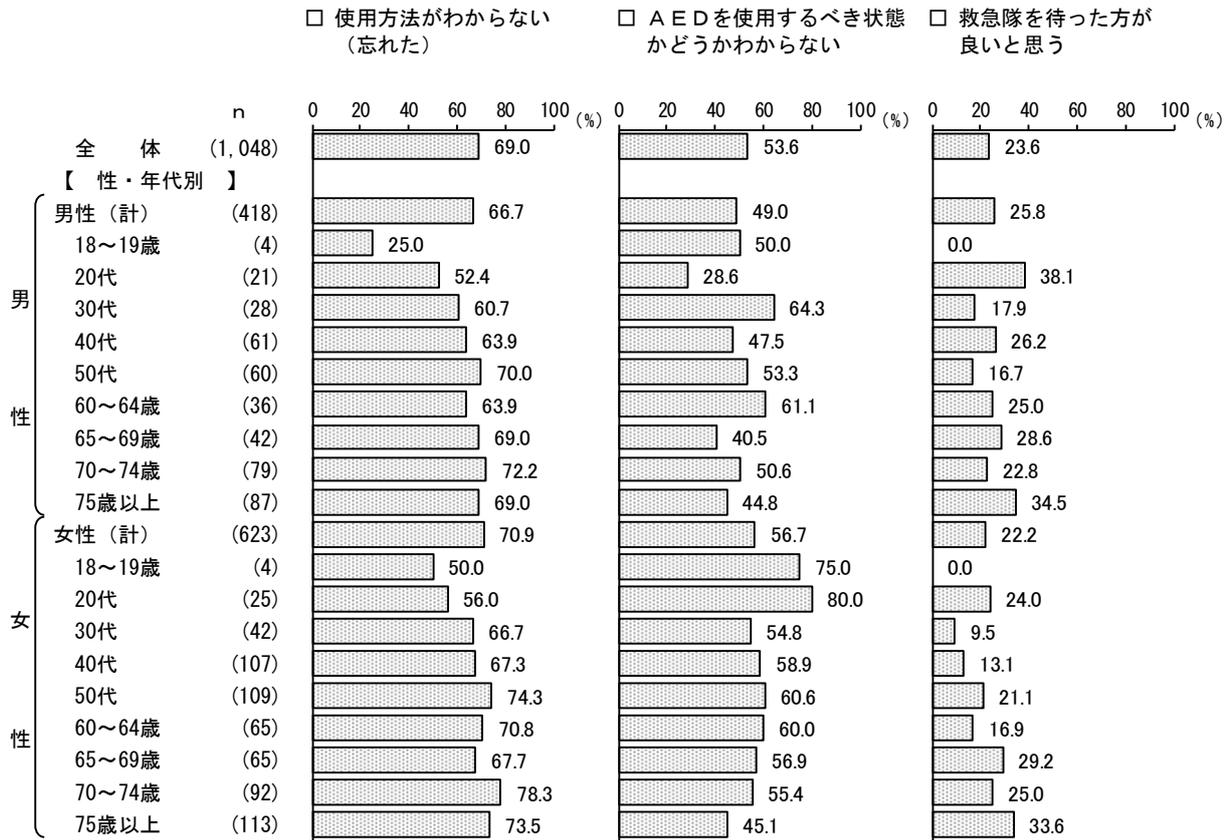
「救急隊を待った方が良いと思う」は男性の75歳以上（34.5%）と女性の75歳以上（33.6%）が3割台半ばと高くなっている。

「責任を問われたくない」は男性の40代（42.6%）が4割を超えて高くなっている。

（図表4-16）

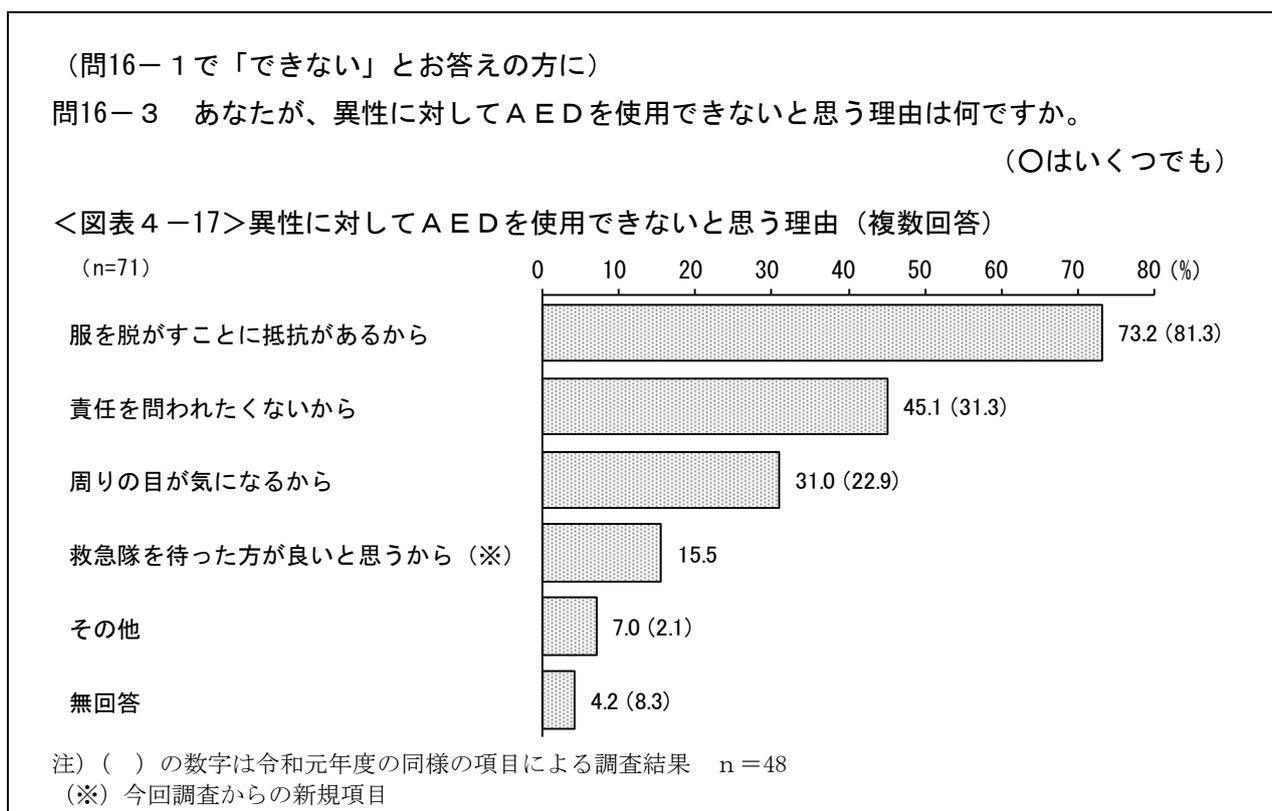
<図表4-16> AEDを使用できないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（3-3）異性に対してAEDを使用できないと思う理由

◇「服を脱がすことに抵抗があるから」が7割を超える



「異性に対してAEDを使用できない」と回答した71人に、その理由を聞いたところ、「服を脱がすことに抵抗があるから」（73.2%）が7割を超えて最も高く、以下、「責任を問われたくないから」（45.1%）、「周りの目が気になるから」（31.0%）と続く。（図表4-17）

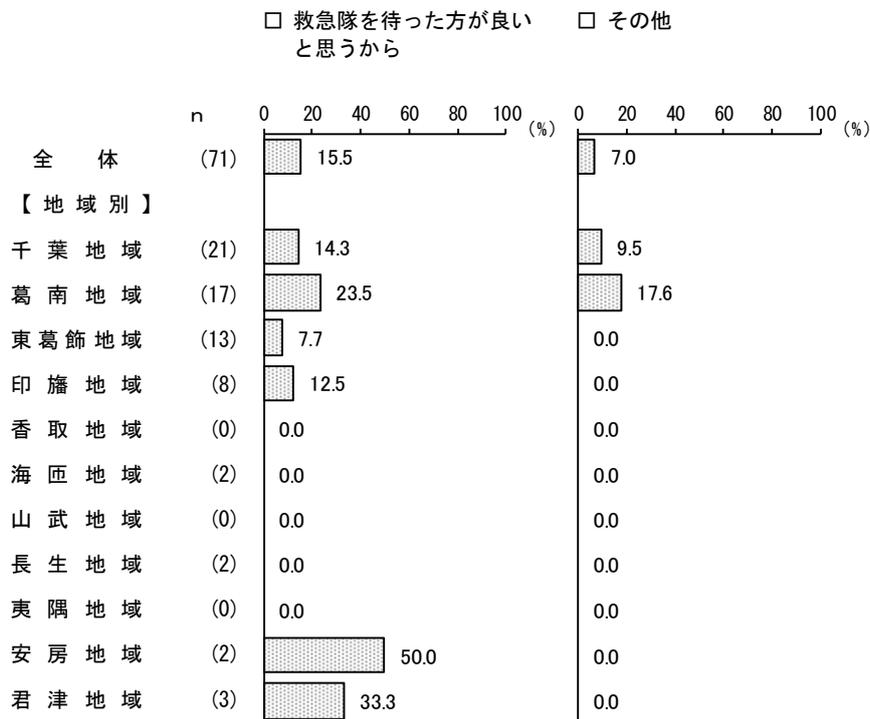
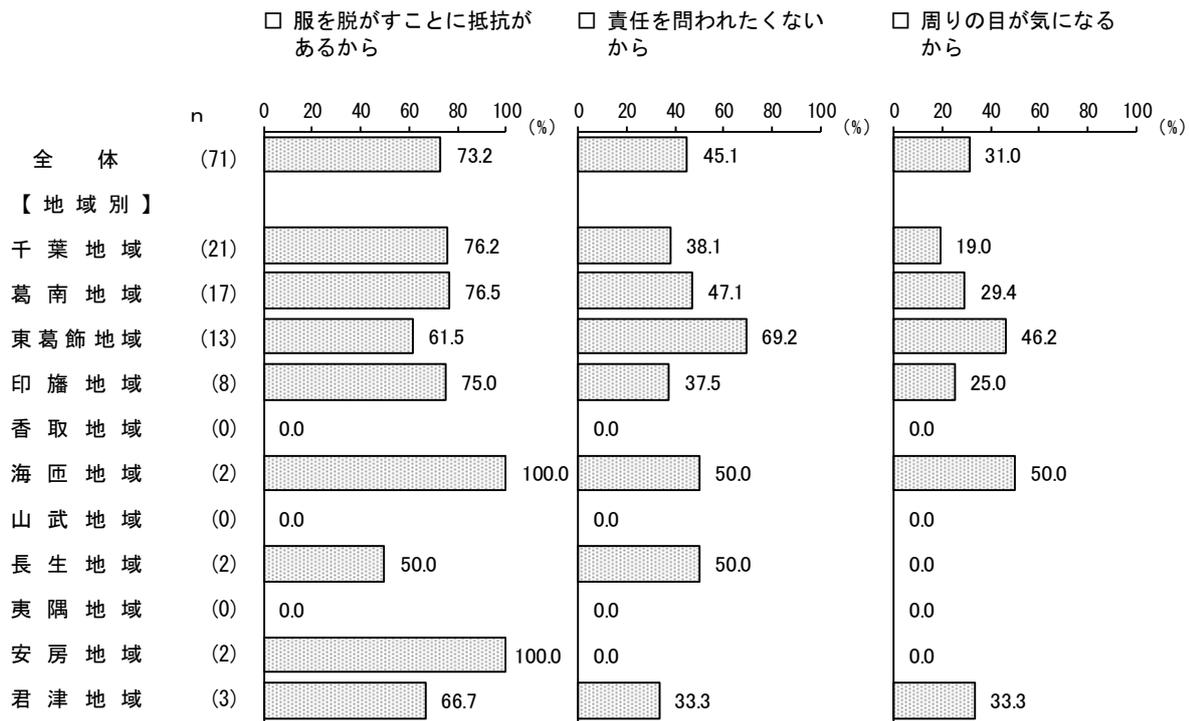
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）

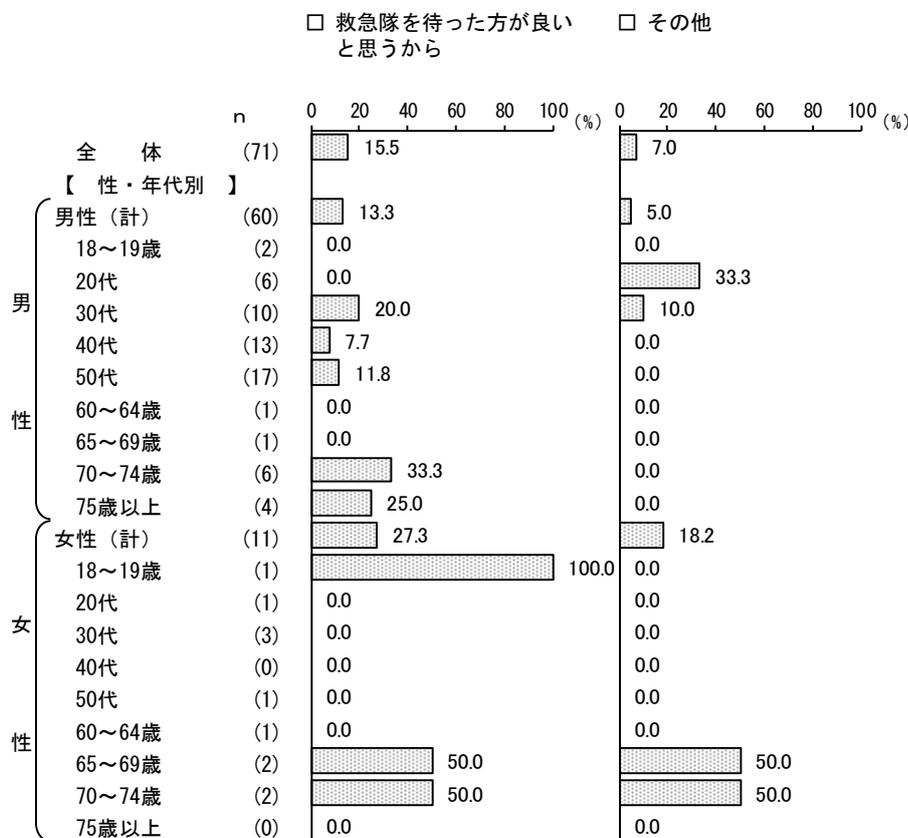
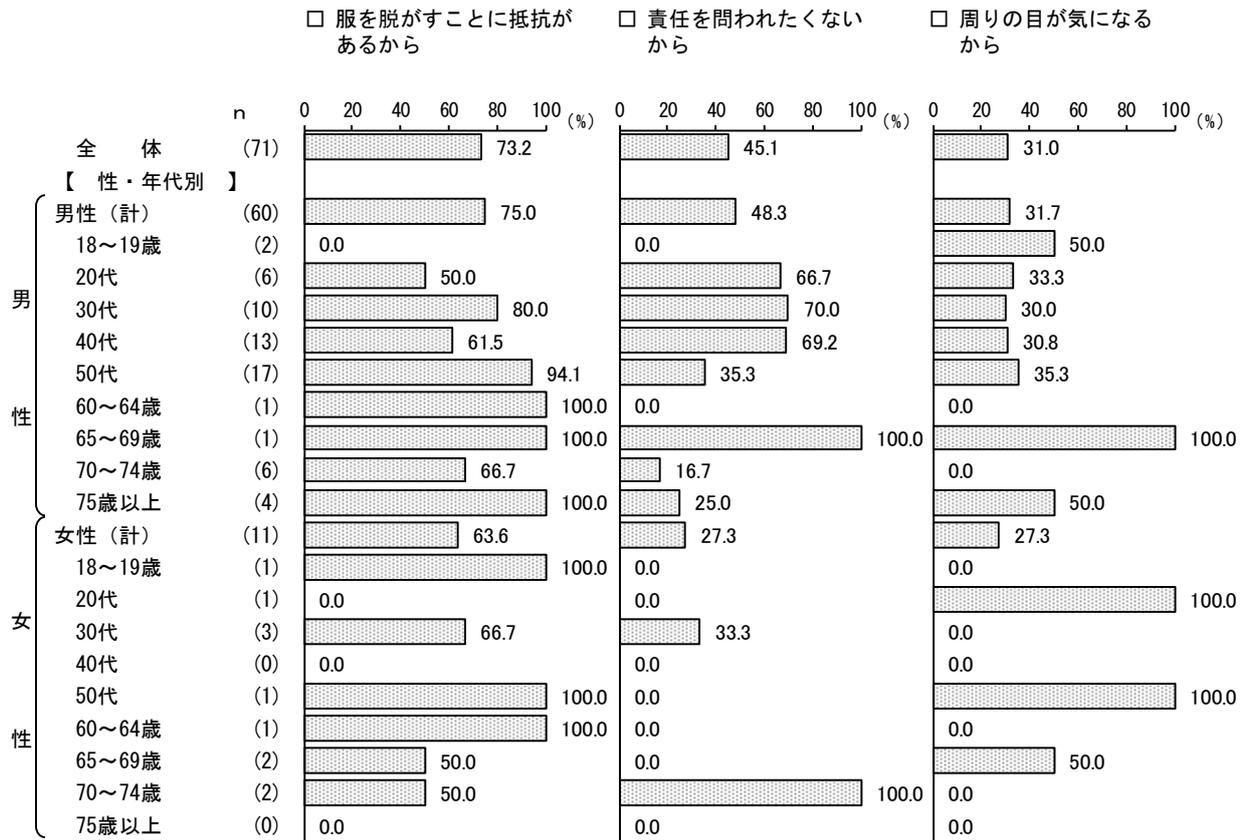
（図表4-18）

[参考] <図表4-18> 異性に対してAEDを使用できないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位5項目）

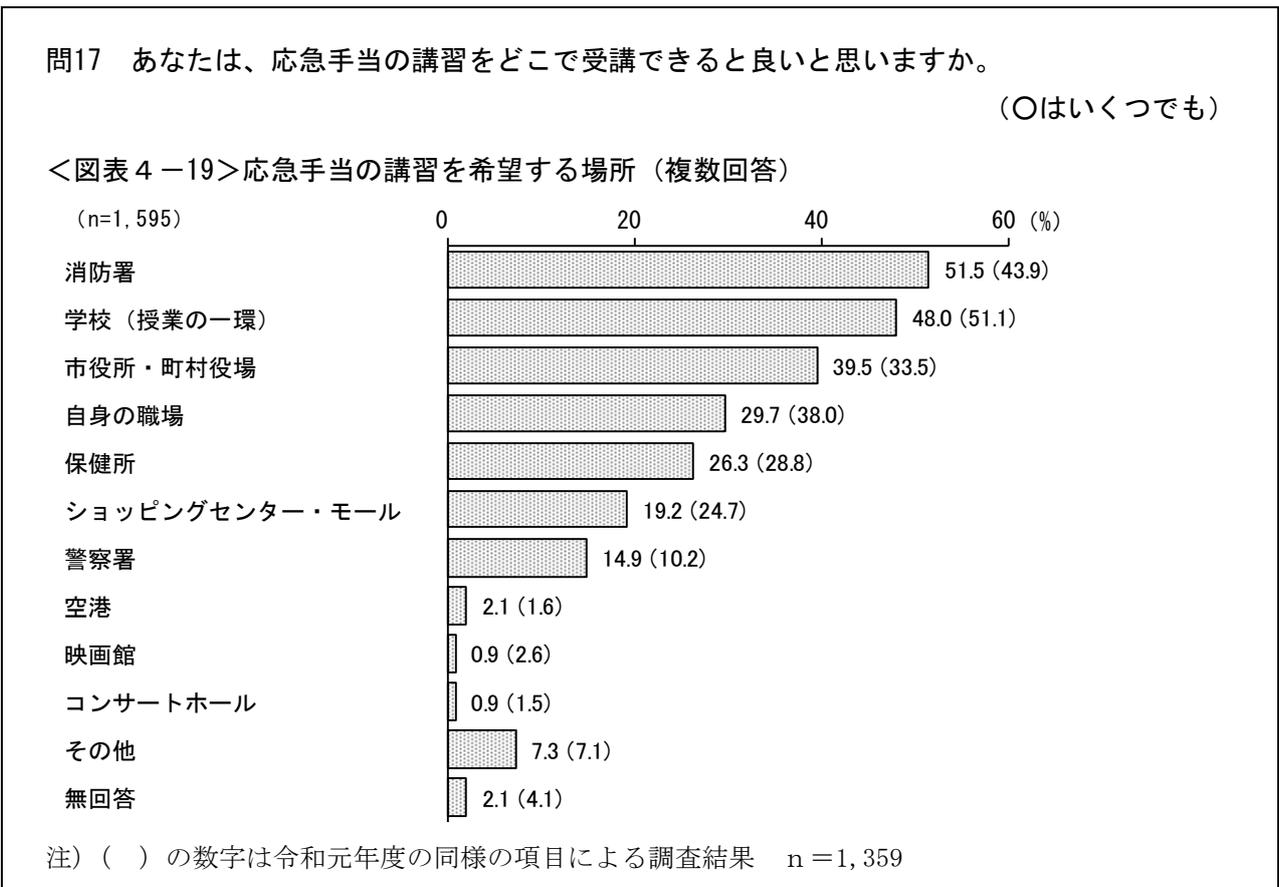


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（４）応急手当の講習を希望する場所

◇「消防署」が5割を超える



応急手当の講習を希望する場所を聞いたところ、「消防署」（51.5%）が5割を超えて最も高く、以下、「学校（授業の一環）」（48.0%）、「市役所・町村役場」（39.5%）、「自身の職場」（29.7%）と続く。（図表4-19）

【地域別】

地域別にみると、「学校（授業の一環）」は“千葉地域”（53.7%）が5割台半ばと高くなっている。
（図表4-20）

【性・年代別】

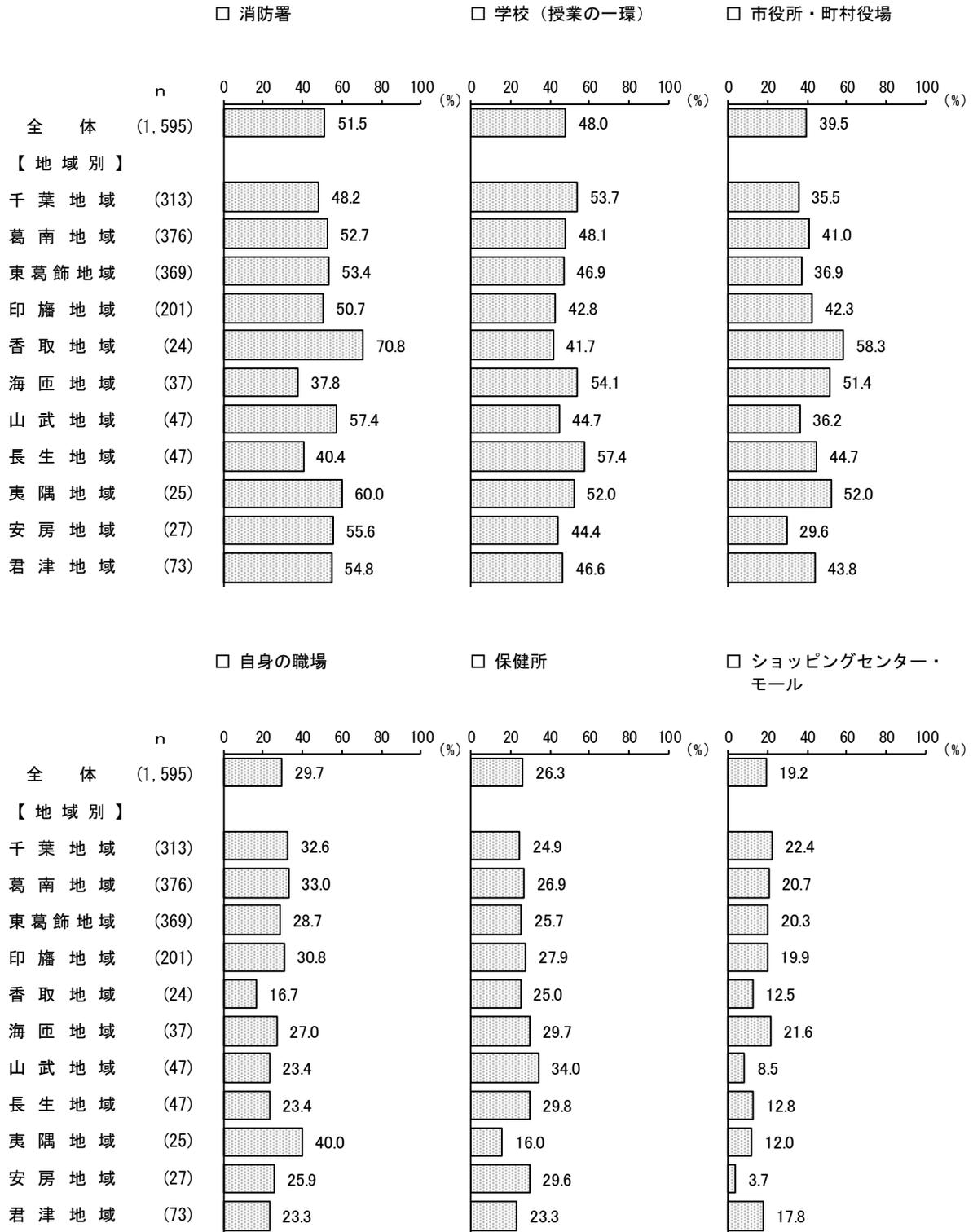
性・年代別にみると、「学校（授業の一環）」は女性の20代（84.5%）が8割台半ば、女性の30代（67.0%）が約7割、男性の20代（64.3%）が6割台半ば、女性の40代（58.3%）が約6割、女性の50代（55.3%）が5割台半ばと高くなっている。

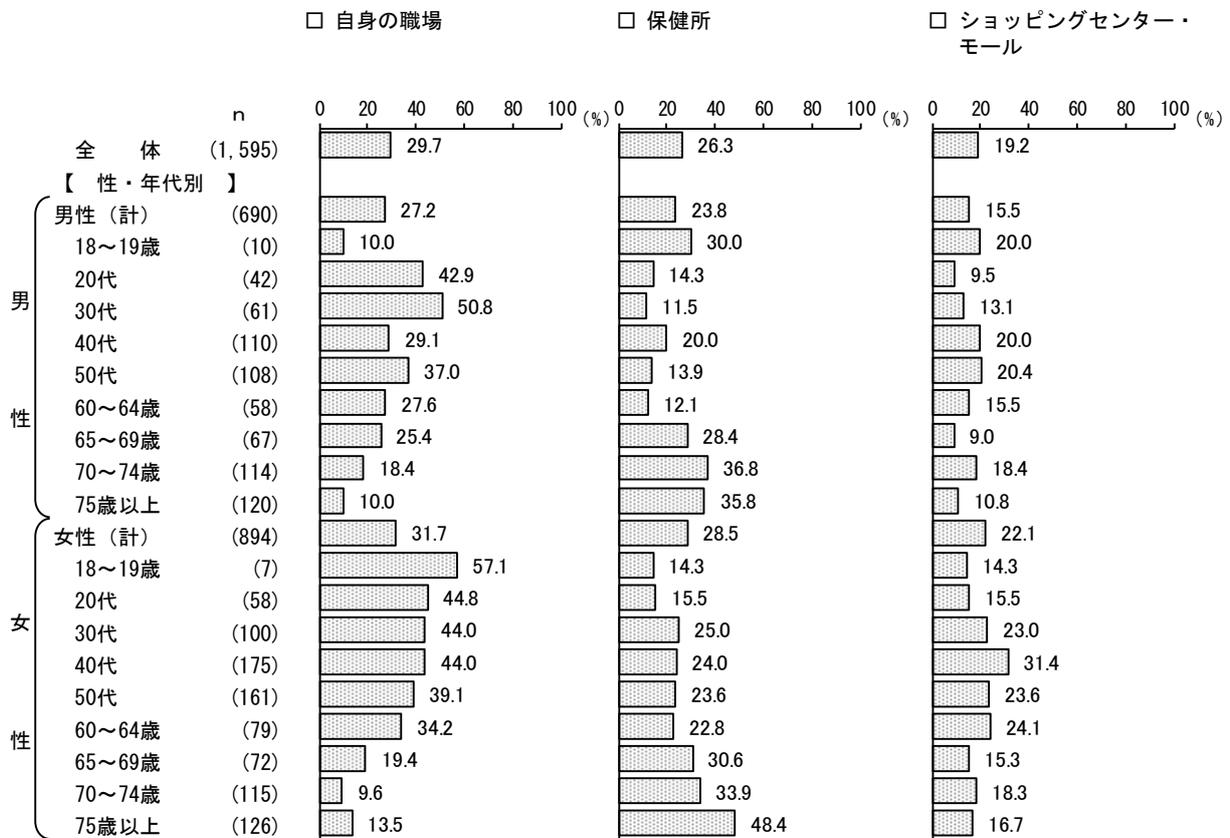
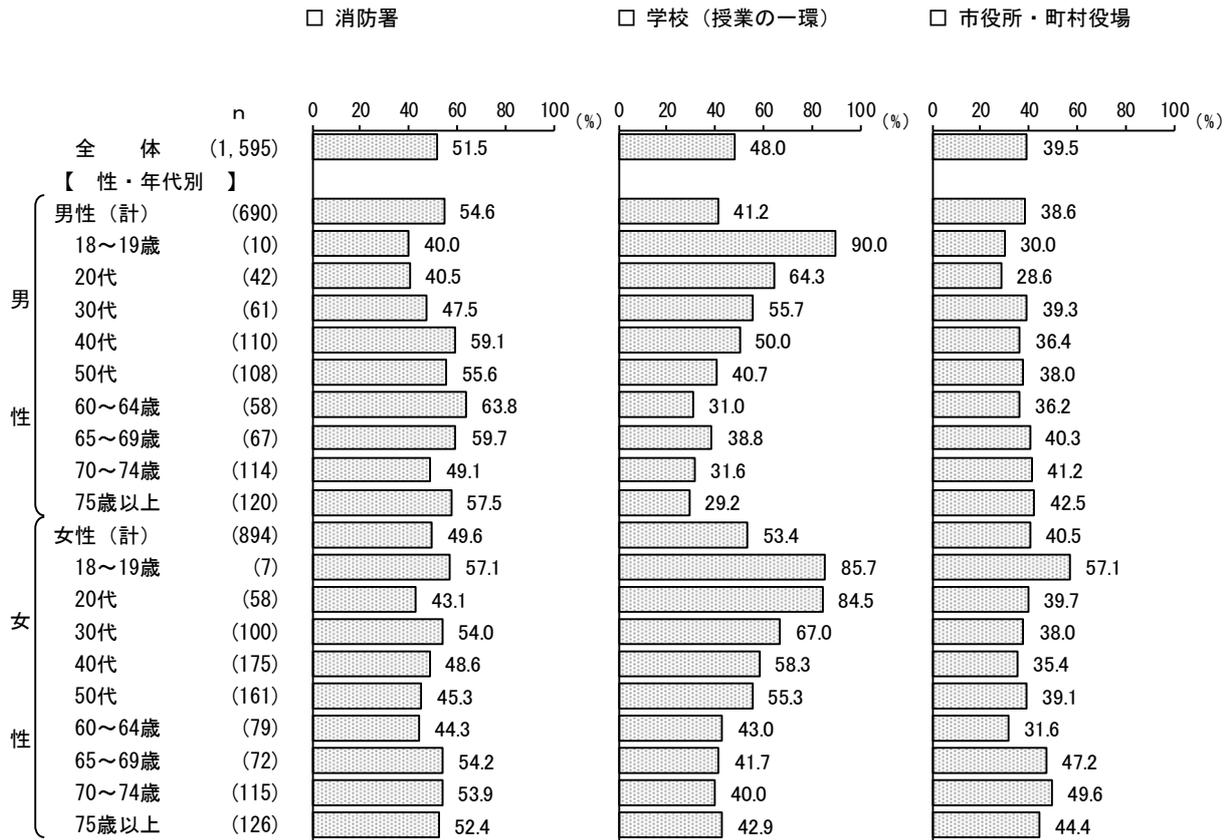
「市役所・町村役場」は女性の70～74歳（49.6%）が約5割で高くなっている。

「自身の職場」は男性の30代（50.8%）が5割、女性の20代（44.8%）、女性の30代（44.0%）、女性の40代（44.0%）が4割台半ば、女性の50代（39.1%）が約4割で高くなっている。

（図表4-20）

<図表4-20> 応急手当の講習を希望する場所（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、「心肺蘇生法等について」や問14～問17について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、168人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「心肺蘇生法等について」の自由回答（抜粋）

○防災訓練で胸骨圧迫やAEDの使用方法について講習を受けたが、実施できるかとなると自信がない。繰り返し講習を受けて馴染むしかないのではないかと思う。

（男性、70～74歳、印旛地域）

○数年前に講習を受講しましたが、いざその機会が来た時に周りの方々が親身にサポートしてくれるかが気になります。一人では、対応できない可能性が高いと感じています。あと、近くにAEDがあるかわからない場合が多いので、無い場合の対処に不安に感じます。

（男性、50代、印旛地域）

○中・高生レベルでの使用対応は可能であると思うので、学校教育の一環として取り込み、地道に手堅く、着実に指導する事が必要。長い目で見れば、最終的には全員が応急処置ができるようになる。

（男性、70～74歳、印旛地域）

○正直、他人の体に触れるだけでも抵抗があり、ましてやAED等を使うなどなおさらである。昨今何かと責任問題が発生しやすい状況の中で蘇生ができるか不安である。

（男性、50代、葛南地域）

○特に女性に対してAED使用時に服を脱がせる事で訴えられないか心配で手が出せません。AED、心肺蘇生法のやり方講習を受けたことはありますが、遠い記憶なのでいざ目の前に倒れている人がいると緊張してできないと思います。一年くらいのスパンで定期的に体験できる機会があると良いのかなと思います。

（男性、30代、東葛飾地域）

○AEDや心肺蘇生法については職場で講習を受けていますが、正直女性に対してはやりたくないです。実際にその場に出くわせばやるしか無いと思いますが、現場に女性がいれば女性が積極的にやって欲しいです。

（男性、50代、千葉地域）

○AEDの使い方を学ぶ手段がもう少しほしい。たまに使い方のイベント等があるがスケジュールが合わなかったりして参加することができていない。個人的に知る手段があれば良いと思う。

（女性、30代、葛南地域）

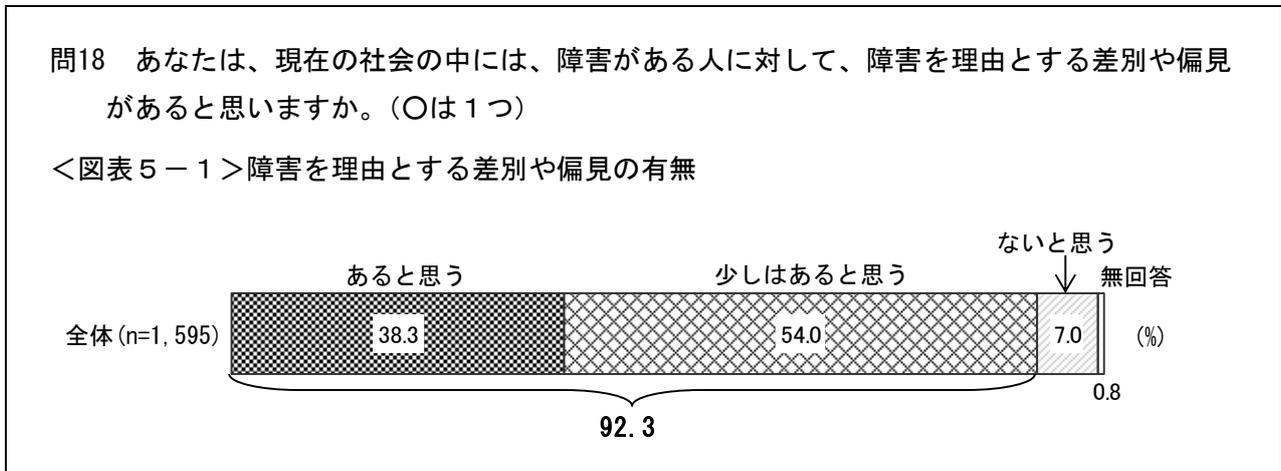
○応急手定の講習は実際に体験できるように年1回程度学校や職場等で義務にするといいのではないかと思う。

（女性、50代、千葉地域）

5 障害者施策について

（1）障害を理由とする差別や偏見の有無

◇『あると思う（計）』が9割を超える



障害を理由とする差別や偏見の有無について聞いたところ、「あると思う」（38.3%）と「少しはあると思う」（54.0%）を合わせた『あると思う（計）』（92.3%）が9割を超えている。

一方、「ないと思う」（7.0%）は約1割となっている。（図表5-1）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-2）

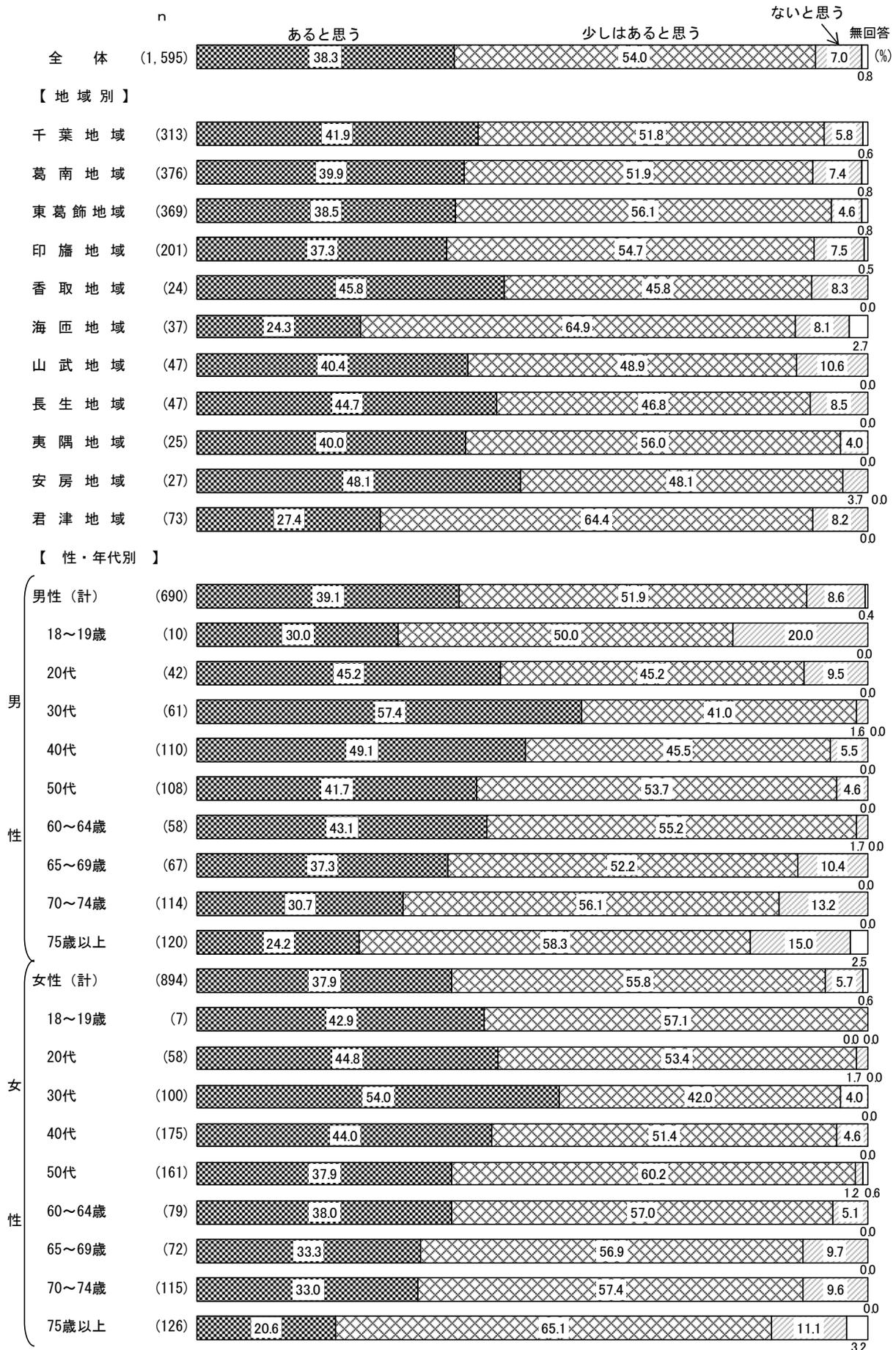
【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の50代（98.1%）が約10割で高くなっている。

「あると思う」は男性の30代（57.4%）が約6割、女性の30代（54.0%）が5割台半ば、男性の40代（49.1%）が約5割と高くなっている。

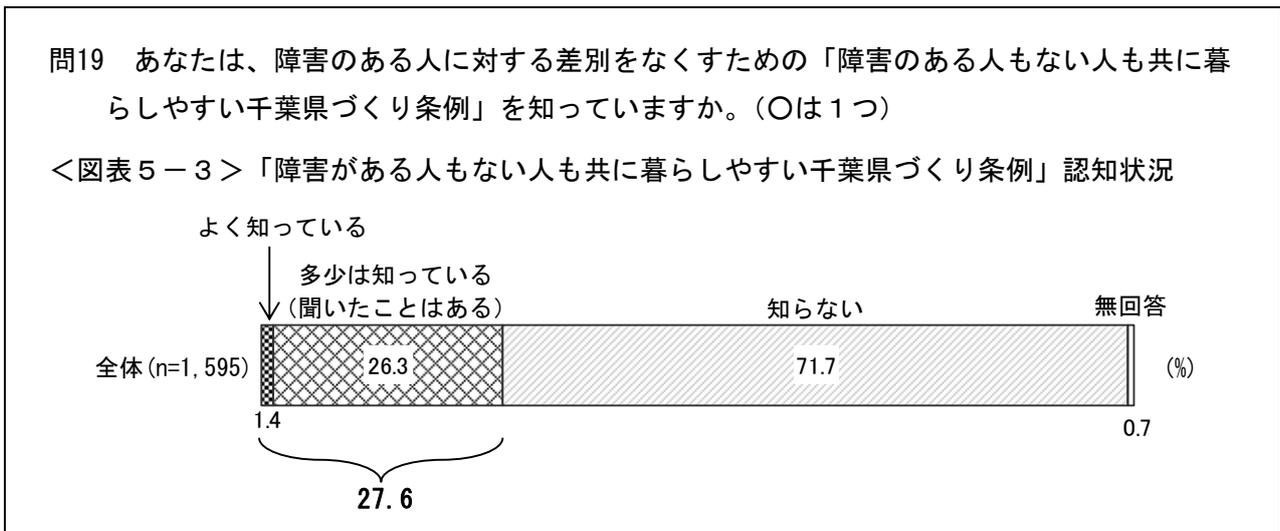
一方、「ないと思う」は男性の75歳以上（15.0%）が1割台半ば、男性の70～74歳（13.2%）が1割を超えて高くなっている。（図表5-2）

<図表5-2>障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別



(2) 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

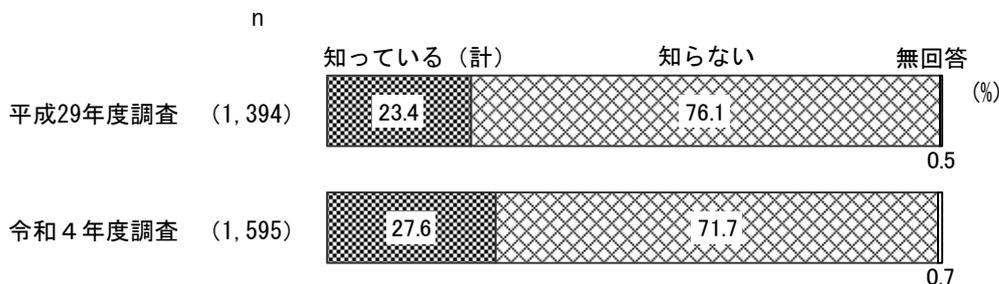
◇『知っている（計）』が約3割



「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.4%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(26.3%)を合わせた『知っている(計)』(27.6%)が約3割となっている。

一方、「知らない」(71.7%)は7割を超えている。(図表5-3)

【参考】平成29年度の同様項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表5-4)

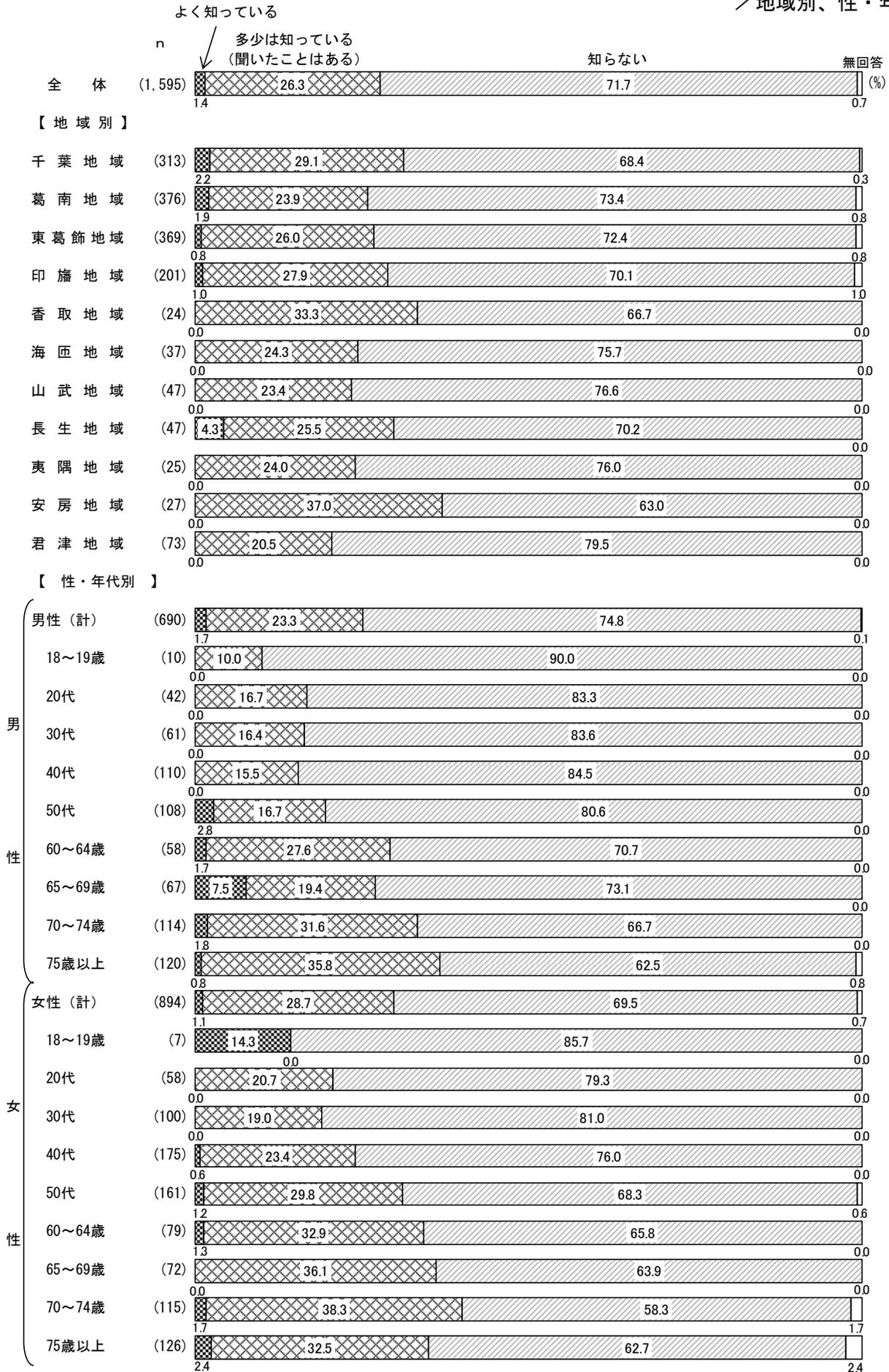
【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている(計)』は女性の70～74歳(40.0%)が4割、男性の75歳以上(36.7%)が3割台半ばと高くなっている。

一方、「知らない」は男性の40代(84.5%)と男性の30代(83.6%)が8割台半ば、女性の30代(81.0%)が8割を超え、男性の50代(80.6%)が8割で高くなっている。(図表5-4)

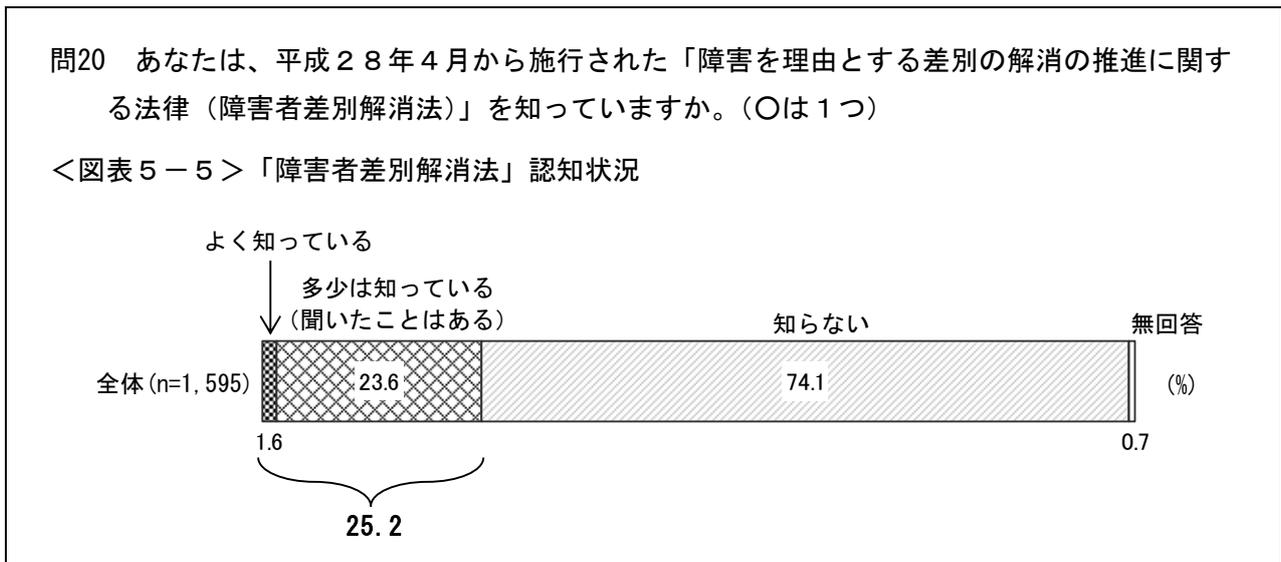
＜図表5－4＞「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

／地域別、性・年代別



（3）「障害者差別解消法」認知状況

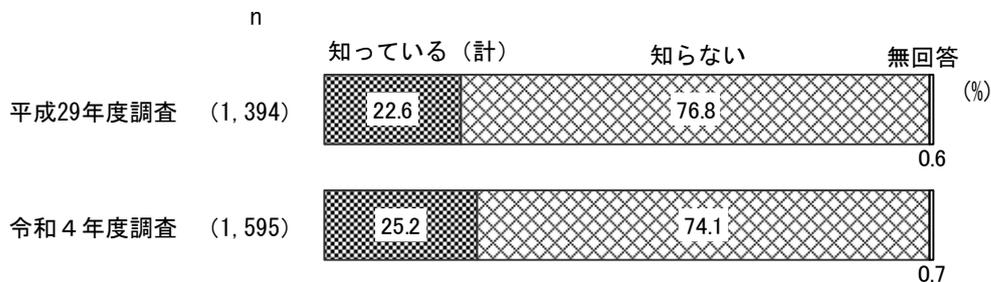
◇『知っている（計）』が2割台半ば



「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」（1.6%）と「多少は知っている（聞いたことはある）」（23.6%）を合わせた『知っている（計）』（25.2%）が2割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（74.1%）は7割台半ばとなっている。（図表5-5）

〔参考〕平成29年度の同様項目による調査結果との比較（単位：%）



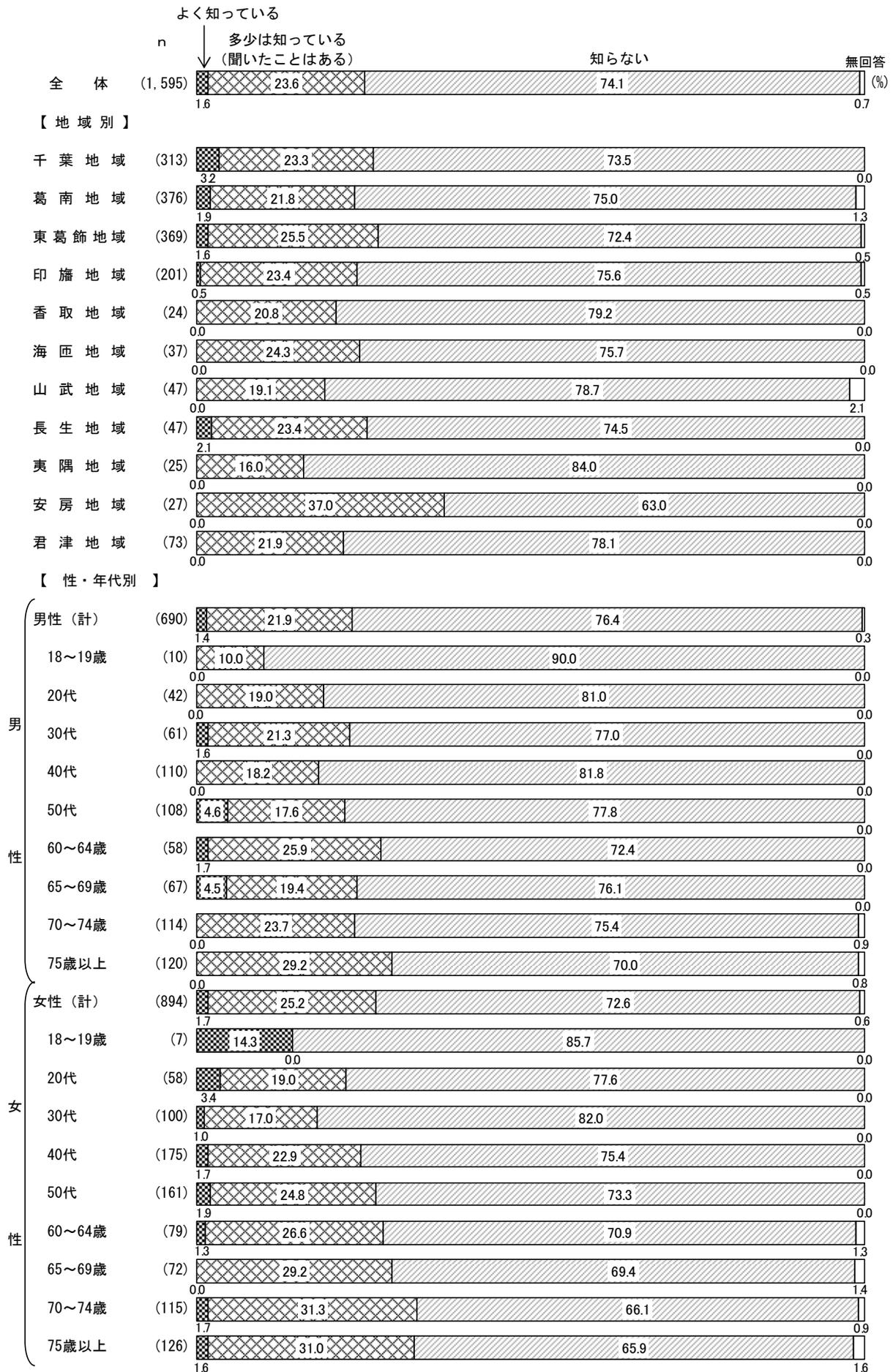
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-6）

【性・年代別】

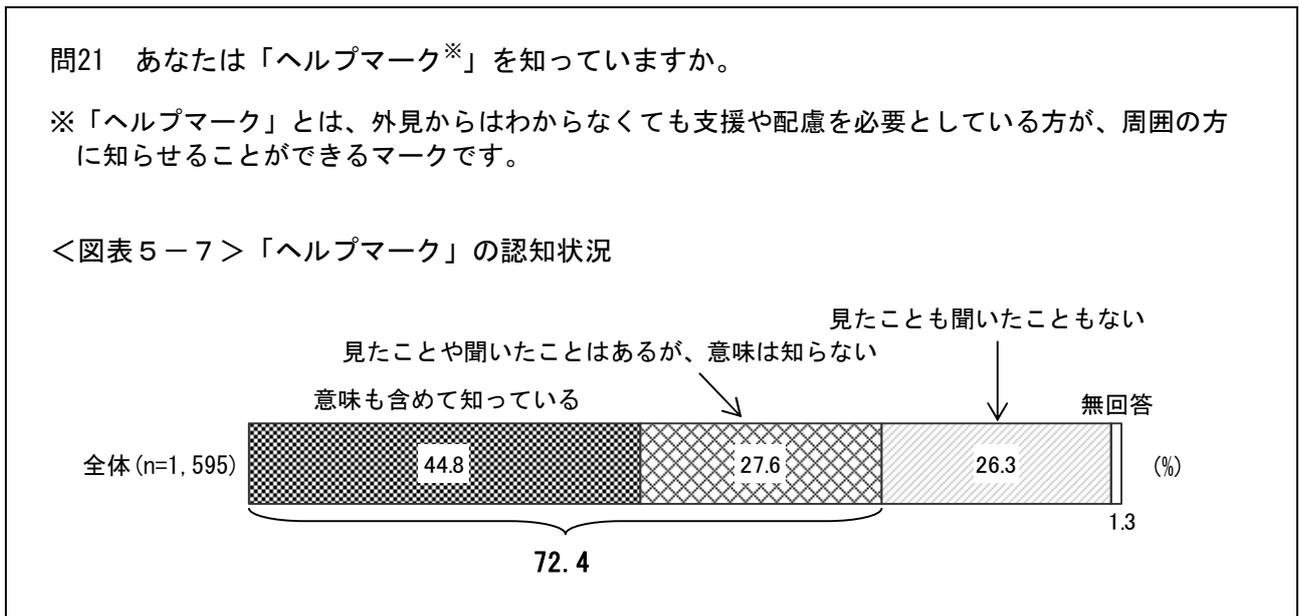
性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の70～74歳（33.0%）と女性の75歳以上（32.5%）が3割を超えて高くなっている。（図表5-6）

<図表5-6> 「障害者差別解消法」認知状況／地域別、性・年代別



（４）「ヘルプマーク」の認知状況

◇『見たことや聞いたことがある（計）』が7割を超える



「ヘルプマーク」を知っているか聞いたところ、「意味も含めて知っている」（44.8%）と「見たことや聞いたことはあるが、意味は知らない」（27.6%）と合わせた『見たことや聞いたことがある（計）』（72.4%）が7割を超えている。

一方、「見たことも聞いたこともない」（26.3%）が2割台半ばとなっている。（図表5-7）

【地域別】

地域別にみると、『見たことや聞いたことがある（計）』は“東葛飾地域”（77.8%）と“千葉地域”（77.0%）が約8割で高くなっている。

一方、「見たことも聞いたこともない」は“君津地域”（49.3%）が約5割で高くなっている。

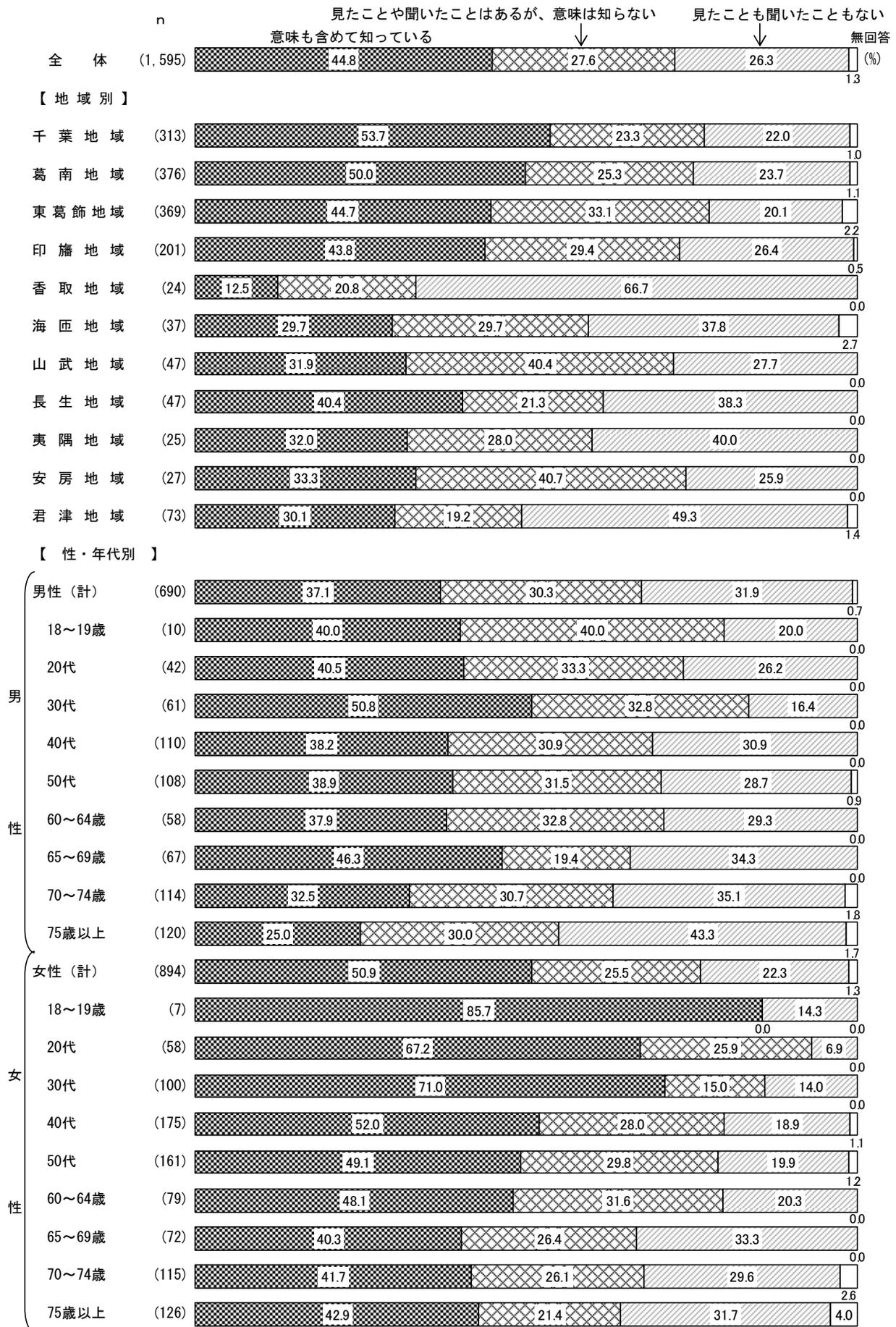
（図表5-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『見たことや聞いたことがある（計）』は女性の20代（93.1%）が9割を超え、女性の30代（86.0%）と男性の30代（83.6%）が8割台半ば、女性の40代（80.0%）が8割で高くなっている。

一方、「見たことも聞いたこともない」は男性の75歳以上（43.3%）が4割を超え、男性の70～74歳（35.1%）が3割台半ばで高くなっている。（図表5-8）

<図表5-8> 「ヘルプマーク」の認知状況／地域別、性・年代別



（４－１）「ヘルプマーク」の認知経路

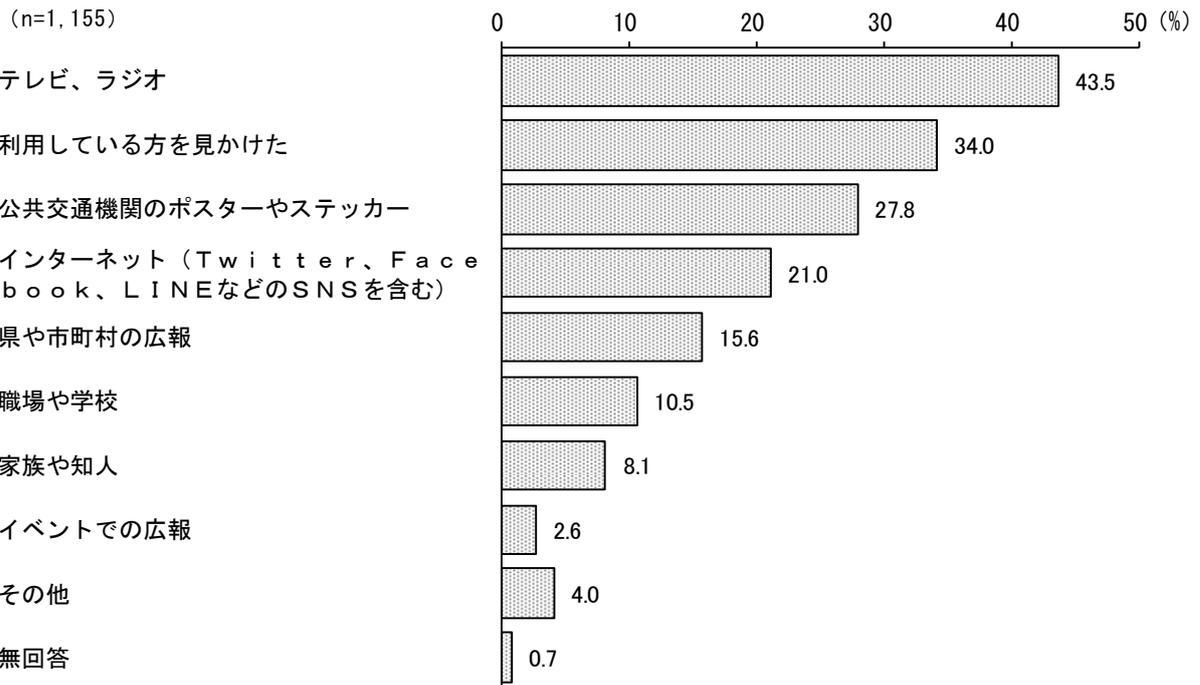
◇「テレビ、ラジオ」が４割台半ば

（問21で「意味も含めて知っている」または「見たことや聞いたことはあるが、意味は知らない」とお答えの方に）

問21－１ あなたはどのように「ヘルプマーク」について聞いたり、知ったりしましたか。

（〇はいくつでも）

<図表５－９> 「ヘルプマーク」の認知経路（複数回答）



「ヘルプマークを見たことや聞いたことがある」と回答した1,155人に、どのように聞いたり、知ったりしたか聞いたところ、「テレビ、ラジオ」（43.5%）が４割台半ばと最も高く、以下、「利用している方を見かけた」（34.0%）、「公共交通機関のポスターやステッカー」（27.8%）、「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」（21.0%）と続く。

（図表５－９）

【地域別】

地域別にみると、「利用している方を見かけた」は“葛南地域”（44.9%）が４割台半ばで高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」は“君津地域”（36.1%）が３割台半ばで高くなっている。（図表５－10）

【性・年代別】

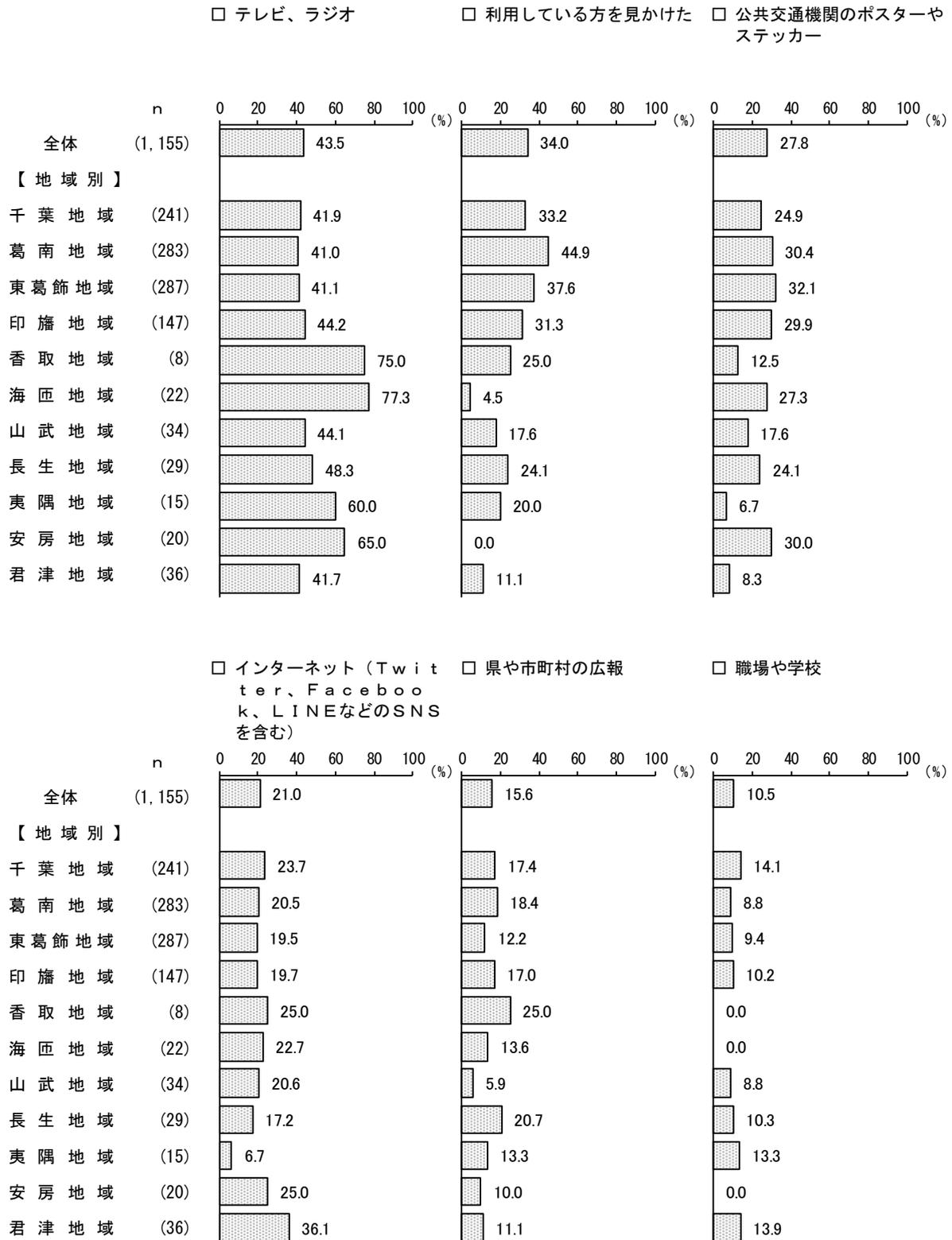
性・年代別にみると、「テレビ、ラジオ」は女性の65～69歳（66.7%）が６割台半ば、女性の75歳以上（60.5%）が６割、男性の70～74歳（55.6%）が５割台半ばで高くなっている。

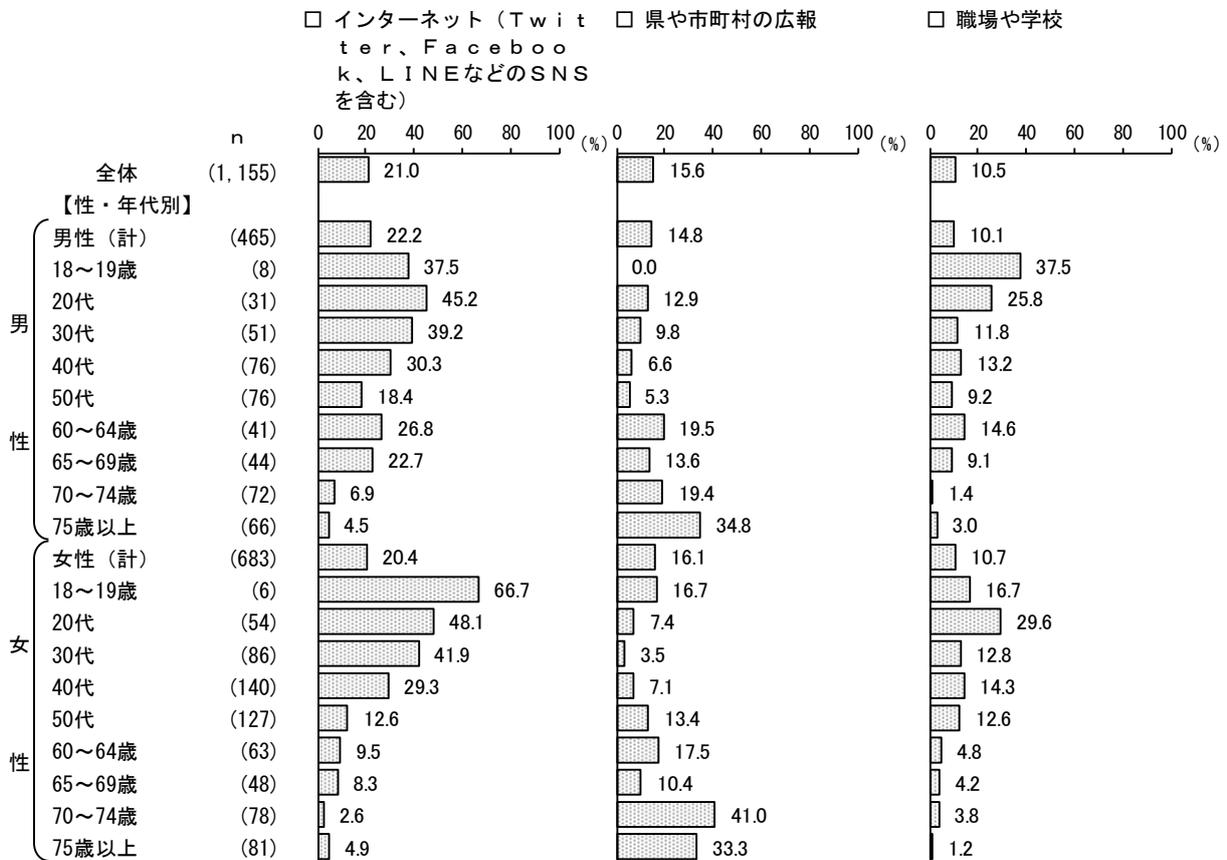
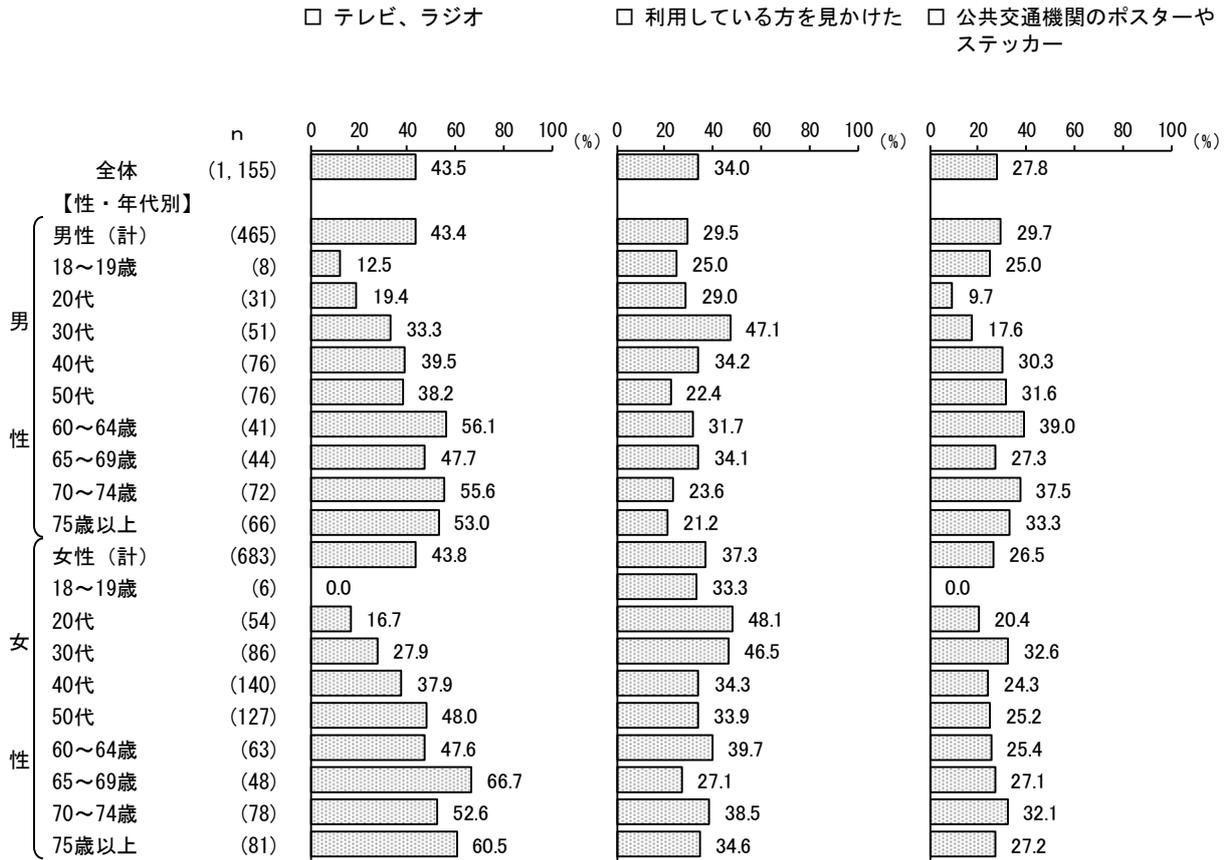
「利用している方を見かけた」は女性の20代（48.1%）と男性の30代（47.1%）が約５割、女性

の30代（46.5%）が4割台半ばで高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」は女性の20代（48.1%）が約5割、男性の20代（45.2%）が4割台半ば、女性の30代（41.9%）が4割を超え、男性の30代（39.2%）が約4割、男性の40代（30.3%）が3割、女性の40代（29.3%）が約3割で高くなっている。（図表5-10）

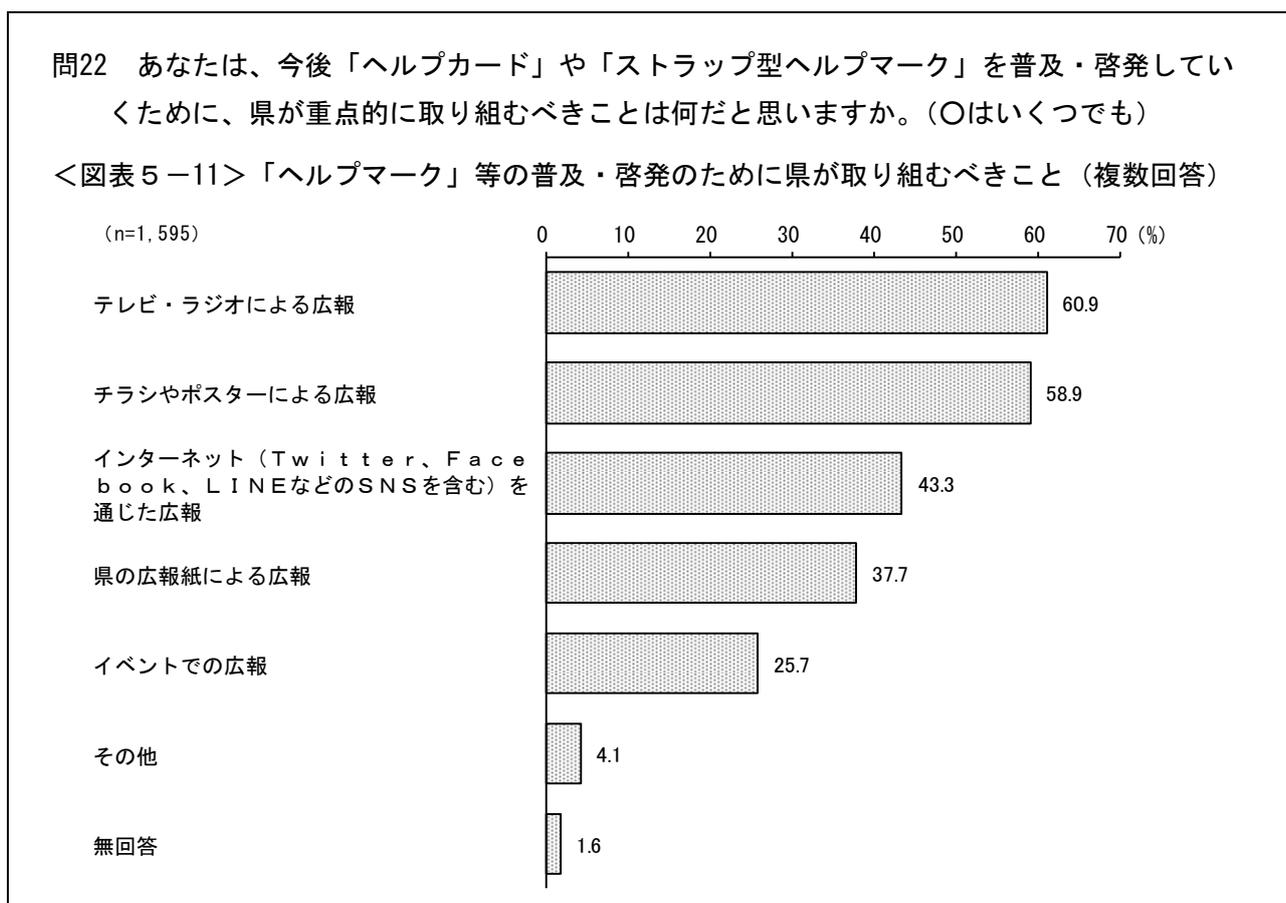
＜図表5-10＞「ヘルプマーク」の認知経路（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（5）「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきこと

◇「テレビ・ラジオによる広報」が6割



「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきことを聞いたところ、「テレビ・ラジオによる広報」（60.9%）が6割で最も高く、以下、「チラシやポスターによる広報」（58.9%）、「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」（43.3%）、「県の広報紙による広報」（37.7%）と続く。（図表5-11）

【地域別】

地域別にみると、「テレビ・ラジオによる広報」は“君津地域”（72.6%）が7割を超えて高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」は“葛南地域”（48.7%）が約5割で高くなっている。（図表5-12）

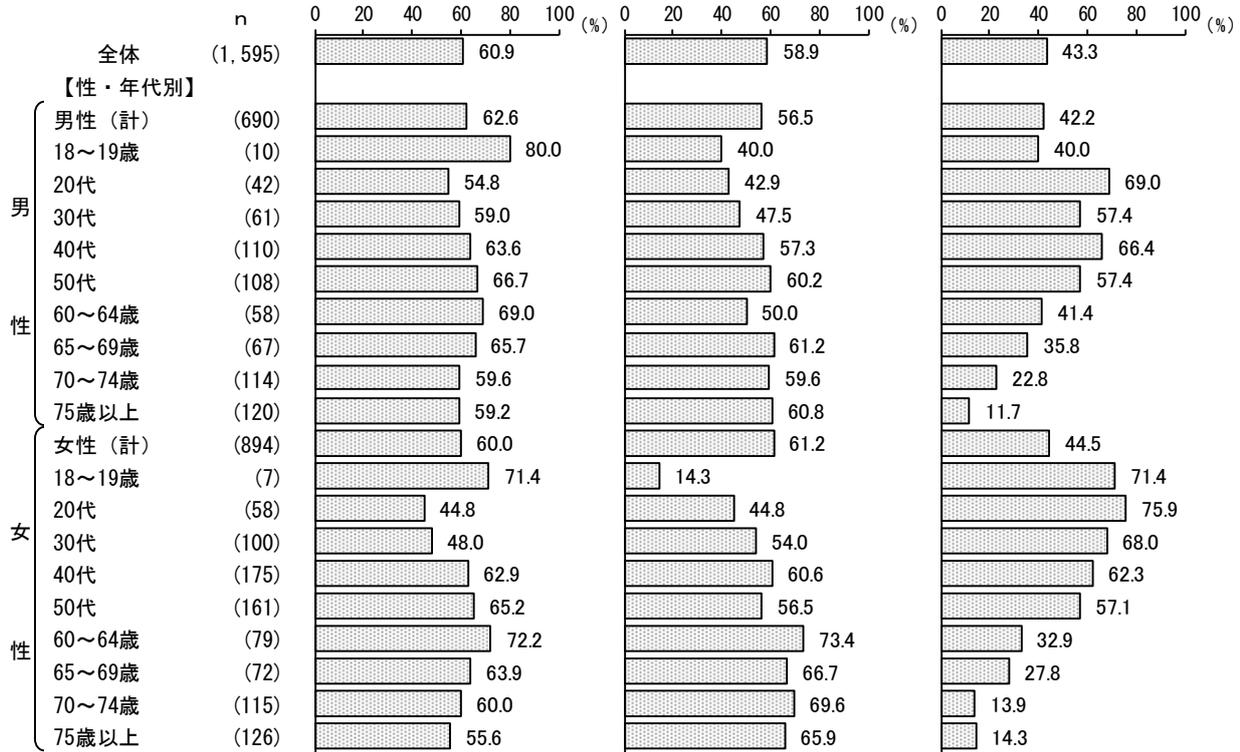
【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレビ・ラジオによる広報」は女性の60～64歳（72.2%）が7割を超えて高くなっている。

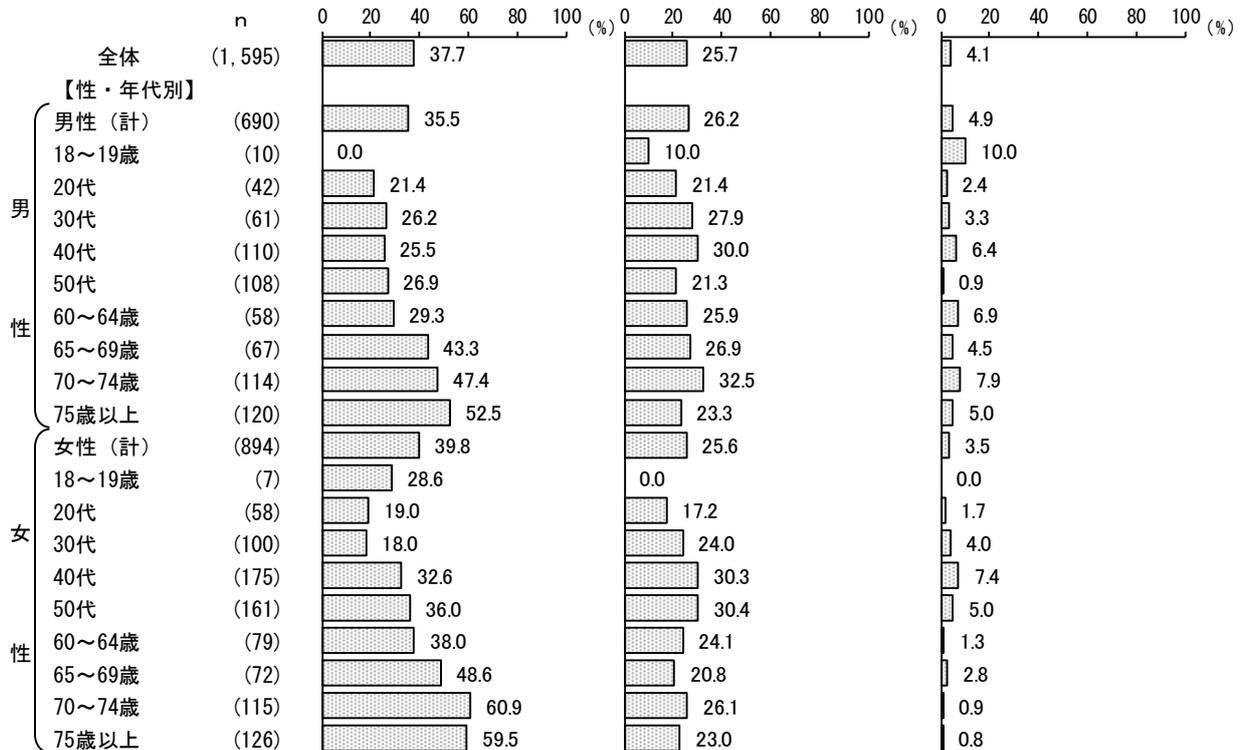
「チラシやポスターによる広報」は女性の60～64歳（73.4%）が7割を超え、女性の70～74歳（69.6%）が約7割で高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」は女性の20代（75.9%）が7割台半ば、男性の20代（69.0%）と女性の30代（68.0%）が約7

□ テレビ・ラジオによる広報 □ チラシやポスターによる広報 □ インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報



□ 県の広報紙による広報 □ イベントでの広報 □ その他



このほかにも、「障害者施策について」や問18～問22について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、141人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

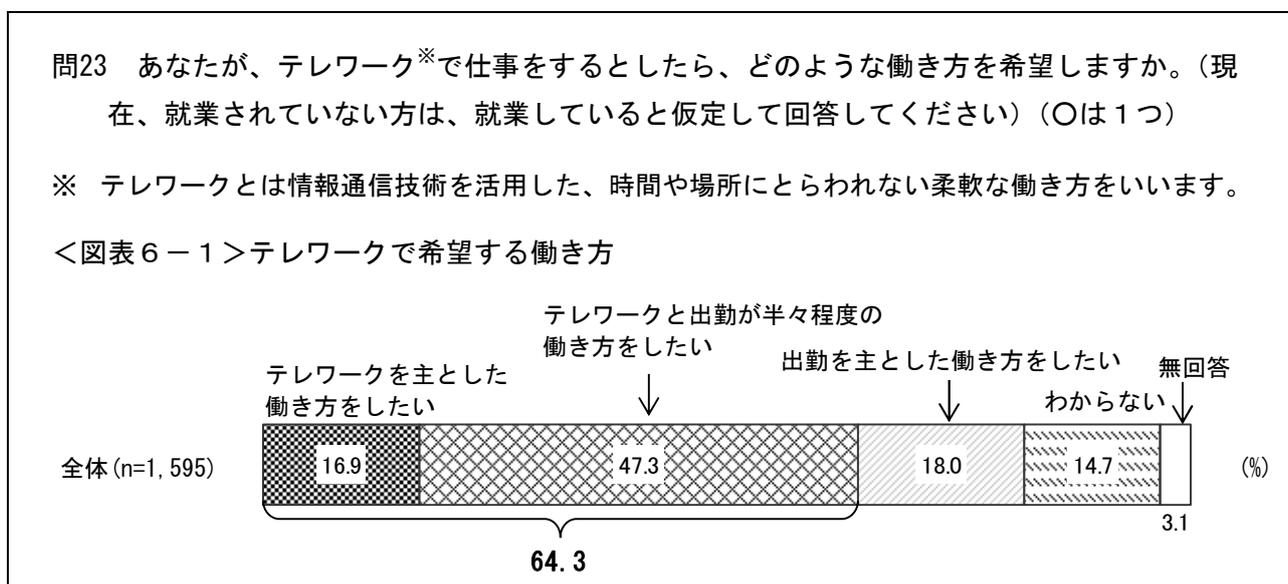
■「障害者施策について」の自由回答（抜粋）

- 障害があっても個人個人の個性だと考えてもらえる地域社会になってもらえればもっとより良い方向に世の中はまわっていくと思う。（女性、20代、東葛飾地域）
- 差別や偏見がない社会になって欲しい。それぞれの違いをおかしな事としないように、学んでいける社会になると良いと思います。（女性、40代、夷隅地域）
- 障害のある人がない人と同じように公共施設や交通機関等使用できるような設備を整えていくべきだと思う。（女性、50代、安房地域）
- 「障害者」としてひとくくりにできない障害も多いと思う。例えば発達障害と知的障害では程度にもよるが生活していく上での困難具合が全然ちがう。それぞれのニーズを細かく調べて対応してほしい。（女性、30代、印旛地域）
- 困っている人がいたら助けてあげたいとは普段から思っているのですが、実際に行動できたことがないことを恥ずかしく感じています。同じ思いをしている人は多いのではないのでしょうか。そんな人達がサッと行動できるような社会の雰囲気になれば良いのですが、良いアイデアは無いものではないでしょうか。（男性、50代、千葉地域）
- 自分だけかも知れませんが、ヘルプマークを知りませんでした。仮に知っていて、持っている人を見かけても何をしたら良いのか分からない。（男性、60～64歳、葛南地域）
- ヘルプマークをつけている人がここ数年すごく増えてきた感じがします。電車や街中でよく見かけるようになりました。見た目ではハンディキャップがあることが分からない人もいるのでとてもよい取り組みでもっと認知されると良いと思います。（男性、30代、東葛飾地域）
- ヘルプマークについての公的な情報発信は、SNS以外であまり見かけない気がする。千葉テレビのコマーシャルなどで、比較的高い年齢層の人への周知も図っていく必要があると思う。（女性、20代、千葉地域）
- ヘルプカード、ヘルプストラップを持つ側からだけでなく、声を掛けやすいように、「お手伝いしますマーク」など声を掛けやすくする配慮も必要と思う。（女性、40代、葛南地域）

6 テレワークで働く環境について

(1) テレワークで希望する働き方

◇『テレワークを含めて働きたい（計）』が6割台半ば



テレワークで希望する働き方を聞いたところ、「テレワークを主とした働き方をしたい」（16.9%）と「テレワークと出勤が半々程度の働き方をしたい」（47.3%）を合わせた『テレワークを含めて働きたい（計）』（64.3%）が6割台半ばとなっている。

一方、「出勤を主とした働き方をしたい」（18.0%）が約2割となっている。（図表6-1）

【地域別】

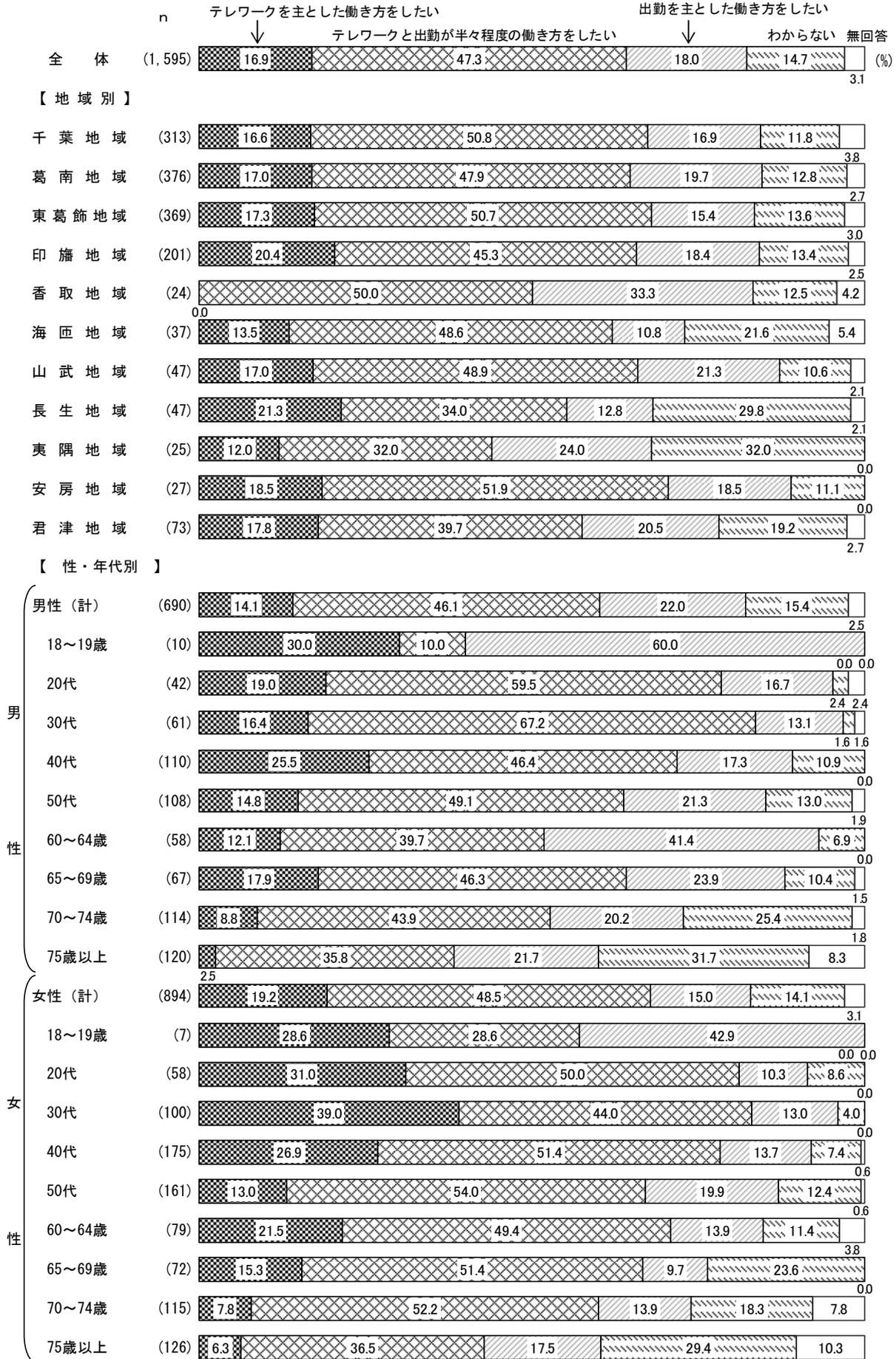
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『テレワークを含めて働きたい（計）』は男性の30代（83.6%）が8割台半ば、女性の30代（83.0%）と女性の20代（81.0%）が8割を超え、男性の20代（78.6%）と女性の40代（78.3%）が約8割で高くなっている。

一方、「出勤を主とした働き方をしたい」は男性の60～64歳（41.4%）が4割を超えて高くなっている。（図表6-2）

<図表6-2>テレワークで希望する働き方／地域別、性・年代別



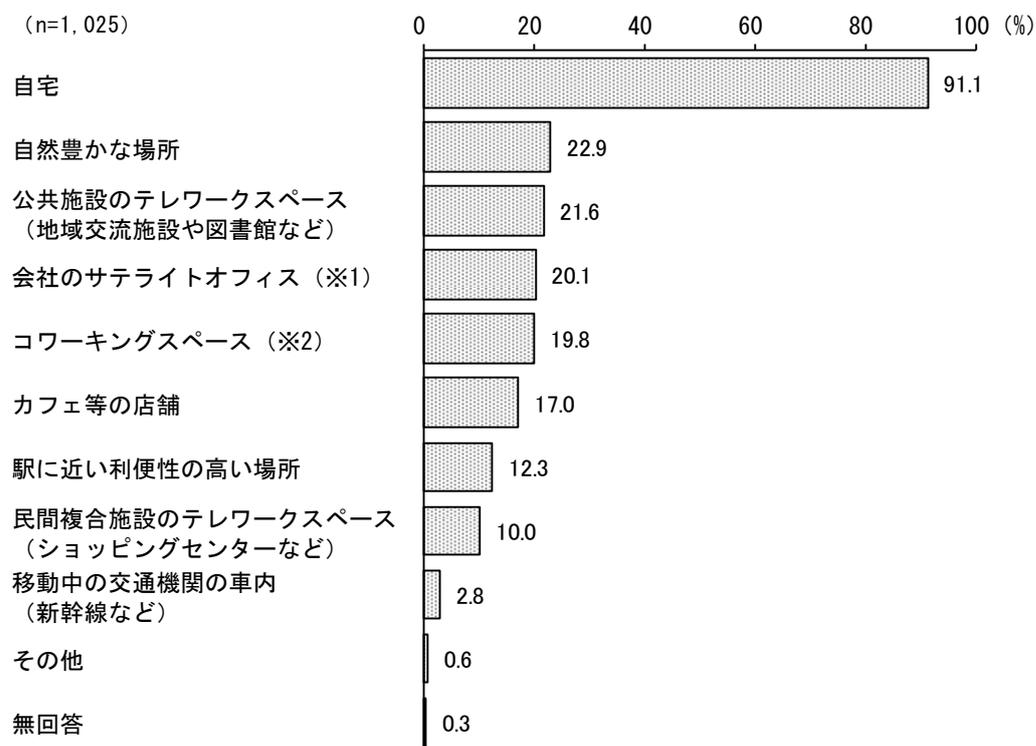
（1-1）テレワークで働きたい場所

◇「自宅」が9割を超える

（問23で「テレワークを主とした働き方をしたい」または「テレワークと出勤が半々程度の働き方をしたい」とお答えの方に）

問23-1 あなたは、どのような場所でテレワークを行いたいですか。（〇はいくつでも）

<図表6-3>テレワークで働きたい場所（複数回答）



(※1) サテライトオフィスとは、企業または団体の本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのことをいいます。

(※2) コワーキングスペースとは、多様な職種・業種の人々が、開かれたワークスペースを共有し、それぞれの仕事をする施設をいいます。

「テレワークを含めて働きたい」と回答した1,025人に、テレワークで働きたい場所を聞いたところ、「自宅」(91.1%)が9割を超えて高く、以下、「自然豊かな場所」(22.9%)、「公共施設のテレワークスペース(地域交流施設や図書館など)」(21.6%)、「会社のサテライトオフィス」(20.1%)と続く。

(図表6-3)

【地域別】

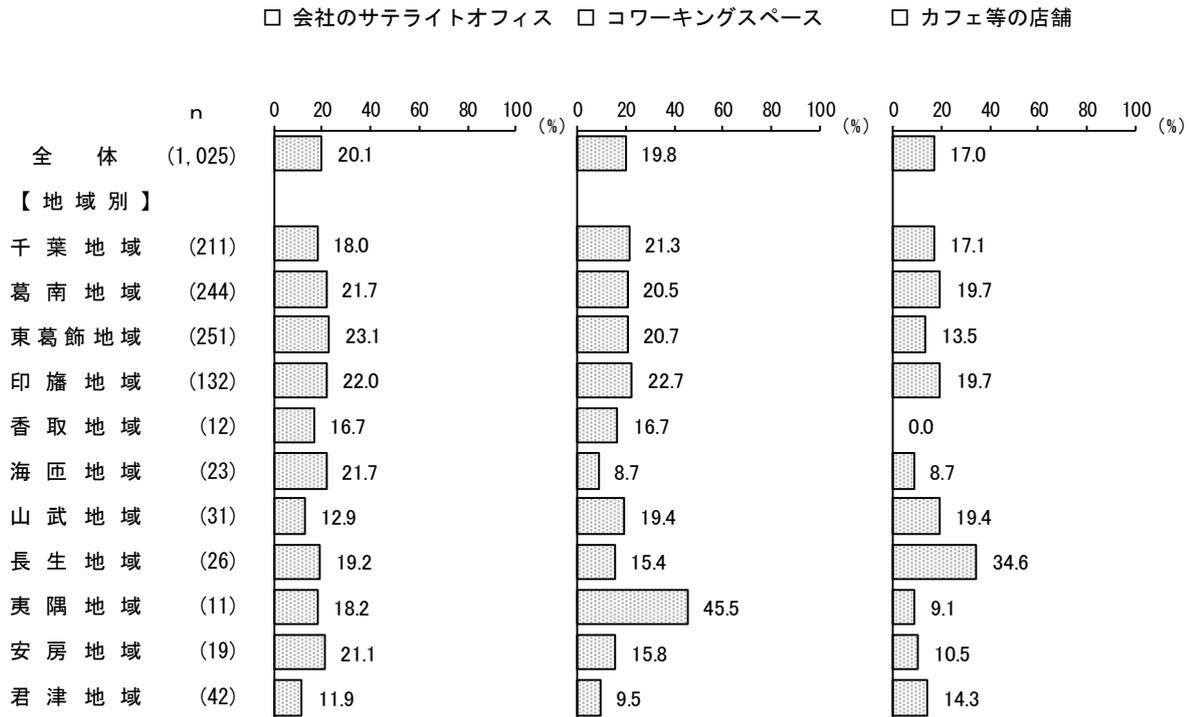
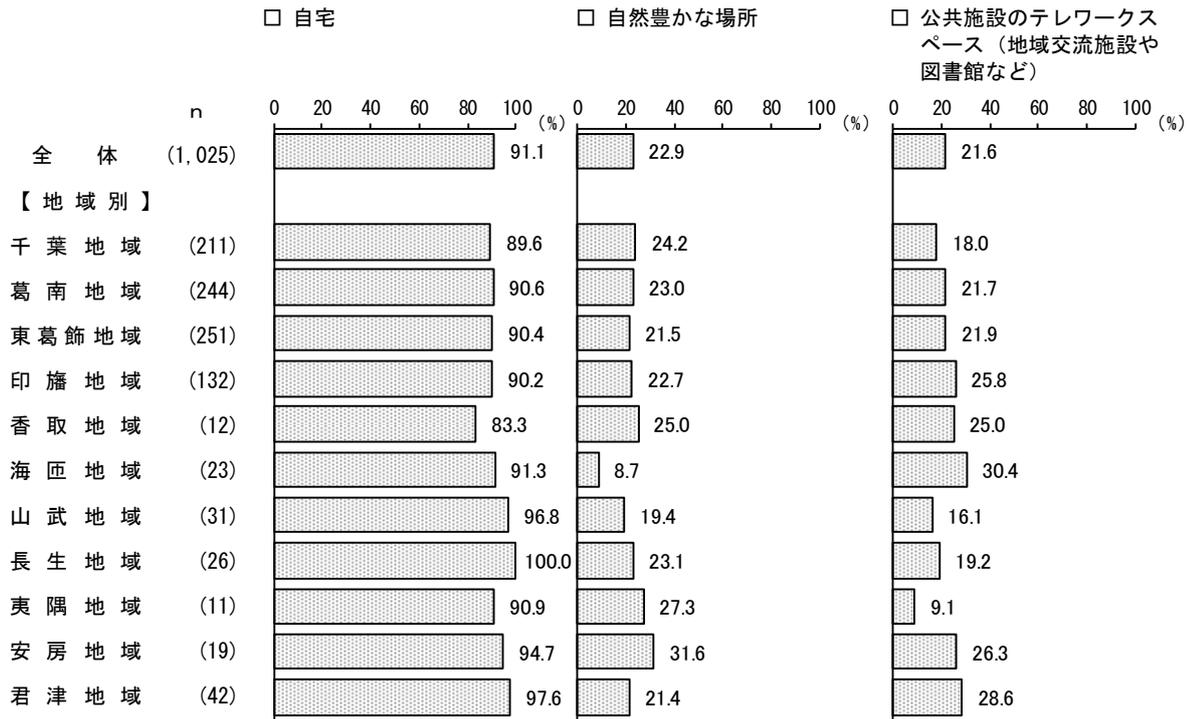
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表6-4)

【性・年代別】

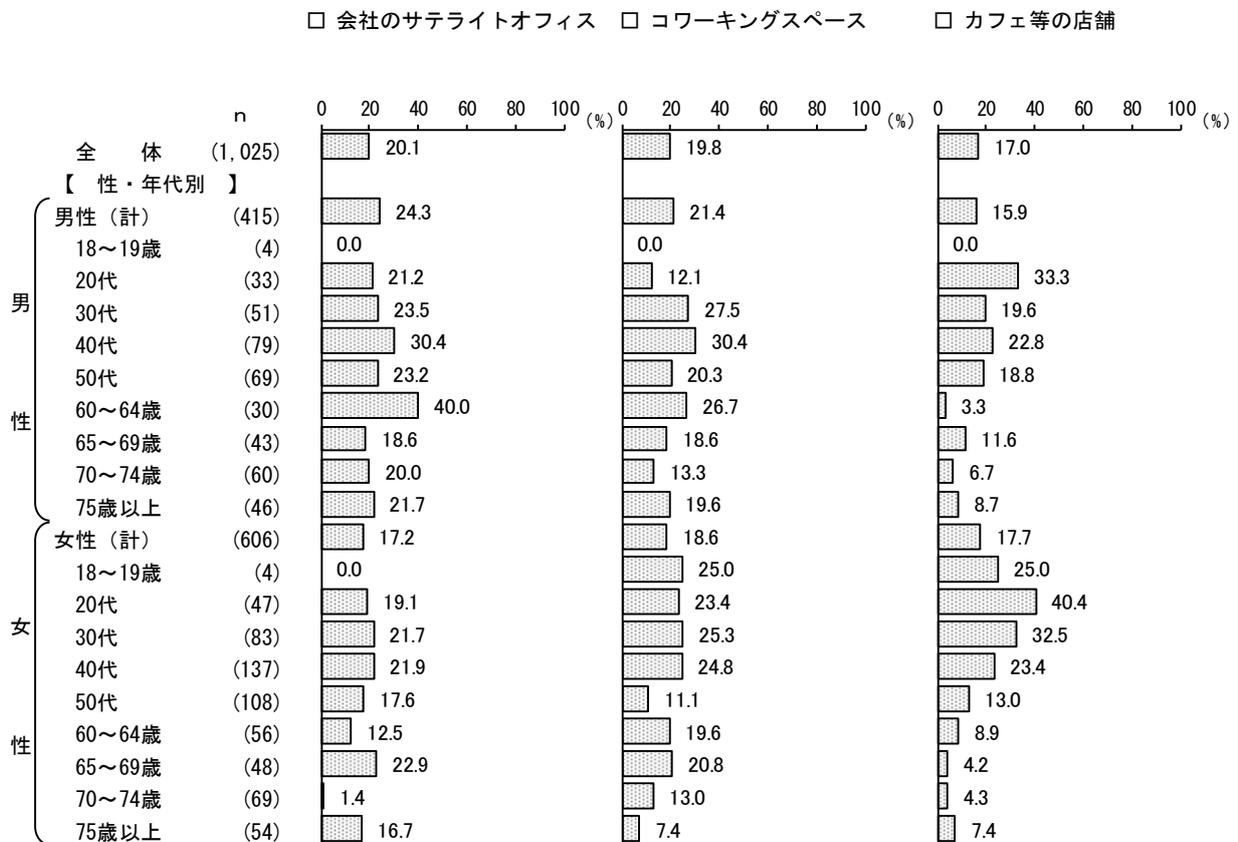
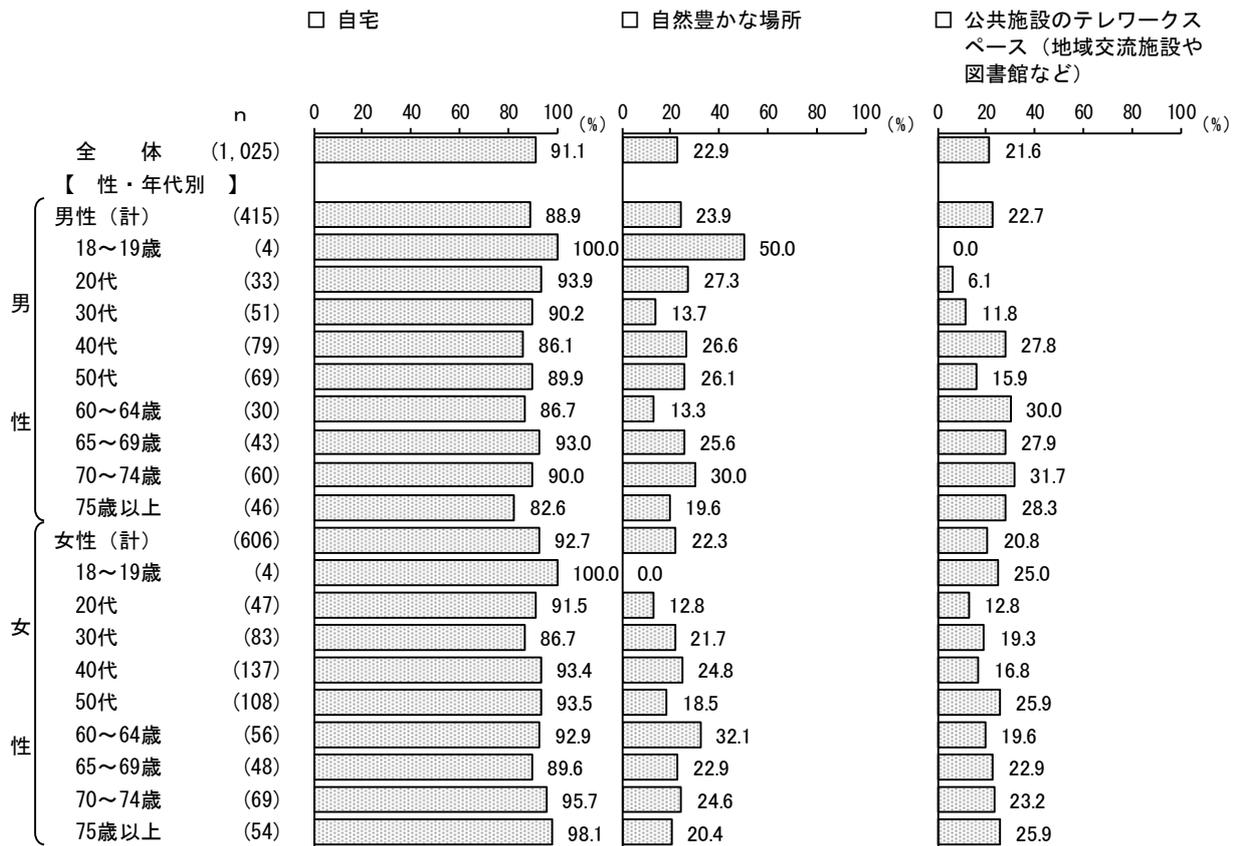
性・年代別にみると、「公共施設のテレワークスペース(地域交流施設や図書館など)」は男性の70~74歳(31.7%)で高くなっている。

「会社のサテライトオフィス」は男性の60~64歳(40.0%)が4割、男性の40代(30.4%)が3割で高くなっている。(図表6-4)

＜図表6-4＞テレワークで働きたい場所（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

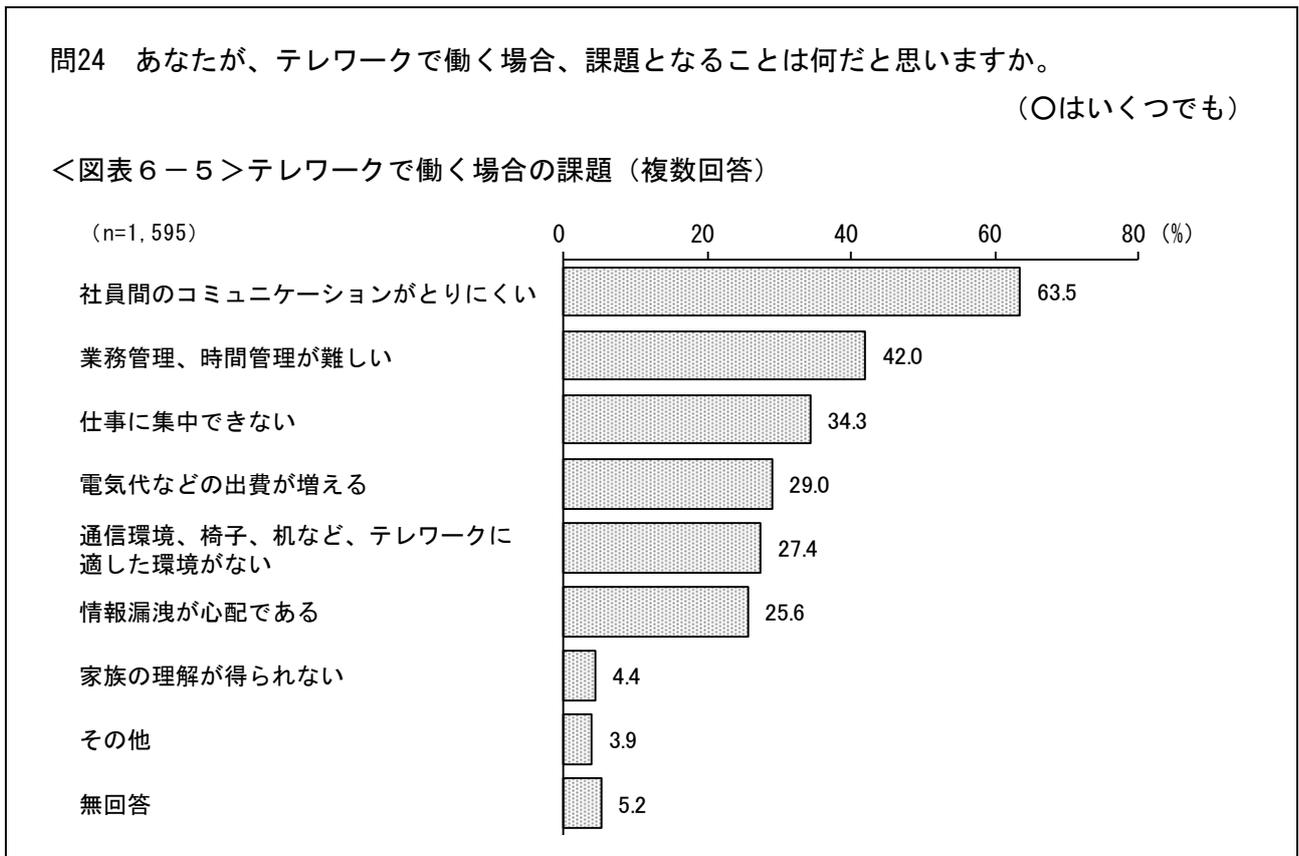


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（2）テレワークで働く場合の課題

◇「社員間のコミュニケーションがとりにくい」が6割台半ば



テレワークで働く場合の課題について聞いたところ、「社員間のコミュニケーションがとりにくい」（63.5%）が6割台半ばと最も高く、以下、「業務管理、時間管理が難しい」（42.0%）、「仕事に集中できない」（34.3%）、「電気代などの出費が増える」（29.0%）が続く。（図表6-5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表6-6）

【性・年代別】

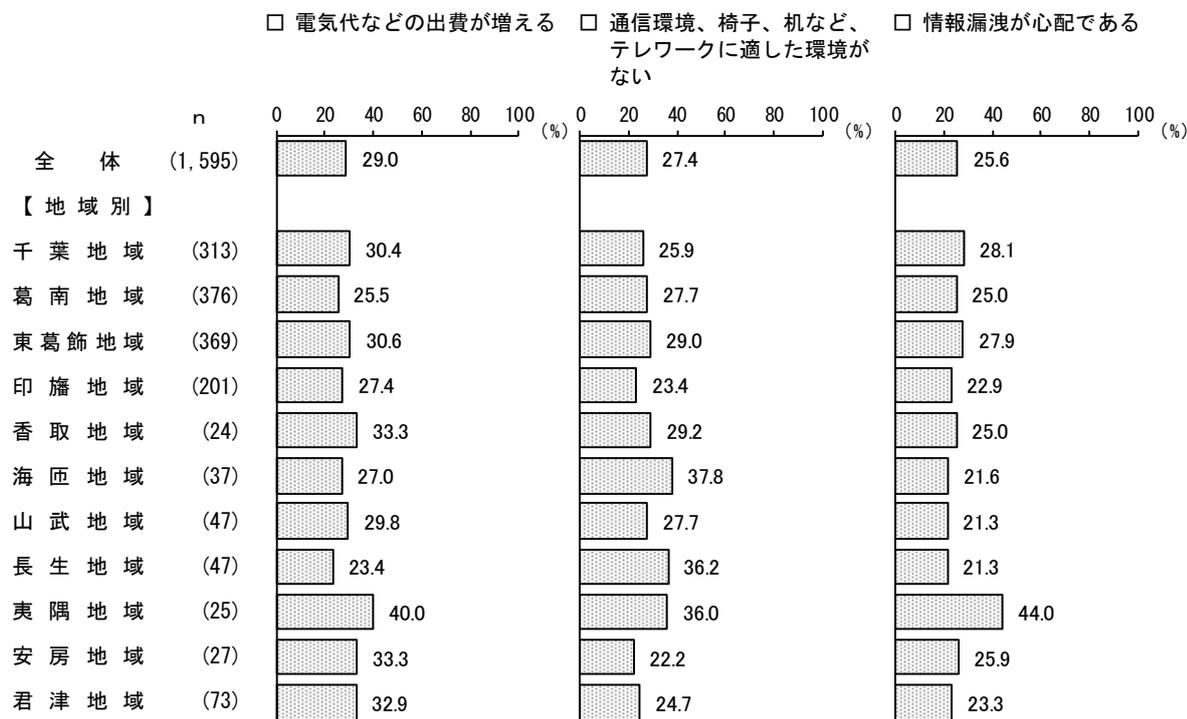
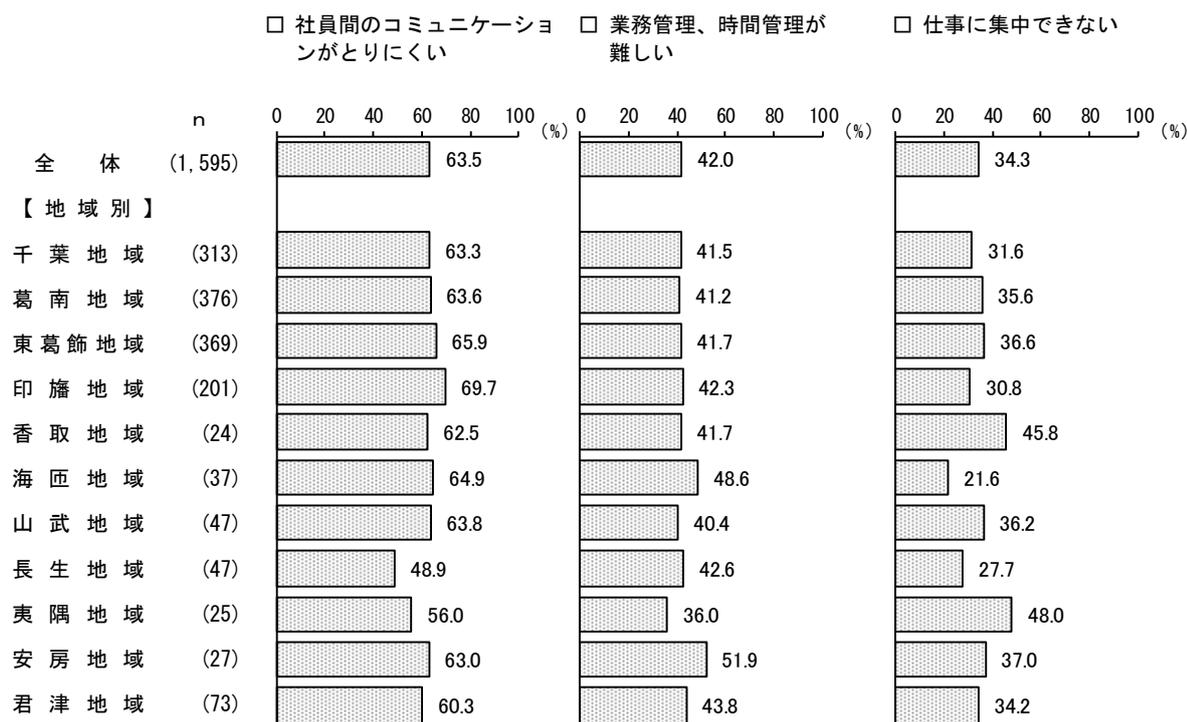
性・年代別にみると、「社員間のコミュニケーションがとりにくい」は女性の40代（73.7%）が7割台半ばで高くなっている。

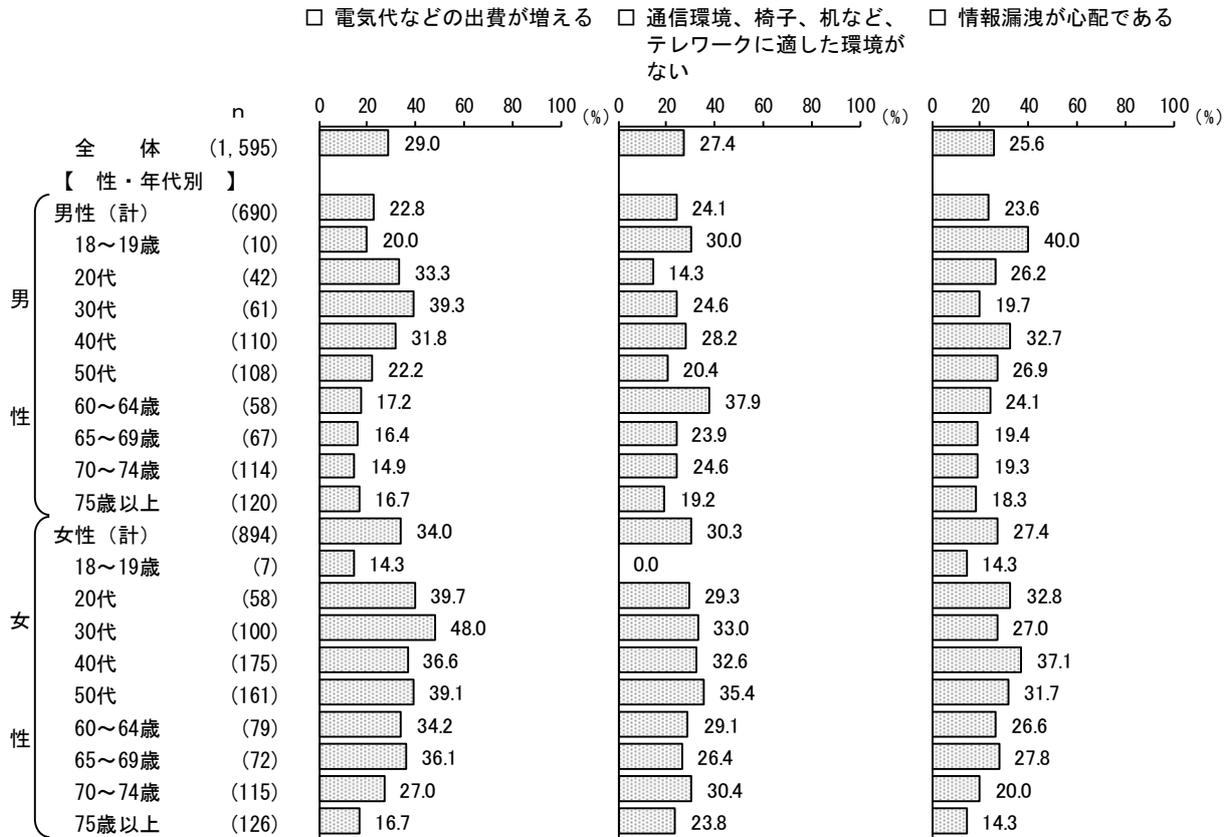
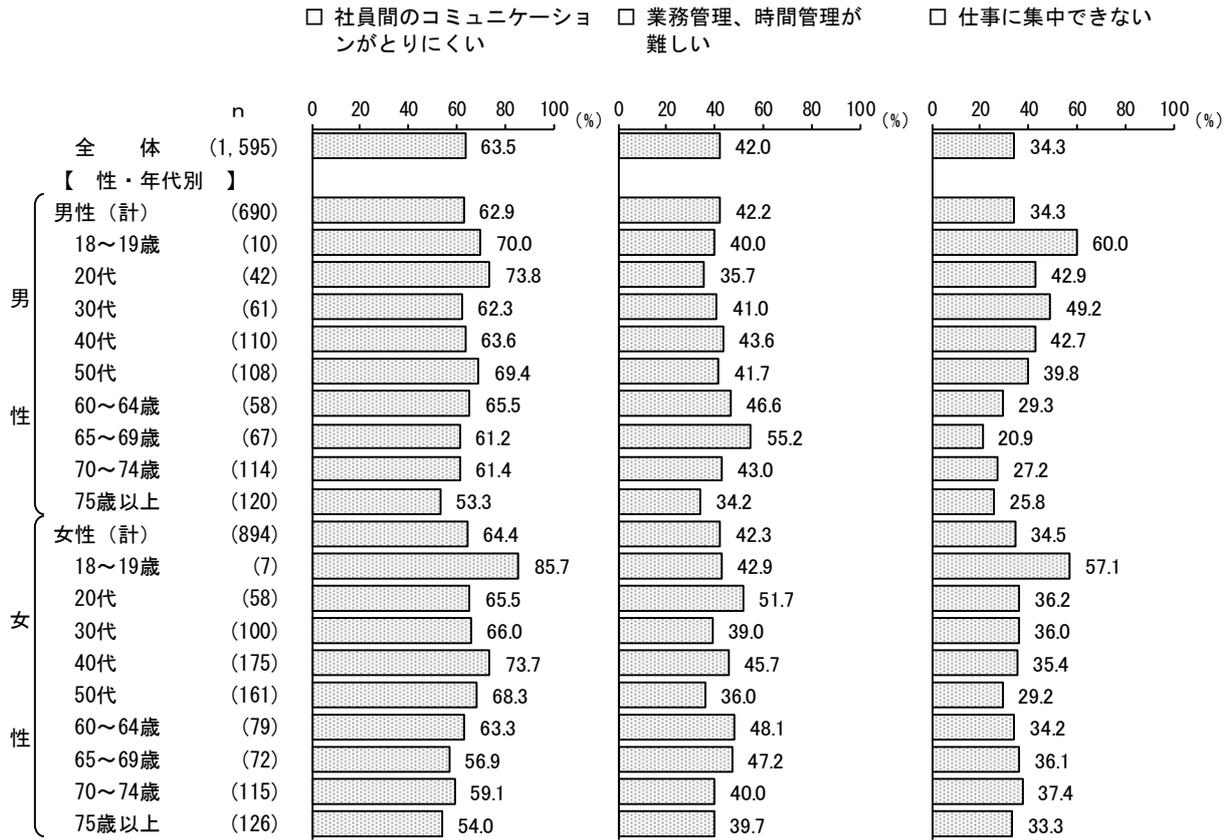
「業務管理、時間管理が難しい」は男性の65～69歳（55.2%）が5割台半ばで高くなっている。

「仕事に集中できない」は男性の30代（49.2%）が約5割で高くなっている。

「電気代などの出費が増える」は女性の30代（48.0%）が約5割、女性の50代（39.1%）が約4割、女性の40代（36.6%）が3割台半ばと高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6>テレワークで働く場合の課題（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、「テレワークで働く環境について」や問23～問24について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、134人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

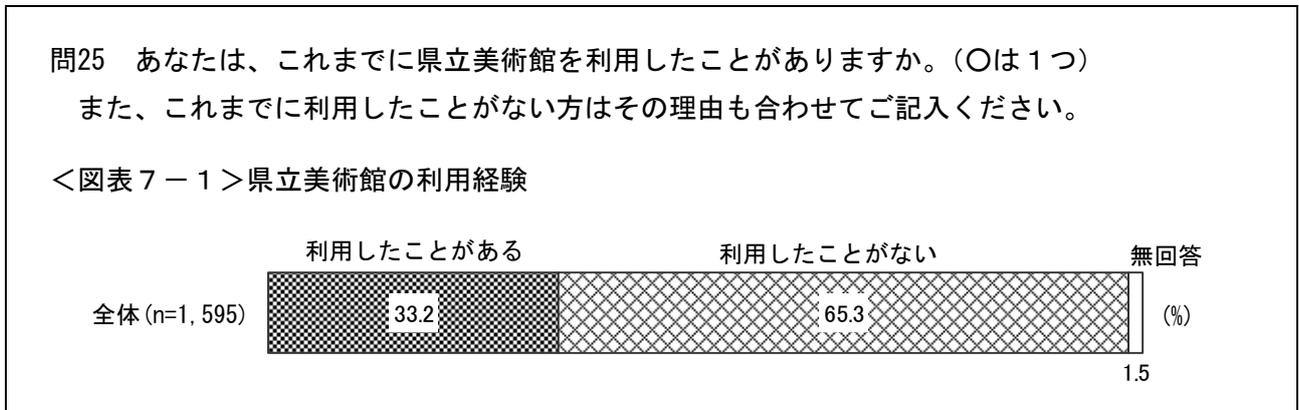
■「テレワークで働く環境について」の自由回答（抜粋）

- コロナ禍の現代では、テレワークは今後もできる限り推進していくべきかと思います。通勤時間とコロナ感染リスクを低減できますし、テレワークで業務が成立するなら、テレワークが当たり前の世界になれば良いと個人的には感じております。（男性、40代、葛南地域）
- 外にオンラインで会議や打ち合わせもできる防音のテレワークスペースがあるといいなと思う。（女性、40代、東葛飾地域）
- もっとテレワークが普及してくれると、時間を効率的に使えて、感染症のリスクも抑えられる。家族との時間もとれて助かる。子どもが小さい時は、家で働けると良いと思う。（女性、30代、印旛地域）
- 出勤とテレワーク半々くらいが丁度良いのではと考えます。テレワーク自体はとても良いものですが、仕事に集中できなかったり等あるため、会社に出勤し適度に人の目があるというの必要ではないかと考えます。テレワークは例えば台風や大雪など出勤が難しい場合に使用する等や、週の決まった日はテレワークというように、ある程度メリハリを持たせたりと工夫が必要かと思えます。（男性、40代、葛南地域）
- 自分が実際にテレワークしており月に1～2日くらいの出社しかしていません。課題はやはり、運動不足です。なので朝1時間程度の散歩を実践していますが、これでも足りない気がしておりジムに通うか検討中です。（男性、50代、印旛地域）
- 職務上、個人情報扱う場合があるため、テレワーク環境に制限がある。それに配慮した環境の構築が必要。また、テレワーク環境が可能となるネット環境の準備も不可欠と考えます。（男性、40代、長生地域）
- テレワークを開始してから光熱費は確実に高くなりました。オフィス賃料を下げるなど企業努力で少しでもよいので社員に負担分を還元してもらえると嬉しいです。（男性、30代、東葛飾地域）
- テレワークにおいて1番の問題は、コミュニケーションが従来の方法では取りにくいことだと思います。色々なツールが出てきていると思いますので、それらを取捨選択していくべきだと思います。（女性、30代、東葛飾地域）
- 子どもが家でテレワークで働いているので家族も気をつかう。（女性、75歳以上、東葛飾地域）
- テレワークができる人とできない人がいるので、なんでもかんでもテレワークというのは違うと思う。やれるのに、やらないのは違うと思うけど。（女性、50代、千葉地域）

7 県立美術館について

（1）県立美術館の利用経験

◇「利用したことがある」が3割を超える



県立美術館を利用したことがあるかを聞いたところ、「利用したことがある」（33.2%）が3割を超えている。

一方、「利用したことがない」（65.3%）が6割台半ばとなっている。（図表7-1）

「利用したことがない」を選んだ人の理由は以下の通り。

- ・興味や関心がない（202件）
- ・場所を知らない（126件）
- ・アクセスが良くない（117件）
- ・利用する機会がない（90件）
- ・存在を知らない（84件）
- ・どんな企画や展示があるか知らない（38件）
- ・企画や展示に魅力がない（27件）
- ・時間がない（18件）
- ・都内の美術館に行く（12件）
- ・引っ越してきて間もないので（6件）
- ・子どもが小さいため（5件）
- ・その他（22件）
- ・特になし（16件）

【地域別】

地域別にみると、「利用したことがある」は“千葉地域”（49.2%）が約5割、“印旛地域”（42.3%）が4割を超えて高くなっている。

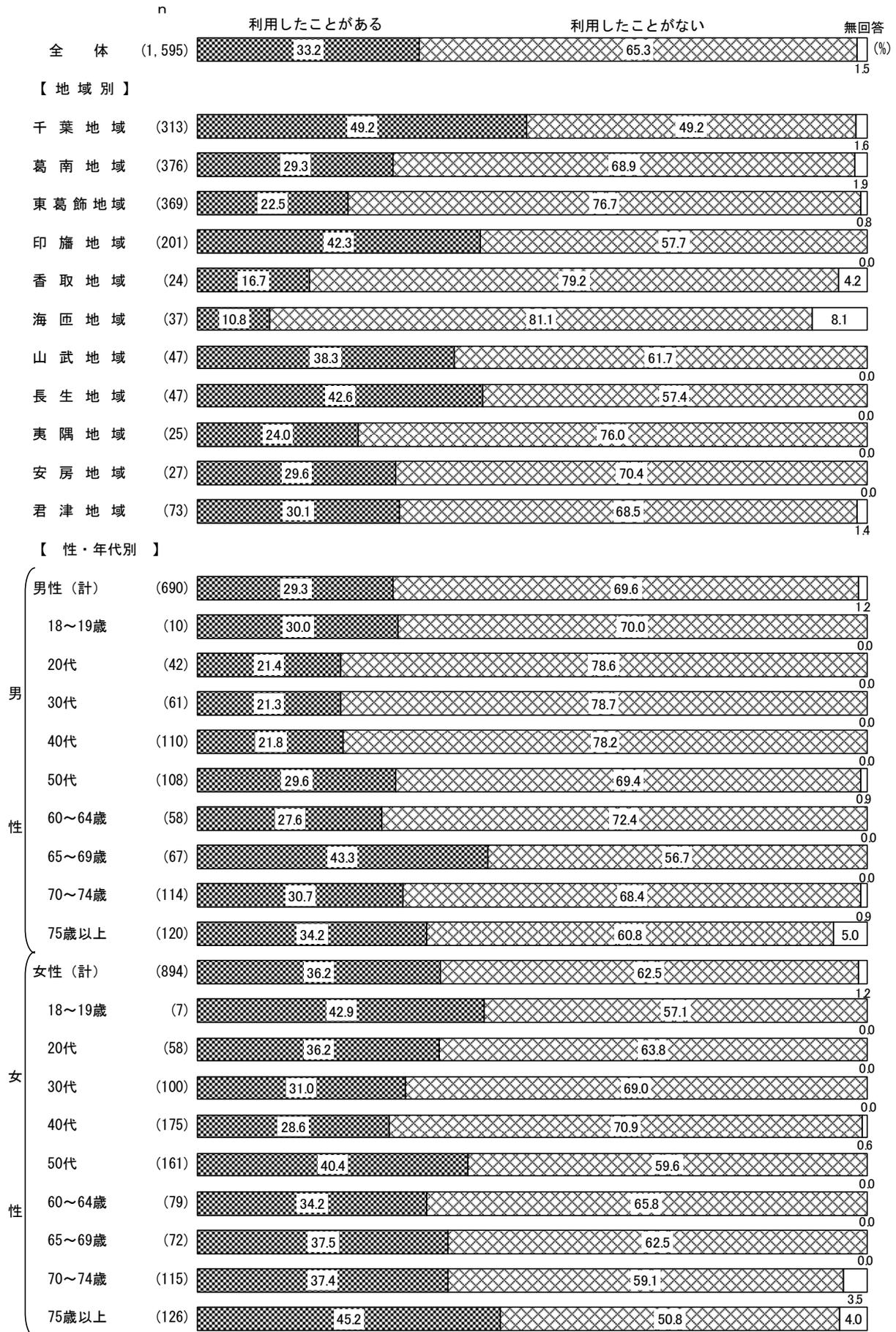
一方、「利用したことがない」は“海匝地域”（81.1%）が8割を超え、“東葛飾地域”（76.7%）が7割台半ばと高くなっている。（図表7-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「利用したことがある」は女性の75歳以上（45.2%）が4割台半ば、女性の50代（40.4%）が4割で高くなっている。

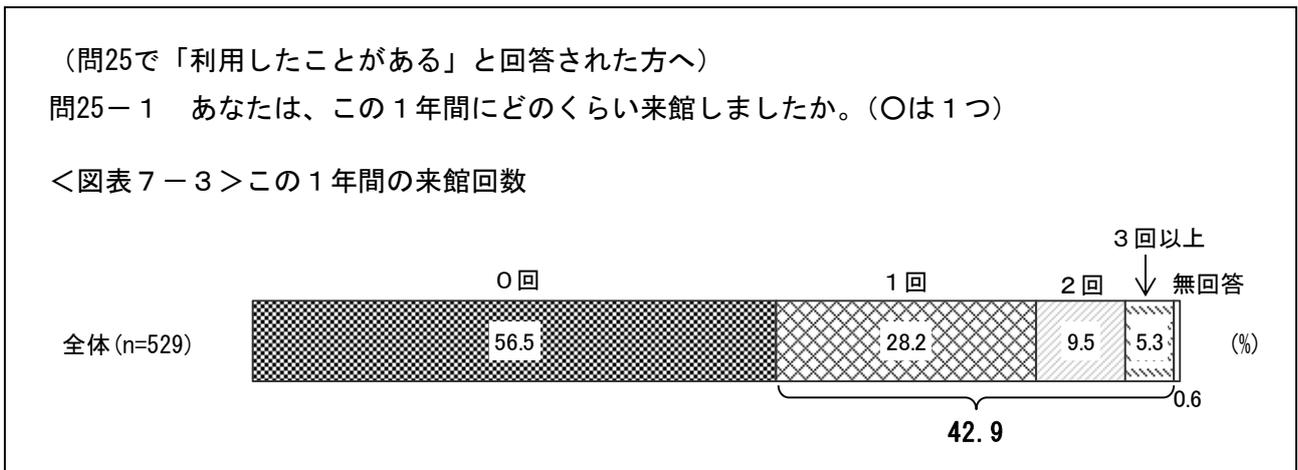
一方、「利用したことがない」は男性の30代（78.7%）と男性の40代（78.2%）が約8割で高くなっている。（図表7-2）

<図表7-2> 県立美術館の利用経験／地域別、性・年代別



（1-1）この1年間の来館回数

◇『この1年間に来館したことがある（計）』が4割を超える



「県立美術館を利用したことがある」と回答した529人に、この1年間の来館回数を聞いたところ、「1回」(28.2%)、「2回」(9.5%)、「3回以上」(5.3%)の3つを合わせた『この1年間に来館したことがある（計）』(42.9%)が4割を超えている。

一方、「0回」(56.5%)が5割台半ばとなっている。(図表7-3)

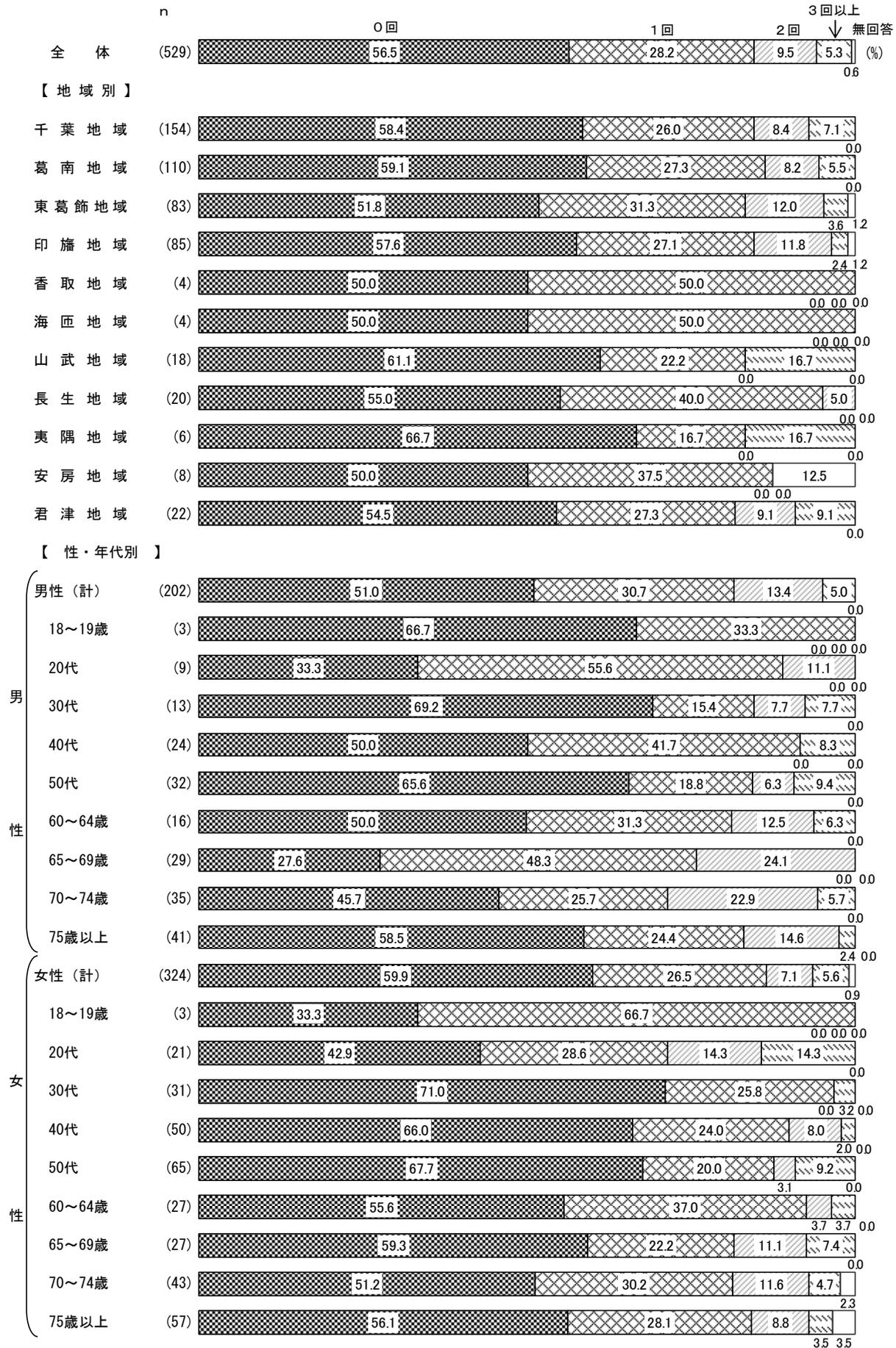
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表7-4)

【性・年代別】

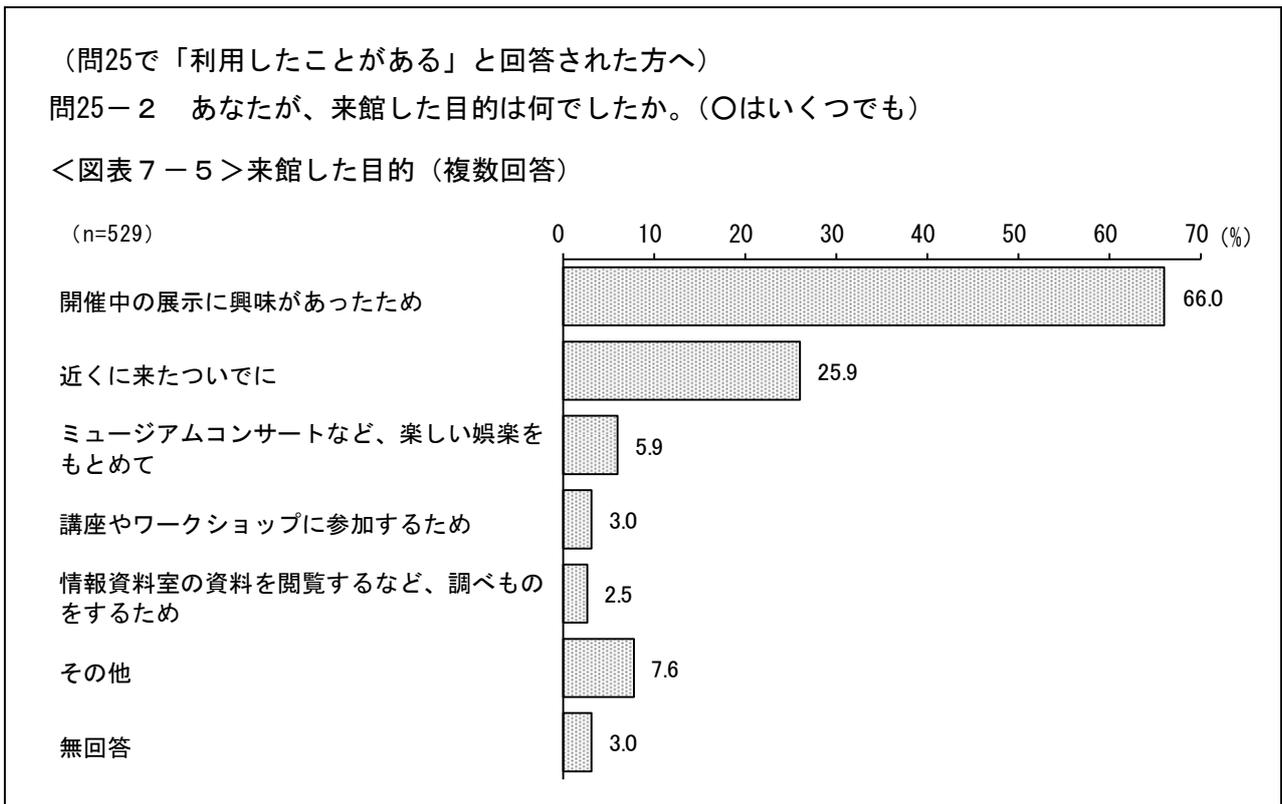
性・年代別にみると、基数は少ないものの、『この1年間に来館したことがある（計）』は男性の65～69歳(72.4%)が7割を超えて高くなっている。(図表7-4)

<図表7-4>この1年間の来館回数／地域別、性・年代別



（1－2）来館した目的

◇「開催中の展示に興味があったため」が6割台半ば



「県立美術館を利用したことがある」と回答した529人に、来館した目的を聞いたところ、「開催中の展示に興味があったため」（66.0%）が6割台半ばと最も高く、以下、「近くに来たついでに」（25.9%）、「ミュージアムコンサートなど、楽しい娯楽をもとめて」（5.9%）が続く。

（図表7－5）

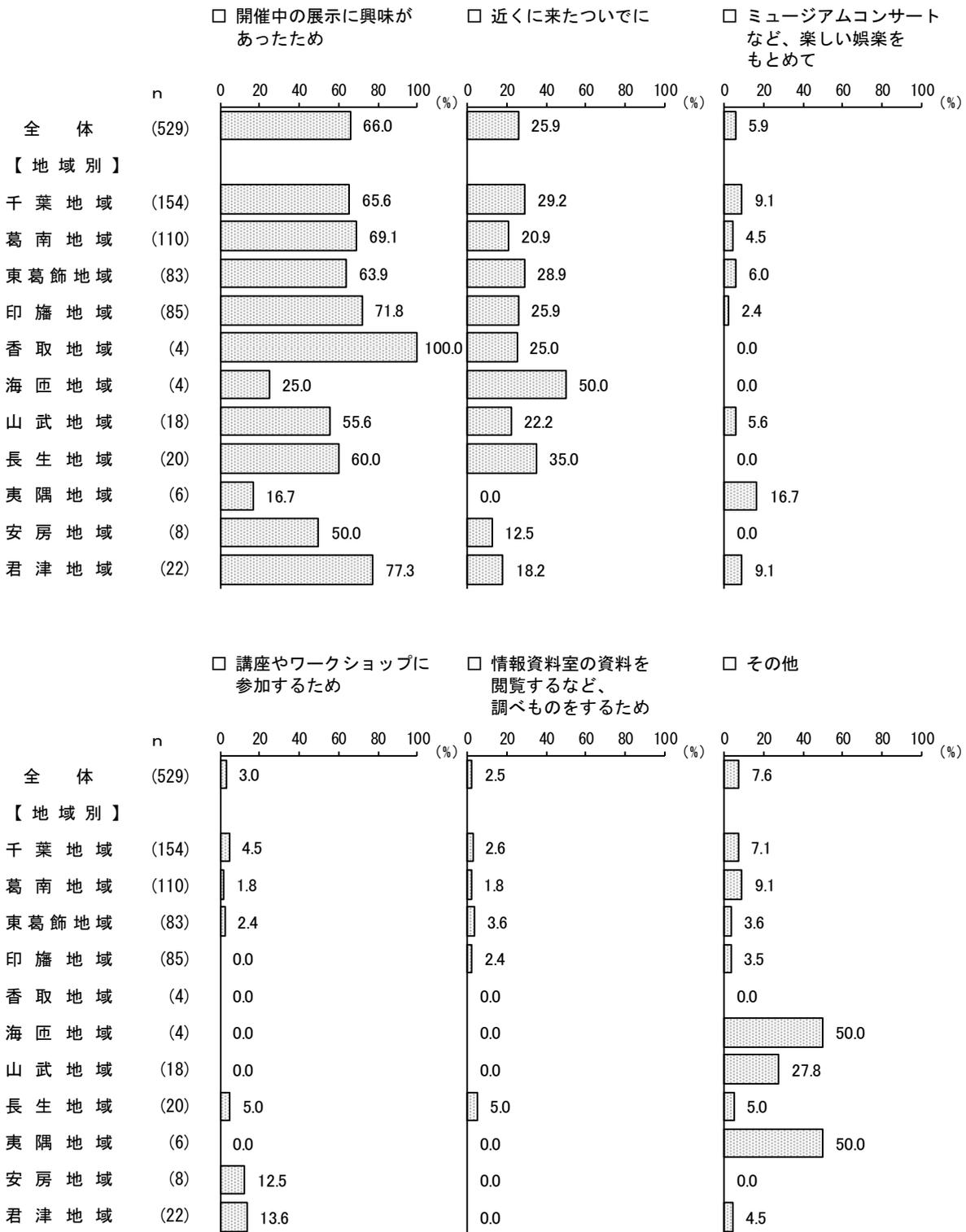
【地域別】

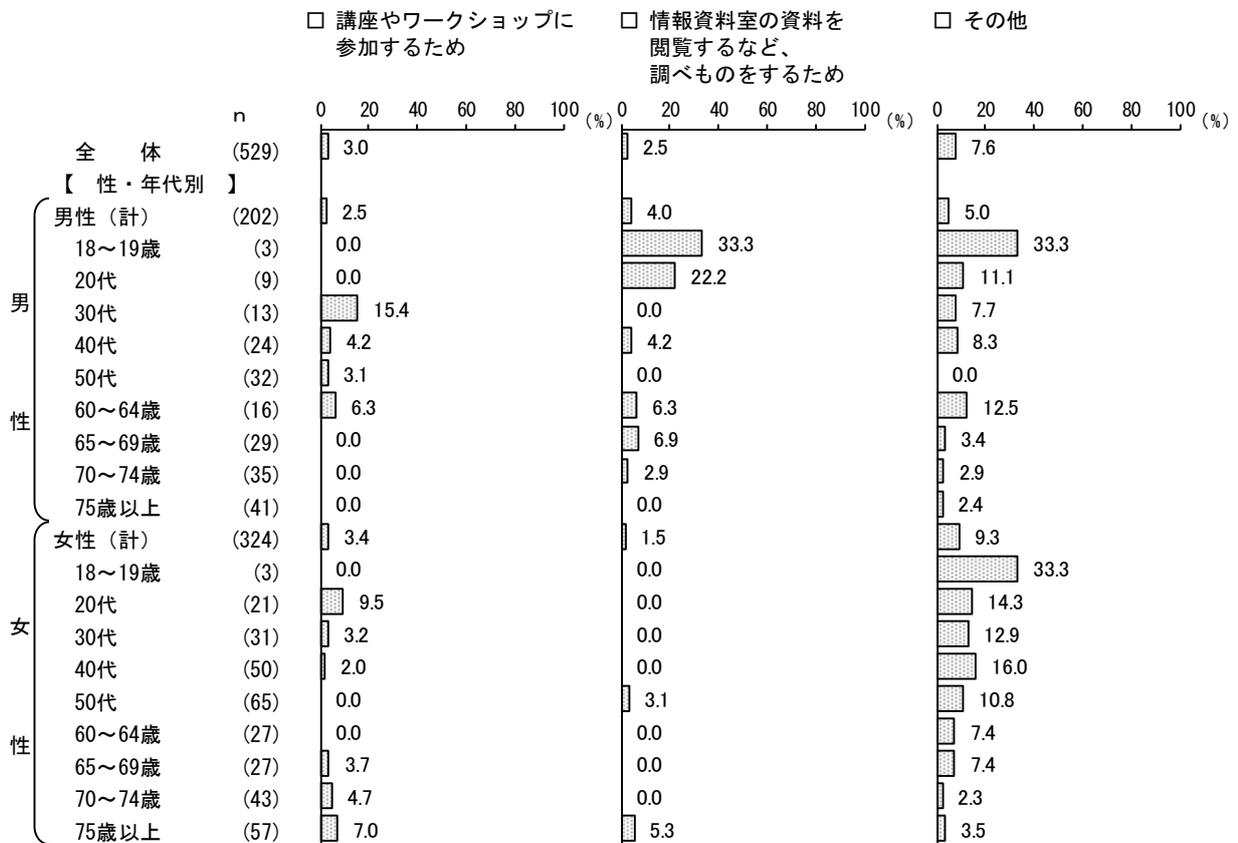
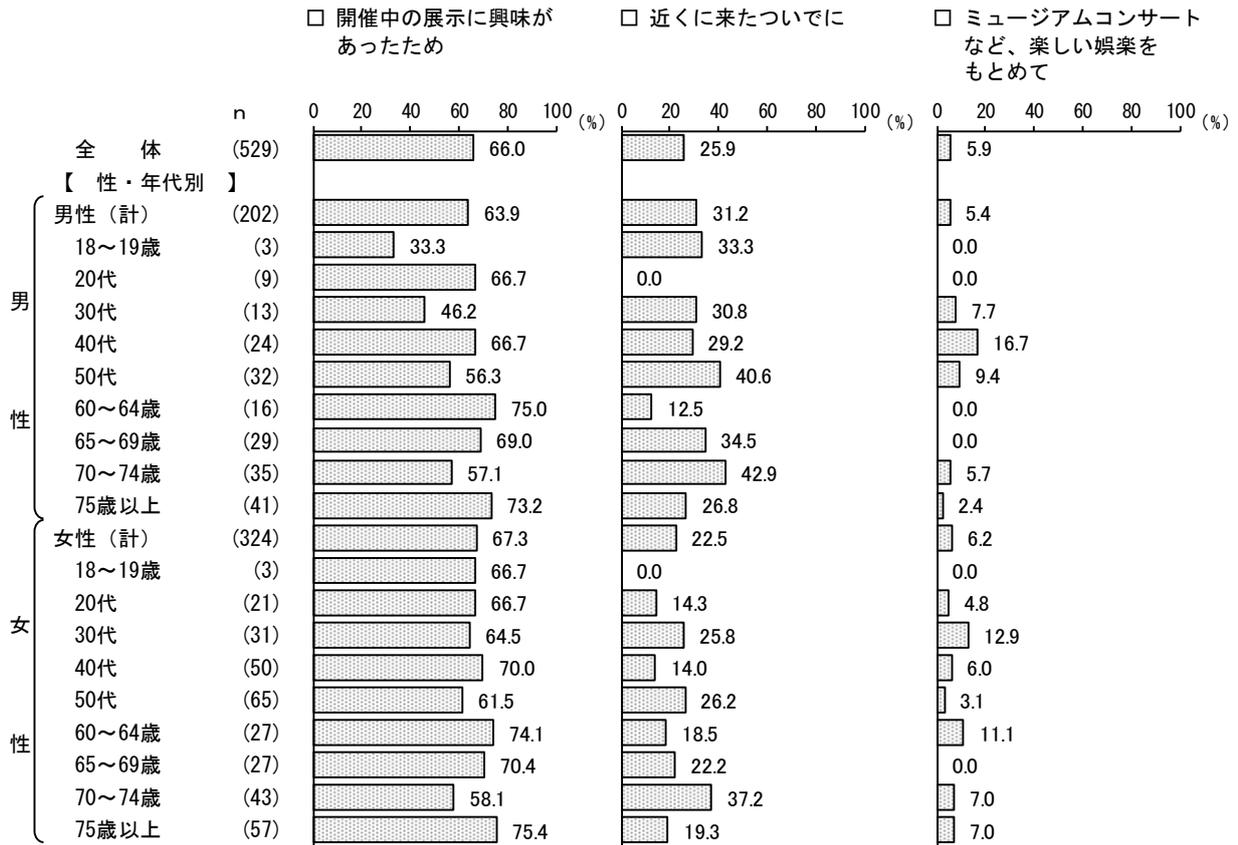
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表7－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「近くに来たついでに」は男性の70～74歳（42.9%）が4割を超え、男性の50代（40.6%）が4割で高くなっている。（図表7－6）

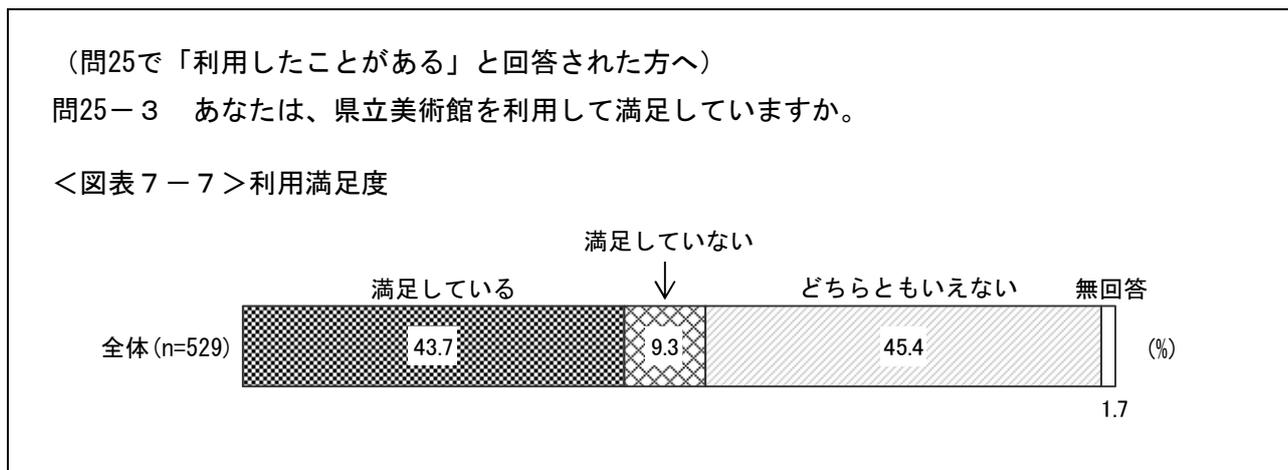
<図表7-6>来館した目的（複数回答）／地域別、性・年代別





（1－3）利用満足度

◇「満足している」が4割台半ば



「県立美術館を利用したことがある」と回答した529人に、利用して満足しているかを聞いたところ、「満足している」（43.7%）が4割台半ばとなっている。

一方、「満足していない」（9.3%）は約1割となっている。（図表7－7）

【地域別】

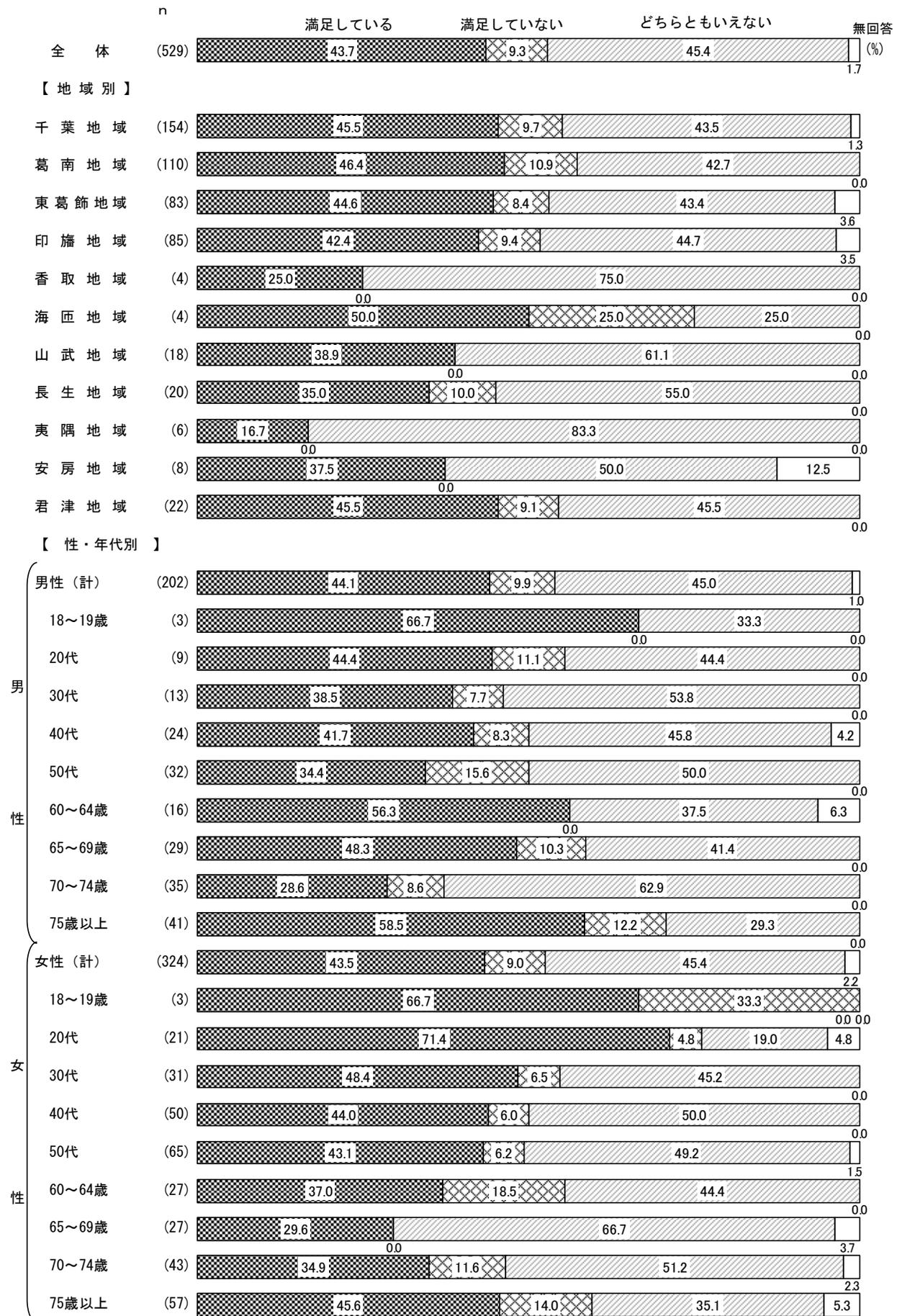
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表7－8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「満足している」は男性の75歳以上（58.5%）が約6割で高くなっている。

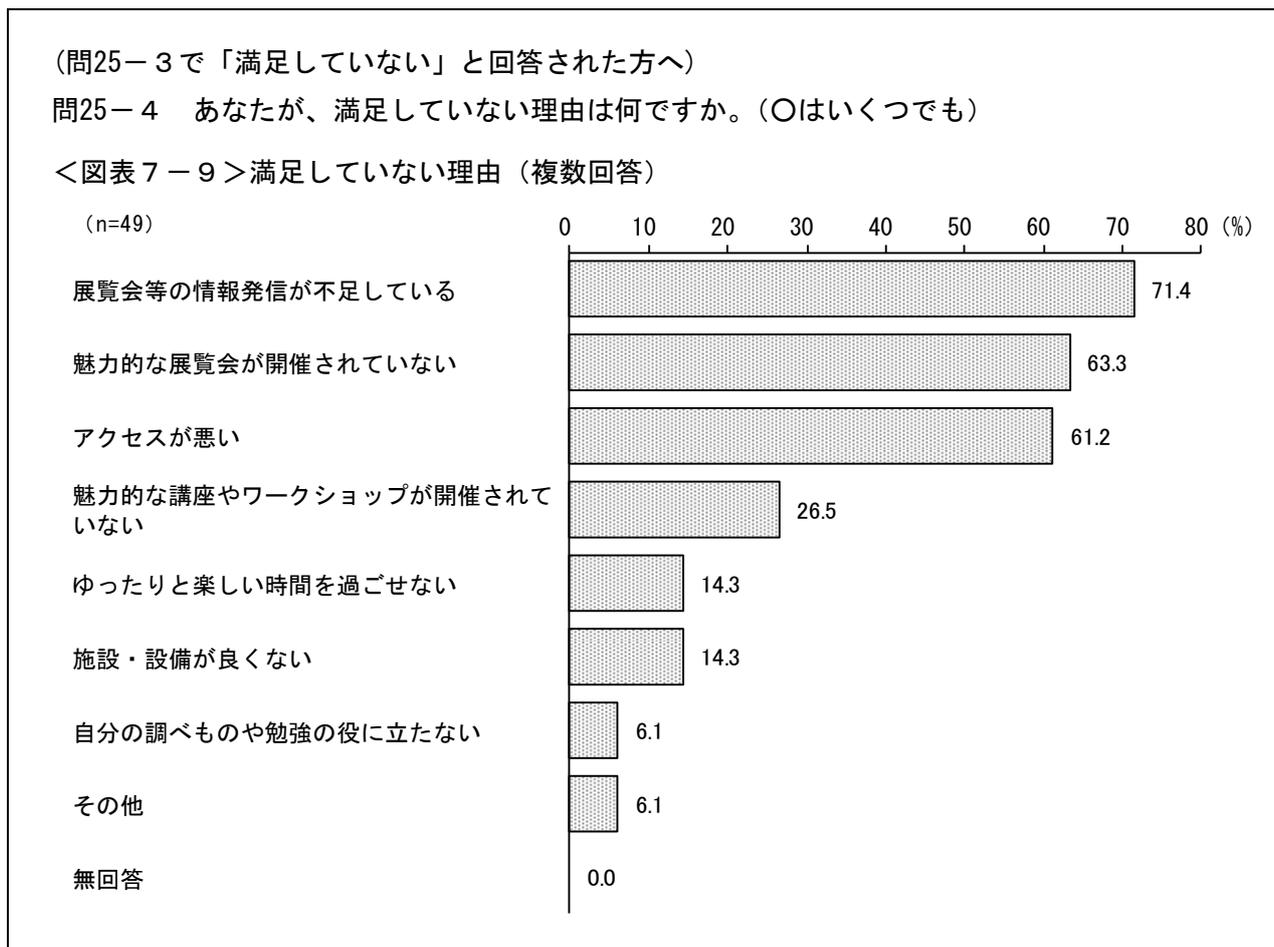
（図表7－8）

<図表7-8> 利用満足度／地域別、性・年代別



（1－4）満足していない理由

◇「展覧会等の情報発信が不足している」が7割を超える



「県立美術館を利用したことがあるが、満足していない」と回答した49人に、満足していない理由を聞いたところ、「展覧会等の情報発信が不足している」（71.4%）が7割を超えて最も高く、以下、「魅力的な展覧会が開催されていない」（63.3%）、「アクセスが悪い」（61.2%）が続く。

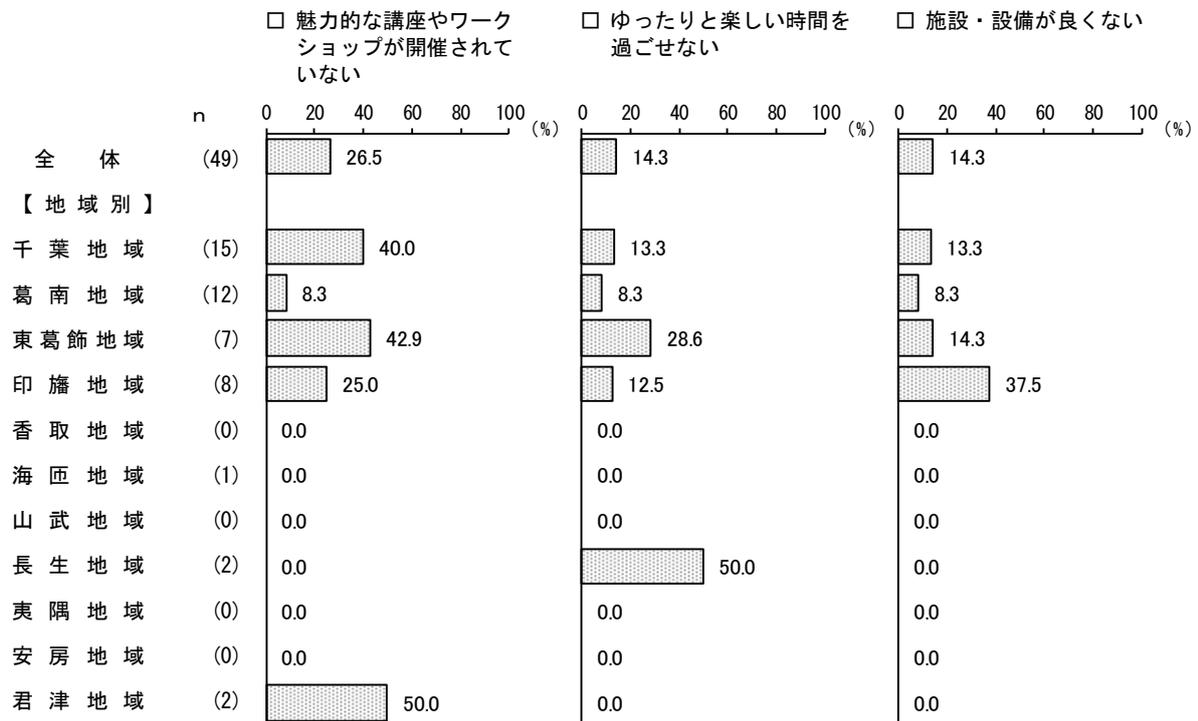
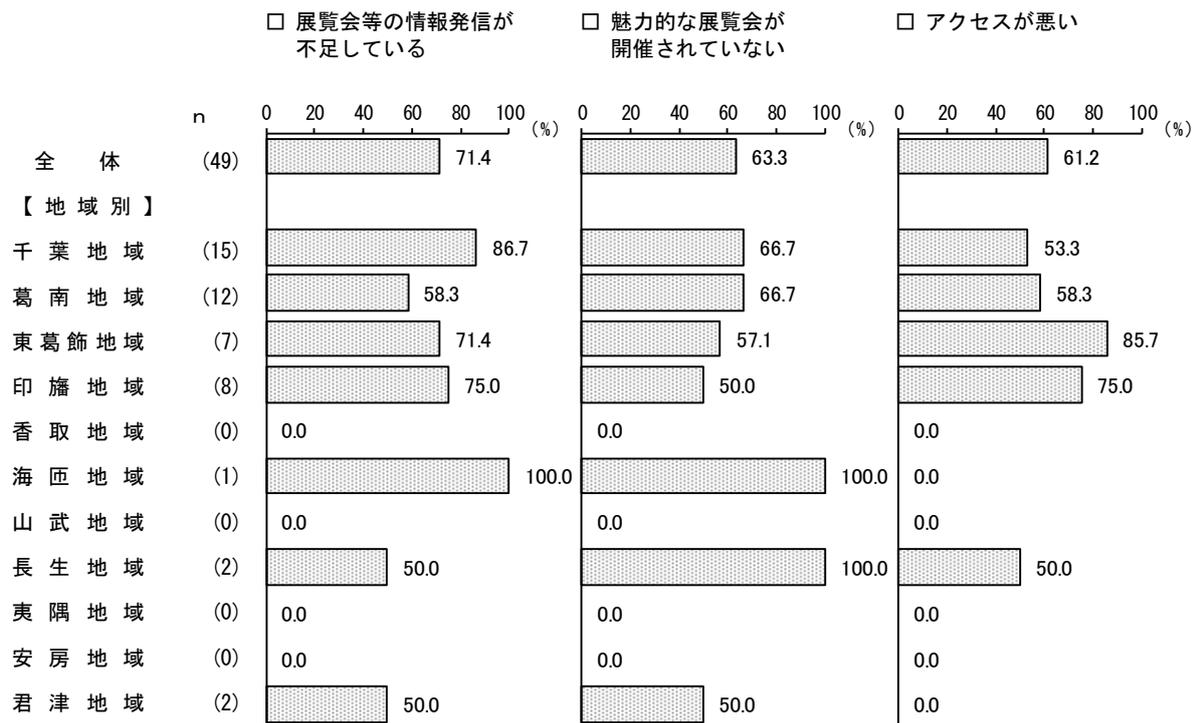
（図表7－9）

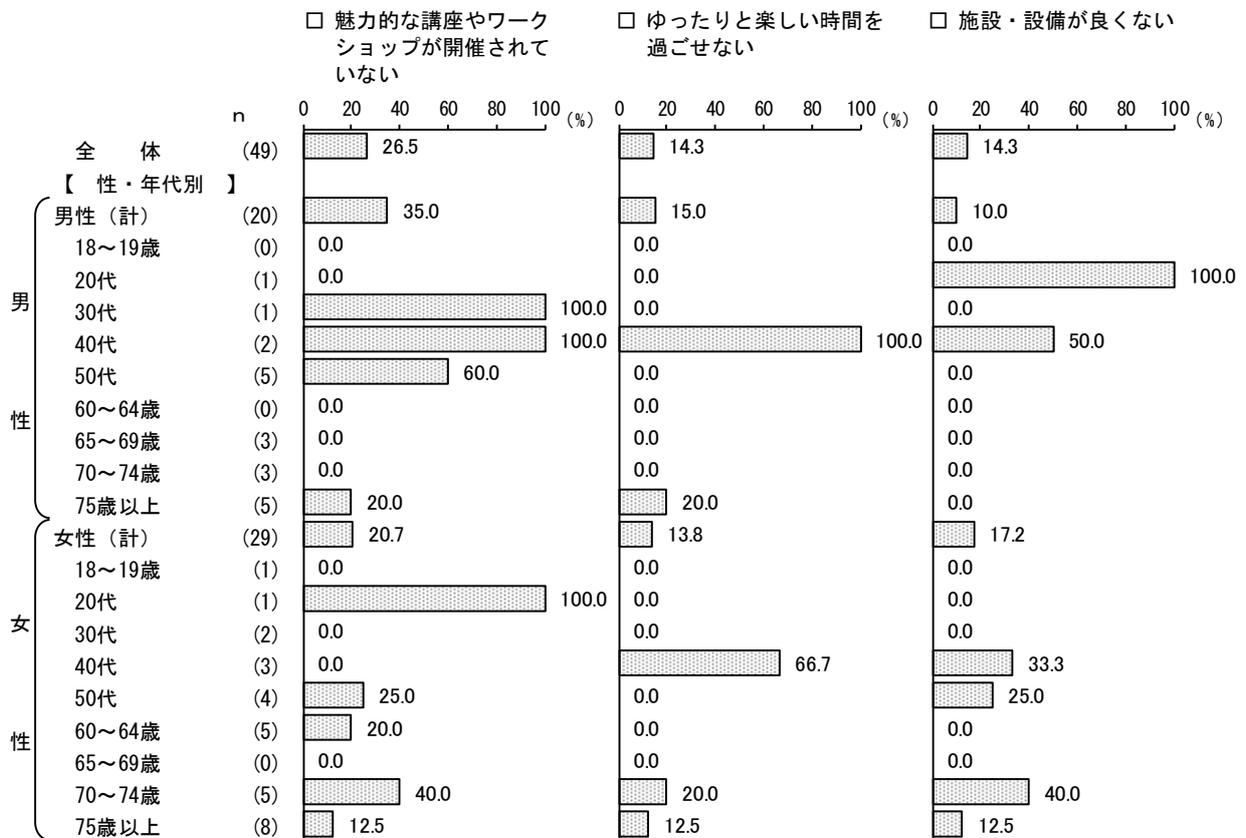
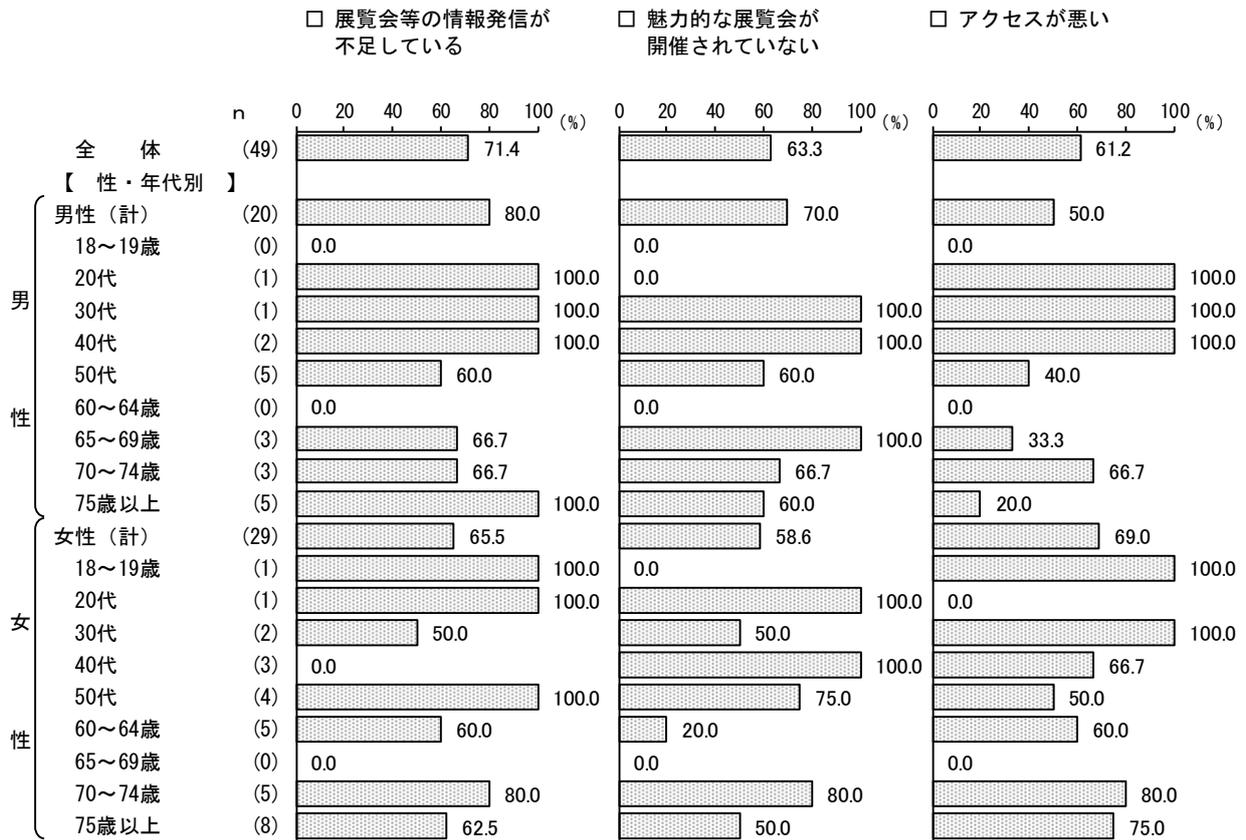
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）

（図表7－10）

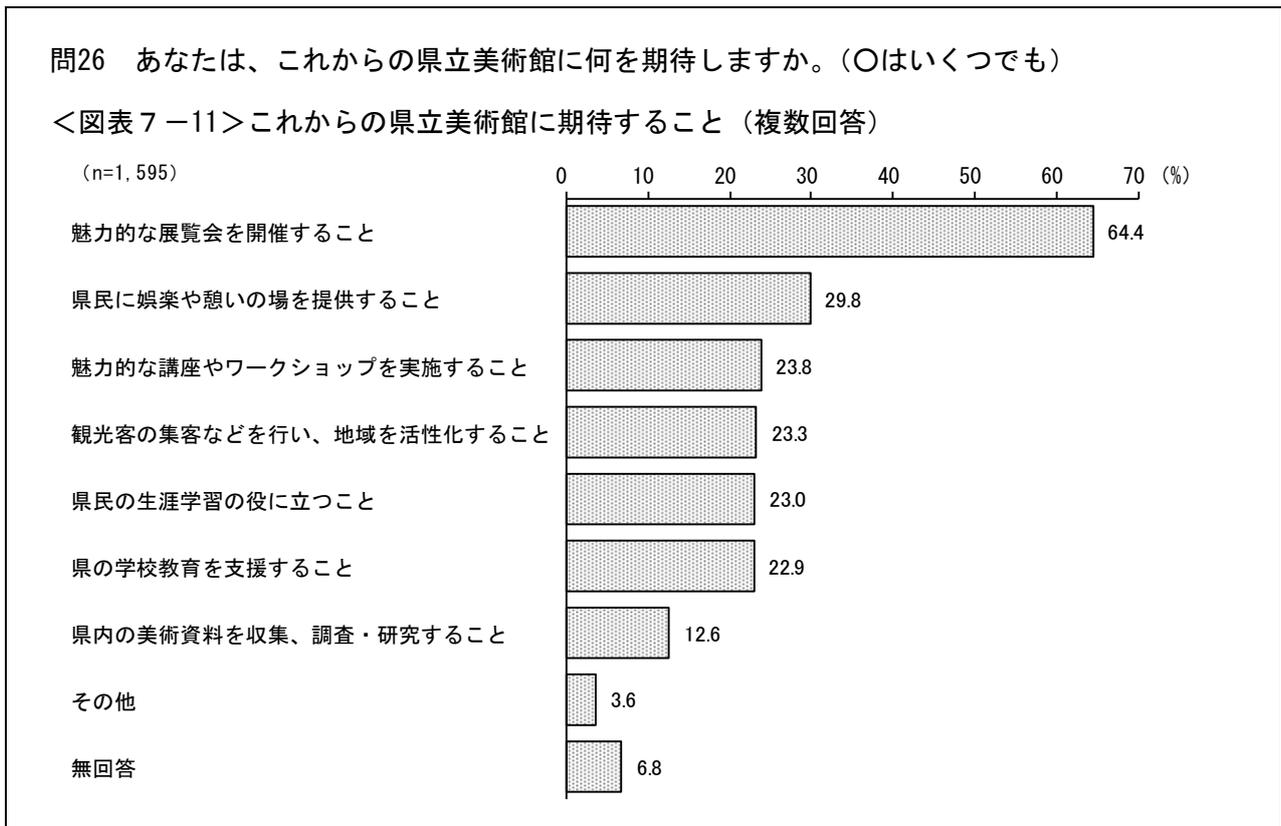
[参考] <図表7-10>満足していない理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（2）これからの県立美術館に期待すること

◇「魅力的な展覧会を開催すること」が6割台半ば



これからの県立美術館に期待することを聞いたところ、「魅力的な展覧会を開催すること」（64.4%）が6割台半ばと最も高く、以下、「県民に娯楽や憩いの場を提供すること」（29.8%）、「魅力的な講座やワークショップを実施すること」（23.8%）、「観光客の集客などを行い、地域を活性化すること」（23.3%）が続く。（図表7-11）

【地域別】

地域別にみると、「魅力的な講座やワークショップを実施すること」は“葛南地域”（28.2%）が約3割で高くなっている。

「観光客の集客などを行い、地域を活性化すること」は“山武地域”（36.2%）が3割台半ばと高くなっている。（図表7-12）

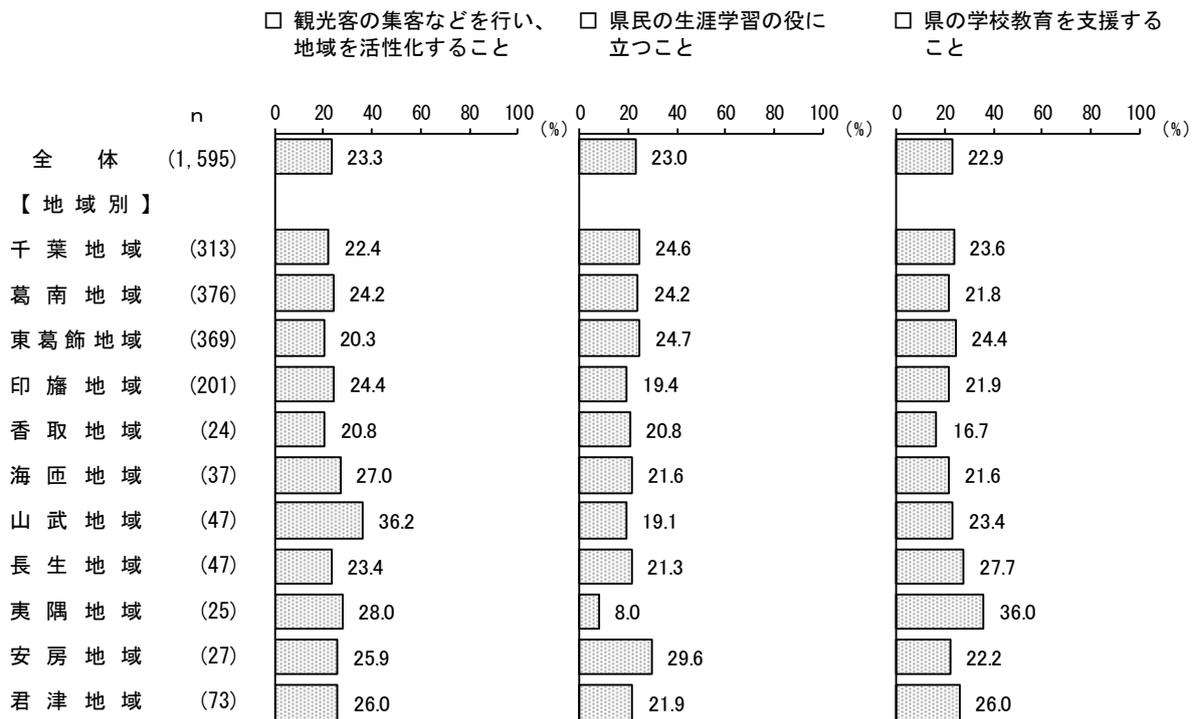
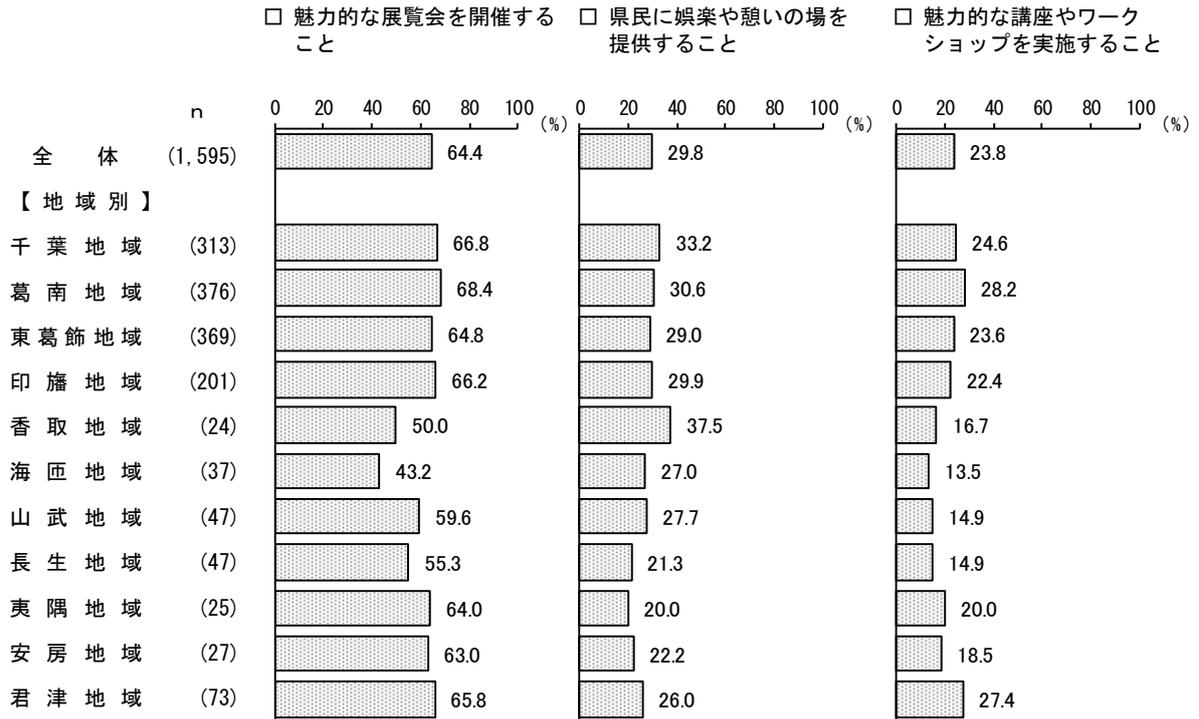
【性・年代別】

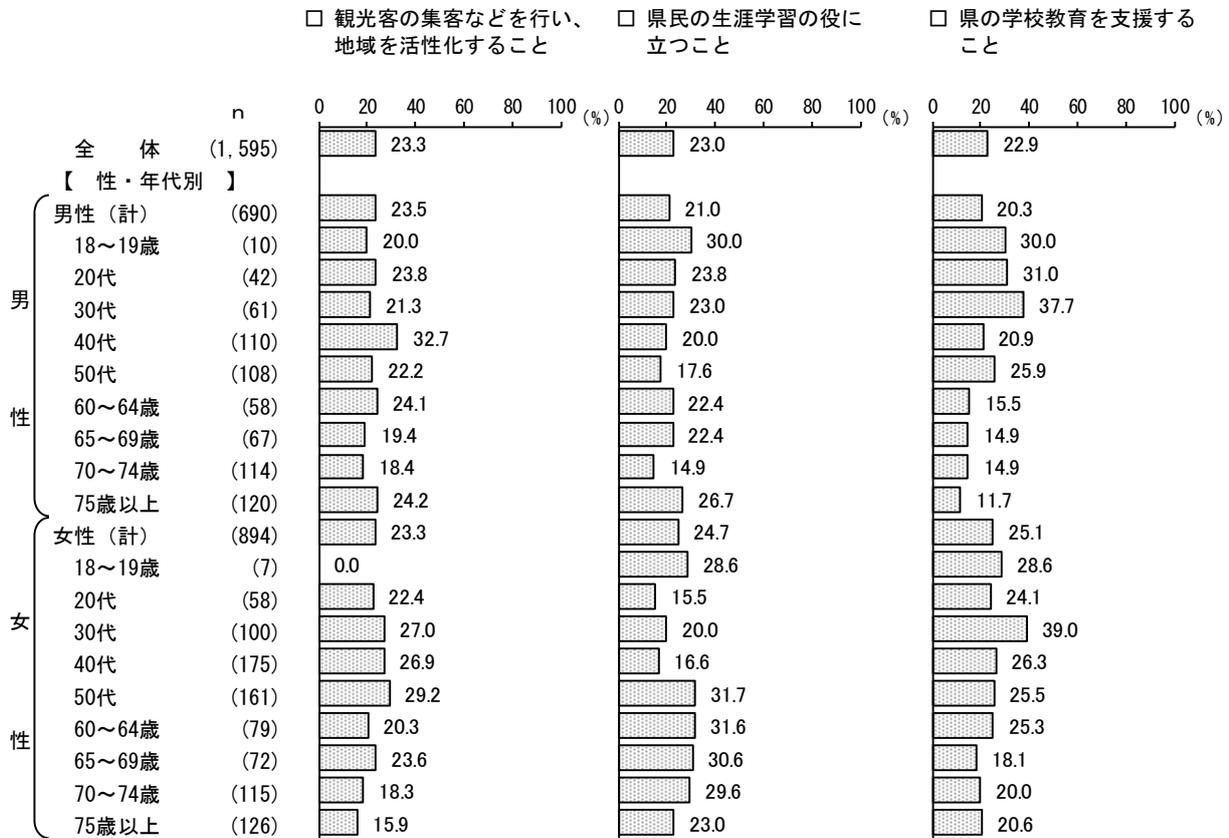
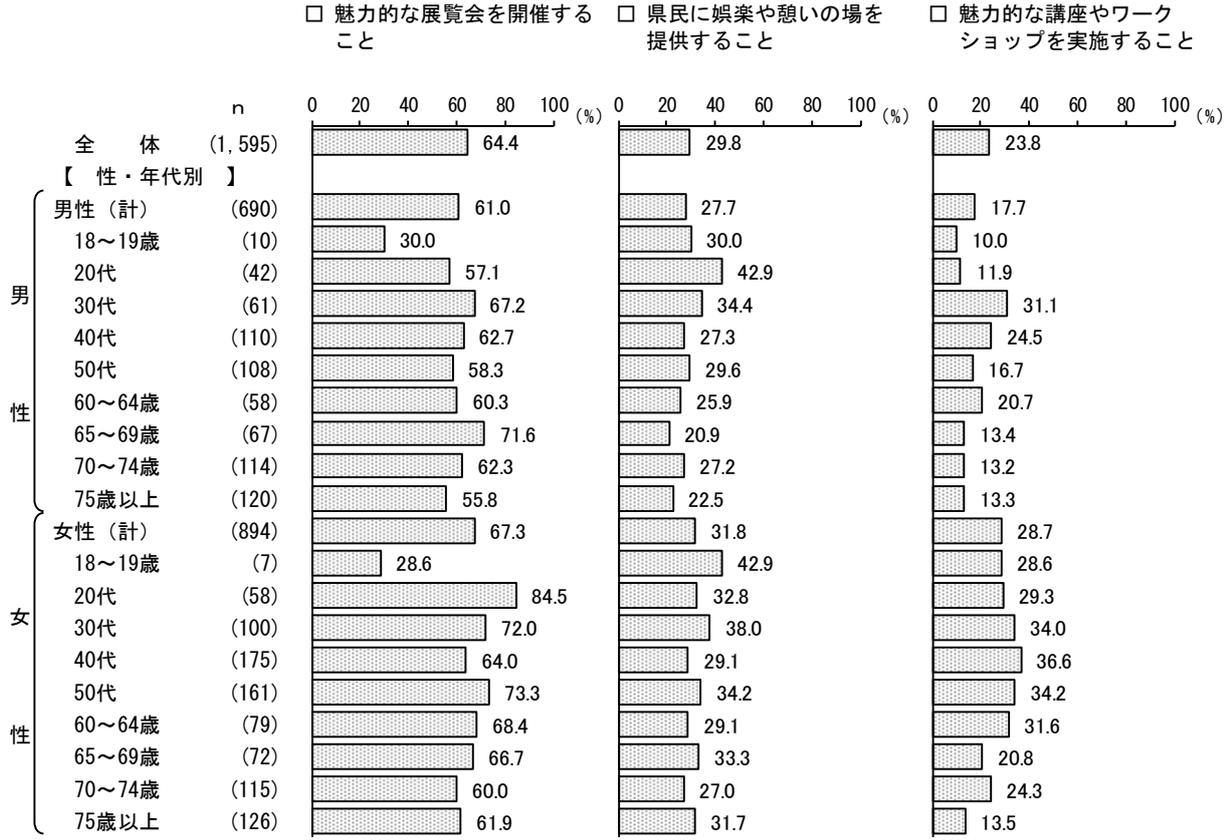
性・年代別にみると、「魅力的な展覧会を開催すること」は女性の20代（84.5%）が8割台半ば、女性の50代（73.3%）が7割を超えて高くなっている。

「魅力的な講座やワークショップを実施すること」は女性の40代（36.6%）、女性の50代（34.2%）、女性の30代（34.0%）が3割台半ばと高くなっている。

「観光客の集客などを行い、地域を活性化すること」は男性の40代（32.7%）が3割を超えて高くなっている。（図表7-12）

<図表7-12>これからの県立美術館に期待すること（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、「県立美術館について」や問25～問26について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、125人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

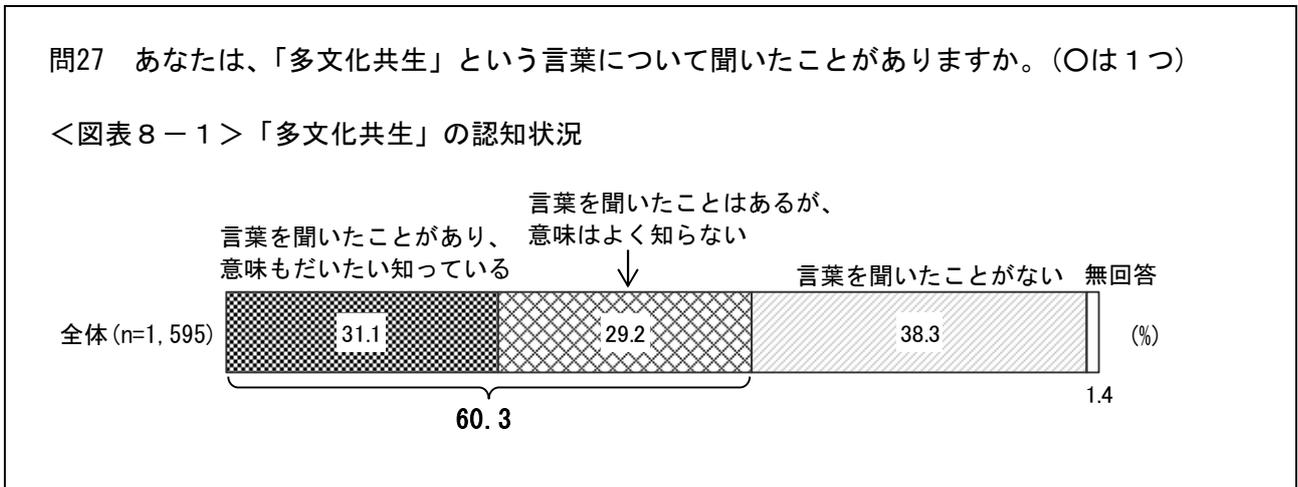
■「県立美術館について」の自由回答（抜粋）

- 美術館自体が、子ども向けのイベント、講座やワークショップをやっているところが少ないので、そこに力を入れてほしい！横浜美術館のようにやってもいいと思います。
(女性、40代、東葛飾地域)
- 何度か展覧会を見に行きましたが、「講座」や「ワークショップ」については知りませんでした。
(男性、75歳以上、安房地域)
- 現代アートや子ども参加型のワークショップがあるといい。
(男性、30代、葛南地域)
- 美術館めぐりは好きなのですが、県内の情報が少ないため、都内がどうしても行きやすい。
(女性、70～74歳、印旛地域)
- でかけるとなると上野に足が向いてしまう。月曜日は無料にするなどの工夫があればうれしい。
(女性、50代、葛南地域)
- 県に関係する人・物・コトの展示期間を長くしてほしい。市の美術館とも連携して、展示が県内の多くの場所で見られるようにしてほしい。
(女性、30代、印旛地域)
- 例えば、千葉市美術館は浮世絵や版画のコレクションで知られているが県立美術館は何が有名かまったく思いつかない。何か核になる収集品や特長のある展示が必要なのではないか。また博物館でもあまり取り上げられない県内の工芸品や郷土玩具などまとめて常時見られる展示スペースがあっても良いと思う。
(男性、60～64歳、東葛飾地域)
- 数年前に行ったがまた行きたいと思えなかった。展示物が少ないように思えました。何度も足を運びたくするような魅力的な講座、パステルアート・チョークアートなど参加型があるとうれしいです。
(女性、50代、千葉地域)
- 千葉県立美術館に今まで行ったことがありませんでした。今回調査項目に入っていたためどんな美術館なのだろうと初めてHPを見てみましたがとても素敵な美術館ですね。現在開催中の「江口寿史イラストレーション展」も魅力的です。コロナが落ち着いたら出かけてみたいと思います。
(女性、40代、印旛地域)
- 自家用車を持たない者にとって、交通の便があまり良くない事が多く利用しない大きな要因です。市立美術館の方が利用しやすい。
(男性、70～74歳、千葉地域)

8 多文化共生社会の推進について

(1) 「多文化共生」の認知状況

◇『聞いたことがある（計）』が6割



「多文化共生」という言葉について聞いたことがあるかを聞いたところ、「言葉を聞いたことがあり、意味もだいたい知っている」（31.1%）と「言葉を聞いたことはあるが、意味はよく知らない」（29.2%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（60.3%）が6割となっている。

一方、「言葉を聞いたことがない」（38.3%）が約4割となっている。（図表8-1）

【地域別】

地域別にみると、「言葉を聞いたことがあり、意味もだいたい知っている」は“東葛飾地域”（36.0%）が3割台半ばと高くなっている。

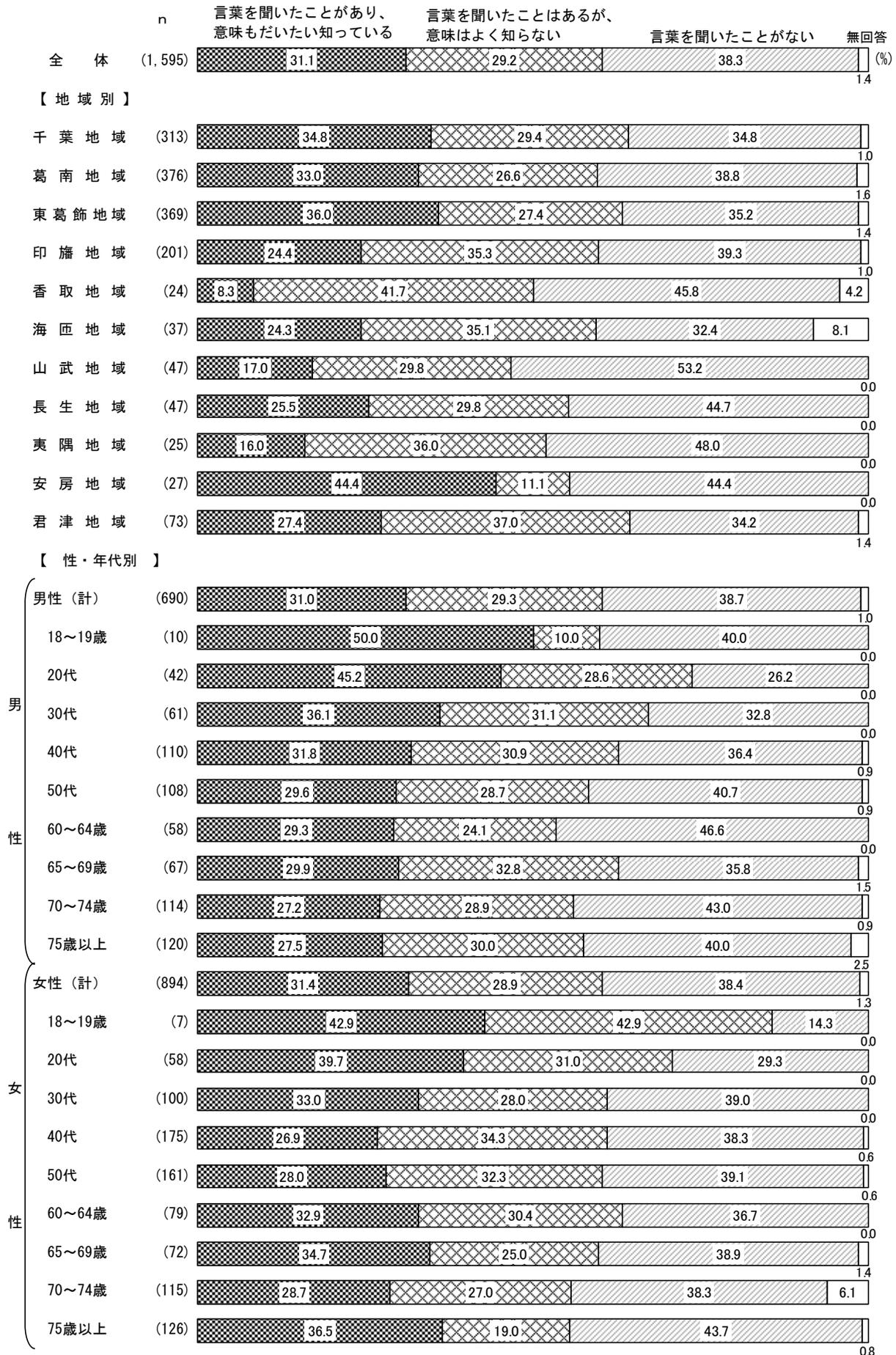
一方、「言葉を聞いたことがない」は“山武地域”（53.2%）が5割を超えて高くなっている。

（図表8-2）

【性・年代別】

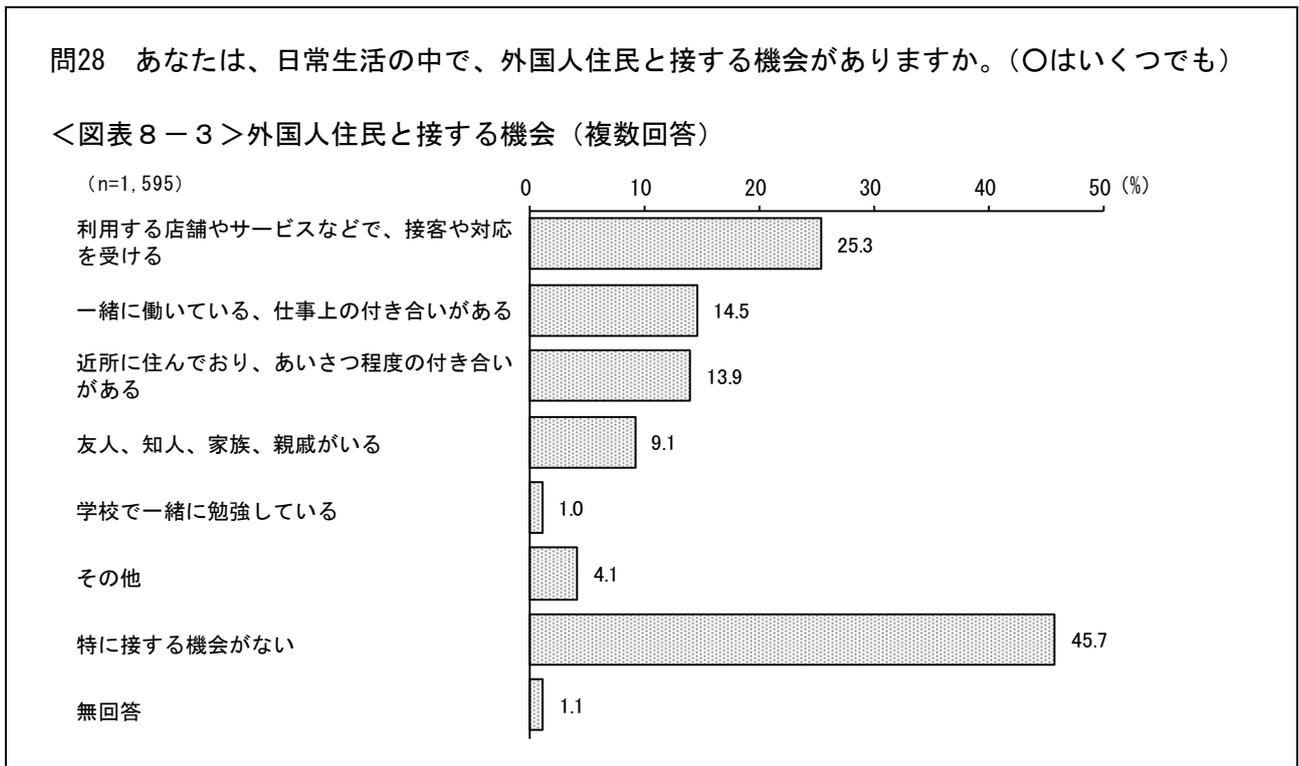
性・年代別にみると、「言葉を聞いたことがあり、意味もだいたい知っている」は男性の20代（45.2%）が4割台半ばと高くなっている。（図表8-2）

<図表8-2> 「多文化共生」の認知状況／地域別、性・年代別



（2）外国人住民と接する機会

◇「利用する店舗やサービスなどで、接客や対応を受ける」が2割台半ば



外国人住民と接する機会を聞いたところ、「利用する店舗やサービスなどで、接客や対応を受ける」(25.3%)が2割台半ばと最も高く、以下、「一緒に働いている、仕事上の付き合いがある」(14.5%)、「近所に住んでおり、あいさつ程度の付き合いがある」(13.9%)が続く。

一方、「特に接する機会がない」(45.7%)が4割台半ばとなっている。(図表8-3)

【地域別】

地域別にみると、「利用する店舗やサービスなどで、接客や対応を受ける」は“千葉地域”(30.7%)が3割で高くなっている。

一方、「特に接する機会がない」は“海匝地域”(62.2%)が6割を超え、“君津地域”(58.9%)が約6割で高くなっている。(図表8-4)

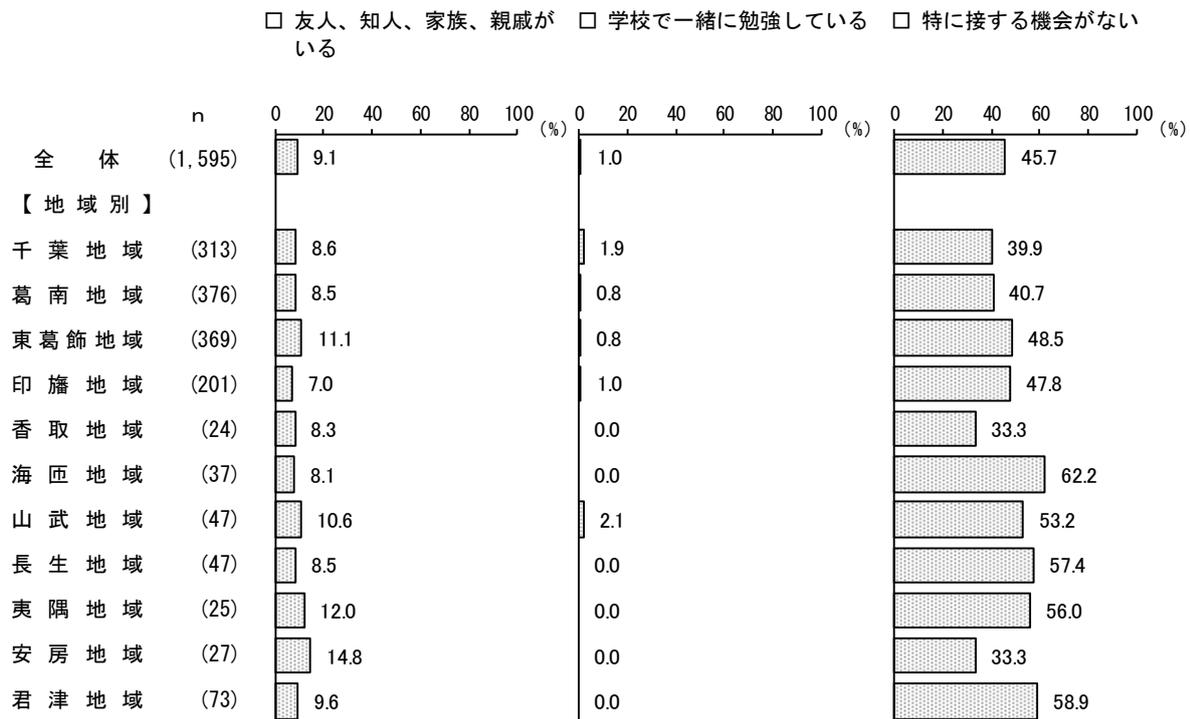
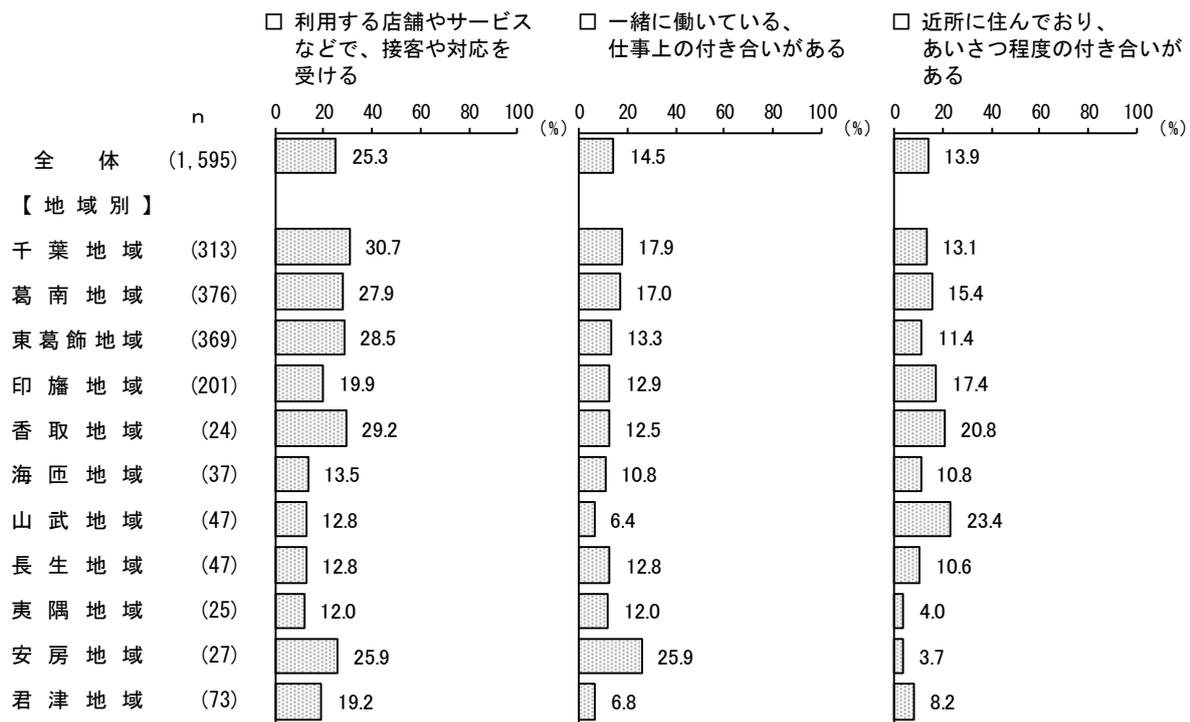
【性・年代別】

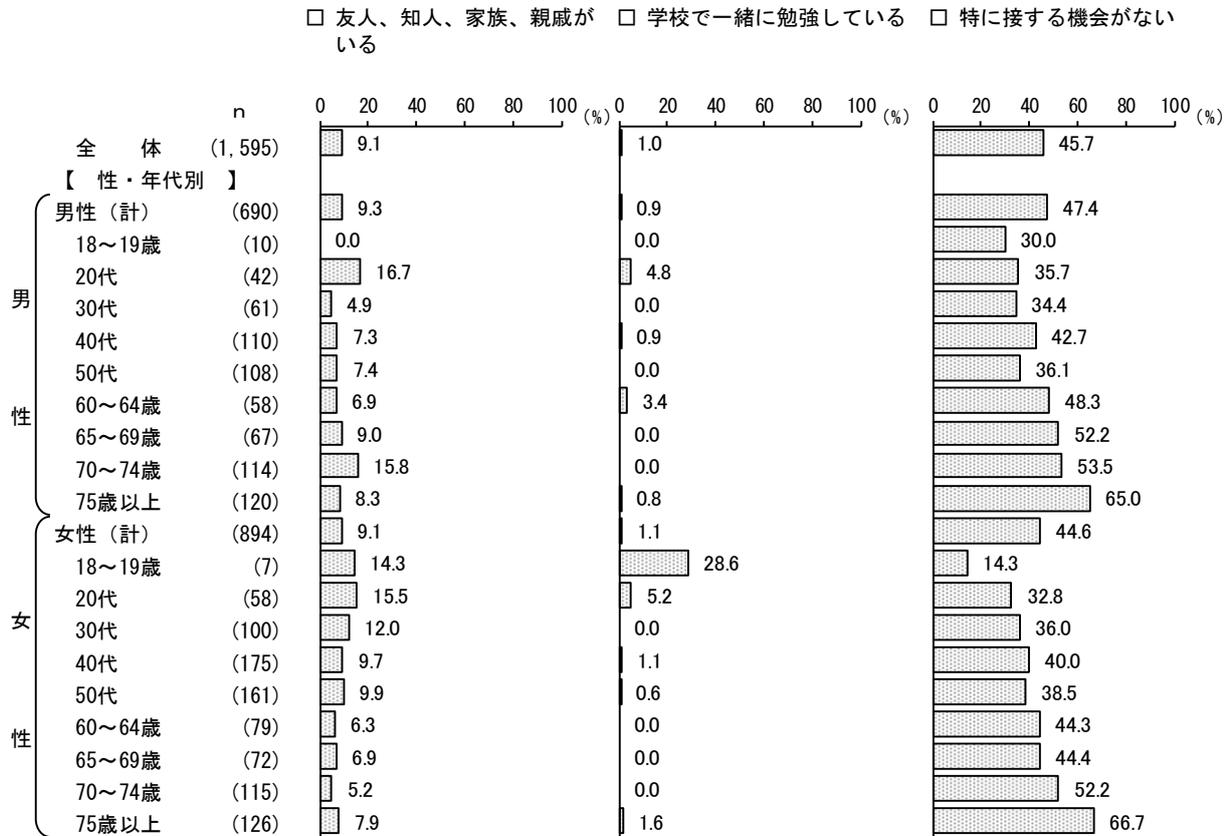
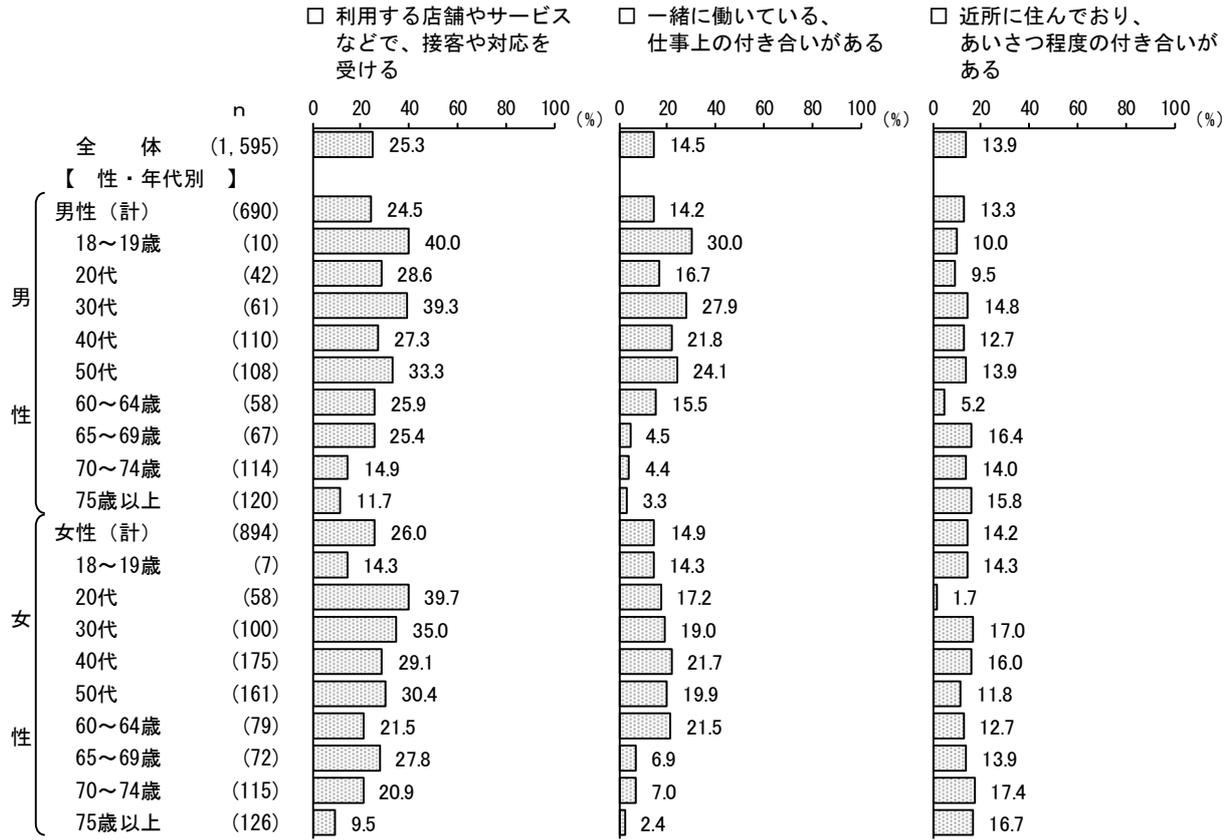
性・年代別にみると「利用する店舗やサービスなどで、接客や対応を受ける」は女性の20代(39.7%)と男性の30代(39.3%)が約4割、女性の30代(35.0%)が3割台半ば、男性の50代(33.3%)が3割を超えて高くなっている。

「一緒に働いている、仕事上の付き合いがある」は男性の30代(27.9%)が約3割、男性の50代(24.1%)が2割台半ば、男性の40代(21.8%)と女性の40代(21.7%)が2割を超え、女性の50代(19.9%)が約2割で高くなっている。

一方、「特に接する機会がない」は女性の75歳以上(66.7%)と男性の75歳以上(65.0%)が6割台半ばと高くなっている。(図表8-4)

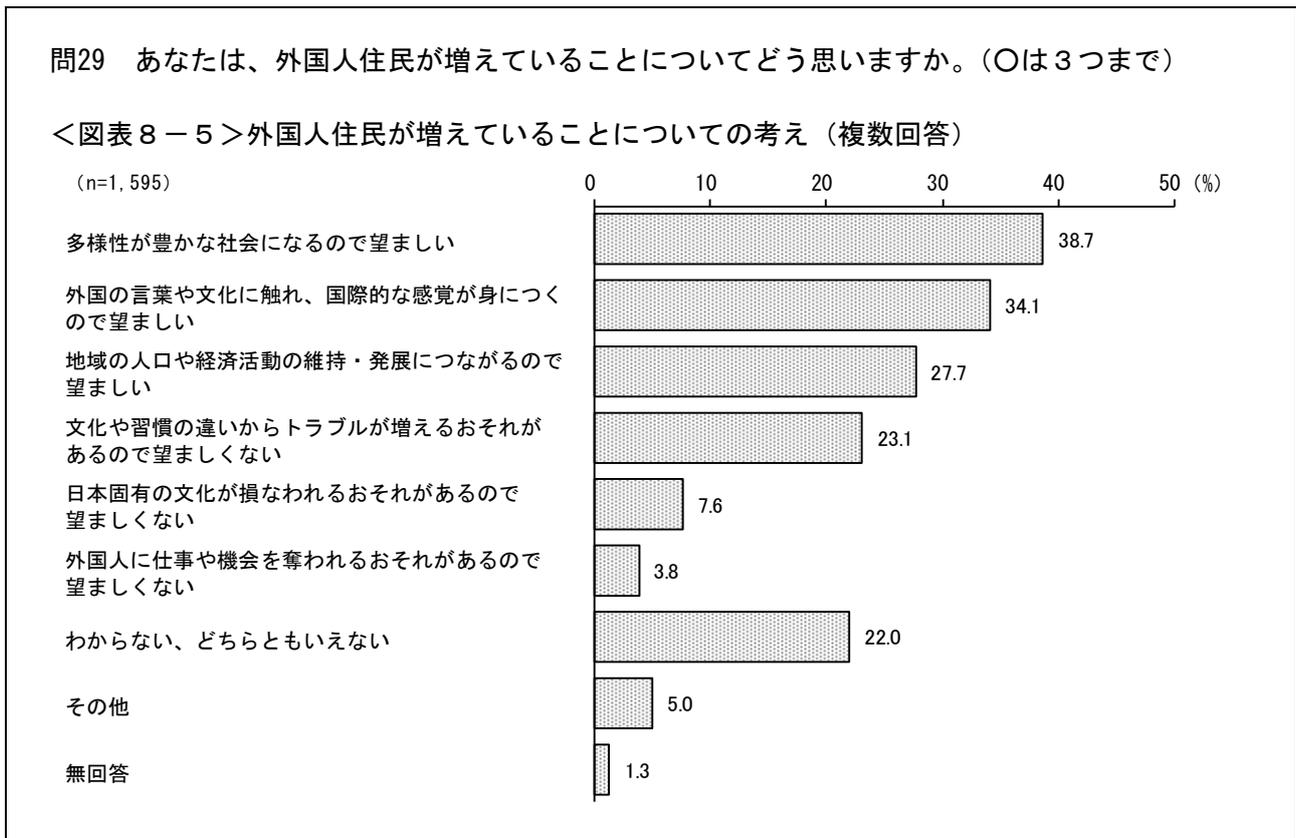
<図表8-4>外国人住民と接する機会（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（3）外国人住民が増えていることについての考え

◇「多様性が豊かな社会になるので望ましい」が約4割



外国人住民が増えていることについての考えを聞いたところ、「多様性が豊かな社会になるので望ましい」（38.7%）が約4割で最も高く、以下、「外国の言葉や文化に触れ、国際的な感覚が身につくので望ましい」（34.1%）、「地域の人口や経済活動の維持・発展につながるので望ましい」（27.7%）、「文化や習慣の違いからトラブルが増えるおそれがあるので望ましくない」（23.1%）が続く。（図表8-5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表8-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると「多様性が豊かな社会になるので望ましい」は女性の20代（53.4%）が5割を超え、女性の30代（48.0%）が約5割で高くなっている。

「外国の言葉や文化に触れ、国際的な感覚が身につくので望ましい」は女性の30代（51.0%）が5割を超えて高くなっている。

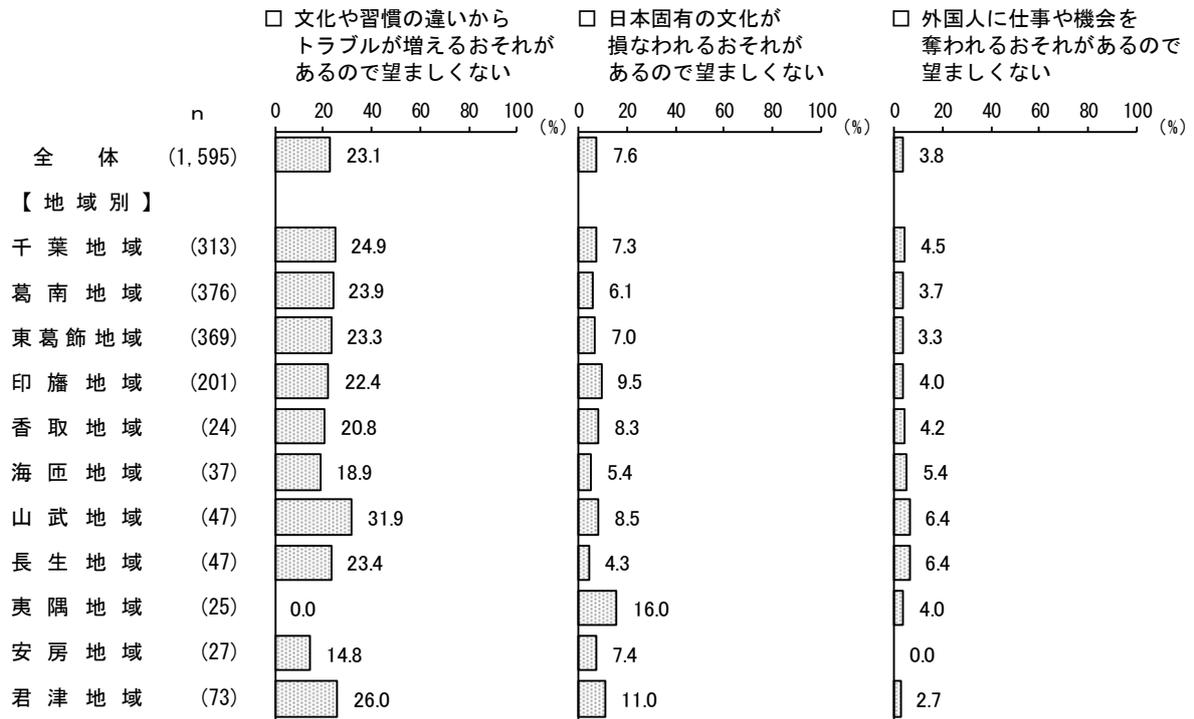
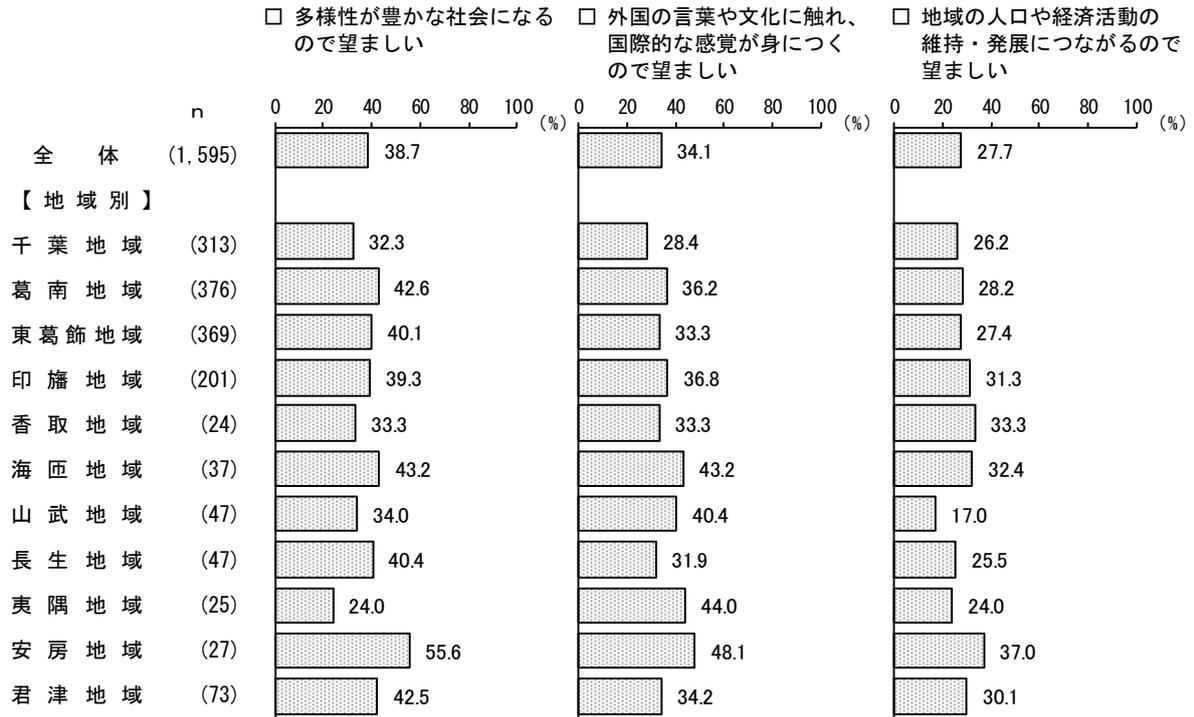
「地域の人口や経済活動の維持・発展につながるので望ましい」は男性の70～74歳（38.6%）が約4割で高くなっている。

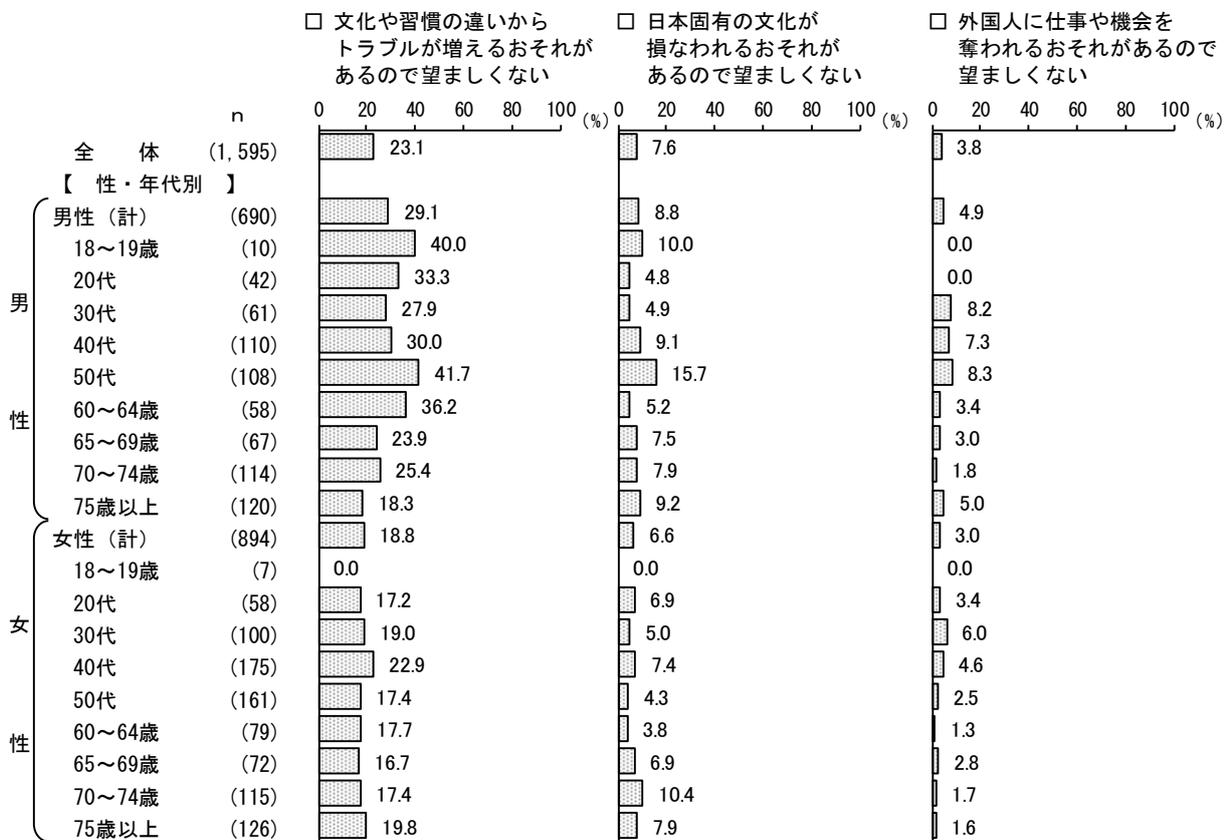
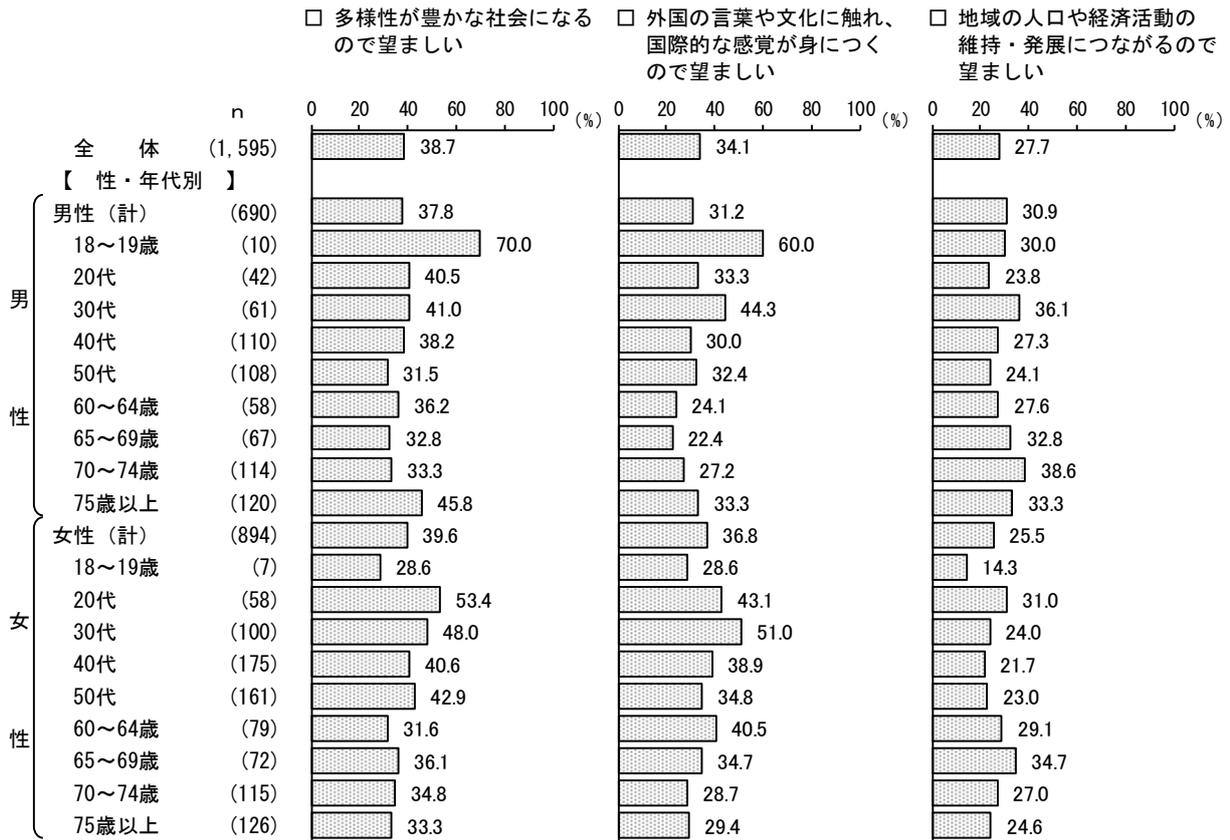
「文化や習慣の違いからトラブルが増えるおそれがあるので望ましくない」は男性の50代（41.7%）が4割を超え、男性の60～64歳（36.2%）が3割台半ばと高くなっている。

（図表8-6）

<図表8-6>外国人住民が増えていることについての考え（複数回答）

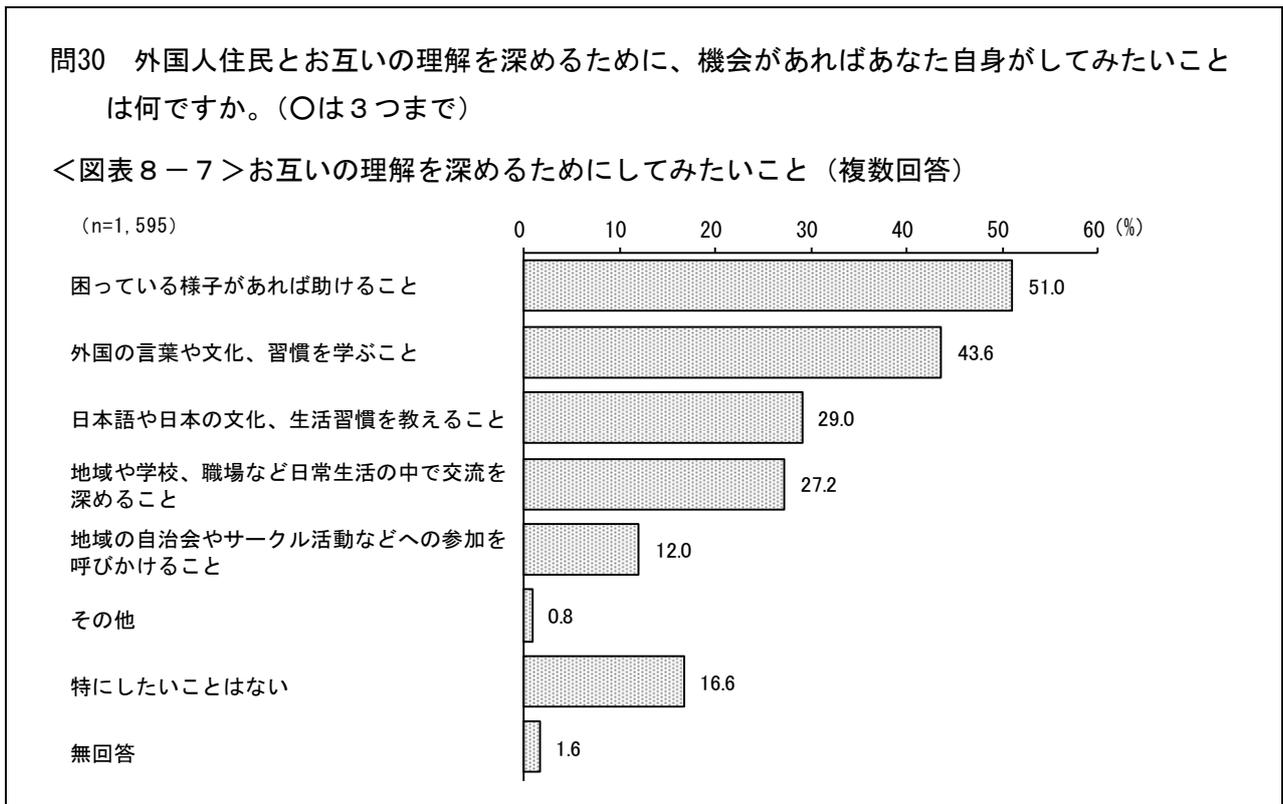
／地域別、性・年代別（上位6項目）





（４）お互いの理解を深めるためにしてみたいこと

◇「困っている様子があれば助けること」が5割を超える



お互いの理解を深めるためにしてみたいことについて聞いたところ、「困っている様子があれば助けること」(51.0%)が5割を超えて最も高く、以下、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶこと」(43.6%)、「日本語や日本の文化、生活習慣を教えること」(29.0%)、「地域や学校、職場など日常生活の中で交流を深めること」(27.2%)が続く。(図表8-7)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表8-8)

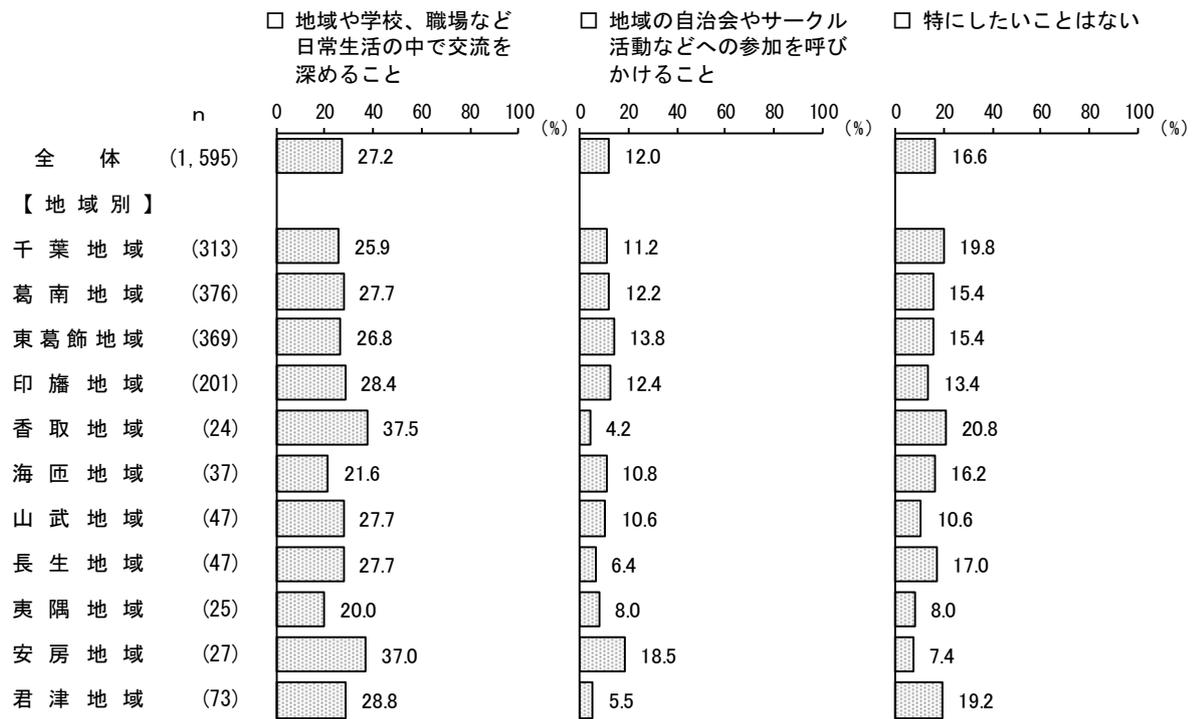
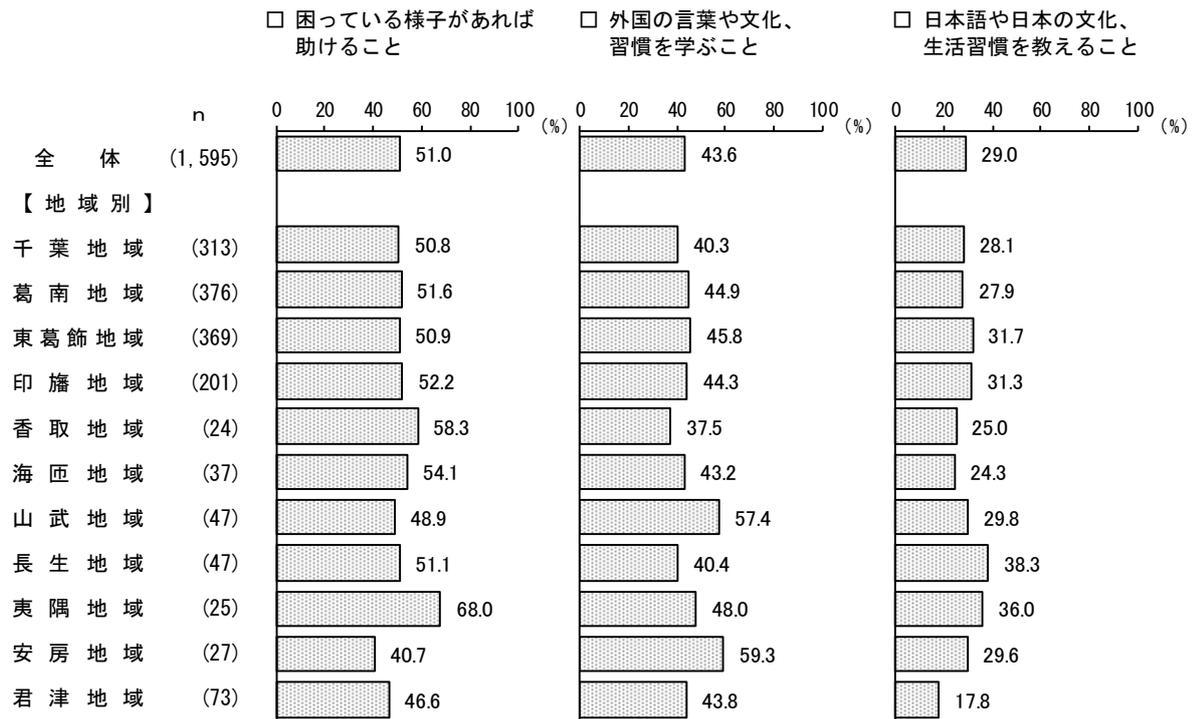
【性・年代別】

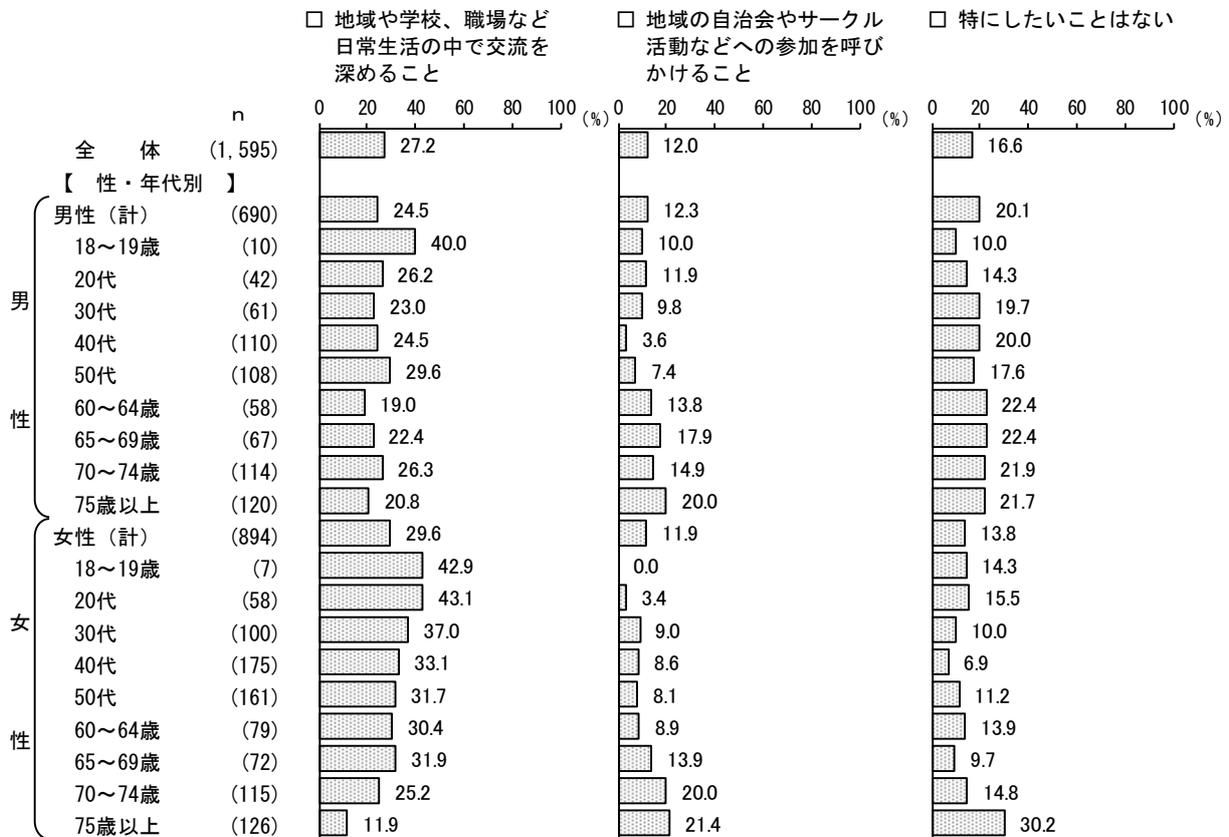
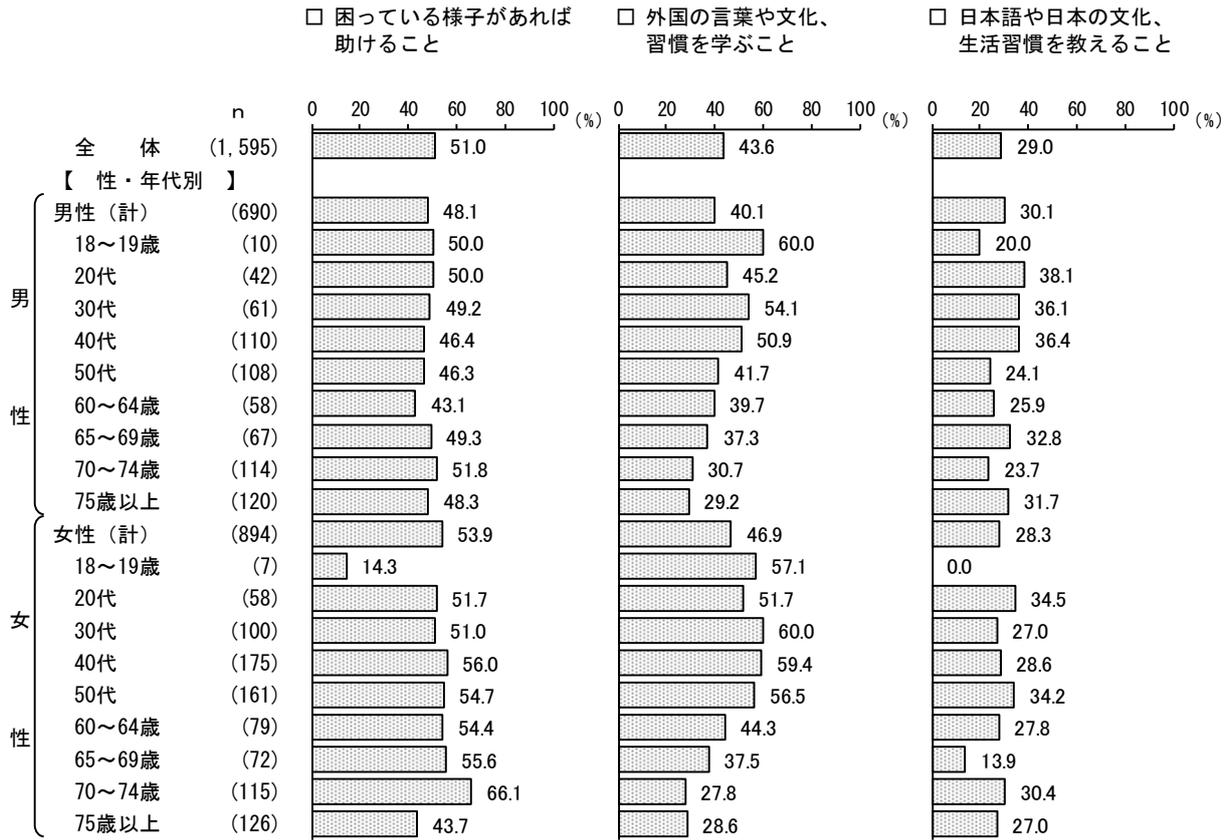
性・年代別にみると「困っている様子があれば助けること」は女性の70～74歳(66.1%)が6割台半ばと高くなっている。

「外国の言葉や文化、習慣を学ぶこと」は女性の30代(60.0%)が6割、女性の40代(59.4%)が約6割、女性の50代(56.5%)が5割台半ばと高くなっている。

「地域や学校、職場など日常生活の中で交流を深めること」は女性の20代(43.1%)が4割を超え、女性の30代(37.0%)が約4割で高くなっている。(図表8-8)

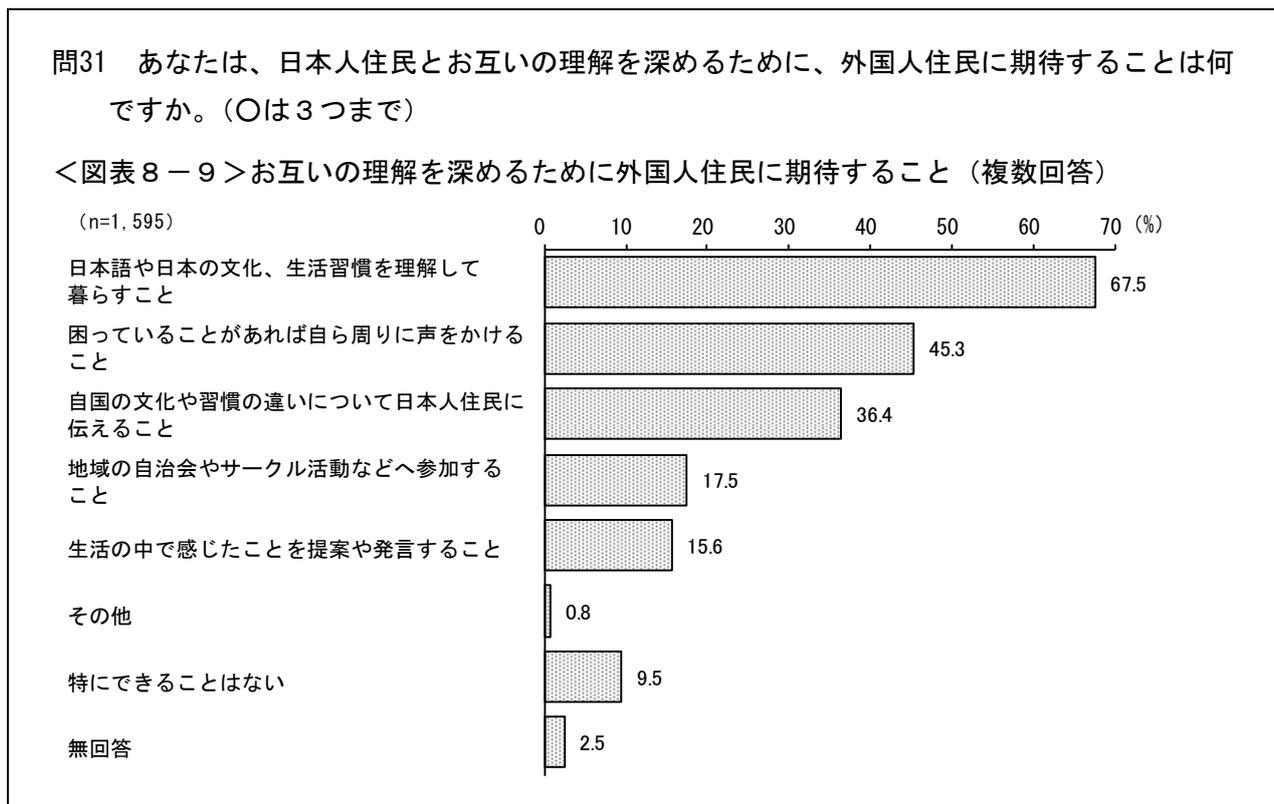
＜図表8－8＞お互いの理解を深めるためにしてみたいこと（複数回答）／地域別、性・年代別





（5）お互いの理解を深めるために外国人住民に期待すること

◇「日本語や日本の文化、生活習慣を理解して暮らすこと」が約7割



お互いの理解を深めるために外国人住民に期待することを聞いたところ、「日本語や日本の文化、生活習慣を理解して暮らすこと」（67.5%）が約7割で最も高く、以下、「困っていることがあれば自ら周りに声をかけること」（45.3%）、「自国の文化や習慣の違いについて日本人住民に伝えること」（36.4%）が続く。（図表8－9）

【地域別】

地域別にみると、「日本語や日本の文化、生活習慣を理解して暮らすこと」は“長生地域”（83.0%）が8割を超え、“東葛飾地域”（74.0%）が7割台半ばと高くなっている。（図表8－10）

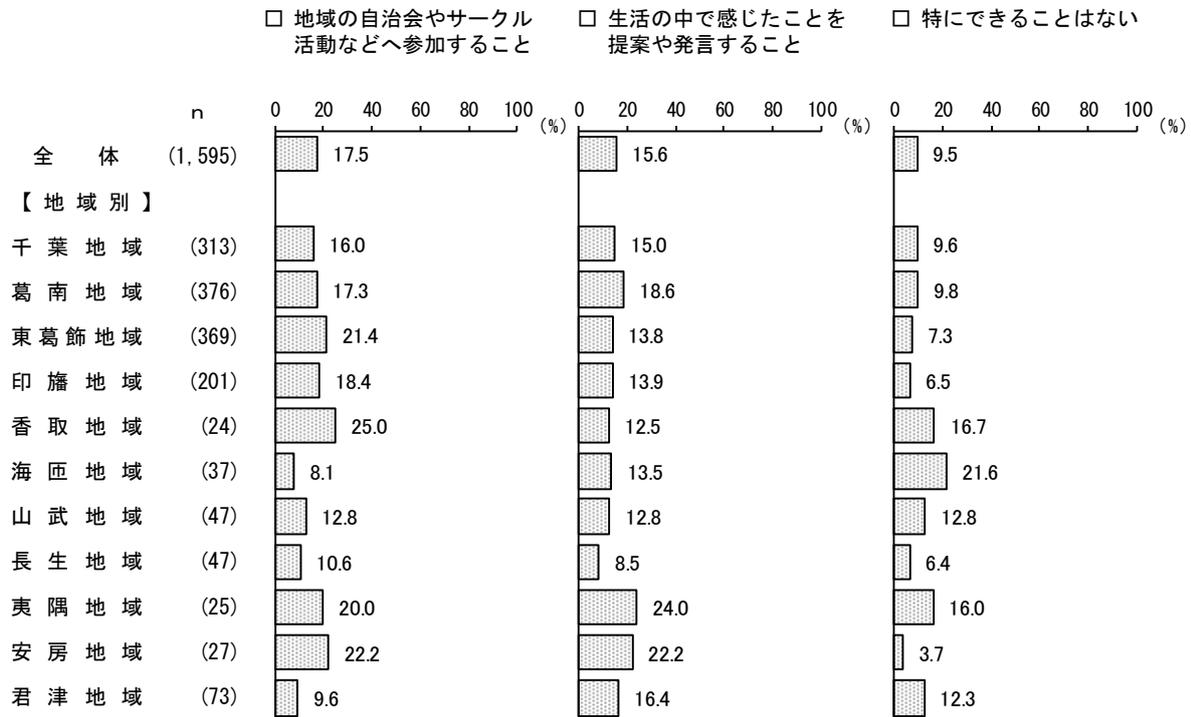
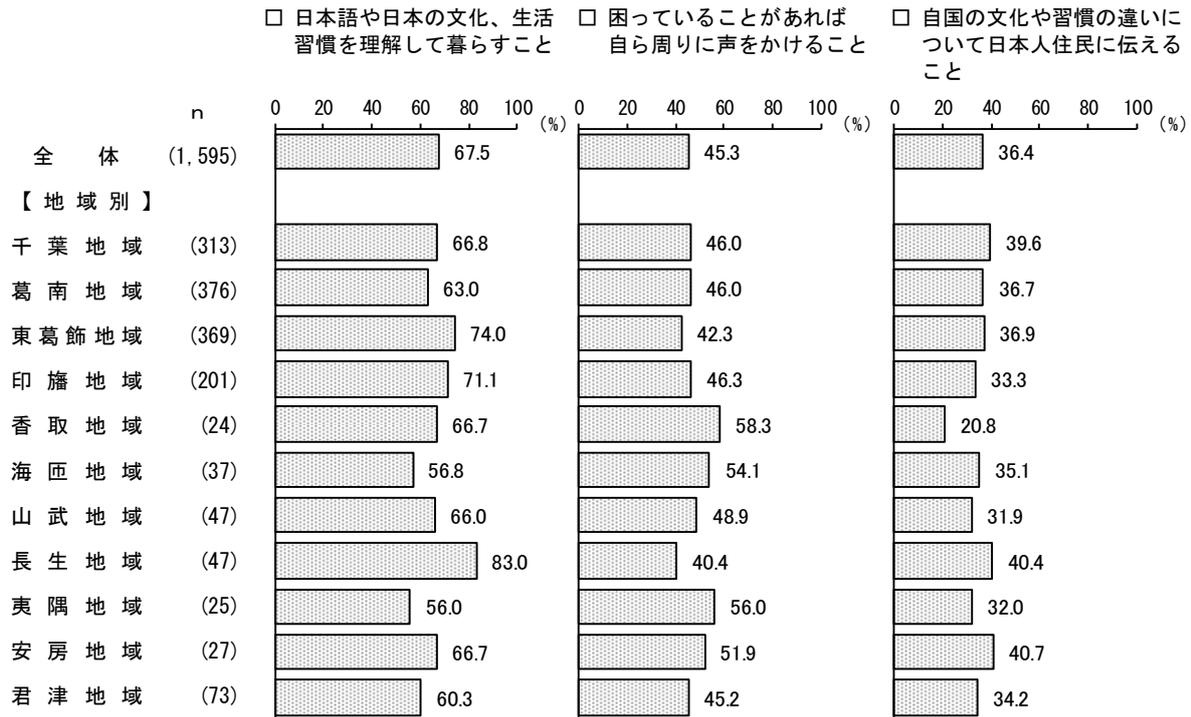
【性・年代別】

性・年代別にみると「困っていることがあれば自ら周りに声をかけること」は女性の50代（54.0%）が5割台半ばと高くなっている。

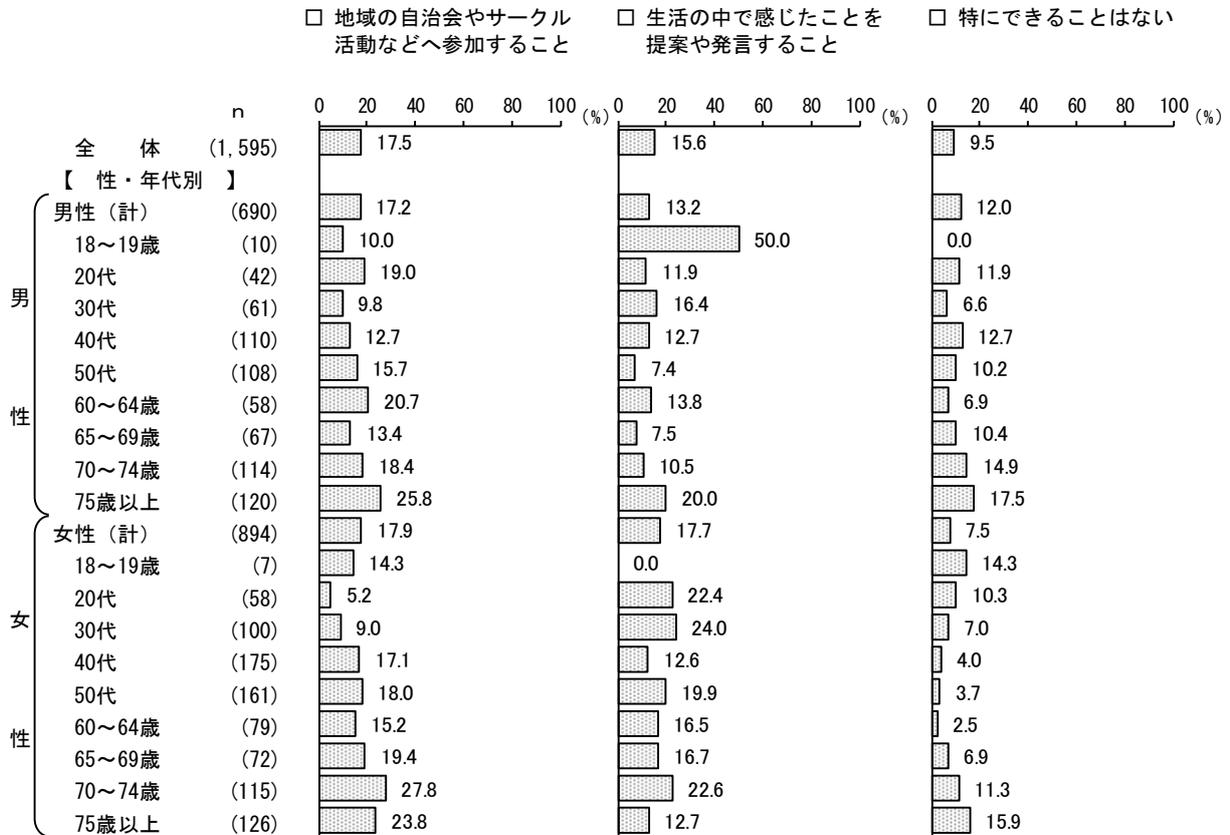
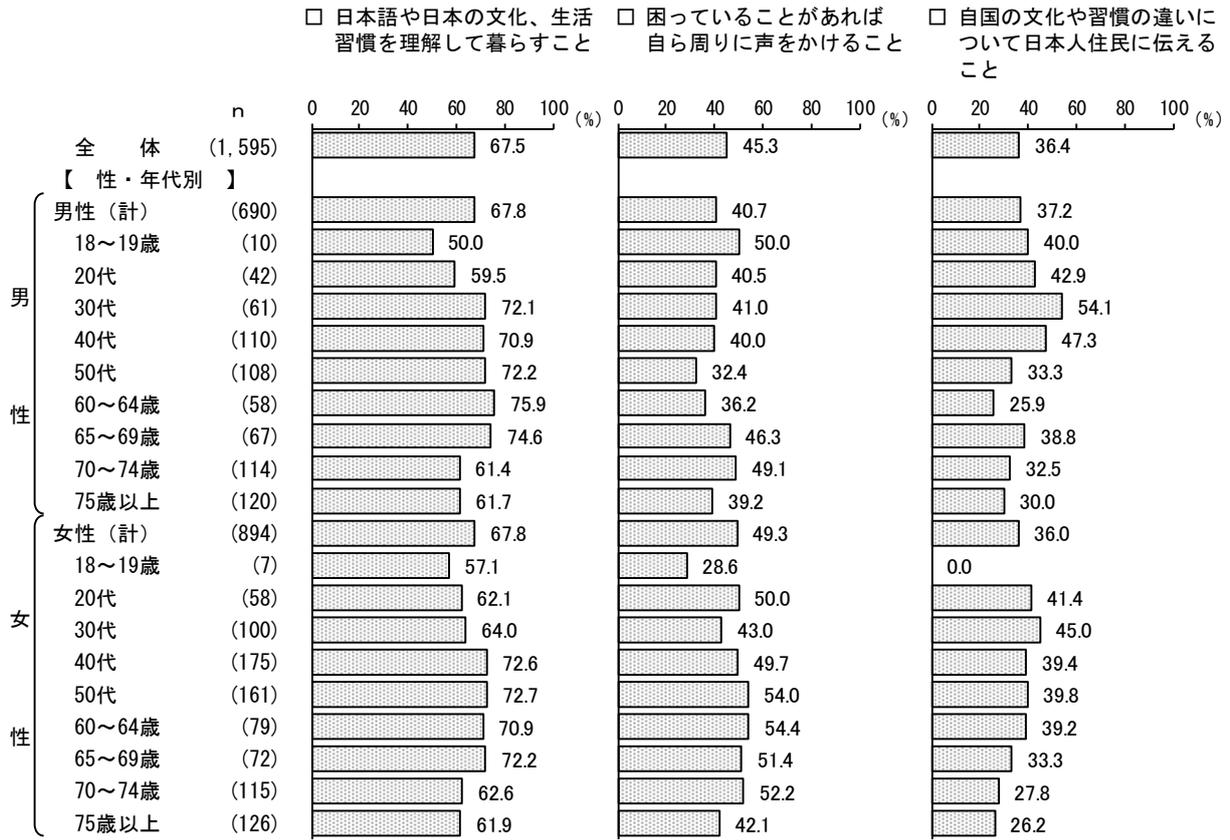
「自国の文化や習慣の違いについて日本人住民に伝えること」は男性の30代（54.1%）が5割台半ば、男性の40代（47.3%）が約5割で高くなっている。（図表8－10）

<図表8-10> お互いの理解を深めるために外国人住民に期待すること（複数回答）

／地域別、性・年代別

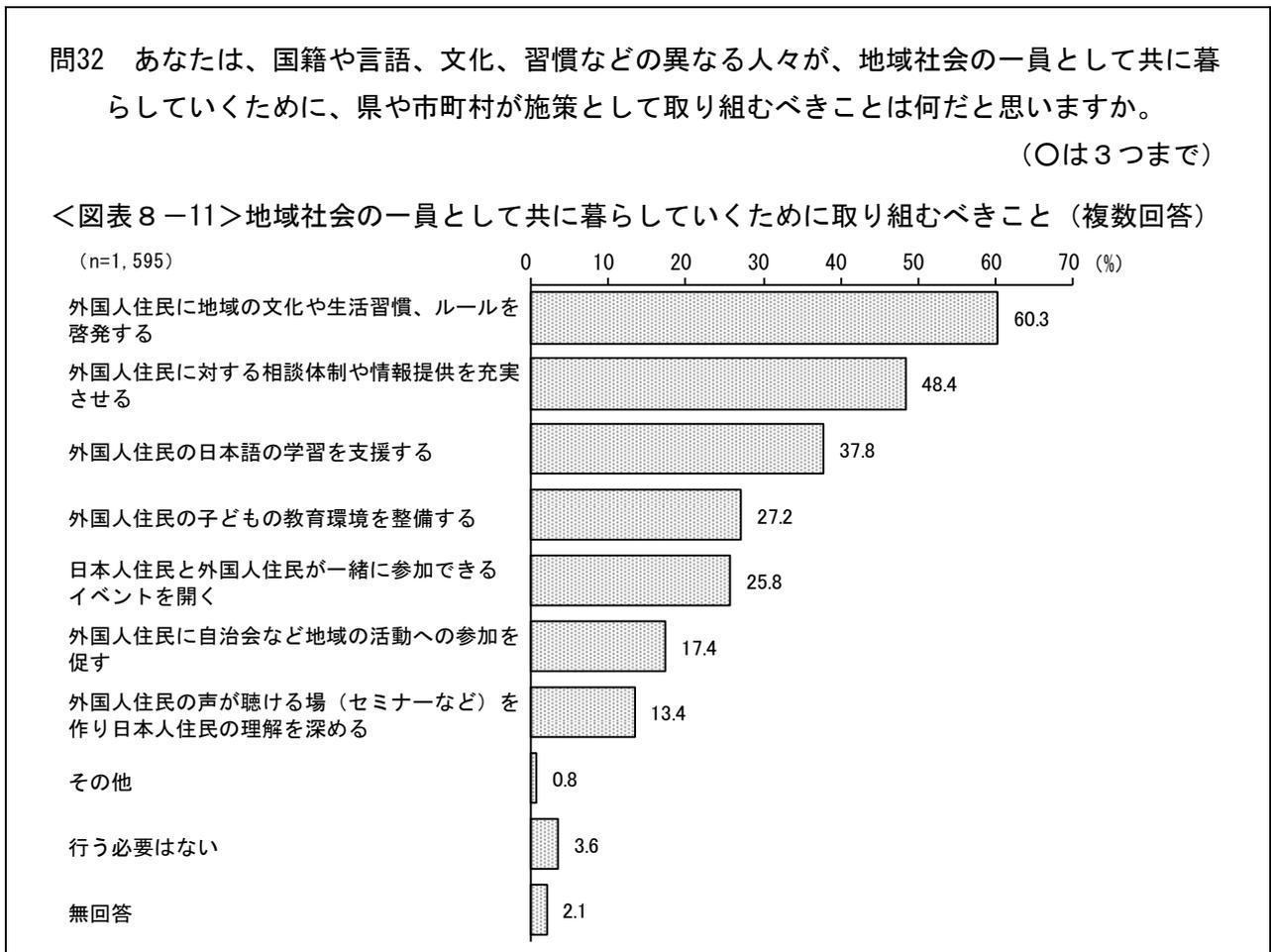


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（6）地域社会の一員として共に暮らしていくために取り組むべきこと

◇「外国人住民に地域の文化や生活習慣、ルールを啓発する」が6割



共に暮らしていくために施策として取り組むべきことについて聞いたところ、「外国人住民に地域の文化や生活習慣、ルールを啓発する」（60.3%）が6割で最も高く、以下、「外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実させる」（48.4%）、「外国人住民の日本語の学習を支援する」（37.8%）、「外国人住民の子どもの教育環境を整備する」（27.2%）が続く。（図表8-11）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表8-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると「外国人住民に地域の文化や生活習慣、ルールを啓発する」は女性の50代（67.7%）が約7割で高くなっている。

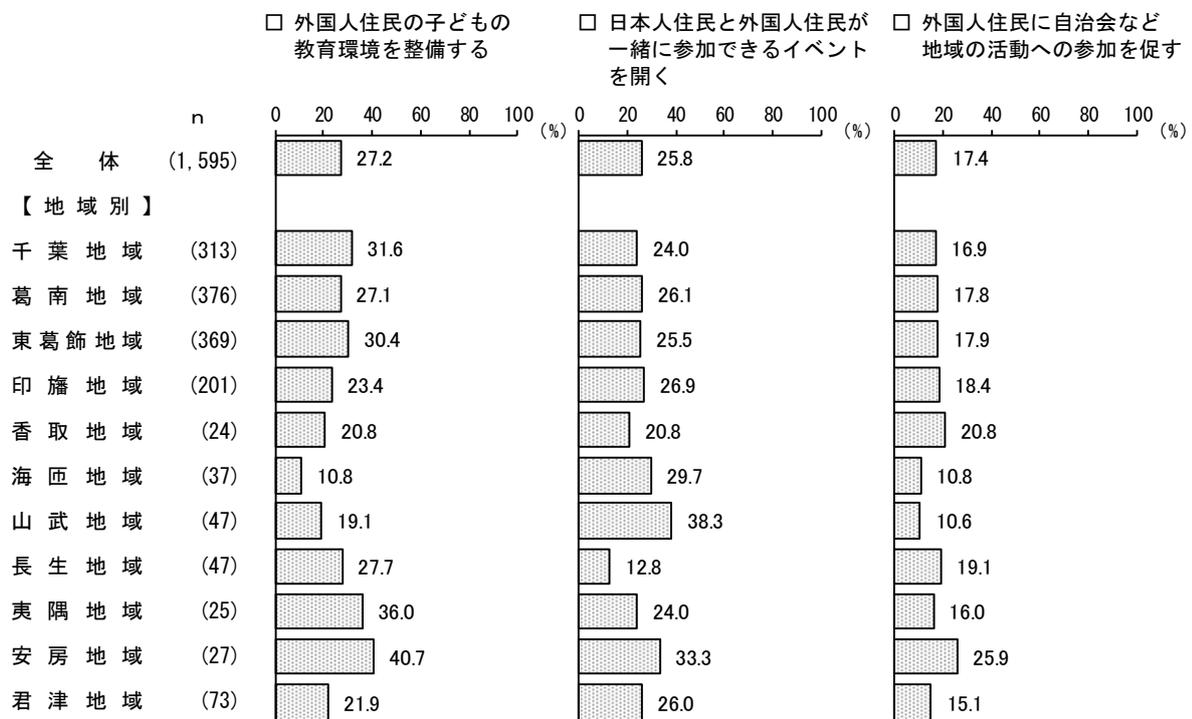
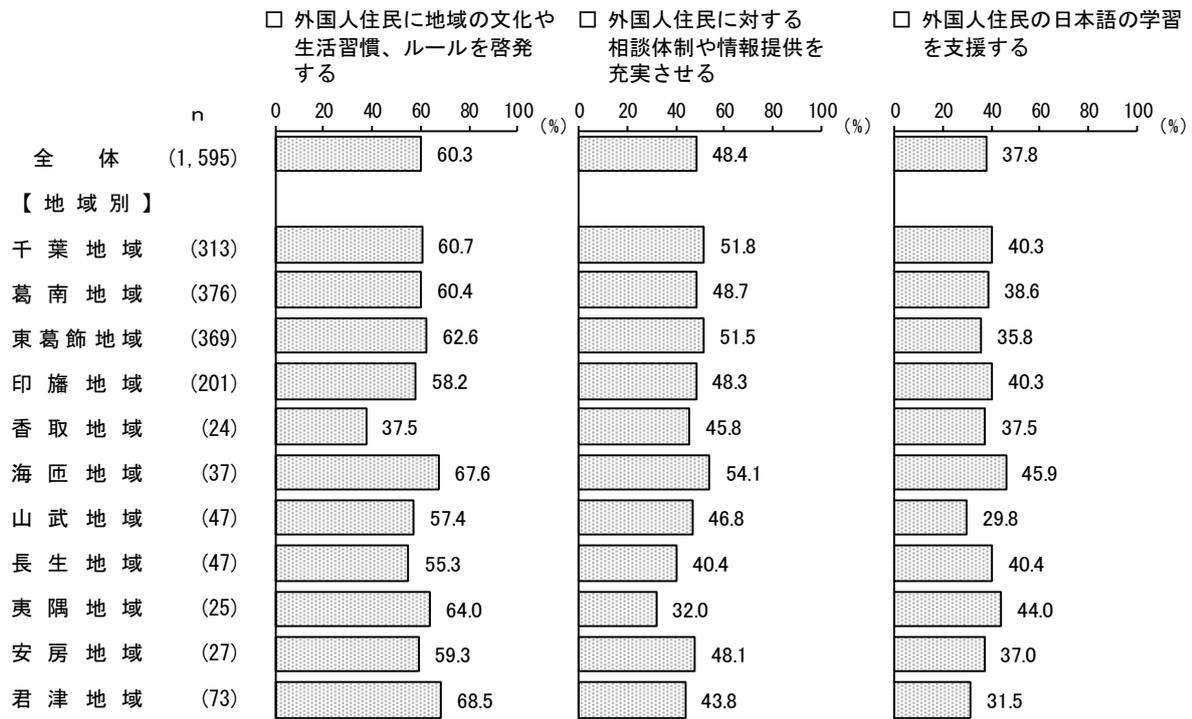
「外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実させる」は女性の50代（59.0%）が約6割で高くなっている。

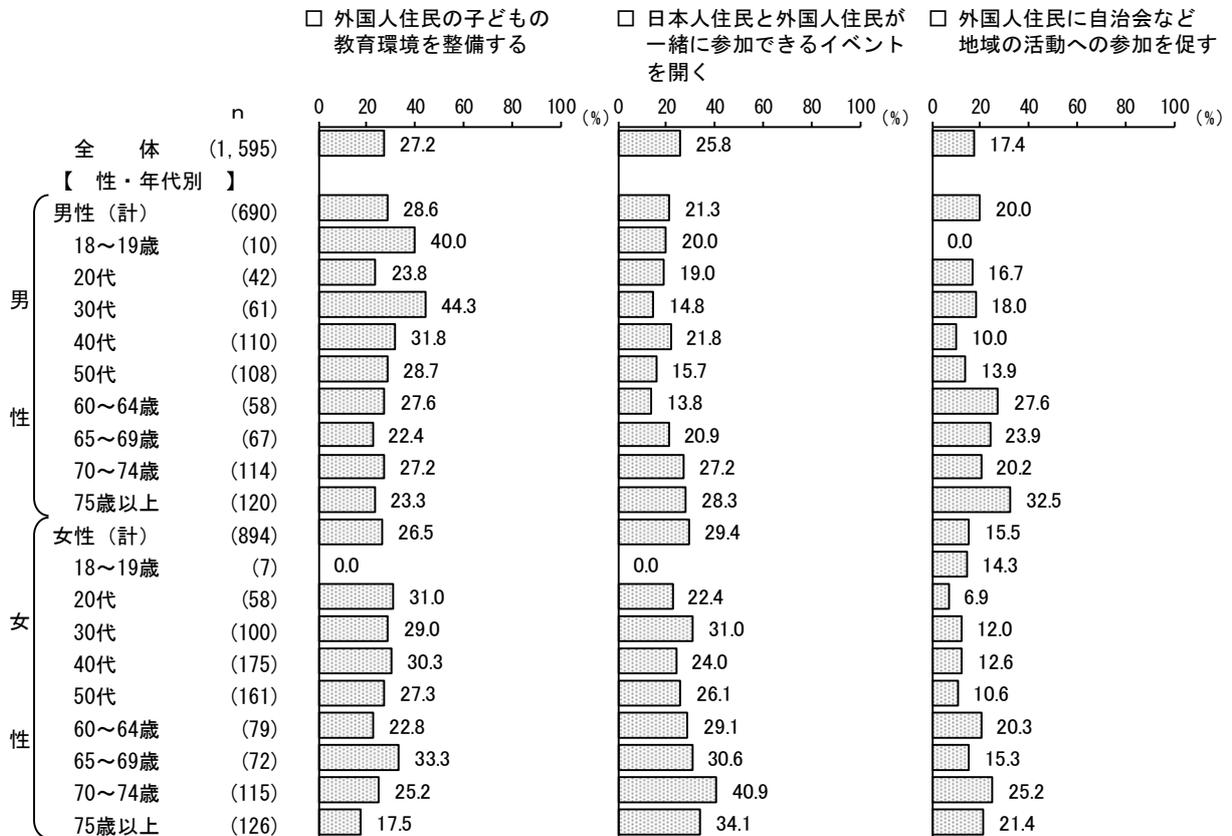
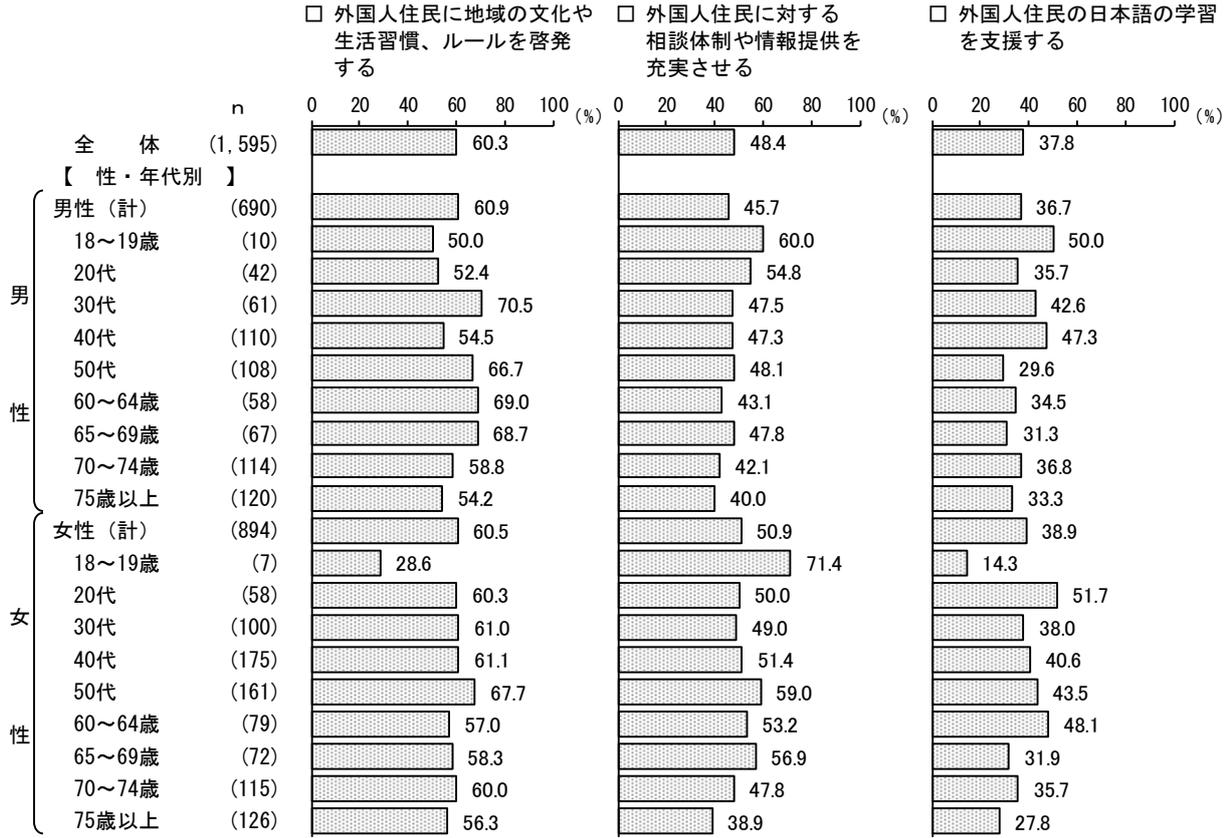
「外国人住民の日本語の学習を支援する」は女性の20代（51.7%）が5割を超え、男性の40代（47.3%）が約5割で高くなっている。

「外国人住民の子どもの教育環境を整備する」は男性の30代（44.3%）が4割台半ばと高くなっている。（図表8-12）

＜図表8-12＞地域社会の一員として共に暮らしていくために取り組むべきこと（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、外国人住民の増加に対するご意見、地域社会において相互理解を深めるためのご提案、外国人住民との交流経験やトラブルの事例などがありましたら自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、159人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「多文化共生社会の推進について」の自由回答（抜粋）

- 日本人同士でもトラブルは少なくないので、相互理解が不可欠と感じる。外国人住民と接する機会はそれなりにあるが、最低限の相互理解があれば、そうそうトラブルにはならないと思っている。（女性、30代、千葉地域）
- 日本の人口が減る中で外国人が来てくれることはありがたいと思う。反面、日本の文化やマナーを理解していないことによるトラブルもあると聞くため、相互理解が深まるようにしたい。（男性、30代、葛南地域）
- 知らないことに対して不安や恐怖を感じることは、本能なのかなと思います。しかし、外国人だからと言って怖がる必要は全くないので、どんどん相手のこと（国のことや習慣、食のこと）を教えて欲しいなと思います。そういった場があれば、自然とこちらのことも伝えることができるとおもいます。（女性、30代、東葛飾地域）
- 日本語がわからない子どもたちが日本語教育を受けられる学校をつくる。公立小・中学校に入ってきて、ある程度言葉が理解できるまでその学校で学習できるとよいと思っています。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 日本の生活に慣れるにはまず地域での決まり事（ゴミ出しのルールとか）を理解してもらう事が大切だと思います。（女性、60～64歳、葛南地域）
- 外国の方が日本の文化や生活、ルールなどを理解しやすいようなコンテンツを積極的に発信して欲しい。（女性、30代、千葉地域）
- 身近な外国人は友好的で親切だが、日本人よりも外国人を優遇する政策になっているという情報をSNSで見て不安になる事はある。（女性、20代、長生地域）
- 駅やコンビニのまわりで多人数で大声での会話を見かける。異国に来て不安なものわかるが、違和感があり少し不安になる。（男性、60～64歳、葛南地域）
- 「多文化共生」は必要な事とは思いますが、外国人住民を見ていると自分の事のみ主張して、何かあると「文化の違い」「言葉が解らない」等と、地域のルールを理解しようとしにくい人が多い。（男性、70～74歳、千葉地域）
- 人によると思います。日本人だから安心、外国人だから不安と言う事は無いです。私自身は特に外国人が増えても不安では無いですが、自治体には外国人が安心して暮らせるように支援をしてあげて欲しいです。（男性、50代、千葉地域）

13 自由回答

問 このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については233人から延べ301件の回答が寄せられた。人数・件数には別の設問である「県や世論調査へのご意見やご提案」に記入された県への意見も含む。記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（7件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	55
第2位	道路を整備する	32
第3位	県政の情報発信について	21
第4位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	18
第5位	学校教育を充実する	16
第6位	高齢者の福祉を充実する	14
第7位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	12
〃	新型コロナウイルス感染症対策	12
第9位	犯罪防止対策をすすめる	8
第10位	観光を振興する	7
〃	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	7
第12位	交通事故から県民を守る	6
第13位	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	5
〃	施策実現や地域活性化のためのICT（情報通信技術）の利活用をすすめる	5
第15位	災害から県民を守る	4
〃	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	4
〃	医療サービス体制を整備する	4
〃	廃棄物対策をすすめる	4
〃	公園・緑地を整備する	4
第20位	雇用の場を広げる	3
〃	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	3
〃	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	3
第23位	食品の安全を守る	2
〃	自然を守り、緑を育てる	2
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	2
〃	下水道を整備する	2
〃	豊かな住生活を実現する	2
〃	芸術・文化活動を振興する	2
〃	東京湾アクアラインについて	2
第30位	中心市街地の活性化を推進する	1
〃	男女共同参画を推進する	1
〃	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	1
	その他	37
	その他 うち、国政への要望	17
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	10

合計（延べ件数） 301

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- 民意を反映してほしい。税金を有効に使ってほしい。自信を持って千葉県出身と言える魅力・ブランドを作ってほしい。地味である。（男性、30代、東葛飾地域）
- 県民へある程度のアンサーを出してほしい。今何が問題で取り組んでいるのか、不透明。（女性、30代、居住地域無回答）
- 千葉県には良いところがたくさんあると思っています。もっと魅力を引き出して、更に暮らしやすくなることを願っています。（女性、40代、君津地域）
- 千葉県の価値が高まるような（来たい、住みたい、となるような）施策を引き続きよろしくお願いします。チーバくんがくまモンのような存在になりますように。熊本県に行くたびつくりします。本当にシンボルとなり、地元を盛り上げています。（女性、40代、長生地域）
- 県の行政が、各個人に届いていない。高い県民税を取っているのに、払わない人々を放置している。納税者に対してのサービスがよく分からないし、知っている人だけが得をしている。各人に手が届く様な行政サービスが欲しい。（男性、70～74歳、葛南地域）
- 動物愛護に力を入れてほしい。捨て犬や捨て猫を保護して、新しい飼い主に渡してほしい。センターでの殺処分を0にしてほしいです。この結果を生かして、より良い県政をお願い致します。（男性、50代、印旛地域）
- 千葉県は住みやすい県ですが、大都会的な場所と過疎地域がありすぎる。人工減少地域を盛り上げるような対策もお願いしたいです。（女性、70～74歳、印旛地域）
- 障害者といわれる方々、外国人の方、子ども、高齢者等々色々な方々が交流できる機会をもっと増やしてほしい。（女性、50代、千葉地域）

■道路を整備する

- 道路整備を今一度しっかりと行ってほしい（白線が消えかけている、陥没している所の補修、幅が狭い所の拡大等）。ゼブラゾーンを夜間もっとわかりやすいようにして下さい（ライト点灯等）。（男性、30代、千葉地域）
- 自転車を趣味にしている家族がおりますが、千葉県のサイクルツーリズムに期待をしています。東京湾沿岸や房総半島の自然の中を楽しく安全に走れるような整備が進むといいなと思います。（女性、30代、千葉地域）
- 道路の白線、横断歩道など薄れている所を多く見かけます。安全のため整備をしてほしい。道路の側面の歩行者（子どもの通学路）用のグリーンゾーンを整備をしてほしい。歩道の植え込みが歩道の幅をせまくしている。植え込みをなくしてほしい。（車イス等のさまたげになる）。（女性、50代、葛南地域）

- 年末よく道路工事を見るが、同じ箇所しかやっていないと感じる。やりやすい所を選ぶのではなく、やらなきゃいけない所がある。そこをやってほしいです。例えば田舎道とか農道とか。
(男性、20代、夷隅地域)
- 道路がとにかく狭い。県外から移住したのですが、側道もせまく、自転車、バイクとの接触を起きそうで心配。道路を広くしてほしい。
(男性、40代、葛南地域)
- 千葉県は、道路整備が遅れているので、迅速に整備をお願いします。
(女性、60～64歳、海匝地域)

■県政の情報発信について

- 県の広報誌を充実してほしい。現状はあまりにも情報不足です。特に県の公共工事に対する計画や進行状況など、写真や図面を表示して情報を提示してほしい。今のままでは税金がどう使われているか全く不透明に思われます。袖ヶ浦市の広報誌は以前よりずいぶん良くなりました。市町村レベルよりもっと上を目指して情報を集めて提供して下さい。
(男性、75歳以上、君津地域)
- 千葉県は海、山の自然に恵まれた立地。この素晴らしい自然を生かした施設が多くできる事を望んでいます。また都会では今や日当たりが悪いのはあたり前となっていますが、千葉はその点でも恵まれています。もっとアピールしては。
(男性、75歳以上、君津地域)
- 県民向けのサービス等の情報を見たり聞いたりする機会があまりないので、もう少しわかりやすい形で情報を出していただけると、県内の活性化につながるのではないのでしょうか？
(男性、30代、東葛飾地域)
- ケーブルテレビで、「ちばのミライ～知事室へようこそ」の番組がありますが、親しみが持てる番組だと思うし、他の地域の様子もわかり千葉県を改めて色々考える。
(女性、75歳以上、葛南地域)
- 「チーバくん」を「くまモン」の様に、千葉県PRのキャラとしてもっと活用展開してほしい。
(男性、40代、東葛飾地域)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 子育て支援が東京に比べて劣っている。また、同じ千葉県内でも市町村によりバラつきがある。自然は多いが、子どもが遊べる身近な公園がない。
(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- 少子化対策支援の充実。保育園無料化。子どもが欲しくても、生活が苦しくなり、子どもを作らない。支援が少ない。2人とか3人とか子ども産みたいけど生活できない。高校無料化も必要だけど、今、日本で必要なのは、若い夫婦が心配なく子どもを産むことでは。
(男性、60～64歳、印旛地域)
- 今、私達の近くにも、学校の給食費が払えない家庭があると聞き、おどろいています。未来ある子ども達のため、給食費を無料にしてほしい！若い人が安心して出産、子育てできる環境を整えてほしい。
(女性、70～74歳、千葉地域)

- 学費・給食費の無償化。子ども医療費の無償化を進めて欲しい。子どもを大切にできる県になって欲しいです。（女性、40代、葛南地域）

■学校教育を充実する

- 教育予算の拡充をお願いします。子どもは、未来の千葉県を生きていきます。より良い未来のために、お願いしたいです。教育施策だけが学校現場においてきて、資金は市町村や学校で何とかする、というのはなかなか難しいです。学校が充実した教育活動ができるよう、金銭面、人的配置について、ご配慮いただけるとありがたいです。（女性、50代、葛南地域）
- 最も重要な政策課題は「教育」であると考えているが、県も市も教育に関して熱心に取り組んでいるとは思えない。まずは、教育現場で働く先生方の労働環境の改善や教育関係の予算を増やすなどの政策に、もっと力を入れてほしいです。（女性、60～64歳、葛南地域）
- 小学校を中心に教員が足りていないとよく聞きます。また、千葉県で中学校の部活動の時間が全国的に見て長く、5位以内となっています。教員の労働を魅力あるものにし、長く勤めてもらえるよう改善して下さい。（女性、30代、東葛飾地域）
- 千葉県立の高校の老朽化がかなり進んでいる気がします。建て替えまでいなくても、せめてトイレのみだけでも進めてあげて欲しいです。デリケートな場所なので、早急に進めて欲しいと思います。（女性、40代、葛南地域）

■高齢者の福祉を充実する

- 現役で働いている時はよいが、病気や雇用してくれず働けなくなった時の生活が不安。税金はとられ年金も減り医療負担も多くなっていく。核家族が増え（若い人は外へ、年寄り（祖母）は家に残りいづれ老々介護が待っています）自分の力だけで生きていかなければならなくなる未来に不安を感じます。（女性、50代、海匝地域）
- 国も県も子ども支援を中心に考えているようですが、年金生活をしている老人たちは大変に苦しい生活を強いられています。子どもには親がいるではないですか！ もう少し老人を考えての政策もお願いしたいです。（女性、60～64歳、東葛飾地域）
- 70歳以上の非課税世帯には、このところの物価上昇で生活が大変です。持家のある人は良いでしょうが、家賃を払っている私は大変です。1～2年位、月に5,000円から1万円位の補助があると良いのですが。（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 高齢者が安心して暮らしていけるような県政であってほしい。（男性、60～64歳、印旛地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

- 公共交通機関（バス等）の減便や廃止により、不便で大変困っている。高齢者を対象としたデマンドタクシー、少子化による学校の廃統合を実施しスクールバスの運行などを検討し実現していただきたい。世論調査の内容ですが、もっと県政全般のことについて実施していただけることを希望します。（男性、75歳以上、東葛飾地域）

○生活に欠かせない路線バスが、ここ数年で本数が半減しました。高齢化により、免許を持たなくなる人が増える中、生活の足の確保に力を入れてほしいと考えています。

（男性、40代、千葉地域）

○東京へのアクセスが、もっと便利になるといいなあとも思っている。

（女性、50代、居住地域無回答）

■新型コロナウイルス感染症対策

○最近のコロナ禍に関し、補助金の対象が常に単身者に向かないのは不公平だと思う。結婚率が低い中で、単身者の割合が増えている中で、こうした補助が足りないのはちょっと納得できない。何とか公平に対処を求めます。

（男性、50代、葛南地域）

○コロナにかかった時、医療体制にとっても不安を抱きました。弱っている時こそ、もっと楽に受診できたり、入院できたり、頼りたいと、切に願います。

（女性、40代、山武地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○子ども達が犯罪に巻き込まれる事なく、安心して過ごせる事が一番だと思います。昔も犯罪はありましたが、すごく毎日が不安です。

（女性、50代、山武地域）

○外国の人が多い昨今、町中で、もう少し警察官やパトカーが見かける様になれば良いと願います。

（女性、70～74歳、東葛飾地域）

○オレオレ詐欺など未だに減らないので、オレオレ詐欺防止電話機などの機器の啓発をお願いしたい。

（女性、65～69歳、千葉地域）

■観光を振興する

○千葉県の自然（山も海も）の美しさや海産物の美味しさを、もっともっと他県や外国の方々にアピールできるように力を入れて整備し、観光県として注目を浴びるくらいになってほしい。

（女性、60～64歳、葛南地域）

○千葉県は自然や観光地など魅力的な場所が沢山あるので、ぜひそこを生かして、地方へも人の流れが来るよう取り組んでいただきたい。

（女性、40代、夷隅地域）

■農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する

○最近農地がどんどん失われ、農産物の自給率がとても心配です。世界的に見ても、輸入すれば解決といえる状況ではなくなっていくのではないのでしょうか。地産地消の大切さが問われていると思います。

（女性、70～74歳、東葛飾地域）

「県や世論調査へのご意見やご提案について」自由に記述していただいたところ、「世論調査について」62人から62件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「県への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

—《世論調査自体への意見》

- 回答してみると、調査結果にも興味が出ますが、公開までの期間が半年先だと忘れてしまっていると思うので、メール等でお知らせするような仕組みを作るといいなと思いました。
(女性、30代、千葉地域)
- 新型コロナウイルスの項目がなかったは残念です。コロナ禍において困っていることを伝えられる項目があっても良かったのでは？
(女性、50代、東葛飾地域)
- 調査を実施し、具体的な施策に反映させ、その効果を評価する、いわゆるPDCAを回していただけるのか、不明です。この点配慮ください。
(男性、65～69歳、君津地域)
- 今回のアンケートから、普段何気なく過ごしている生活に、改めて意識すること、過ごせていることの有難さ（たくさんの人々に支えられていると）を感じました。
(女性、50代、葛南地域)
- 初めて県の世論調査を手にししました。項目が多すぎる気がしました。
(女性、75歳以上、葛南地域)
- 記入するのも、なかなか負担なので、有効に使われることを期待します。
(女性、40代、葛南地域)

—《調査手法や謝礼への意見》

- 最初はアンケートをするつもりはなかったが、チーバくんのボールペンとスマホでも回答できることで気が変わりました。
(女性、40代、葛南地域)
- 紙だけならやらなかったと思う。ネットで手軽にでき、やり方も簡単だった。
(女性、20代、君津地域)
- ボールペンだけでなく、回答した人に何かプレゼントしてみてもどうですか？
(男性、40代、夷隅地域)
- 自由記述の項目の文字数制限が300文字以下と少なめなので、もう少し文字数多めにしているだけでありがたいです。世論調査は県民の意識把握のためで、詳細な意見は必要無いのかも知れず、また担当職員の方の負担になるのかとは思いますが、1000文字程度入れられるようにしてほしい。
(女性、40代、印旛地域)

(付) 調査票および単純集計結果



第64回 千葉県政に関する世論調査

ご回答にあたってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。（代筆による回答も可能です。）

回答方法は「郵送」または「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和4年12月9日（金）までにご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ご記入いただきました調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- 別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。ご回答には、右下に貼られた「利用者ID」「パスワード」が必要になります。
- 「利用者ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人を特定するものではありません。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室
 〒260-8667
 千葉市中央区市場町1番1号
 電話 043-223-2469
 （平日9:00~17:00）



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関
 株式会社マーケティングリサーチサービス
 〒170-0005
 東京都豊島区南大塚2-45-8
 ニッセイ大塚駅前ビル 5階
 電話 03-6690-0086
 （平日10:00~18:00）



【食育について】

県では、県民の皆さまが生産から消費のプロセスを意識し、食を支える人々への感謝の気持ちや理解を深めることと、食に関する知識と食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することを目指し、食育を推進しています。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問1 あなたは、農林水産物や食品を購入する時、千葉県産であることを意識して選びますか。
n=1,595 (○は1つ)

10.7	いつも意識して選んでいる	36.4	あまり意識して選ぶことはない
42.6	意識して選んでいることが時々ある	10.0	産地を意識することはない
		0.3	無回答

問2 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業※により生産される農産物を購入していますか。
n=1,595 (○は1つ)

21.8	週に1回程度またはそれ以上	9.3	全く購入しない
17.9	月に1回程度	43.3	わからない
7.5	年に1回程度	0.3	無回答

※ 有機農業とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しないこと、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできるだけ低減した生産方法で行われている農業のことです。

問3 あなたは、安全な食生活を送るための、「食品の安全性に関する基礎的な知識※」があると思いますか。
n=1,595 (○は1つ)

6.6	十分にあると思う	31.5	あまりないと思う
57.1	ある程度あると思う	4.5	全くないと思う
		0.3	無回答

※ 食品の安全性に関する基礎的な知識とは、消費期限やアレルギー物質などの表示の理解や、食中毒を防ぐ調理方法、健康食品の正しい知識や選び方等です。

(すべての方に)

このほかにも、「食育について」や問1～問3について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【消費生活について】

悪質事業者による訪問販売や、化粧品による健康被害などの消費者トラブルは依然として後を絶ちません。

そのため県では、相談窓口の充実や、消費者が正しい情報を見極める力、合理的に判断し考える力などを身に付ける消費者教育の推進に取り組んでいます。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問4 あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できる場所」があると思いますか。 n=1,595 (○は1つ)

57.5	あると思う	41.8	ないと思う	0.7	無回答
------	-------	------	-------	-----	-----

問5 あなたは、消費者トラブルにあった時、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思いますか。 n=1,595 (○は1つ)

73.4	いると思う	26.3	いないと思う	0.3	無回答
------	-------	------	--------	-----	-----

問6 あなたは、点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思いますか。 n=1,595 (○は1つ)

1.2	減ってきたと思う	26.0	どちらかといえば増えてきたと思う
5.7	どちらかといえば減ってきたと思う	18.6	増えてきたと思う
34.3	変わらないと思う	14.0	わからない
		0.2	無回答

問7 あなたは、学校や地域、職場などにおいて、消費者トラブルを回避したり、トラブル発生時に適切な判断や行動ができる能力を育む教育（消費者教育）の機会が提供されていると思いますか。 n=1,595 (○は1つ)

2.6	提供されていると思う	44.6	あまり提供されていないと思う
12.1	どちらかといえば提供されていると思う	17.1	提供されていないと思う
22.7	どちらともいえない	0.9	無回答

問8 あなたは、普段の生活の中で、生活必需品（食品、トイレットペーパーやマスク等の生活雑貨など）の安定的な供給体制（消費者がいつでも購入できること）や安全性に不安を感じることはありませんか。 n=1,595 (○は1つ)

7.0	不安を感じる	28.1	どちらかといえば不安を感じない
22.7	どちらかといえば不安を感じる	24.4	不安を感じない
16.1	どちらともいえない	1.6	わからない
		0.1	無回答

以下の説明を読んでから、問にお答えください。

人や社会、環境、地域に配慮した商品を選んで消費をすることを「エシカル消費」といいます。

（「エシカル消費」の具体例）

- ・障害のある人の支援につながる商品を選んで買い物をする
- ・フェアトレード商品（開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指し、適正な価格で取引された商品）を選んで買い物をする
- ・エコ商品（一般的に環境に配慮した商品）を選んで買い物をする
- ・被災地産品を選んで買い物をする

問9 あなたは、買い物をする際に、上記の説明にある「エシカル消費」を意識していますか。 n=1,595（○は1つ）

4.8	いつも意識している	37.2	あまり意識していない
39.6	時々意識している	18.2	意識することはない
		0.1	無回答

（すべての方に）

このほかにも、「消費生活について」や問4～問9について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【県民の治安に対する意識と警察に求めることについて】

県では、地域の安全を守るため、県警をはじめとする各組織で、連携した取り組みを行っております。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問10 あなたは、現在お住まいの地域における最近の犯罪の発生状況について、どう感じますか。
n=1,595（○は1つ）

2.4 非常に多くなったと感じる	8.0 少なくなったと感じる
20.1 多くなったと感じる	0.4 非常に少なくなったと感じる
43.8 変わらない	24.6 わからない
	0.6 無回答

問11 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。

n=1,595（○はいくつでも）

19.8 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
69.4 電話de詐欺*や悪質商法などの詐欺
36.9 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
50.7 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
39.0 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
16.1 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
13.1 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪
21.2 痴漢、強制性交等などの性的犯罪
10.8 DV（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為
34.2 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
9.3 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
15.1 非行少年、暴走族などによる犯罪
54.3 インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）
7.5 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
63.3 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
2.8 その他(具体的に)
6.1 特にない
0.4 無回答

※ 「電話 de 詐欺」とは、還付金詐欺、オレオレ詐欺、架空料金請求詐欺など特殊詐欺を総称した千葉県独自の広報用名称です。

問12 あなたが、警察に力を入れて取り締まって欲しい犯罪は何ですか。
n = 1,595（○はいくつでも）

- 40.9 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
- 58.3 電話d e 詐欺や悪質商法などの詐欺
- 44.3 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
- 42.9 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
- 40.8 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
- 27.5 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
- 28.3 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪
- 30.6 痴漢、強制的性交などの性的犯罪
- 21.5 DV（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為
- 48.2 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
- 14.9 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
- 27.0 非行少年、暴走族などによる犯罪
- 44.0 インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）
- 17.8 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
- 71.3 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
- 4.1 その他(具体的に)
- 2.1 特にない
- 0.8 無回答

問13 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。
n = 1,595（○は3つまで）

- 14.4 警察官を増やし、警察力を強化する
- 32.6 警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する
- 27.0 パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する
- 20.3 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所を新設する
- 58.9 街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する
- 29.2 高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話d e 詐欺など）
- 21.7 子どもや女性に対する性犯罪などの未然防止対策を推進する
- 19.2 学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する
- 20.9 最先端技術を駆使した装備や機材を導入するなど、警察の科学捜査力を充実させる
- 19.0 警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する
- 10.3 民間企業のセキュリティシステムに加入するなど、自己防衛力を強化する
- 11.7 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりを推進する
- 3.3 その他(具体的に)
- 2.0 特にない
- 0.5 無回答

（すべての方に）

このほかにも、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」や問10～問13について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【心肺蘇生法等について】

県では、誰もが自発的かつ積極的に AED※を用いた心肺蘇生法を実施できるよう、普及啓発に取り組んでいます。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

※AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

問14 あなたは、見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合※、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできると思いますか。

n=1,595（○は1つ）

24.3 できる	74.7 できない
	1.0 無回答

※ 一般的な救急蘇生法では、倒れている人の意識や呼吸がない場合、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸（人工呼吸はできる場合のみ）を実施することとなっています。

→(問14で「1」とお答えの方に)

問14-1 あなたは、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできると思いますか。

n=387（○は1つ）

74.9 できる	24.5 できない
↳ 次ページ問15へ	0.5 無回答

(問14で「2」とお答えの方に) ←

問14-2 あなたが、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。

n=1,192（○はいくつでも）

59.5 やり方がわからない（忘れた）	19.2 人工呼吸に抵抗がある
35.5 やり方はわかるが、できる自信がない	13.4 体に触れることに抵抗がある
19.0 救急隊を待った方が良いと思う	6.1 周りの目が気になる
16.9 責任を問われたくない	4.9 その他（具体的に）
	1.2 無回答

(問14-1で「2」とお答えの方に) ←

問14-3 あなたが、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。

n=95（○はいくつでも）

20.0 やり方はわかるが、できる自信がない	55.8 体に触れることに抵抗がある
7.4 救急隊を待った方が良いと思う	23.2 周りの目が気になる
29.5 責任を問われたくない	4.2 その他（具体的に）
38.9 人工呼吸に抵抗がある	5.3 無回答

（すべての方に）

問15 あなたは、AED（自動体外式除細動器）という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。 n=1,595（○は1つ）

46.4	見たり聞いたりしたことがある
40.8	使い方を学んだことがある
0.8	実際に倒れた人に使ったことがある
10.2	1～3のいずれもない
1.8	無回答

問16 あなたは、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、その人にAEDを使用することができますか。 n=1,595（○は1つ）

32.7	できる	65.7	できない
		1.6	無回答

→（問16で「1」とお答えの方に）

問16-1 あなたは、異性に対してAEDを使用することができますか。 n=522（○は1つ）

85.4	できる	13.6	できない
		1.0	無回答

→ 次ページ問17へ

（問16で「2」とお答えの方に）←

問16-2 あなたが、AEDを使用できないと思う理由は何ですか。 n=1,048（○はいくつでも）

69.0	使用方法がわからない（忘れた）
53.6	AEDを使用すべき状態かどうかわからない
23.6	救急隊を待った方が良いと思う
14.7	服を脱がすことに抵抗がある
20.3	責任を問われたくない
6.9	周りの目が気になる
4.2	その他（具体的に）
1.3	無回答

（問16-1で「2」とお答えの方に）←

問16-3 あなたが、異性に対してAEDを使用できないと思う理由は何ですか。 n=71（○はいくつでも）

15.5	救急隊を待った方が良いと思うから
73.2	服を脱がすことに抵抗があるから
45.1	責任を問われたくないから
31.0	周りの目が気になるから
7.0	その他（具体的に）
4.2	無回答

（すべての方に）

問 17 あなたは、応急手当の講習をどこで受講できると良いと思いますか。

n = 1,595（〇はいくつでも）

51.5	消防署	2.1	空港
39.5	市役所・町村役場	19.2	ショッピングセンター・モール
26.3	保健所	0.9	映画館
14.9	警察署	0.9	コンサートホール
48.0	学校（授業の一環）	7.3	その他（具体的に)
29.7	自身の職場	2.1	無回答

（すべての方に）

このほかにも、「心肺蘇生法等について」や問 14～問 17 について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【障害者施策について】

県では、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりを推進しており、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問18 あなたは、現在の社会の中には、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 n=1,595（○は1つ）

38.3	あると思う	54.0	少しはあると思う	7.0	ないと思う
				0.8	無回答

問19 あなたは、障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っていますか。 n=1,595（○は1つ）

1.4	よく知っている	26.3	多少は知っている（聞いたことはある）	71.7	知らない
				0.7	無回答

問20 あなたは、平成28年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。 n=1,595（○は1つ）

1.6	よく知っている	23.6	多少は知っている（聞いたことはある）	74.1	知らない
				0.7	無回答

問21 あなたは「ヘルプマーク※」を知っていますか。 n=1,595（○は1つ）

44.8	意味も含めて知っている
27.6	見たことや聞いたことはあるが、意味は知らない
26.3	見たことも聞いたこともない
1.3	無回答



※ 「ヘルプマーク」とは、外見からはわからなくても支援や配慮を必要としている方が、周囲の方に知らせることができるマークです。

（ヘルプマーク）

→（問21で「1」または「2」とお答えの方に）

問21-1 あなたはどのように「ヘルプマーク」について聞いたり、知ったりしましたか。 n=1,155（○はいくつでも）

15.6	県や市町村の広報	27.8	公共交通機関のポスターやステッカー
43.5	テレビ、ラジオ	21.0	インターネット
10.5	職場や学校		（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）
8.1	家族や知人	34.0	利用している方を見かけた
2.6	イベントでの広報	4.0	その他（具体的に）
		0.7	無回答

（すべての方に）

問22 あなたは、今後「ヘルプカード」や「ストラップ型ヘルプマーク」を普及・啓発していくために、県が重点的に取り組むべきことは何だと思いませんか。

n = 1,595（〇はいくつでも）

58.9	チラシやポスターによる広報
43.3	インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報
25.7	イベントでの広報
37.7	県の広報紙による広報
60.9	テレビ・ラジオによる広報
4.1	その他(具体的に
1.6	無回答

【ヘルプカード】



【ストラップ型ヘルプマーク】



※「ヘルプカード」とは、外見からは支援や配慮が必要とされていることがわからない方が、携帯することにより、災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲の方に示して支援を求めるカードです。

【サイズ：2つ折りで、運転免許証程度の大きさ】

（すべての方に）

このほかにも、「障害者施策について」や問18～問22について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【テレワークで働く環境について】

県では、多様で柔軟な働き方を推進するため、テレワークの導入支援に取り組んでおり、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問23 あなたが、テレワーク※で仕事をするとしたら、どのような働き方を希望しますか。
（現在、就業されていない方は、就業していると仮定して回答してください）

n=1,595（○は1つ）

- 16.9 テレワークを主とした働き方をしたい
- 47.3 テレワークと出勤が半々程度の働き方をしたい
- 18.0 出勤を主とした働き方をしたい
- 14.7 わからない
- 3.1 無回答

※ テレワークとは情報通信技術を活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方をいいます。

→(問23で「1」または「2」とお答えの方に)

問23-1 あなたは、どのような場所でテレワークを行いたいですか。

n=1,025（○はいくつでも）

- 91.1 自宅
- 20.1 会社のサテライトオフィス※¹
- 19.8 コワーキングスペース※²
- 17.0 カフェ等の店舗
- 2.8 移動中の交通機関の車内（新幹線など）
- 10.0 民間複合施設のテレワークスペース（ショッピングセンターなど）
- 21.6 公共施設のテレワークスペース（地域交流施設や図書館など）
- 12.3 駅に近い利便性の高い場所
- 22.9 自然豊かな場所
- 0.6 その他(具体的に)
- 0.3 無回答

※¹ サテライトオフィスとは、企業または団体の本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのことをいいます。

※² コワーキングスペースとは、多様な職種・業種の人々が、開かれたワークスペースを共有し、それぞれの仕事をする施設をいいます。

（すべての方に）

問24 あなたが、テレワークで働く場合、課題となることは何だと思えますか。

n=1,595（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------------------|---|
| 34.3 仕事に集中できない | |
| 63.5 社員間のコミュニケーションがとりにくい | |
| 42.0 業務管理、時間管理が難しい | |
| 27.4 通信環境、椅子、机など、テレワークに適した環境がない | |
| 25.6 情報漏洩が心配である | |
| 29.0 電気代などの出費が増える | |
| 4.4 家族の理解が得られない | |
| 3.9 その他(具体的に |) |
| 5.2 無回答 | |

（すべての方に）

このほかにも、「テレワークで働く環境について」や問23～問24について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【県立美術館について】

県では、県立美術館の今後の在り方について検討しており、今後の取組の推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問25 あなたは、これまでに県立美術館を利用したことがありますか。

また、これまでに利用したことがない方はその理由も合わせてご記入ください。

n=1,595（○は1つ）

33.2 利用したことがある

65.3 利用したことがない その理由()

1.5 無回答

----> 次ページ問26へ

>(問25で「1」と回答された方へ)

問25-1 あなたは、この1年間にどのくらい来館しましたか。 n=529（○は1つ）

56.5 0回 28.2 1回 9.5 2回 5.3 3回以上 0.6 無回答

問25-2 あなたが、来館した目的は何でしたか。

n=529（○はいくつでも）

66.0 開催中の展示に興味があったため

3.0 講座やワークショップに参加するため

2.5 情報資料室の資料を閲覧するなど、調べものをするため

5.9 ミュージウムコンサートなど、楽しい娯楽をもとめて

25.9 近くに来たついでに

7.6 その他（具体的に

3.0 無回答

問25-3 あなたは、県立美術館を利用して満足していますか。

n=529（○は1つ）

43.7 満足している

9.3 満足していない

45.4 どちらともいえない

1.7 無回答

>(問25-3で「2」と回答された方へ)

問25-4 あなたが、満足していない理由は何ですか。

n=49（○はいくつでも）

63.3 魅力的な展覧会が開催されていない

26.5 魅力的な講座やワークショップが開催されていない

71.4 展覧会等の情報発信が不足している

6.1 自分の調べものや勉強の役に立たない

14.3 ゆったりと楽しい時間を過ごせない

14.3 施設・設備が良くない

61.2 アクセスが悪い

6.1 その他（具体的に

0.0 無回答

（すべての方へ）

問 26 あなたは、これからの県立美術館に何を期待しますか。

n = 1,595（〇はいくつでも）

- | | | |
|------|------------------------|---|
| 64.4 | 魅力的な展覧会を開催すること | |
| 23.8 | 魅力的な講座やワークショップを実施すること | |
| 12.6 | 県内の美術資料を収集、調査・研究すること | |
| 22.9 | 県の学校教育を支援すること | |
| 23.0 | 県民の生涯学習の役に立つこと | |
| 29.8 | 県民に娯楽や憩いの場を提供すること | |
| 23.3 | 観光客の集客などを行い、地域を活性化すること | |
| 3.6 | その他（具体的に | ） |
| 6.8 | 無回答 | |

（すべての方へ）

このほかにも、「県立美術館について」や問 25～問 26 について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【多文化共生社会の推進について】

千葉県には、16万人を超える外国人の方が暮らしています。
 国籍や言語、文化、習慣などの異なる人々が、互いの違いを認め合い、地域社会の一員として共に生きていくことを「多文化共生」といいます。
 県では、多文化共生社会の実現を目指し、様々な施策に取り組んでおり、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きします。

問 27 あなたは、「多文化共生」という言葉について聞いたことがありますか。

n = 1,595 (○は1つ)

- 31.1 言葉を聞いたことがあり、意味もだいたい知っている
- 29.2 言葉を聞いたことはあるが、意味はよく知らない
- 38.3 言葉を聞いたことがない
- 1.4 無回答

問 28 あなたは、日常生活の中で、外国人住民と接する機会がありますか。

n = 1,595 (○はいくつでも)

- 13.9 近所に住んでおり、あいさつ程度の付き合いがある
- 14.5 一緒に働いている、仕事上の付き合いがある
- 1.0 学校で一緒に勉強している
- 25.3 利用する店舗やサービスなどで、接客や対応を受ける
- 9.1 友人、知人、家族、親戚がいる
- 4.1 その他（具体的に)
- 45.7 特に接する機会がない
- 1.1 無回答

問 29 あなたは、外国人住民が増えていることについてどう思いますか。

n = 1,595 (○は3つまで)

- 38.7 多様性が豊かな社会になるので望ましい
- 34.1 外国の言葉や文化に触れ、国際的な感覚が身につくので望ましい
- 27.7 地域の人口や経済活動の維持・発展につながるので望ましい
- 3.8 外国人に仕事や機会を奪われるおそれがあるので望ましくない
- 23.1 文化や習慣の違いからトラブルが増えるおそれがあるので望ましくない
- 7.6 日本固有の文化が損なわれるおそれがあるので望ましくない
- 22.0 わからない、どちらともいえない
- 5.0 その他（具体的に)
- 1.3 無回答

※問 29 に関して、期待感や不安感など具体的なお意見がありましたら、問 32 の次の自由記述欄にご記載ください。

問30 外国人住民とお互いの理解を深めるために、機会があればあなた自身がしてみたいことは何ですか。
n = 1,595（○は3つまで）

- 29.0 日本語や日本の文化、生活習慣を教えること
- 43.6 外国の言葉や文化、習慣を学ぶこと
- 51.0 困っている様子があれば助けること
- 27.2 地域や学校、職場など日常生活の中で交流を深めること
- 12.0 地域の自治会やサークル活動などへの参加を呼びかけること
- 0.8 その他（具体的に)
- 16.6 特にしたいことはない
- 1.6 無回答

問 31 あなたは、日本人住民とお互いの理解を深めるために、外国人住民に期待することは何ですか。
n = 1,595（○は3つまで）

- 67.5 日本語や日本の文化、生活習慣を理解して暮らすこと
- 36.4 自国の文化や習慣の違いについて日本人住民に伝えること
- 45.3 困っていることがあれば自ら周りに声をかけること
- 17.5 地域の自治会やサークル活動などへ参加すること
- 15.6 生活の中で感じたことを提案や発言すること
- 0.8 その他（具体的に)
- 9.5 特にできることはない
- 2.5 無回答

問 32 あなたは、国籍や言語、文化、習慣などの異なる人々が、地域社会の一員として共に暮らしていくために、県や市町村が施策として取り組むべきことは何だと思えますか。
n = 1,595（○は3つまで）

- 60.3 外国人住民に地域の文化や生活習慣、ルールを啓発する
- 17.4 外国人住民に自治会など地域の活動への参加を促す
- 48.4 外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実させる
- 37.8 外国人住民の日本語の学習を支援する
- 27.2 外国人住民の子どもの教育環境を整備する
- 13.4 外国人住民の声が聴ける場（セミナーなど）を作り日本人住民の理解を深める
- 25.8 日本人住民と外国人住民が一緒に参加できるイベントを開く
- 0.8 その他（具体的に)
- 3.6 行う必要はない
- 2.1 無回答

（すべての方に）

このほかにも、外国人住民の増加に対するご意見、地域社会において相互理解を深めるためのご提案、外国人住民との交流経験やトラブルの事例などがありましたら自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことごとをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n = 1,595（○は1つ）

43.3 男性	56.1 女性	0.1 その他	0.6 無回答
---------	---------	---------	---------

F 2 あなたは満何歳ですか。 n = 1,595（○は1つ）

1.1 18～19歳	17.9 40～49歳	8.7 65～69歳
6.3 20～29歳	16.9 50～59歳	14.4 70～74歳
10.1 30～39歳	8.6 60～64歳	15.5 75歳以上
		0.6 無回答

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n = 1,595（○は1つ）

5.7 自営業者	17.0 主婦・主夫	2.1 その他（ ）
29.0 正規社員・職員	2.1 学生	0.8 無回答
23.0 パート・アルバイト・契約社員	20.3 無職	

F4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。

n = 1,595 (○は1つ)

14.4	千葉市	4.5	佐倉市	0.4	匝瑳市	0.5	勝浦市
5.3	市原市	2.2	四街道市	0.9	東金市	0.6	いすみ市
10.0	船橋市	0.8	八街市	0.4	山武市	0.0	夷隅郡大多喜町
5.8	市川市	1.7	印西市	1.1	大網白里市	0.5	夷隅郡御宿町
2.6	習志野市	0.8	白井市	0.5	山武郡九十九里町	1.0	館山市
3.2	八千代市	0.4	富里市	0.0	山武郡芝山町	0.5	鴨川市
1.9	浦安市	0.6	印旛郡酒々井町	0.0	山武郡横芝光町	0.2	南房総市
7.4	松戸市	0.0	印旛郡栄町	1.8	茂原市	0.0	安房郡鋸南町
3.0	野田市	0.7	香取市	0.0	長生郡一宮町	1.8	木更津市
6.3	柏市	0.0	香取郡神崎町	0.6	長生郡睦沢町	1.4	君津市
2.4	流山市	0.8	香取郡多古町	0.0	長生郡長生村	0.6	富津市
2.8	我孫子市	0.0	香取郡東庄町	0.0	長生郡白子町	0.9	袖ヶ浦市
1.2	鎌ヶ谷市	1.4	銚子市	0.6	長生郡長柄町	3.5	無回答
1.7	成田市	0.6	旭市	0.0	長生郡長南町		

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。

県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、

12月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。

令和4年度

(第64回)

県政に関する世論調査

令和5年5月発行

(令和4年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町1番1号

(広聴室) 電話043-223-2469
